

The 119th Annual Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology

第119回日本精神神経学会学術総会

会期 | 2023年6月22日(木)-24日(土) 会場 | パシフィコ横浜ノース

今と未来を見つめる精神医学

～目の前の患者さんに最善の医療を提供し、
将来さらに良い医療を提供できるように努力する～

Psychiatry Looking to the Present and the Future

Make the effort to provide the best medical care available,
and to improve it for the future.



会長

伊豫 雅臣

千葉大学大学院医学研究院精神医学 教授
千葉大学社会精神保健教育研究センター長

副会長

木村 直人

日本精神科病院協会 千葉支部長
医療法人社団直樹会磯ヶ谷病院 理事長

志津雄一郎

千葉県精神神経科診療所協会 会長
志津クリニック 院長



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤(SNRI) 薬価基準収載

 **イフェクサー[®]SR** カプセル 37.5 mg・75 mg

EFFEXOR[®] SR CAPSULES

ベンラファキシン塩酸塩徐放性カプセル 劇薬 処方箋医薬品

注意—医師等の処方箋により使用すること

●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、電子添文をご参照ください。

製造販売
ヴィアトリス製薬株式会社
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-2
文献請求先及び問い合わせ先：メディカルインフォメーション部

プロモーション提携
住友ファーマ株式会社
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8
文献請求先及び問い合わせ先：くすり情報センター

目次

| | |
|--|-----|
| ご挨拶 | 2 |
| 第119回日本精神神経学会学術総会 ご案内 | 4 |
| 交通案内図 | 7 |
| 会場配置図 | 8 |
| 日程表 | 10 |
| 参加者の皆様へ | 19 |
| 精神科専攻医の学術総会参加記録について | 25 |
| 精神科専門医資格の更新に必要な単位について | 26 |
| 司会および演者・発表者の皆様へ | 28 |
| 日本精神神経学会関連各賞 | 33 |
| 日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞 / 精神科専門医研修中・初期臨床研修中の医師、学生による演題部門 | 36 |
| 精神神経学雑誌投稿奨励賞(学術総会部門) | 36 |
| 第119回日本精神神経学会学術総会 同時開催 日本精神神経学会主催 講習会・研修会について | 37 |
| 世界各国の若手精神科医との国際的ネットワーク構築に向けた オンラインミーティングのご案内 | 38 |
| 市民公開講座 | 40 |
| 「専門医制度報告会」開催のご案内 | 41 |
| 第119回日本精神神経学会学術総会 運営委員 | 42 |
| 第119回日本精神神経学会学術総会 プログラム委員 | 43 |
| セッション一覧 | 47 |
| プログラム | 57 |
| ワークショップのご案内 | 255 |
| 日本精神神経学会学術総会 会長一覧 | 267 |
| 広告掲載企業 / 出展企業 | 271 |
| 受講記録表 | 巻末 |

ご挨拶

第119回日本精神神経学会学術総会

会長 伊豫 雅臣

千葉大学大学院医学研究院精神医学 教授
千葉大学社会精神保健教育研究センター長



第119回日本精神神経学会総会を2023年(令和5年)6月22日(木)から24日(土)にかけて横浜市・パシフィコ横浜ノースで開催させていただくことになりました。このような伝統のある総会を開催する機会をいただき、この上ない喜びとともに身が引き締まる思いでございます。千葉大学医学部が主催した総会は第55回(1958年)の荒木直躬先生(第3代目教授)のみとなります。また第119回の開催地は既に決まっていたため千葉県内ではありませんが、千葉県内の精神科医の皆様や当教室の同門の皆様とともに会の成功に向けて尽力していきたいと考えております。

第119回のテーマは「今と未来を見つめる精神医学～目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらに良い医療を提供できるように努力する～」としました。私が精神科医になってから40年程経ちます。この間、精神疾患への薬物療法や精神療法、物理療法など大きく進歩してきました。また精神障害の方々を地域で支える体制もまだまだ不十分とはいえ、少しずつですが整ってきていることを日々の臨床で実感しております。一方で、目の前にいる患者さんに対して、現在存在するベストの治療法を、そしてベストの支援方法を提供できているのかと悩むことが多く、また、もっと良くしてあげられないのか、もっと良い治療法はないのか、もっと患者さんが生きやすい支援方法を作っていけないのかと考える日はないのが現状です。患者さんの希望を受け入れ、ベストを選択していくためには十分な知識に加えて多くの仲間の体験を共有していくことが大事だと思います。そして unmet needs を把握し、あらゆる視点から解決方法を模索し、研究を積み重ねていき、画期的な解決方法を創生していくことが重要だと思います。さらに、精神医学、精神医療の進歩は就労や教育、家庭、スポーツ、パフォーマンスアーツなど社会の様々な場面でのメンタルヘルスの向上にも大きな貢献をしていけると考えており、より住みやすい社会の実現にも我々精神科医が積極的にかかわっていく時代となってきたと思います。これら

を推進していくためには、精神医学、精神医療に携わる人たちで集まって知識や意見、発見を交換していくことが極めて有用と考えています。

2019年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行は続いており、本学会総会も大きな影響を受けてきました。しかし、予防法や治療法も確立してきて、徐々に収束に向かってきているのではないかと考えております。2023年の総会では全国の精神科医の方々に本学会総会にお集まりいただき、今と未来の精神医学、精神医療について熱く語り合っていくことを強く期待しています。

ぜひ現地でお会いしましょう！

よろしく願いいたします。



第119回日本精神神経学会学術総会

ご案内

会 長：伊豫 雅臣（千葉大学大学院医学研究院精神医学 教授/
千葉大学社会精神保健教育研究センター長）

副 会 長：木村 直人（日本精神科病院協会 千葉支部長 / 医療法人社団直樹会磯ヶ谷病院 理事長）
志津雄一郎（千葉県精神神経科診療所協会 会長 / 志津クリニック 院長）

運営委員長：桂川 修一（東邦大学医学部精神神経医学講座(佐倉) 教授）
新津 富央（千葉大学大学院医学研究院精神医学 准教授）

会 期：現地開催 2023年6月22日(木)～24日(土)
オンデマンド配信 2023年7月10日(月)～10月10日(火)

大会テーマ：今と未来を見つめる精神医学
～目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらに良い医療を提供できるように努力する～

総会ホームページ：<https://www.c-linkage.co.jp/jspn119>

会 場：パシフィコ横浜ノース
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-2 TEL：045-221-2155

| 施設名 | 会場名 | フロア | 部屋名 |
|------------|--------|-------|-----------|
| パシフィコ横浜ノース | A会場 | 1F | G7+G8 |
| | B会場 | 1F | G5 |
| | C会場 | 1F | G6 |
| | D会場 | 3F | G303+G304 |
| | E会場 | 3F | G301+G302 |
| | F会場 | 3F | G312+G313 |
| | G会場 | 3F | G314+G315 |
| | H会場 | 3F | G316+G317 |
| | I会場 | 3F | G318+G319 |
| | J会場 | 4F | G403+G404 |
| | K会場 | 4F | G402 |
| | L会場 | 4F | G401 |
| | M会場 | 4F | G411 |
| | N会場 | 4F | G412+G413 |
| | O会場 | 4F | G414+G415 |
| | P会場 | 4F | G416+G417 |
| | Q会場 | 4F | G418+G419 |
| | R会場 | 4F | G420 |
| | ポスター会場 | 1F | G1～G4 |
| | 書籍展示 | 1F | G1～G4 |
| 3F | | フォワイエ | |
| 企業展示 | 1F | G1～G4 | |

※今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては仕様が変更となる場合があります。
最新情報はホームページにてご確認ください。

代議員総会：6月21日(水) 13:00～18:00

B会場(パシフィコ横浜ノース 1F G5)

会員報告会：6月24日(土) 15:30～16:30

E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

懇親会：6月23日(金) 18:30～20:00(予定)

ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル 3F パシフィック

※17:30より3F ベイビューを待機場として開放しておりますので是非ご利用ください。

総合受付(総合案内、当日参加受付、事前参加登録問合せデスク、プレス受付、抄録販売)：

パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4 6月22日(木) 7:30～18:00
6月23日(金) 7:30～17:30
6月24日(土) 7:30～15:00

クローク：

パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4 6月22日(木) 7:30～19:00
6月23日(金) 7:30～18:00
6月24日(土) 7:30～19:15

PC受付(演者受付)：

パシフィコ横浜ノース 2F フォワイエ 6月22日(木) 7:30～17:00
6月23日(金) 7:30～16:00
6月24日(土) 7:30～15:00

企業展示・書籍展示：

パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4 / 1F フォワイエ
6月22日(木) 7:30～18:00
6月23日(金) 7:30～17:30
6月24日(土) 7:30～15:30

休憩コーナー/昼食会場：

パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4 / 3F G311
6月22日(木) 7:30～18:00
6月23日(金) 7:30～17:30
6月24日(土) 7:30～15:30

日本精神神経学会事務局デスク：

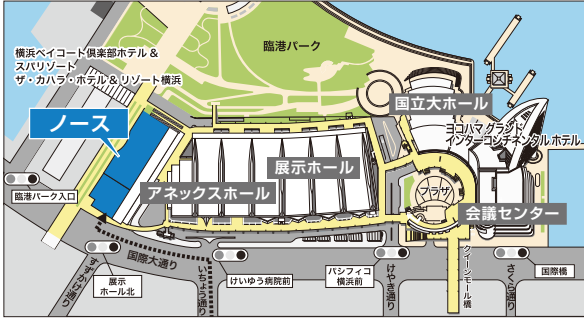
パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4 6月22日(木) 8:30～17:00
6月23日(金) 8:30～17:00
6月24日(土) 8:30～14:00



総会事務局：千葉大学大学院医学研究院精神医学内
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

運営事務局：株式会社コンベンションリンクージ内
〒102-0075 東京都千代田区三番町2
TEL：03-3263-8688 FAX：03-3263-8693
E-mail：jspn119@c-linkage.co.jp

交通案内図

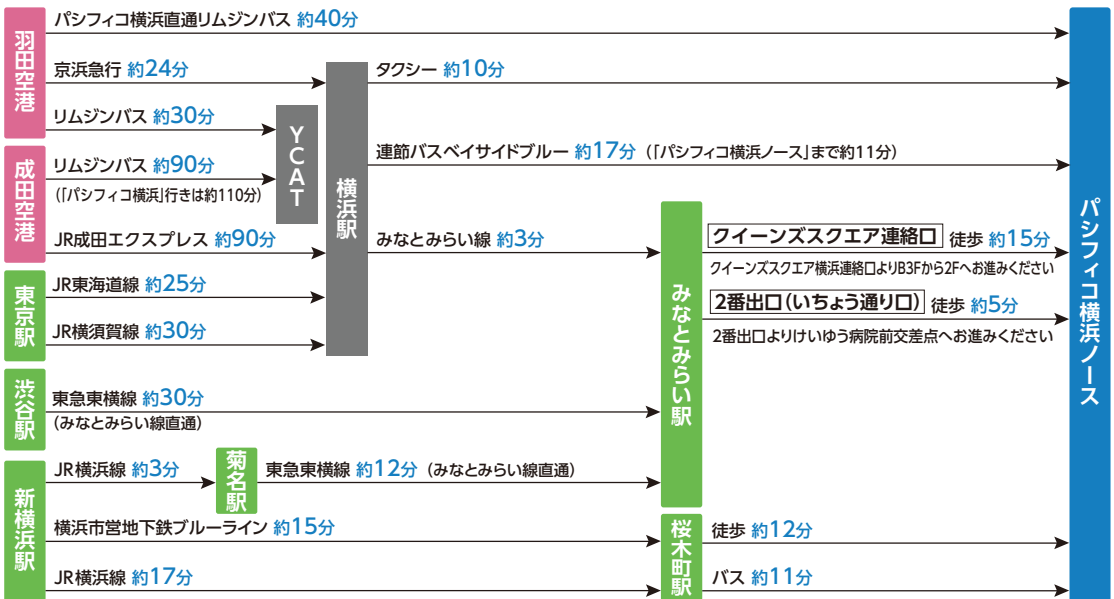


パシフィコ横浜ノース

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-2
TEL: 045-221-2155



アクセス

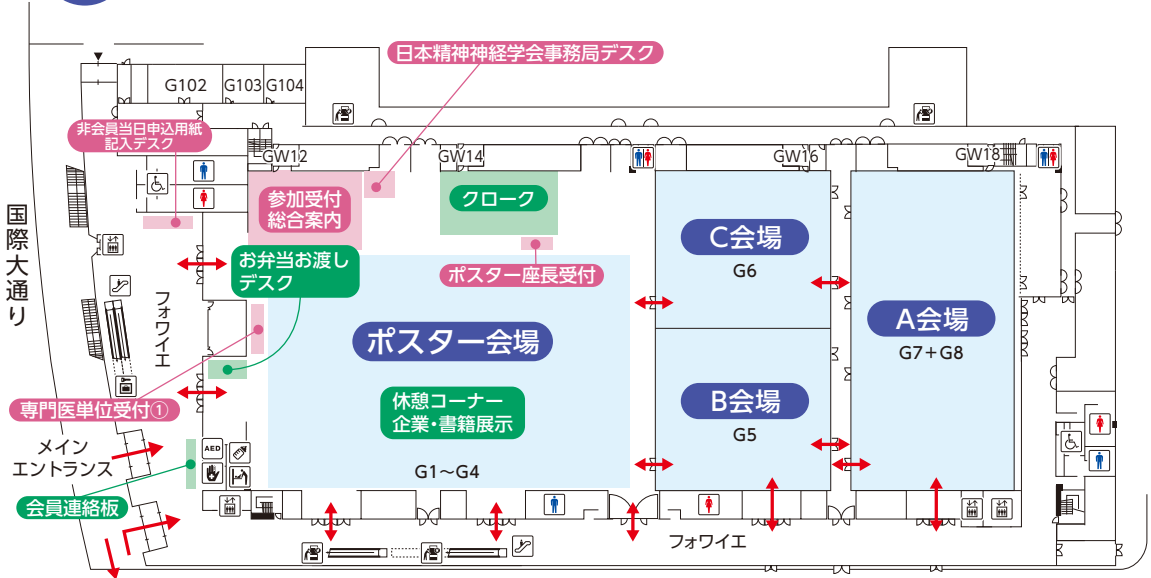




会場配置図

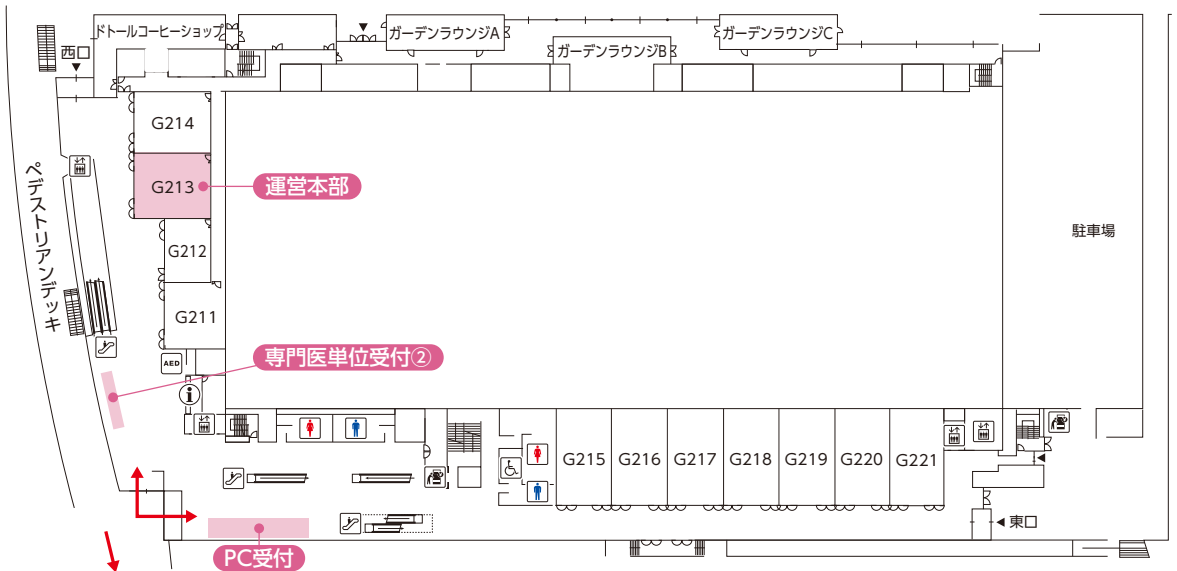
パシフィコ横浜ノース

1F



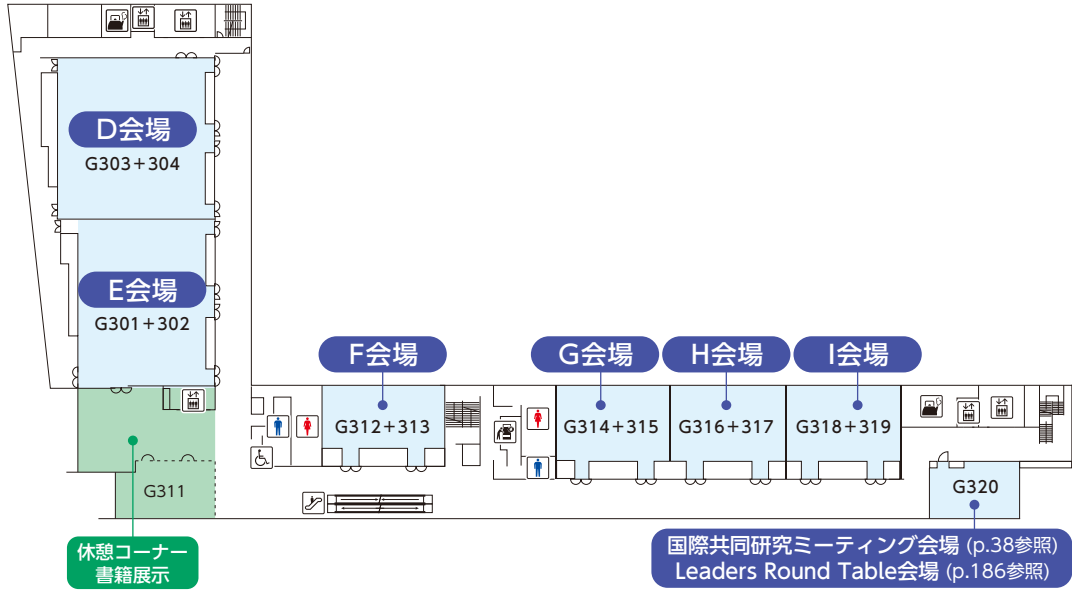
ヨコハマグランド インターコンチネンタル ホテルへ
みなとみらい駅へ

2F

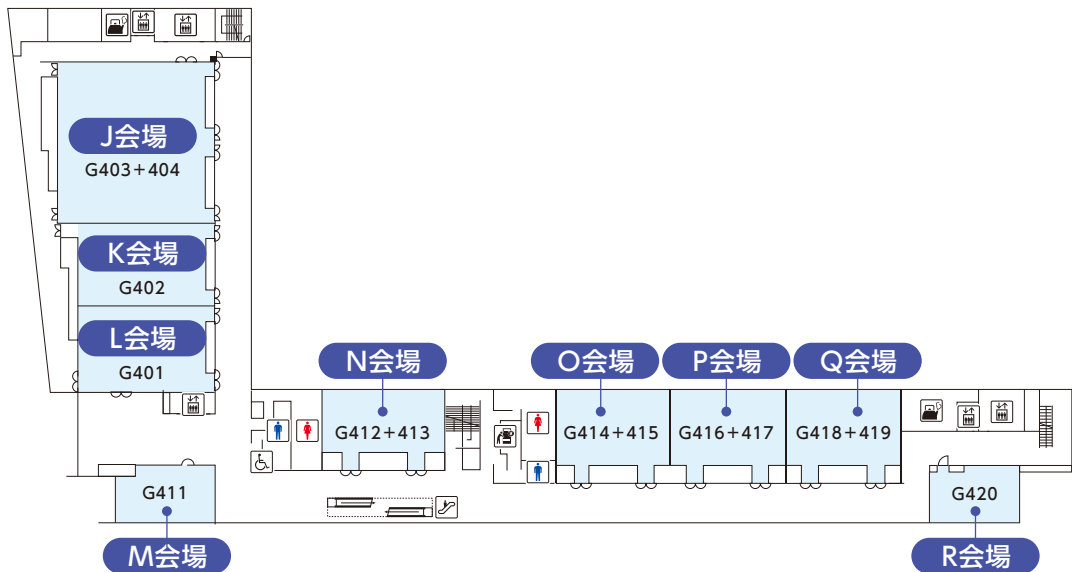


ヨコハマグランド インターコンチネンタル ホテルへ
みなとみらい駅へ

3F



4F



| 施設名 | パシフィコ横浜ノース | | | | | | | | | |
|-------|---|--|--|--|--|---|---|---|--|---|
| 会場名 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 | F会場 | G会場 | H会場 | I会場 | J会場 |
| フロア | 1F | 1F | 1F | 3F | 3F | 3F | 3F | 3F | 3F | 4F |
| 部屋名 | G7+G8 | G5 | G6 | G303+G304 | G301+G302 | G312+G313 | G314+G315 | G316+G317 | G318+G319 | G403+G404 |
| 8:00 | | | | | | | | | | |
| 8:30 | 8:20~8:30 開会式 | | | | | | | | | |
| 9:00 | 8:30~10:30 会長企画 シンポジウム1 統合失調症における抗精神病薬誘発性ドパミン過感受性精神病の克服 PS1-1~PS1-4 🎧 | 8:30~10:30 委員会 シンポジウム1 ICD-11/DSM-5-TRから児童青年期精神医学の診断の近未来を考える CS1-1~CS1-5 (児童精神科医療委員会) | 8:30~10:30 シンポジウム1 日常診療で、大人の発達障害を理解し支援する S1-1~S1-5 | 8:30~10:30 委員会 シンポジウム2 精神科医療スタッフとして乖離的スティグマにどう立ち向かったらよいか CS2-1~CS2-4 (アンチスティグマ委員会) | 8:30~10:30 シンポジウム2 今後期待されるうつ病への新規治療法について考える S2-1~S2-5 | 8:30~10:30 シンポジウム3 ミスマッチ陰性電位の精神疾患におけるバイオマーカー応用 S3-1~S3-4 | 8:30~10:30 シンポジウム4 ポスト・コロナ時代における精神医学教育と精神科診療 S4-1~S4-4 | 8:30~10:30 シンポジウム5 精神療法と治療像 S5-1~S5-4 | 8:30~10:30 委員会 シンポジウム3 災害における精神症状・心理状態についてのジェンダー観点からの検討 CS3-1~CS3-3 (男女共同参画委員会、災害支援委員会) | 8:30~10:30 シンポジウム6 周産期メンタルヘルス～今後の発展すべき方向性とは～ S6-1~S6-5 |
| 9:30 | | | | | | | | | | |
| 10:00 | | | | | | | | | | |
| 10:30 | | | | | | | | | | |
| 11:00 | 10:45~12:45 シンポジウム8 気分障害の睡眠 up-to-date 一病態理解から診断・治療法開発へ S8-1~S8-5 OD無 | 10:45~11:45 教育講演1 うつ病、不安症、慢性疼痛の認知行動療法とイメージの書き直し技法 EL1 11:45~12:45 教育講演2 子ども虐待はなぜ起きるのか？行動神経科学から見た親支援の必要性 EL2 | 10:45~12:45 シンポジウム9 アルコール使用障害患者を日常診療で診るために：非専門の医療スタッフでも使える短時間の簡易アプローチ S9-1~S9-5 | 10:45~12:45 シンポジウム10 精神科の疾患と認知症との病態的関連性Update S10-1~S10-5 | 10:45~12:45 シンポジウム11 高齢者のうつ病治療Up-to-Date S11-1~S11-5 | 10:45~12:45 Fellowship Award Symposium 1 ~Roles of psychiatrists in emergency medical services (救急医療における精神科医の役割)~ FAS1-1~FAS1-4 (国際委員会) | 10:45~12:45 シンポジウム12 死別の精神医学 S12-1~S12-4 | 10:45~12:45 シンポジウム13 精神疾患におけるヒューマノイドロボットを用いた支援の現状と今後の課題 S13-1~S13-5 OD無 | 10:45~12:45 委員会 シンポジウム7 公認心理師法施行5年を振り返って CS7-1~CS7-4 (心理職に関する委員会) | 10:45~12:45 シンポジウム14 多機能型精神科診療所での外来医療の機能強化と地域包括ケア～療養生活継続支援加算新設を機会に考える～ S14-1~S14-4 |
| 11:30 | | | | | | | | | | |
| 12:00 | | | | | | | | | | |
| 12:30 | | | | | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | | | | | |
| 13:30 | 13:15~14:15 先達に聴く 児童精神科医の成長～研修精神科医としての経験とその後の児童精神科医としての多岐から～ PM | 13:15~14:15 特別講演1 The Maudsley Prescribing Guidelines SL1 🎧 | 13:15~15:15 シンポジウム17 神経発達症の感覚現象と実践的な支援 S17-1~S17-5 | 13:15~15:15 委員会 シンポジウム11 周産期の女性を支える精神科診療のあり方 CS11-1~CS11-3 (男女共同参画委員会と親子・学校・女性に関する委員会の共催) | 13:15~15:15 シンポジウム18 慢性疼痛 S18-1~S18-5 | 13:15~15:15 Fellowship Award Symposium 2 ~Roles of psychiatrists in emergency medical services (救急医療における精神科医の役割)~ FAS2-1~FAS2-4 (国際委員会) | 13:15~15:15 シンポジウム19 あるがままと統合失調症事例の刑事精神鑑定 S19-1~S19-4 | 13:15~15:15 委員会 シンポジウム12 統合失調症事例の刑事精神鑑定 CS12-1~CS12-4 (司法精神医学委員会) | 13:15~15:15 シンポジウム20 これからの精神医学に求められるものとは？ポジティブ精神医学の活用 S20-1~S20-4 | 13:15~15:15 委員会 シンポジウム13 認知症者の経済的支援 CS13-1~CS13-4 (認知症委員会) |
| 14:00 | | | | | | | | | | |
| 14:30 | 14:15~15:15 会長講演 応機展開の精神医学とその底流 PL 🎧 | 14:15~15:15 教育講演3 日本精神神経学会におけるCOI申告の実践：総論から各論まで EL3 | | | | | | | | |
| 15:00 | | | | | | | | | | |
| 15:30 | | | | | | | | | | |
| 16:00 | 15:30~16:30 特別講演2 The Maudsley Model of Anorexia Nervosa for Adults: Development, Evidence and New Directions SL2 🎧 | 15:30~17:30 シンポジウム25 向精神薬と自動車運転～エビデンスの医療への実装、そして課題～ S25-1~S25-5 | 15:30~17:30 シンポジウム26 一人からでも始められる物質使用障害の治療～その多様な実践から～ S26-1~S26-5 | 15:30~17:30 委員会 シンポジウム14 一般診療に活かす各種精神療法～学派を超えた通院精神療法の在り方～ CS14-1~CS14-4 (精神療法委員会) | 15:30~17:30 シンポジウム27 コロナ禍における若い世代の摂食障害～発症数の増加とその要因～ S27-1~S27-4 | 15:30~17:30 Fellowship Award Symposium 3 ~Roles of psychiatrists in emergency medical services (救急医療における精神科医の役割)~ FAS3-1~FAS3-4 (国際委員会) | 15:30~17:30 シンポジウム28 現代のcommon diseaseとしての不安障害～その正常と病的的境界とは～ S28-1~S28-5 | 15:30~17:30 シンポジウム29 わが国における認知症の疫学研究の最前線 S29-1~S29-4 | 15:30~17:30 シンポジウム30 心拍変動自律神経バイオマーカー：工学と精神医学のクロストーク S30-1~S30-5 | 15:30~17:30 シンポジウム31 治療失敗リスクを下げる精神病的障害急性期の治療方略 S31-1~S31-4 |
| 16:30 | | | | | | | | | | |
| 17:00 | 16:45~18:45 シンポジウム36 課題解決型高度医療人材養成(精神領域)のこれから～産業保健との関連から～ S36-1~S36-4 | | | | | | | | | |
| 17:30 | | | | | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | | | | | |
| 18:30 | | | | | | | | | | |
| 19:00 | | | | | | | | | | |
| 19:30 | | | | | | | | | | |
| 20:00 | | | | | | | | | | |

| パシフィコ横浜ノース | | | | | | | | | | | 施設名 |
|------------|------|------|-----------|-----------|-----------|-----------|------|---------|-------------|-------|-----|
| K会場 | L会場 | M会場 | N会場 | O会場 | P会場 | Q会場 | R会場 | 国際委員会会場 | ポスター会場 | 会場名 | |
| 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 3F | 1F | フロア | |
| G402 | G401 | G411 | G412+G413 | G414+G415 | G416+G417 | G418+G419 | G420 | G320 | G1~G4 | 部屋名 | |
| | | | | | | | | | 7:30~10:00 | 8:00 | |
| | | | | | | | | | ポスター掲示 | | |
| | | | | | | | | | | 8:30 | |
| | | | | | | | | | | 9:00 | |
| | | | | | | | | | | 9:30 | |
| | | | | | | | | | | 10:00 | |
| | | | | | | | | | 10:00~11:45 | | |
| | | | | | | | | | ポスター閲覧 | | |
| | | | | | | | | | | 10:30 | |
| | | | | | | | | | | 11:00 | |
| | | | | | | | | | | 11:30 | |
| | | | | | | | | | | 12:00 | |
| | | | | | | | | | | 12:30 | |
| | | | | | | | | | | 13:00 | |
| | | | | | | | | | | 13:30 | |
| | | | | | | | | | | 14:00 | |
| | | | | | | | | | | 14:30 | |
| | | | | | | | | | | 15:00 | |
| | | | | | | | | | | 15:30 | |
| | | | | | | | | | | 16:00 | |
| | | | | | | | | | | 16:30 | |
| | | | | | | | | | | 17:00 | |
| | | | | | | | | | | 17:30 | |
| | | | | | | | | | | 18:00 | |
| | | | | | | | | | | 18:30 | |
| | | | | | | | | | | 19:00 | |
| | | | | | | | | | | 19:30 | |
| | | | | | | | | | | 20:00 | |

| 施設名 | パシフィコ横浜ノース | | | | | | | | | | | |
|-------|---|---|---|---|--|---|---|---|---|---|--|--|
| 会場名 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 | F会場 | G会場 | H会場 | I会場 | J会場 | | |
| フロア | 1F | 1F | 1F | 3F | 3F | 3F | 3F | 3F | 3F | 4F | | |
| 部屋名 | G7+G8 | G5 | G6 | G303+G304 | G301+G302 | G312+G313 | G314+G315 | G316+G317 | G318+G319 | G403+G404 | | |
| 8:00 | | | | | | | | | | | | |
| 8:30 | | | | | | | | | | | | |
| 9:00 | シンポジウム37 主治医産業界が「両立支援と職域の安全配慮・合理的配慮義務」を重視しながら取り組む就労支援をめぐって S37-1～S37-5 | 教育講演4 精神障害における障害の社会モデルの重要性 EL4 9:30～10:30 特別講演3 A non-discriminatory (mental) health law SL3 | シンポジウム38 自閉スペクトラム症の特性とは何か～研究の視点を診療につなげる～ S38-1～S38-5 | シンポジウム39 不安症、強迫症の診療ガイドラインと臨床的実践 S39-1～S39-4 | シンポジウム40 睡眠からみたAYA世代における精神障害とその予防 S40-1～S40-4 | Fellowship Award Symposium 4 ～Case Vignette: chronic pain (ケースビネット: 慢性疼痛)～ FAS4-1～FAS4-4 (国際委員会) | シンポジウム41 初診患者の精神力動的アセスメントについて S41-1～S41-3 | シンポジウム42 がん診療において精神科医に何が期待されているのか？ S42-1～S42-4 | シンポジウム43 うつ病へのrTMS治療の今後の発展への取り組み S43-1～S43-4 | 委員会 シンポジウム18 精神科医のための認知症診療のビットフォール CS18-1～CS18-4 (認知症委員会) | | |
| 9:30 | | | | | | | | | | | | |
| 10:00 | | | | | | | | | | | | |
| 10:30 | | | | | | | | | | | | |
| 11:00 | 11:00～12:50 受賞報告会 | 委員会 シンポジウム19 国連障害者権利条約実施委員会(CRPD)の対日審査をめぐって～これからのわが国の精神医療のあり方を考える CS19-1～CS19-4 (精神医療・福祉のあり方に関する常任委員会) | シンポジウム47 これからの摂食障害治療を考える：スタンダードな身体管理と精神療法に向けて S47-1～S47-4 | シンポジウム48 精神科救急における医療安全 S48-1～S48-4 | 委員会 シンポジウム20 ICD-11「精神、行動及び神経発達疾患」についての解説 CS20-1～CS20-5 (ICD-11委員会) | 委員会 シンポジウム21 精神科領域における医療DXとオンライン診療 CS21-1～CS21-4 (オンライン精神科医療検討作業班) | シンポジウム49 精神医学における個性と普遍性 S49-1～S49-5 | シンポジウム50 いまなぜグループか？新しいつながり時代の集団精神療法 S50-1～S50-4 | シンポジウム51 様々な生物学的現象から考える精神疾患の病態生理 S51-1～S51-4 | 委員会 シンポジウム22 次世代の精神医学研究のあり方：知の統合による課題解決に向けて CS22-1～CS22-5 (精神医学研究推進委員会) | | |
| 11:30 | | | | | | | | | | | | |
| 12:00 | | | | | | | | | | | | |
| 12:30 | | | | | | | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | | | | | | | |
| 13:30 | 13:15～15:15 会長企画 シンポジウム2 若手精神科医から見た世界の中の日本の精神医療の方向性 PS2-1～PS2-4 | 13:15～14:15 教育講演5 刑事精神鑑定～最近の動向～ EL5 14:15～15:15 教育講演7 女性と養育者のメンタルヘルスを考える～大学病院女性外来とつづりから見える風景 EL7 | 13:15～15:15 シンポジウム57 統合失調症診断と医学の進歩～操作的な統合失調症診断概念における「器質因」を考える～ S57-1～S57-4 | 13:15～15:15 シンポジウム58 精神科臨床の幅を広げるために知っておきたい漢方薬～漢方専門医でなくても上手に漢方薬を使うコツ～ S58-1～S58-5 | 13:15～15:15 シンポジウム59 ギフテッドの特徴を有する子どもたちの実態と支援 S59-1～S59-4 | 13:15～15:15 委員会 シンポジウム23 各国におけるアディクションへの対応 CS23-1～CS23-5 (国際委員会) | 13:15～15:15 シンポジウム60 精神医学におけるconceptual historyの重要性～統合失調症、自閉、両個性 S60-1～S60-4 | 13:15～15:15 シンポジウム61 防ぎえる合併症死亡率を減らすため、精神科身体合併症の治療の場を考えると S61-1～S61-5 | 13:15～15:15 委員会 シンポジウム24 旧優生保護法における精神科医の果たした役割についての学際的検討 CS24-1～CS24-4 (法委員会) | 13:15～15:15 シンポジウム62 子供の司法精神医学～多職種・多組織による包括的なアプローチを目指して～ S62-1～S62-4 | | |
| 14:00 | | | | | | | | | | | | |
| 14:30 | | | | | | | | | | | | |
| 15:00 | | | | | | | | | | | | |
| 15:30 | 15:30～17:30 委員会 シンポジウム26 高齢者犯罪の現状と司法精神医学的課題 S66-1～S66-4 CS26-1～CS26-5 (産業保健に関する委員会) | 15:30～17:30 シンポジウム66 高齢者犯罪の現状と司法精神医学的課題 S66-1～S66-4 | 15:30～17:30 シンポジウム67 認知行動療法update: 診療ガイドラインから臨床実践への橋渡し S67-1～S67-4 | 15:30～17:30 シンポジウム68 ささまざまな精神科領域における身体症状症～専門的知見に基づく検討 S68-1～S68-4 | 15:30～17:30 シンポジウム69 せん妄の臨床現場に残された重要課題とその展望・展望 S69-1～S69-4 | 15:30～17:30 シンポジウム70 高齢者のうつ病治療、次の一手 S70-1～S70-5 | 15:30～17:30 シンポジウム71 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける精神科医療機関の役割 S71-1～S71-4 | 15:30～17:30 シンポジウム72 アディクション診療におけるグループケア S72-1～S72-5 | 15:30～17:30 委員会 シンポジウム27 新たな自殺総合対策大綱：見直しに向けて当学会の取り組みと今後の課題 CS27-1～CS27-5 (自殺予防に関する委員会) | 15:30～17:30 シンポジウム73 マタニティ・ハラメントを考える～妊娠・出産を巡るストレス～ <日本精神神経科診療所協会推薦> S73-1～S73-4 | | |
| 16:00 | | | | | | | | | | | | |
| 16:30 | | | | | | | | | | | | |
| 17:00 | | | | | | | | | | | | |
| 17:30 | | | | | | | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | | | | | | | |
| 18:30 | | | | | | | | | | | | |
| 19:00 | | | | 18:30～20:00 懇親会 ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル 3F パシフィック ※17:30より3F ベイビューを待機場として開放しておりますので是非ご利用ください。 | | | | | | | | |
| 19:30 | | | | | | | | | | | | |
| 20:00 | | | | | | | | | | | | |

| パシフィコ横浜ノース | | | | | | | | | | 施設名 |
|---|---|---|---|--|--|---|--|--|--|-------|
| K会場 | L会場 | M会場 | N会場 | O会場 | P会場 | Q会場 | R会場 | 国際委員会会場 | ポスター会場 | 会場名 |
| 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 3F | 1F | フロア |
| G402 | G401 | G411 | G412+G413 | G414+G415 | G416+G417 | G418+G419 | G420 | G320 | G1~G4 | 部屋名 |
| | | | | | | | | | | 8:00 |
| | | | | | | | | | | 8:30 |
| 8:30~10:30 シンポジウム44 精神科へき地医療の新しい時代に向けて S44-1~S44-5 OD無 | 9:10~11:50 ワークショップ6 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズWS6 (自殺予防に関する委員会) 【事前申込制】 OD無 | 8:30~9:42 一般演題(口演)10 発達障害及び器質性症候性精神障害 2-O10-1~2-O10-6 9:42~10:54 一般演題(口演)12 精神作用物質使用関連障害 2-O12-1~2-O12-6 10:54~11:54 一般演題(口演)14 器質性症候性障害及びリエゾンコンサルテーション 2-O14-1~2-O14-5 11:54~12:54 一般演題(口演)16 コロナウィルス感染関連(1) 2-O16-1~2-O16-5 OD無 | 8:30~10:10 ワークショップ5 リエゾン精神科医が直面する臨床倫理的課題-生命に関わる身体疾患への治療を拒否する患者へのアプローチWS5 OD無 | 8:30~10:30 シンポジウム45 口腔領域の難治性疼痛に対し精神科医は何をすべきか? -歯科医と精神科医との対話から S45-1~S45-4 | 8:30~10:30 シンポジウム46 新専門医制度施行後の身体科領域の生涯教育について S46-1~S46-6 | 8:30~9:18 地方会優秀演題セッション3 <東海・近畿> RM3-1~RM3-4 9:30~10:18 地方会優秀演題セッション4 <近畿・中国・四国> RM4-1~RM4-4 OD無 | 8:30~9:42 一般演題(口演)11 認知症及び老年期精神障害 2-O11-1~2-O11-6 9:42~10:54 一般演題(口演)13 自殺予防、その他 2-O13-1~2-O13-6 10:54~12:06 一般演題(口演)15 神経画像及び精神病理 2-O15-1~2-O15-6 12:06~13:06 一般演題(口演)17 精神保健福祉 2-O17-1~2-O17-5 OD無 | | 8:30~10:45 ポスター閲覧 | 8:30 |
| 10:45~12:45 シンポジウム52 ハームリダクションを実践、症例ベースで考える S52-1~S52-4 OD無 | | | 10:45~12:45 シンポジウム53 臨床倫理 コンサルテーションにおける精神科医の役割 S53-1~S53-4 | 10:45~12:45 シンポジウム54 ウィズポストコロナ社会におけるメンタルヘルスクアアシステムの社会実装に向けて S54-1~S54-5 | 10:45~12:45 シンポジウム55 精神科はてんかん診療から離れる時期にきているのか? S55-1~S55-5 | 10:45~12:45 シンポジウム56 高齢者精神科診療に必要な多様な視点を探る S56-1~S56-4 OD無 | | | 10:45~11:25 関連学会優秀演題ポスター2 RS2-1~RS2-6 11:45~12:25 関連学会優秀演題ポスター3 RS3-1~RS3-5 | 11:00 |
| 13:15~15:15 シンポジウム63 新型コロナウイルス感染症の罹患後症状における精神症状の病態と治療の最前線 S63-1~S63-4 | 13:15~14:55 ワークショップ7 <脳波の基礎コース>精神科医が脳波を学ぶためにWS7 OD無 | 13:15~14:15 一般演題(口演)18 コロナウィルス感染関連(2) 2-O18-1~2-O18-5 14:15~15:27 一般演題(口演)19 神経生理学及び睡眠障害 2-O19-1~2-O19-6 OD無 | 13:15~15:15 シンポジウム64 うつ病治療の次なる期待 S64-1~S64-4 | 13:15~15:15 シンポジウム65 産・官・学連携による日本におけるTMS療法の普及と拡大に向けて S65-1~S65-4 | 13:15~15:15 委員会 シンポジウム25 精神科医にどのように性別不合(Gender Incongruence)医療に参入してもらうか CS25-1~CS25-4 (性別不合に関する委員会) | 13:15~14:15 教育講演6 回避・制限性食物摂取症(ARFID)-コロナ禍の影響を受けて- EL6 14:15~15:15 専攻医・初期研修医・学部学生演題(口演)5 若手チャレンジ口演(5) 2-K05-1~2-K05-5 | 13:15~14:15 専攻医・初期研修医・学部学生演題(口演)4 若手チャレンジ口演(4) 2-K04-1~2-K04-5 14:15~15:27 専攻医・初期研修医・学部学生演題(口演)6 若手チャレンジ口演(6) 2-K06-1~2-K06-6 | | 13:15~14:00 一般演題(ポスター) 8~11 14:15~15:00 一般演題(ポスター) 12~15 | 13:30 |
| 15:30~17:30 シンポジウム74 精神科臨床での音楽療法の実践-具体的な技法や患者にみられる変化・効果を中心に S74-1~S74-5 OD無 | 15:30~17:10 ワークショップ8 <脳波の応用コース>精神科医が脳波を臨床に生かすためにWS8 OD無 | 15:50~17:30 委員会 専門医制度報告会 シンポジウム28 精神科医の偏在対策は必要か? :現状と将来への影響 CS28-1~CS28-5 (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会) | 15:30~17:30 シンポジウム75 地域連携・地域支援を促進する総合病院精神科医療 S75-1~S75-4 | 15:30~17:30 シンポジウム76 精神疾患レジストリの現況報告 S76-1~S76-6 | 15:30~17:30 シンポジウム77 医薬品・医療機器のエコシステムと精神科医一本邦のレギュラトリーサイエンスに対する精神科医の役割 S77-1~S77-5 | 15:30~17:30 シンポジウム78 COVID-19後遺症を含めた新しい形の認知機能障害とその援助 S78-1~S78-4 | 15:30~17:30 Leaders Round Table 各国精神医学会の協力について(国際委員会) | 15:30~16:10 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)5~6 16:30~17:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)7~9 | 15:30 | |
| | | | | | | | | | | 16:00 |
| | | | | | | | | | | 16:30 |
| | | | | | | | | | | 17:00 |
| | | | | | | | | | | 17:30 |
| | | | | | | | | | | 18:00 |
| | | | | | | | | | | 18:30 |
| | | | | | | | | | | 19:00 |
| | | | | | | | | | | 19:30 |
| | | | | | | | | | | 20:00 |

| 施設名 | パシフィコ横浜ノース | | | | | | | | |
|-------|--|---|---|--|---|--|--|--|--|
| 会場名 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 | F会場 | G会場 | H会場 | I会場 |
| フロア | 1F | 1F | 1F | 3F | 3F | 3F | 3F | 3F | 3F |
| 部屋名 | G7+G8 | G5 | G6 | G303+G304 | G301+G302 | G312+G313 | G314+G315 | G316+G317 | G318+G319 |
| 8:00 | | | | | | | | | |
| 8:30 | | | | | | | | | |
| 9:00 | 8:30~10:30 委員会 シンポジウム29 ADHD治療薬の課題と展望 CS29-1~CS29-5 (薬事委員会) | 8:30~10:30 シンポジウム79 統合失調症における自閉性と自閉スペクトラム症-病態における同異の研究を臨床に活かす知見- S79-1~S79-4 | 8:30~10:30 シンポジウム80 診断閣下の発達障害～発達障害グレーゾーンという概念の意義と危険性～ S80-1~S80-4 | 8:30~10:30 シンポジウム81 ゲーム障害の予防・治療について S81-1~S81-5 | 8:30~10:30 シンポジウム82 不安症、物質使用症、摂食障害を支持的精神療法で治療するには、何が必要か？ S82-1~S82-4 | 8:30~10:30 委員会 シンポジウム30 ここまで来ている新規治療法開発：期待と課題 CS30-1~CS30-4 (PCN編集委員会) | 8:30~10:30 シンポジウム83 ガイドライン普及事業の最前線と今後の展開 S83-1~S83-6 | 8:30~10:30 シンポジウム84 曲がり角に立つ精神科入院医療-課題の多様性から将来を探る S84-1~S84-5 | 8:30~10:30 シンポジウム85 世に出ていく力動精神医学-今日の意義と課題 S85-1~S85-4 |
| 9:30 | | | | | | | | | |
| 10:00 | | | | | | | | | |
| 10:30 | | | | | | | | | |
| 11:00 | 10:45~11:45 教育講演8 健康経営とメンタルヘルス ～新たな健康の価値とこれからの健康づくり～ EL8 | 10:45~12:45 委員会 シンポジウム32 〔日本精神神経学会倫理教育研修会対象セッション〕 当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性：ゲノム研究を例にとって CS32-1~CS32-5 (倫理委員会) | 10:45~12:45 シンポジウム91 日本生物学的精神医学会との合同シンポジウム：生物学的研究によって精神科医は何をすべきか？ S91-1~S91-4 | 10:45~12:45 シンポジウム92 強迫症の理解と治療戦略のアップデート S92-1~S92-4 | 10:45~12:45 委員会 シンポジウム33 治療抵抗性統合失調症はどのよう に治療すべきか：我々の合意形成を目指して CS33-1~CS33-5 (薬事委員会) | 10:45~12:45 委員会 シンポジウム34 日本で暮らす難民・避難民のメンタルヘルス支援を考える CS34-1~CS34-4 (国際委員会) | 10:45~12:45 シンポジウム93 診療科横断・多職種連携による複合介入の開発・検証と実装：サイコオンコロジー領域の研究開発 S93-1~S93-4 | 10:45~12:45 シンポジウム94 「進化精神医学」の現在と展開 S94-1~S94-4 | 10:45~12:45 シンポジウム95 精神科が地域医療に貢献できること～コンサルテーション・リエゾンによって活かされる精神医学の経験 S95-1~S95-5 |
| 11:30 | | | | | | | | | |
| 12:00 | 12:00~13:00 教育講演9 最近の自殺問題の推移と自殺予防医療の確立 EL9 | | | | | | | | |
| 12:30 | | | | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | | | | |
| 13:30 | 13:15~14:15 教育講演10 我が国における矯正精神医療の現状と課題 EL10 | | 13:15~15:15 シンポジウム100 発達障害とNeurodiversity S100-1~S100-4 | 13:15~15:15 シンポジウム101 朝起きられない不登校児への多面的な評価と介入 S101-1~S101-4 | | 13:15~15:15 シンポジウム102 精神科アウトリーチはいつ誰に必要なのか？ -対象と実施主体別にみた支援の実際と仕組みづくり- S102-1~S102-4 | 13:15~15:15 委員会 シンポジウム37 精神保健福祉法改正-それぞれの立場で考える精神保健福祉法のあるべき姿- CS37-1~CS37-3 (精神保健福祉法委員会) | 13:15~15:15 シンポジウム103 被害と加害 S103-1~S103-5 | 13:15~15:15 委員会 シンポジウム38 若手精神科医のための臨床研究事始め-症例報告からランダム化比較試験まで CS38-1~CS38-3 (PCN Reports編集委員会) |
| 14:00 | | | | | | | | | |
| 14:30 | | | | | | | | | |
| 15:00 | | | | | | | | | |
| 15:30 | 15:30~18:40 生涯教育研修会 | 15:30~19:10 指導医講習会 | | | | 15:30~16:30 会員報告会 | | | |
| 16:00 | | | | | | | | | |
| 16:30 | | | | | | 16:30~16:40 閉会式 | | | |
| 17:00 | [事前予約制] | [事前予約制] | | | | | | | |
| 17:30 | | | | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | | | | |
| 18:30 | | | | | | | | | |
| 19:00 | | | | | | | | | |
| 19:30 | | | | | | | | | |
| 20:00 | | | | | | | | | |

| パシフィコ横浜ノース | | | | | | | | | 施設名 |
|---|--|--|---|--|---|--|--|--|------------------------------|
| J会場 | K会場 | L会場 | M会場 | N会場 | O会場 | P会場 | Q会場 | ポスター会場 | 会場名 |
| 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 4F | 1F | フロア |
| G403+G404 | G402 | G401 | G411 | G412+G413 | G414+G415 | G416+G417 | G418+G419 | G1～G4 | 部屋名 |
| | | | | | | | | | 8:00 |
| | | | | | | | | | 8:30 |
| 8:30～10:30 シンポジウム86 精神科初期研修 グレードアップ! S86-1～S86-5 | 8:30～10:30 シンポジウム87 精神科診療に おける Precisionに ついて S87-1～S87-5 | 8:30～10:10 ワークショップ9 精神神経学雑誌に 掲載される 論文の書き方 (研究計画と 統計について) WS9 (精神神経学雑誌編集委員会) | 8:30～10:30 シンポジウム88 一次性妄想の 内包と外延 S88-1～S88-4 | 8:30～10:30 委員会 シンポジウム31 地域ケアに おいて求められる アウトリーチ支援 を考える CS31-1～CS31-4 (地域ケアにおける自立支援 のあり方検討委員会) | 8:30～10:30 シンポジウム89 ストーリー 加害者への 治療的介入 S89-1～S89-4 | 8:30～10:30 シンポジウム90 精神科における 臨床神経病理 カンファレンス とその意義 S90-1～S90-5 | 8:30～9:42 一般演題(口演)20 統合失調症(3) 3-O20-1～3-O20-6 | 8:30～9:20 一般演題 (ポスター) 16～19 | 8:30 |
| | | | | | | | | | 9:00 |
| | | | | | | | | | 9:30 |
| | | | | | | | | 9:30～10:20 一般演題 (ポスター) 20～23 | 9:30 |
| | | | | | | | | | 10:00 |
| | | | | | | | | | 10:30 |
| 10:45～12:45 シンポジウム96 災禍での育ち ～みちのくこどもコ ホートから見つめる 東日本大震災と新型 コロナウイルス感染 症パンデミック～ S96-1～S96-4 | 10:45～12:45 委員会 シンポジウム35 多職種協働が 動き出す時 CS35-1～CS35-4 (多職種協働委員会) | 10:45～12:25 ワークショップ10 映像で学ぶ 初診面接 「死にたい」と 訴える患者編ー WS10 (精神療法委員会) | 10:45～12:45 シンポジウム97 地域創りは 長期在院者の 退院支援から S97-1～S97-5 | 10:45～12:45 シンポジウム98 統合失調症の 外来治療の 今後について 考える S98-1～S98-5 | 10:45～12:45 シンポジウム99 全国の精神保健 福祉センターに おける自殺予防 の取り組み S99-1～S99-6 | 10:45～12:45 委員会 シンポジウム36 「精神疾患の予 防と回復」高等 学校教科書掲載 1年後の現状と 課題 CS36-1～CS36-4 (アンチスティグマ委員会) | 10:54～11:54 一般演題(口演)22 発達障害(1) 3-O22-1～3-O22-5 | 10:45～11:40 専攻医・初期研修医・ 学部学生演題 (ポスター) 10～11 | 11:00 |
| | | | | | | | | | 11:30 |
| | | | | | | | | | 12:00 |
| | | | | | | | | | 12:30 |
| | | | | | | | | | 12:45～14:00 ポスター撤去 |
| | | | | | | | | | 13:00 |
| 13:15～14:30 市民公開講座 | 13:15～15:15 シンポジウム104 これまでの 千葉県精神 神経診療所協 会の活動と 今後の課題 S104-1 | 13:15～15:15 シンポジウム105 統合失調症の 睡眠研究の現 在ー最近のトピ ックスと臨床へ の展開ー S105-1～S105-4 | 13:15～15:15 シンポジウム106 学校や地域で 子どもたちのこ ろの状態、支援と 連携システム S106-1～S106-4 | 13:15～15:15 シンポジウム107 新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)罹 患後精神症状と 精神保健施設に おける対応 S107-1～S107-4 | 13:15～15:15 シンポジウム108 マイクロアグレ ッションの理解と 克服ー精神医療 の向上と共生社 会の実現のため に S108-1～S108-4 | 13:15～15:15 シンポジウム109 精神科における “身体的”リハビ リテーションの 現状と今後の 課題 S109-1～S109-5 | 13:15～15:15 委員会 シンポジウム39 こころのサポーター 普及を目指す ～地域での早期支援・ アンチスティグマ 活動～ CS39-1～CS39-4 (アンチスティグマ委員会) | 11:45～12:30 専攻医・初期研修医・ 学部学生演題(ポスター) 12～13 | 13:30 |
| | | | | | | | | | 14:00 |
| | | | | | | | | | 14:30 |
| | | | | | | | | | 15:00 |
| | | | | | | | | | 15:30 |
| | | | | | | | | | 16:00 |
| | | | | | | | | | 16:30 |
| | | | | | | | | | 17:00 |
| | | | | | | | | | 17:30 |
| | | | | | | | | | 18:00 |
| | | | | | | | | | 18:30 |
| | | | | | | | | | 19:00 |
| | | | | | | | | | 19:30 |
| | | | | | | | | | 20:00 |

ポスター発表 日程表

| 日時 | 6月22日(木) | 6月23日(金) | 6月24日(土) |
|-------|---|--|--|
| 会場名 | ポスター会場 | ポスター会場 | ポスター会場 |
| フロア | 1F | 1F | 1F |
| 部屋名 | G1～G4 | G1～G4 | G1～G4 |
| 8:00 | 7:30～10:00 ポスター掲示 | | |
| 8:30 | | 8:30～10:45 ポスター閲覧 | 8:30～9:20 一般演題 (ポスター) 16～19 |
| 9:00 | | | |
| 9:30 | | | 9:30～10:20 一般演題 (ポスター) 20～23 |
| 10:00 | 10:00～11:45 ポスター閲覧 | | |
| 10:30 | | | |
| 11:00 | | 10:45～11:25 関連学会優秀演題ポスター2 日本精神科救急学会・日本社会精神医学会・ 日本総合病院精神医学会・日本うつ病学会 RS2-1～RS2-6 | 10:45～11:40 専攻医・初期研修医・学部学生演題 (ポスター) 10～11 |
| 11:30 | | | |
| 12:00 | 11:45～12:17 関連学会優秀演題ポスター1 日本統合失調症学会・日本臨床精神神経薬理学会 RS1-1～RS1-5 | 11:45～12:25 関連学会優秀演題ポスター3 日本不安症学会・日本うつ病学会 RS3-1～RS3-5 | 11:45～12:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題 (ポスター) 12～13 |
| 12:30 | | | |
| 13:00 | | | 12:45～14:00 ポスター撤去 |
| 13:30 | 13:15～14:10 一般演題 (ポスター) 1～4 | 13:15～14:00 一般演題 (ポスター) 8～11 | |
| 14:00 | | | |
| 14:30 | 14:15～15:00 一般演題 (ポスター) 5～7 | 14:15～15:00 一般演題 (ポスター) 12～15 | |
| 15:00 | | | |
| 15:30 | 15:30～16:10 専攻医・初期研修医・学部学生演題 (ポスター) 1～2 | 15:30～16:10 専攻医・初期研修医・学部学生演題 (ポスター) 5～6 | |
| 16:00 | | | |
| 16:30 | 16:30～17:20 専攻医・初期研修医・学部学生演題 (ポスター) 3～4 | 16:30～17:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題 (ポスター) 7～9 | |
| 17:00 | | | |
| 17:30 | | | |
| 18:00 | | | |
| 18:30 | | | |
| 19:00 | | | |
| 19:30 | | | |
| 20:00 | | | |

| | | | | |
|--------|-------------|-------------------------|------------------------|-----------------|
| 22日(日) | 11:45~12:17 | 関連学会優秀演題ポスター1 | 日本統合失調症学会・日本臨床精神神経薬理学会 | RS1-1~RS1-5 |
| | 13:15~14:10 | 一般演題(ポスター)1 | アルコール・作用物質関連 | 1-P1-1~1-P1-6 |
| | | 一般演題(ポスター)2 | 気分(感情)障害(1) | 1-P2-1~1-P2-5 |
| | | 一般演題(ポスター)3 | AI・社会精神医学・自殺予防 | 1-P3-1~1-P3-5 |
| | | 一般演題(ポスター)4 | コンサルテーションリエゾン・睡眠障害(1) | 1-P4-1~1-P4-6 |
| | 14:15~15:00 | 一般演題(ポスター)5 | 高齢期精神障害 | 1-P5-1~1-P5-4 |
| | | 一般演題(ポスター)6 | ADHD及び神経画像、神経生理 | 1-P6-1~1-P6-5 |
| | | 一般演題(ポスター)7 | 発達障害及び摂食障害 | 1-P7-1~1-P7-5 |
| | 15:30~16:10 | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)1 | 認知症・器質性障害等 | 1-KP1-1~1-KP1-5 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)2 | 統合失調症等(1) | 1-KP2-1~1-KP2-5 |
| | 16:30~17:20 | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)3 | 統合失調症等(2) | 1-KP3-1~1-KP3-5 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)4 | 初期臨床研修医ポスター演題 | 1-KP4-1~1-KP4-6 |

| | | | | |
|--------|-------------|-------------------------|---|-----------------|
| 23日(日) | 10:45~11:25 | 関連学会優秀演題ポスター2 | 日本精神科救急学会・日本社会精神医学会・日本総合病院精神医学会・日本うつ病学会 | RS2-1~RS2-6 |
| | 11:45~12:25 | 関連学会優秀演題ポスター3 | 日本不安症学会・日本うつ病学会 | RS3-1~RS3-5 |
| | 13:15~14:00 | 一般演題(ポスター)8 | 統合失調症(1) | 2-P8-1~2-P8-5 |
| | | 一般演題(ポスター)9 | 統合失調症及び地域精神医療 | 2-P9-1~2-P9-5 |
| | | 一般演題(ポスター)10 | 気分(感情)障害及び高齢期精神障害 | 2-P10-1~2-P10-5 |
| | | 一般演題(ポスター)11 | 発達障害及び強迫性障害 | 2-P11-1~2-P11-5 |
| | 14:15~15:00 | 一般演題(ポスター)12 | 妊娠および児童思春期関連 | 2-P12-1~2-P12-5 |
| | | 一般演題(ポスター)13 | コロナ感染症関連及びストレス関連 | 2-P13-1~2-P13-5 |
| | | 一般演題(ポスター)14 | 気分(感情)障害(2) | 2-P14-1~2-P14-5 |
| | | 一般演題(ポスター)15 | 精神保健福祉 | 2-P15-1~2-P15-5 |
| | 15:30~16:10 | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)5 | 緩和ケア・器質性精神疾患 | 2-KP5-1~2-KP5-5 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)6 | ストレス・神経症等 | 2-KP6-1~2-KP6-5 |
| | 16:30~17:30 | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)7 | 精神疾患のバイオマーカー等 | 2-KP7-1~2-KP7-5 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)8 | 双極性障害及び緊張病 | 2-KP8-1~2-KP8-5 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)9 | 統合失調症等(3) | 2-KP9-1~2-KP9-4 |

| | | | | |
|----------------|-------------|--------------------------|-------------------------|-------------------|
| 24 日 (三) | 8:30~9:20 | 一般演題(ポスター)16 | 児童思春期関連 | 3-P16-1~3-P16-5 |
| | | 一般演題(ポスター)17 | 心理社会産業精神医学 | 3-P17-1~3-P17-5 |
| | | 一般演題(ポスター)18 | コンサルテーションリエゾン・睡眠障害(2) | 3-P18-1~3-P18-6 |
| | | 一般演題(ポスター)19 | 器質性精神疾患及びてんかん | 3-P19-1~3-P19-5 |
| | 9:30~10:20 | 一般演題(ポスター)20 | 統合失調症(2) | 3-P20-1~3-P20-5 |
| | | 一般演題(ポスター)21 | ECT・TMS・ニューロモデュレーション | 3-P21-1~3-P21-6 |
| | | 一般演題(ポスター)22 | 神経症・気分障害・コロナ感染症関連 | 3-P22-1~3-P22-5 |
| | | 一般演題(ポスター)23 | 海外 | 3-P23-1~3-P23-6 |
| | 10:45~11:40 | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)10 | 発達障害・気分障害・コンサルテーションリエゾン | 3-KP10-1~3-KP10-6 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)11 | リエゾンコンサルテーション等 | 3-KP11-1~3-KP11-4 |
| | 11:45~12:30 | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)12 | 高齢者・認知症等 | 3-KP12-1~3-KP12-5 |
| | | 専攻医・初期研修医・学部学生演題(ポスター)13 | その他 | 3-KP13-1~3-KP13-6 |

参加者の皆様へ

1. 開催形態

現時点では開催形式を以下のように想定しております。

なお、開催形態の概要は下表のとおりです。

また、オンデマンド配信の視聴は会員および初期臨床研修医・医学生のみとなり非会員はご利用できませんので、あらかじめご了承ください。

| セッションカテゴリー | 現地参加 | オンデマンド配信 (非会員は視聴対象外) | |
|----------------------------|------|-------------------------|-----------------|
| 会長講演 | ○ | ○ | |
| 特別講演 | | | |
| 教育講演 | | | |
| 先達に聴く | | | |
| 受賞報告会 | | | |
| 会長企画シンポジウム | | | |
| 委員会シンポジウム | | | |
| シンポジウム | | | |
| ワークショップ | | | × ^{*1} |
| Fellowship Award Symposium | | | ○ |
| 地方会優秀演題セッション | | | ○ |
| 関連学会優秀演題ポスター | | | ○ |
| 一般演題(口演・ポスター) | | | ○ ^{*2} |
| オンデマンド配信限定セッション | × | ○ | |

※1：一部のワークショップではオンデマンド配信を実施いたします。詳細は日程表(P10～P18)をご確認ください。

※2：ポスター発表は、PDFの閲覧となります。現地会場では、口演・ポスター発表を聴講できます。

【Web(オンデマンド)配信について】

オンデマンド配信期間(予定)：7月10日(月)～10月10日(火)

- ・配信対象セッションであっても、演者の同意が得られない場合、またその他事情により対象外となる場合もございます。詳細は、日程表(P10～P18)および総会ホームページのプログラムをご確認ください。
- ・ご利用に際して、Wi-Fi、携帯電話回線などのインターネット環境が必要になります。



2. 参加受付

会員および初期臨床研修医・医学部生は、参加登録により現地参加・会期後オンデマンド配信のいずれもご参加いただけます。非会員はオンデマンド配信の視聴はできません。参加登録は、原則オンライン登録となります。現地会場での混雑緩和のため、あらかじめ参加登録をお済ませのうえ、ご来場ください。

(オンライン登録はクレジットカード決済となります。)

当日登録は会期中、事後登録は6月28日(水)よりオンデマンド配信期間終了まで受付いたします。

※ご利用いただけるクレジットカード：



| 登録区分 | 課税区分 | 事前登録 | 当日登録 | 事後登録 | オンデマンド 配信視聴 |
|---|------|--------------|-----------|---------------------|----------------|
| | | 6月15日 正午迄 | 6月19日～24日 | 6月28日～10月10日 正午迄 | |
| 会員 | 不課税 | 18,000 円 | 19,000 円 | 19,000 円 | ○ |
| 非会員 | 課税 | 21,000 円 | 21,000 円 | — | × |
| 初期臨床研修医 (= 前期研修医) 医学生(大学院生を除く) ^{※1※2} | | 2,000 円 | 2,000 円 | 2,000 円 | ○ |
| ユーザー(当事者)とご家族 ^{※3} | | — | 1,000 円 | — | × |
| 海外 | | — | 9,000 円 | — | × |

※1 会期当日(2023年6月22日～24日)の時点で、初期臨床研修医(=前期研修医)であることが条件となります。

※2 一般演題を応募いただいた学生、初期臨床研修医(演題応募時)は参加費が無料となります。

※3 ユーザー(当事者)の方は、原則、精神障害者手帳、または、療育手帳を総合案内でご提示ください。なお「ご家族のみ」でのご参加は、原則受け付けておりません。何卒ご了承ください。

(1) 事前登録がお済みの方

ネームカードは、参加登録システムのマイページより各自でダウンロード・印刷・切り取りのうえ当日忘れずにご持参ください。

現地会場での印刷はできかねますのでご注意ください。

(2) 当日受付の方

当日受付の場合も、あらかじめオンラインにて参加登録をお済ませのうえご来場ください。参加登録がお済みでない場合は会場のPC端末にお並びいただき(もしくはご自身のスマートフォン等で)参加登録いただく必要がありますため、当日受付の混雑緩和にご協力をお願いいたします。

(3) 抄録集販売

事前登録時もしくは当日総合案内にて販売しておりますので、ご希望の方はお買い求めください。

1部 3,500円(課税・税込・送料込)

事前登録期間に購入された方には、現地会期終了後の6月下旬頃に発送いたします。なお、事前登録期間に購入された方で現地にてご入用の場合は、会期中に事前参加登録問合せデスク(パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4)にお越しいただければ、その場

でお渡しいたします。現地にてお受け取りいただいた方でも送料は返金いたしませんのであらかじめご了承ください。

また、6月28日(水)以降に参加登録システムにて購入された方には、ご購入から2週間前後にて発送いたします。なお、販売数には限りがあり、当日・事後登録期間には購入できない場合もございますので、ご希望の場合はお早めにお買い求めください。

3. お弁当販売

1,550円(お茶付・税込)でお弁当を事前販売いたします。お弁当の購入は、事前登録期間のみとなり、当日販売はございませんのでご注意ください。

お弁当の受渡しは、下記の通り行います。

※必ず参加登録システムのマイページよりお弁当引換券をダウンロード・印刷して、当日お持ちください。お弁当引換券と引き換えに、お弁当をお渡しします。なお会場内でのお弁当引換券の再発行はいたしかねます。予めご了承ください。

・日 時：6月22日(木)～24日(土) 11：00～14：00

・場 所：パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4

※お弁当は、休憩コーナー(ノース 1F G1～G4内/ノース 3F G311)にて、お召し上がりください。食後は所定の場所に廃棄ください。

※黙食のご協力をお願いいたします。

4. 代議員総会について

代議員の皆様におかれましては、万障お繰り合わせのうえご出席賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

・日 時：6月21日(水) 13：00～18：00

・会 場：B会場(パシフィコ横浜ノース 1F G5)

※資料は事前送付いたしますので当日ご持参ください。会場での配布はありませんのでご了承ください。

5. 会員報告会

下記日時で「会員報告会」を開催いたしますので、万障お繰り合わせのうえご出席賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

・日 時：6月24日(土) 15：30～16：30

・会 場：E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

【当日資料について】

(1) 学会ホームページ(<https://www.jspn.or.jp/>)の会員専用ページ内に6月上旬に掲載いたしますので、ご覧いただきますようお願い申し上げます。

(2) 当日、会員報告会に出席される会員の先生で、紙媒体の資料がご入用の方は、ご自身で印刷のうえご持参ください。

(3) 会員専用ページのログインID、パスワードがご不明な場合は、下記URLをご覧ください。

https://www.jspn.or.jp/modules/about/index.php?content_id=27



- (4) 会員専用ページにログインできない等の理由で、紙媒体の資料をご入用な方は、学会事務局 (info@jpsn.or.jp) までご連絡ください。

6. 日本医師会認定産業医制度産業医学研修会の受講について (現地参加のみ対象)

本学術総会の以下のセッションは、日本医師会認定産業医制度による単位(以下、日医認定産業医単位)が認定されております。(取得できるのは、生涯(専門)研修単位のみです。)

ただし、単位取得には以下の制約があります。

- (1) 単位取得を希望される方は、「完全事前申込制」です。
当日のお申込みは受付けておりません。
- (2) 単位取得の申請は、日本医師会認定産業医有資格者に限ります。
- (3) 単位取得をご希望の場合、必ず本学術総会ホームページ (<https://www.jpsn119.org/>) より、事前にお申込みください。
- (4) 学術総会への事前参加登録も必要となります。
- (5) オンデマンド配信は日医認定産業医単位取得の対象外です。必ず現地会場にて受講してください。
- (6) 聴講のみご希望の方は、「日医認定産業医単位」の取得の事前申込は不要です。
- (7) 当日の会場座席は「日医認定産業医単位」の取得に事前申込された方を優先に着席いただきます。

(8) 申込期間：2023年5月10日(水) 10:00～6月5日(月) 23:59

※申込締切より前でも、各セッション定員に達した時点で受付終了となります。
(先着順)

ただし定員セッションでキャンセルが発生すると自動的に受付が再開されます。
詳しくは学術総会ホームページをご参照ください。

(9) 「日医認定産業医単位」の取得対象セッション：

6月22日(木) 10:45～12:45 (2単位) [定員：1,200名]

A会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8

シンポジウム8：気分障害の睡眠up-to-date -病態理解から診断・治療法開発へ-

6月22日(木) 16:45～18:45 (2単位) [定員：1,200名]

A会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8

シンポジウム36：課題解決型高度医療人材養成(精神領域)のこれから
—産業保健との関連から—

6月23日(金) 8:30～10:30 (2単位) [定員：1,200名]

A会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8

シンポジウム37：主治医産業医が「両立支援と職域の安全配慮・合理的配慮義務」
を重視しながら取り組む就労支援をめぐる

6月23日(金) 15:30～17:30 (2単位) [定員：1,200名]

A会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8

委員会シンポジウム26：気分障害患者における復職促進および判断基準の均てん化に向けて(産業保健に関する委員会)

6月24日(土) 10:45～11:45 (1単位) [定員:1,200名]

A会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8

教育講演8: 健康経営とメンタルヘルス

～新たな健康の価値とこれからの健康づくり～

6月24日(土) 12:00～13:00 (1単位) [定員:1,200名]

A会場 パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8

教育講演9: 最近の自殺問題の推移と自殺予防医療の確立

※今後の感染状況次第で会場使用人数に制限が課される場合には定員より少なめに申込を締め切りとする場合、お申込み順が後方の方より受付の取り消しをご案内させていただきます。ご了承ください。

7. 映画上映について

会期中以下の時間帯にて映画を上映予定です。

- ・日 時: 6月22日(木) 13:15～15:15 / 15:30～17:30 (1日2回上映)
- ・会 場: パシフィコ横浜ノース3F G320
- ・上映タイトル: 「梅切らぬバカ」(2021年)

母親と自閉症を抱える息子が、社会の中で生きていく様子を温かく誠実に描く人間ドラマ。

★第14回 東京新聞映画賞

★第39回 日本映画復興奨励賞

★第46回 日本カトリック映画賞

★2021年度 無煙映画大賞 作品賞

本上映はセンサリーフレンドリー上映にて実施いたします。映画の視聴には本学術総会への参加登録が必要です。是非会場にお越しください。

8. プログラム検索&スケジュール登録システム「Confit」について

本学術総会では、演題検索やスケジュール登録ができるConfitサービスをご利用いただけます。聴講したいセッションや演題を検索し、ご自分のスケジュールとして登録することで、学会期間中のオリジナル予定表が作成できます。

詳しい使用法は、本学術総会ホームページ (<http://www.c-linkage.co.jp/jspn119>) に掲載いたします。是非ご利用ください。

・公開日: 2023年6月中旬(予定)

・利用環境: ご利用に際して、Wi-Fi、携帯電話回線などインターネット接続が必要になります。

(会場内では、パシフィコ横浜ノースの無料Wi-Fiをご利用いただけますが通信の集中により接続できないこともありますので予めご了承ください。)

SSID: FREE-PACIFICO-NORTH パスワード: 無し



●アプリ版

アプリ名：第119回日本精神神経学会学術総会(JSPN119)

・対応機種：iPad、iPhone、Android

ダウンロード方法：App Store、Google Playより「jspn119」で検索し、「第119回日本精神神経学会学術総会(JSPN 119)」をダウンロードしてください(無料)。

●Web版

第119回日本精神神経学会学術総会のホームページ(<https://www.c-linkage.co.jp/jspn119>)をご覧ください。

●抄録閲覧パスワード(アプリ・Web版共通)

日本精神神経学会ホームページの会員専用ページおよびメールマガジンにてお知らせいたします。非会員の方は閲覧できません。予めご了承ください。

9. 託児所のご案内

2023年6月22日(木)～24日(土)の学会期中、託児サービスを実施します。

利用をご希望の方は、総会HP(<https://www.c-linkage.co.jp/jspn119>)よりお申込みください。

10. UDトークのご案内

日程表上で㊦日英字幕ありのマークがついているセッションでは、「UDトーク」による字幕(日本語または英語)の投影を実施いたします。

音声認識の精度により、一部誤訳が生じる可能性がございます。

アプリの特性上あらかじめご理解いただき、ご聴講の一助として是非お役立てください。

精神科専攻医の学術総会参加記録について

学術総会参加の記録には「会員カード」(裏面にバーコードが印刷されているブルーとシルバーのカード)が必要ですので、お忘れないようご持参ください。

1. 総会参加記録の受付場所

専門医単位受付(パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4 参加受付付近、2F フォワイエ)にて専攻医の総会参加記録も受付します。現地参加の方は、総会参加記録の受付を必ず行ってください。専門医単位とは異なり、会期中1回の登録で構いません。

※複数回登録しても問題ありません。

2. 総会参加記録の受付時間

専門医単位の受付時間に準じます。

3. オンデマンド配信での総会参加記録について

オンデマンド配信の視聴履歴をもとに日本精神神経学会事務局が登録します。

4. 研修実績管理システムへの反映について

現地およびオンデマンド配信での参加記録をもとに、日本精神神経学会事務局が一括で反映させます。専攻医の先生ご自身での登録は不要です。

【お問い合わせ】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局

E-mail : s_kenshoo@jspn.or.jp



精神科専門医資格の更新に必要な単位について

専門医単位の取得には「会員カード」（裏面にバーコードが印刷されているブルーとシルバーのカード）が必要ですので、お忘れなようご持参ください。

なお、2022年度以降の更新では、原則として日本専門医機構認定専門医として更新いただくこととなります。

1. 専門医単位受付場所

下記いずれかで、毎日「入場時」「退場時」両方のチェック受付を必ず行ってください。入場時と退場時で異なる受付場所をご利用いただいても問題ありません。

- ・パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4参加受付付近、2F フォワイエ

2. 専門医入退場受付時間

各日7：30より開始し、退場のチェック受付は各日プログラム終了20分後までといたします。

下記の単位付与対象時間とは異なりますのでご注意ください。

<単位付与対象時間> ※会員報告会、開会式、閉会式等については単位付与対象外です。

1日目：8：30～18：45

2日目：8：30～17：45

3日目：8：30～15：15

3. 取得単位について

日本専門医機構認定専門医 更新単位

1時間につき1単位、1～2日目各日最大7単位・3日目のみ最大6単位、1総会の上限20単位となります。

単位種別では iii) 精神科領域講習の項目に該当します。

<取得例>

1日目 9時入場、16時半退場→7単位（7時間半滞在のため、7単位）

2日目 9時入場、17時退場→7単位（8時間滞在だが、2日目の上限7単位のため）

合計 14 単位

※滞在時間に応じて、単位付与されます。

【留意事項】

- ・入場もしくは退場のどちらかしか記録が無い場合は、1時間分のみの単位付与となります。単位の事後申告は認めておりませんので、各日の「入場時」「退場時」両方のチェック受付をお忘れなようご注意ください。
- ・受講したセッションは巻末の記録表へ、マーカー等により印をつけ、ご自身で記録してください。専門医更新審査時に受講セッションについて問い合わせさせていただく可能性がございますので、次回更新時まで必ず保管してください。

4. 現地およびオンデマンド配信における単位の取り扱いについて

オンデマンド配信についても視聴1時間につき1単位が付与されます。

【オンデマンド配信】1日の取得上限なし

※下記期間を通して単位取得上限は20単位(例年通り)

| 日程 | 開催形態 | 単位付与日 |
|--------------------|----------|--------|
| 6月22日(木)～6月24日(土) | 現地 | 7月20日 |
| 7月10日(月)～7月31日(月) | オンデマンド配信 | 8月20日 |
| 8月1日(火)～8月31日(木) | | 9月20日 |
| 9月1日(金)～9月30日(土) | | 10月20日 |
| 10月1日(日)～10月10日(火) | | 11月20日 |

取得例

- ① 6月24日(最終日)に現地で6時間参加 7月20日 6単位付与
- ② 7月10日(月)～7月末にオンデマンド配信で8時間視聴 8月20日 8単位付与
- ③ 8月にオンデマンド配信で7時間視聴 9月20日 7単位付与

⇒現地参加+オンデマンド配信で上限20単位の付与

(上記①～③全てを実施いただいた場合、合計は21単位となりますが、取得上限20単位が更新単位に充足されます)

【専門医制度単位取得についてのお問い合わせ】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局

E-mail : senmonkoushin@jspn.or.jp



司会および演者・発表者の皆様へ

1. 司会の皆様へ

口演の司会の方は、セッション開始10分前までに各会場内の次座長席にご着席ください。

2. 演者・発表者の皆様へ

A. セッション・発表時間について

時間は以下の通りです。

| セッション分類 | セッション時間 | 発表形式 | 発表・討論時間 |
|----------------------------|-----------------|------|-----------------------------------|
| 会長講演 | 60分 | 口演 | 質疑応答の時間を含む60分 |
| 特別講演 | | | |
| 教育講演 | | | |
| 先達に聴く | 120分 | | 各セッションにより異なります。 司会の指示に従ってください。 |
| 会長企画シンポジウム | | | |
| 委員会シンポジウム | | | |
| シンポジウム | | | |
| Fellowship Award Symposium | 100分 一部160分 | | 発表時間8分・質疑応答4分 |
| ワークショップ | | | |
| 地方会優秀演題セッション | 60分 (演題数による) | | ポスター |
| 関連学会優秀演題ポスター | | 口演 | 発表時間8分・質疑応答4分 |
| 一般演題(口演) | | ポスター | 発表時間5分・質疑応答3分 |
| 一般演題(ポスター) | | | |

B. 倫理的配慮及び COI(利益相反)について

ご発表の際には、倫理的配慮及び COI(利益相反)に関して明記いただきますよう、お願いいたします。COI に関するご案内は、日本精神神経学会ホームページ (http://www.jspn.or.jp/modules/about/index.php?content_id=22)にてご確認ください。尚、発表の際の明記方法につきましては、以下をご参照ください。

様式2 講演等での COI 開示例
(開示情報がある場合)

**日本精神神経学会
利益相反 (COI) 開示
筆頭発表者名： ○○ ○○**

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業など：

- ・ 受託研究・共同研究費：○○製薬
- ・ 奨学寄附金 ○○製薬
- ・ 寄附金講座所属： あり(○○製薬)

※この形式はサンプルなので、必要な情報が開示されれば、形式は自由です。

様式2 講演等での COI 開示例
(開示情報がない場合)

**日本精神神経学会
利益相反 (COI) 開示
筆頭発表者名： ○○ ○○**

演題発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。

※この形式はサンプルなので、必要な情報が開示されれば、形式は自由です。

C. 口演発表方法について

口演の発表方法は「PC プレゼンテーション」のみとなります。メディアまたはご自身のPCをご持参ください。

発表時には、ご発表データの1枚目をスライドショー状態でスクリーンに映写いたしますので、ご自身で演台上のマウス・キーボードを使って操作を行ってください。

<PC受付(演者受付)について>

| PC受付場所 | 受付時間 | | |
|-------------------|------------|------------|------------|
| | 6月22日(木) | 6月23日(金) | 6月24日(土) |
| パシフィコ横浜ノース 2F ロビー | 7:30～17:00 | 7:30～16:00 | 7:30～15:00 |

※演者の方はセッション開始の1時間前まで(朝一番のセッションの場合は40分前まで)にPC受付にて試写を行い、発表データをご提出ください。

※試写終了後は、セッション開始の20分前までに各会場内の次演者席にご着席ください。

※2日目、3日目の演者の方は、できる限り前日までにお越しください。

<メディアをご持参の場合>

- 事務局でご用意するPCは下記の通りです。

OS：Windows 10

アプリケーション：Windows版 PowerPoint 2019

- 発表データは、USB フラッシュメモリーでご持参ください。
(CD-R、CD-RW、MO、フロッピーディスク、その他のメディアは受け付けられませんのでご注意ください。)
- 使用するフォントについては標準で搭載されているフォント(MS・MSP明朝、MS・MSPゴシック、メイリオ、MeiryoUI、Arial、TimesNewRoman、Century 等)を使用してください。
- Macintoshで作成されたデータをメディアでお持込の場合は、Windowsで対応できるよう事前にご調整ください。
- データ内に動画(PowerPointのアニメーション機能は除く)が含まれている場合は、ご自身のPCをご持参ください。音声がある場合は、PC受付の際にお申し出ください。
- お預かりした発表データは、学術総会終了後に事務局にて責任を持って消去いたします。
- 発表者ツールは、使用できません。

<ご自身のPCを使用される場合>

- Windows、Macintoshとも受付可能です。
- 発表中またはその準備中にバッテリー切れとなることがありますので、電源アダプターは必ずご持参ください。
- パソコンに映像出力端子 HDMIまたは D-sub15ピンがあることをご確認ください。Macintoshや一部のノートパソコンでは本体にHDMIまたは D-sub15ピンが装備されていないため、外部出力コネクタを必ずお持ちください。(メーカー純正品を推奨いたします。) USBtype-Cのみ装備のパソコンも変換コネ



D-sub15 ピン



HDMI

クターをお持ちください。

- ・発表中にスクリーンセーバー・ウイルス対策ソフト等が作動したり、省電力機能で画面が見えなくなったり、電源が切れてしまわないよう、設定をご確認ください。
- ・プロジェクターの解像度は、Full-HD (1920×1080) になります。このサイズと異なる場合は画面が小さくなるなど正常に表示されないことがあります。
- ・データ内に動画 (PowerPoint のアニメーションは除く) がある場合、PCによっては外部出力に動画が映らない可能性がありますので、動画の使用はご注意ください。音声がある場合は、PC 受付の際にお申し出ください。
- ・念のため、発表データのバックアップを USB フラッシュメモリーでご持参ください。
- ・PC受付で試写が終わりましたら、ご発表の20分前までにご自身でPC本体を会場内へ運んでいただき、会場内におりますオペレーターにお渡しください。セッション終了後ご自身でお引取りをお願いします。

D. ポスター発表方法について

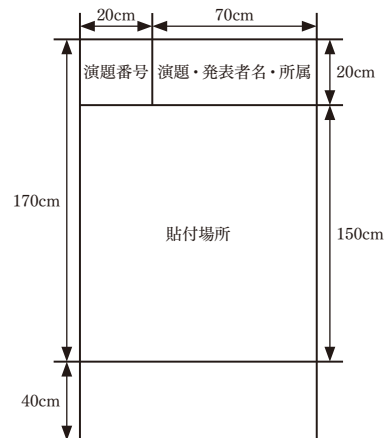
(1) ポスターの掲示・撤去時間

下記時間帯にポスター会場所定のパネルに掲示・撤去してください。

| | |
|--------|---|
| ポスター掲示 | 6月22日(木) 7:30~10:00 |
| ポスター閲覧 | 6月22日(木) 10:00~11:45 6月23日(金) 8:30~10:45 |
| ポスター撤去 | 6月24日(土) 12:45~14:00 |

(2) ポスターの展示方法(右図参照)

- ・会場には、高さ 210cm、幅 90cm のポスターパネルを用意します。ポスターの貼付寸法は、高さ 150cm × 幅 90cm です。※こちらのサイズを目途に作成してください。
- ・演題番号 (20cm × 20cm) は事務局で準備しますが、演題名・発表者名・所属の表示 (20cm × 70cm) は、各自ご準備ください。
- ・演者用リボンと画鋏はポスターパネルにご用意しております。
- ・発表資料は各自お持ちください。
- ・終了後にポスターボードに残っているポスターは、事務局にて廃棄します。
- ・ポスター最下部に倫理的配慮およびCOI (利益相反) に関する開示を記載してください。



(3) 一般演題ポスター発表の先生方へ

発表者は、セッション開始 10分前までにご発表のポスター前で待機してください。持ち時間は発表 5分/討論(質疑応答)3分の計 8分です。進行は司会に従ってください。

(4) 一般演題ポスター座長の先生方へ

ご担当セッションの開始 30分前までにポスター会場内のポスター座長受付にて座長用リボンを受け取り、セッション開始 10分前までにご担当ポスター前へ移動してください。定刻になりましたら各自セッションを開始してください。発表時間を厳守いただき、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

3. 一般演題における開催形式について

一般演題は通常通り**現地会場での口演／ポスター発表**となります。しかしながら、オンデマンド配信のために、一般演題(ポスター)の発表者には発表データ(PDF)の事前提出をお願いしております。

| | 会期中 6/22(木)～24(土) | オンデマンド配信 ※7/10(月)～10/10(火)予定 |
|------------------|--|--|
| 一般演題 (口演) | <ul style="list-style-type: none"> やむを得ない事情で現地会場で発表できない場合は、共著者等に代理の発表を各自で依頼の上、運営事務局までご連絡ください。 | <ul style="list-style-type: none"> 現地会場でのご講演を収録し配信いたします。 |
| 一般演題 (ポスター発表) | <ul style="list-style-type: none"> 現地会場に通常通りポスターを掲示し発表してください。所定の日時に座長進行による発表があります。 やむを得ない事情で現地会場で発表できない場合は、共著者等に代理のポスター掲示・発表を各自で依頼の上、運営事務局までご連絡ください。 | <ul style="list-style-type: none"> オンデマンド配信用として、事前にポスターデータをPDFにて提出いただきます。 様式はポスター会場に掲示する縦型1枚物にてPDF形式で提出いただきます。閲覧をスムーズにするためにファイルを圧縮させていただく場合があります。 提出締切：6/15(木)予定 提出方法は後日ご案内いたします。 |

4. オンデマンド配信に関する注意事項

【オンデマンド配信について】

- ・会期終了 2週間後から、約3ヶ月、オンデマンドにより配信予定です。
- ・オンデマンド配信は、当学術総会に参加登録した方のうち、会員および初期臨床研修医・医学部生、その他非会員演者等が視聴可能です。(一般の非会員については、現地会場でのご参加は可能ですが、オンデマンド配信は対象外となります)
- ・現地開催時と同様に、以下のガイドラインに従ってプライバシー保護を遵守してください。
 - 倫理審査が必要な『研究として扱う症例報告』についてのガイドライン
 - 症例報告を含む医学論文及び学会発表におけるプライバシー保護に関するガイドライン
 - 症例報告を含む医学論文及び学会発表におけるプライバシー保護に関するガイドライン Q&A
- ・講演内容は、上記以外にも個人情報保護、プライバシー等に十分に配慮してください。
- ・COI(利益相反)に関しても明記をお願いいたします。
- ・一般演題(ポスター発表)についてはご提出いただいたデータをそのまま、指定演題に



については当日ご講演の内容をそのまま配信予定ですので、ご自身の責任において上記遵守いただき、確認のうえ発表データを作成ください。

- ・オンデマンド配信にあたり、現地での開催とは情報リスクの状況が異なることに十分配慮してください。上記の内容が守られない、あるいは、社会通念を逸脱する内容が発表・公開された結果生じた各種トラブルにおいては、演者ご自身にてご対応くださいますようお願いいたします。

発表に関する各種問合せ先

第119回日本精神神経学会学術総会 運営事務局

株式会社コンベンションリンクージ内

E-mail : jspn119@c-linkage.co.jp

日本精神神経学会関連各賞

精神医学奨励賞

受賞者 塩飽 裕紀 (東京医科歯科大学大学院 精神行動医科学分野)
 <司会> 田口 寿子 (神奈川県立精神医療センター)
 福田 正人 (群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学)

フォリア賞

受賞者1 竹内 秀暁 (京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学、
 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学)
 受賞者2 河上 緒 (順天堂大学医学部大学院精神医学講座)
 <司会> 加藤 忠史 (順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学/
 医学部精神医学講座)

PCN Reports 最優秀論文賞

受賞者 石川 和宏 (医療法人社団八峰会 池田病院)
 <司会> 木下 利彦 (関西医科大学精神神経科)
 鈴木 道雄 (富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座)

国際学会発表賞

・個人発表部門

受賞者1 水井 亮 (奈良県立医科大学 精神医学講座)
 受賞者2 越山 太輔 (東京大学大学院 医学系研究科精神医学分野)
 <司会> 高橋 英彦 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 精神行動医科学)

若手国際シンポジウム発表賞

受賞者1 宮崎 秀仁 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)
 受賞者2 河岸 嶺将 (千葉県精神科医療センター)
 受賞者3 星野 瑞生 (東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野)
 受賞者4 高松 直岐 (国立精神・神経医療研究センター 認知行動療法センター、
 東京大学医学部附属病院 精神神経科)
 <司会> 高橋 英彦 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 精神行動医科学)



PCN Reviewer Awards

- | | | |
|-------|-------|--------------------------------------|
| 受賞者1 | 大井 一高 | (岐阜大学大学院医学系研究科 精神医学) |
| 受賞者2 | 奥村 泰之 | (一般社団法人 臨床疫学研究推進機構) |
| 受賞者3 | 加藤 隆弘 | (九州大学 大学院医学研究院 精神病態医学) |
| 受賞者4 | 金原 信久 | (千葉大学社会精神保健教育研究センター) |
| 受賞者5 | 岸 太郎 | (藤田医科大学 精神神経科) |
| 受賞者6 | 品川俊一郎 | (東京慈恵会医科大学附属病院 精神神経科) |
| 受賞者7 | 高木 学 | (岡山大学学術研究院 医歯薬学域 精神神経病態学教室) |
| 受賞者8 | 根本 清貴 | (筑波大学 医学医療系臨床医学域精神医学) |
| 受賞者9 | 堀 輝 | (福岡大学 医学部精神医学教室) |
| 受賞者10 | 本田 貴紀 | (九州大学大学院医学研究院 附属総合コホートセンター) |
| 受賞者11 | 毛利 彰宏 | (藤田医科大学 大学院保健学研究科 レギュラトリーサイエンス部門) |
| 受賞者12 | 渡部雄一郎 | (新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野) |
| <司会> | 加藤 忠史 | (順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学/ 医学部精神医学講座) |
| | 高橋 英彦 | (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学) |

PCN Reports Best Reviewer Awards

- | | | |
|------|-------|-------------------------|
| 受賞者1 | 伊賀 淳一 | (愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座) |
| 受賞者2 | 堀 輝 | (福岡大学医学部精神医学教室) |
| <司会> | 木下 利彦 | (関西医科大学精神神経科) |
| | 鈴木 道雄 | (富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座) |

PCN Reports Reviewer Awards

- | | | |
|------|-------|------------------------|
| 受賞者1 | 小林 良太 | (山形大学医学部精神医学講座) |
| 受賞者2 | 館農 勝 | (特定医療法人さっぽろ悠心の郷 ときわ病院) |
| 受賞者3 | 新村 秀人 | (大正大学社会心理学部) |
| <司会> | 木下 利彦 | (関西医科大学精神神経科) |
| | 鈴木 道雄 | (富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座) |

●授賞式

日 時：2023年6月23日(金) 11:00~12:50

会 場：A会場(パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8)

Fellowship Award

| | |
|--|---|
| Ananya Mahapatra | Dr. Baba Saheb Ambedkar Hospital and Medical College, New Delhi, India |
| Chanatip Tongyongk Ekachaeryanti Zain | Prasrimahabhodi Psychiatric Hospital, Thailand Psychiatry Department, Faculty of Medicine, Mulawarman University, Indonesia |
| Fredrik Wikstrom | Karolinska Institute, Stockholm, Sweden |
| Gniewko Wieckiewicz | Department of Psychiatry in Tarnowskie Gory, Medical University of Silesia, Poland |
| Joanna Smolarczyk | Medical University of Silesia, Poland |
| Marianna Tumova | V.M.Bekhterev National medical research center for psychiatry and neurology, Russia |
| Raman Marwaha | Psychiatry, Case Western Reserve University MetroHealth System, USA |
| Venus Vatankhah | Psychosomatic Medicine Research Center, Tehran University of Medical Sciences, Iran |
| Wei-Chen Huang | Tsaotun Psychiatric Center, Ministry of Health and Welfare, Taiwan |
| Yasin Hasan Balcioglu | Bakirkoy Prof. Mazhar Osman Training and Research Hospital for Psychiatry, Neurology and Neurosurgery, Turkey |
| Yesiru Kareem | Department of Mental Health, Federal Neuropsychiatric Hospital, Maiduguri., Nigeria |
| <司会> 高橋 英彦 | 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 精神行動医科学 |

●授賞式

日 時：2023年6月23日(金) 18：30～20：00(懇親会)

会 場：ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル 3F パシフィック

※17:30より3F ベイビューを待機場として開放しておりますので是非ご利用
ください。



日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞

日本精神神経学会学術総会 優秀発表賞は、学術総会時にすぐれた演題を若干数選考し、授与する賞とする。

●発表

日時：2023年6月24日(土) 8:00頃

会場：会員連絡板(パシフィコ横浜ノース 1F フォワイエ)に受賞者名簿を掲示する。

●表彰式

日時：2023年6月24日(土) 15:30~16:30

会場：E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

※選考の結果、本賞を受賞された演者の方はぜひ表彰式にご出席ください。

精神科専門医研修中・初期臨床研修中の医師、学部学生による演題部門

研修中の医師および学部学生による演題発表の場を設けるため、例外的に本学会の会員でなくても、以下条件のもと本学術総会の演題への応募を可能としております。

- ・演題応募時において精神科専門医研修中・初期臨床研修中の医師、もしくは学部学生
- ・日本精神神経学会の会員である施設の精神科研修責任者ないし指導医の医師が共同著者であること
- ・筆頭著者が共同著者を登録する際は、共同著者に発表についての承諾および当学会の倫理規定等を遵守することの確認承諾を得ること

精神神経学雑誌投稿奨励賞(学術総会部門)

精神神経学雑誌投稿奨励賞は、学術総会の一般演題の中から優秀な発表を顕彰し、精神神経学雑誌への投稿を促し、精神医学の発展に寄与することを目的とする。

●応募条件

- ・応募者は、本学会学術総会の一般演題の筆頭著者とする。
- ・応募は、発表内容を論文化し、精神神経学雑誌へ投稿することを前提とする。

●発表

日時：2023年6月24日(土) 8:00頃

会場：会員連絡板(パシフィコ横浜ノース 1F フォワイエ)に受賞者名簿を掲示する。

●表彰式

日時：2023年6月24日(土) 15:30~16:30

会場：E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

※選考の結果、本賞を受賞された演者の方はぜひ表彰式にご出席ください。

第119回日本精神神経学会学術総会 同時開催 日本精神神経学会主催 講習会・研修会について

1. 第30回指導医講習会

本講習会は事前の参加登録が必須となっております。会場での当日受付はいたしません。

- ・日 時：2023年6月24日(土)15：30～19：10 ※15：00 受付開始
 - ・会 場：B会場（パシフィコ横浜ノース 1F G5） ※LIVE配信あり
- ※総会とは別に精神科専門医資格の更新単位3単位を取得することができます。（精神科領域講習）
- ※会場、LIVE配信のいずれも、それぞれ事前登録をいただいた指導医資格保持者あるいは、2018年4月1日以降に精神科専門研修を開始された方で専門医資格を取得された方のみ参加できます。
- ※会場でご参加の方は「会員カード」を忘れずにご持参ください。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局
E-mail：jimu-shidou@jspn.or.jp

2. 第17回生涯教育研修会

本研修会は事前の参加登録が必須となっております。会場での当日受付はいたしません。

- ・日 時：2023年6月24日(土) 15：30～18：40 ※15：00 受付開始
 - ・会 場：A会場（パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8）
 - ・講演内容・講師：
 - 演題1「うつ病や不安症はなぜ女性に多いか」(精神科領域講習1単位)
松島 英介(東京医科歯科大学)
 - 演題2「精神科医療におけるより良い信頼構築：当事者が大切にしたいこと、名伴走者としての精神科医」(精神科領域講習1単位)
秋山 剛(NTT東日本関東病院)、山田 悠平(精神障害当事者会ポルケ)
 - 演題3「行動制限に関する判例からみたルールの在り方～医療と司法の相互理解に向けて～」(共通講習(必修)医療安全1単位)
大磯 義一郎(浜松医科大学)
 - ・司会：佐久間 啓(生涯教育委員会)、篠崎 和弘(生涯教育委員会)、
梶屋 二郎(生涯教育委員会)
- ※「会員カード」を忘れずにご持参ください。
- ※日本精神神経学会の会員であれば事前参加登録のうえ、どなたでもご参加いただけます。

【お問い合わせ先】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局
E-mail：senmonkoushin@jspn.or.jp



世界各国の若手精神科医との国際的ネットワーク構築に向けたオンラインミーティングのご案内

日本精神神経学会では、毎年、優れた海外の若手医師12名に対してFellowship Awardを授与し、年次学術総会にて、日本の医師と共にシンポジウム(International Symposium)発表の場を設ける事業を行っています。この日本と海外の協働・協力の機会を更に発展させるべく、Fellowship Award受賞者と日本の医師・研究者との間での国際交流を促進するための会議を開催しています。これまで、この会議をきっかけにPsychiatry and Clinical Neurosciences(PCN)などを始めとして、多くの国際共同研究の成果が出版されてきました。

今年度も同様の趣旨のもと、awardeeと日本の精神科医とで研究テーマを持ち寄り、今後の国際協力事業への礎を作るためのミーティングを行います。今回も各国を代表する若手精神科医が参加します。会員の皆様から研究テーマ、国際活動を募集し、受賞者のネットワークを生かした国際活動の推進の一助となれば幸いです。

【実施企画】

Pre-meeting discussion：参加を希望するJSPN会員、award受賞者から国際活動のアイデアを募集します。日本で行ったアンケート研究を海外に広げたい、海外の精神科治療や教育がどのように行われているか知りたい、参加国の精神科医とのコネクションを作りたいなど、募集したい国際活動に関するアイデアを募集し事前にディスカッションを行い、当日の企画発案者を数名程度選出します。

6月22日(木) 9:00～10:20 Recruitment meeting

会 場：3F G320

Pre-meeting discussionで選出された企画発案者が数分ずつ研究計画を発表し質問時間を設けます。

6月23日(金) 10:45～12:00 Role-sharing meeting

会 場：3F G320

発表された国際活動ごとに話し合いを行います。参加者は興味がある国際活動のmeetingに参加します。Meetingでは企画者が、アンケートの記入、事例の募集、共同研究の立案など参加者に求める役割を再確認した後、今後のミーティングスケジュールを決めてもらうことまでを目指します。

6月24日(土) 9:30～10:00 Commitment meeting

会 場：3F G320

企画者がMeetingで話し合われた国際活動に関する今後の方針を発表します。JSPN国際会員にもオープンで視聴可能としてcommitmentの確認と今後に向けた協力関係を作ることを目指します。

主 催：日本精神神経学会 国際委員会 ※英語で行いますが、字幕などのサポートを行う予定です。

【参加資格・参加方法】

参加者：対象者は日本精神神経学会のすべての会員で、年齢、経験は問いません。参加いただくための準備などは必要ありません。お申込みの手続きはございませんので当日直接会場にお越しください。

企画発案者：対象者は日本精神神経学会のすべての会員で、年齢、経験は問いません。募集される研究テーマ、または国際的なネットワークを使ってこのような活動をしたい、という希望がある会員の方は以下の連絡先に事前に相談いただくと幸いです。企画の一部のみ参加であっても問題ございません。

Web参加をご希望の方は、以下連絡先に6月1日(木)までにご連絡ください。

【お問合せ先】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局

E-mail : jimukokusai@jspn.or.jp



市民公開講座

- ・日 時： 2023年6月24日(土) 13:15～14:30(開場13:00)
- ・会 場： J会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)
- ・テーマ： コロナ禍、そしてこれからの子どものこころ
～見えない敵との戦いかた～
- ・主旨・狙い： 2021年12月に国立成育医療研究センターが実施した「コロナ×こどもアンケート第7回調査」¹では、小学5～6年生の9～13%、中学生の13～22%に、中等度以上の抑うつ症状を認めました。また、典型的な抑うつ症状を呈しているこどもの描写を読んでもらったところ、小学5年生～中学3年生の94～95%が「助けが必要な状態である」と回答したにも関わらず、「もしあなたが同じような状態になったら誰かに相談しますか」という質問に対しては、小学5～6年生の25～29%、中学生の35～51%が「相談しないで自分で様子を見る」と回答しています。これは、自分が抑うつ状態になってしまっても周りに相談することなく自分で抱え込んでしまうことを示唆しています。
今回の市民公開講座では、見えない敵とどう向き合い戦っていくか、精神科医ならではの視点と方法をお伝えいたします。

1. <https://www.ncchd.go.jp/press/2022/20220323.html>

- ・司 会： 深見 悟郎(千葉県精神科医療センター)
- ・演 者： 佐々木 剛(千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部・精神神経科)

【事前参加申し込み方法】

学術総会ホームページ「市民公開講座」よりお申込みください。

<https://www.c-linkage.co.jp/jspn119/public.html>

※応募に関する個人情報は、本市民公開講座以外に利用いたしません。

【お申込み・お問合せ先】

第119回日本精神神経学会学術総会 運営事務局

株式会社コンベンションリンクージ内

〒102-0075 東京都千代田区三番町2

E-mail: jspn119@c-linkage.co.jp

「専門医制度報告会」開催のご案内

専門医制度部門
部門長 川崎 弘詔

日 時：6月23日(金) 15：50～17：30
会 場：M会場（パシフィコ横浜ノース 4F G411）
主 催：専門医制度常任委員会

詳細は本学総会ホームページ (<https://www.c-linkage.co.jp/jspn119>) にて更新いたしますのでご確認ください。

【聴講方法】

お申込みの手続きはございませんので、当日直接会場にお越しください。

【お問合せ先】

公益社団法人 日本精神神経学会 事務局
E-mail: jimu-jounin@jspn.or.jp



第119回日本精神神経学会学術総会 運営委員

| | |
|---------|------------------------------|
| 青木 勉 | 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院神経精神科 |
| 石毛 稔 | 社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院 |
| 磯野 友厚 | 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院神経精神科 |
| 大迫 鑑顕 | 国際医療福祉大学成田病院 |
| 小田 靖典 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学教室 |
| 女屋 光基 | 下総精神医療センター |
| ※ 桂川 修一 | 東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック |
| 鎌田 雄 | 千葉大学医学部附属病院精神神経科総合医療教育研修センター |
| 菊池 周一 | 社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院 |
| 木村 大 | 学而会木村病院 |
| 木村 敦史 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学講座 |
| 小池 香 | 成田赤十字病院精神神経科 |
| 小松 英樹 | 亀田総合病院心療内科・精神科 |
| 小松 尚也 | 医療法人同和会千葉病院 |
| 齋賀 孝久 | 成田赤十字病院精神神経科 |
| 佐々木 一 | 医療法人社団爽風会 |
| 佐藤 愛子 | 国際医療福祉大学成田病院 |
| 澁谷 孝之 | 千葉県精神科医療センター |
| 関根 博 | 木更津病院 |
| 高瀬 正幸 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学教室 |
| 高橋 純平 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 橘 真澄 | 千葉大学医学部附属病院 |
| 寺本 靖 | 茂原神経科病院 |
| 中里 道子 | 国際医療福祉大学成田病院精神科 |
| 仲田 祐介 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学教室 |
| 中根 潤 | 下総精神医療センター |
| ※ 新津 富央 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学 |
| 根本 豊實 | 磯ヶ谷病院 |
| 野々村 司 | 千葉市立青葉病院精神科 |
| 橋本 佐 | 国際医療福祉大学医学部精神医学教室 |
| 深見 悟郎 | 千葉県精神科医療センター |
| 松木 悟志 | 学而会木村病院 |
| 森山 稔弘 | 医療法人社団直樹会磯ヶ谷病院 |
| 吉田 泰介 | 木更津病院 |
| 渡邊 博幸 | 医療法人学而会木村病院 |
| 渡邊 基樹 | 藤田病院 |

(50音順)

※運営委員長

第119回日本精神神経学会学術総会 プログラム委員

| | |
|----------|--|
| 赤羽 晃寿 | 帝京大学医学部精神神経科学教室 |
| 赤穂 理絵 | 東京女子医科大学医学部精神医学講座 |
| 明智 龍男 | 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野 |
| 浅見 剛 | 横浜市立大学医学部精神医学教室 |
| 新井 哲明 | 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 |
| ○ 五十嵐 禎人 | 千葉大学社会精神保健教育センター |
| 池田 学 | 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 |
| 石田 康 | 宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野 |
| 石原 武士 | 川崎医科大学精神科学教室 |
| 市来 真彦 | 東京医科大学学生・職員健康サポートセンター |
| 伊藤 賢伸 | 順天堂大学医学部精神医学講座 |
| 稲垣 正俊 | 島根大学医学部精神医学講座 |
| 稲田 健 | 北里大学医学部精神科学 |
| 井上 幸紀 | 大阪公立大学大学院医学研究院神経精神医学 |
| 井上 猛 | 東京医科大学精神医学分野 |
| ※○ 伊豫 雅臣 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学 / 千葉大学社会精神保健教育研究センター |
| ○ 岩崎 弘一 | 千葉県精神神経科診療所協会 / いやしのメンタルクリニック 誉田 |
| 岩田 正明 | 鳥取大学医学部精神行動医学分野 |
| 岩田 仲生 | 藤田医科大学医学部精神科 |
| 岩波 明 | 昭和大学医学部精神医学講座 |
| 上野 修一 | 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座 |
| ○ 太田 克也 | 恩田第二病院 |
| 太田 豊作 | 奈良県立医科大学医学部看護学科人間発達学 |
| 大濑 俊幸 | 千葉大学総合安全衛生管理機構 |
| 大塚 耕太郎 | 岩手医科大学医学部神経精神科学講座 |
| ○ 大塚 芳克 | こころクリニック 船橋 |
| 岡田 元宏 | 三重大学大学院医学系研究科臨床医学系講座精神神経科学分野 |
| 岡田 幸之 | 東京医科歯科大学大学院精神行動医学分野 |
| 岡本 泰昌 | 広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経医科学 |
| 尾崎 紀夫 | 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・精神生物学・発達老年精神医学・親と子ども心療学・精神医療学分野 |
| 小澤 寛樹 | 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経科学教室 |
| 尾関 祐二 | 滋賀医科大学精神医学講座 |
| 小曾根 基裕 | 久留米大学医学部神経精神医学教室 |
| 笠井 清登 | 東京大学大学院医学系研究科臨床神経精神医学教室 |
| 笠貫 浩史 | 聖マリアンナ医科大学神経精神科 |
| 數井 裕光 | 高知大学医学部神経精神科学講座 |
| 片桐 直之 | 東邦大学医学部精神神経医学講座 |
| 加藤 忠史 | 順天堂大学医学部精神医学教室 |
| 金沢 徹文 | 大阪医科薬科大学神経精神医学教室 |



- 金原 信久 千葉大学社会精神保健教育研究センター
- 金子 宜之 日本大学医学部精神医学系精神医学分野
- 兼本 浩祐 愛知医科大学精神医学講座
- 川寄 弘詔 福岡大学医学部精神医学教室
- 川崎 康弘 金沢医科大学精神神経科学教室
- 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座
- 菊池 周一 社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院
- 菊知 充 金沢大学医学系精神行動科学
- 橘川 清人 きっかわクリニック
- 木下 利彦 関西医科大学精神神経科学講座
- 木村 直人 磯ヶ谷病院
- 紀本 創兵 和歌山県立医科大学神経精神医学教室
- 久住 一郎 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室
- 功刀 浩 帝京大学医学部精神神経科学講座
- 小坂 浩隆 福井大学医学部医学科病態制御医学講座精神医学
- 小松 英樹 亀田総合病院心療内科・精神科
- 小松 尚也 医療法人同和会千葉病院
- 近藤 毅 琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座
- 斎藤 正範 北里大学医学部精神科学
- 佐々木 剛 千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部
- 佐々木 司 東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野
- 真田 建史 昭和大学医学部精神医学教室
- 椎名 明大 千葉大学社会精神保健教育研究センター
- 塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科精神医学分野
- 塩田 勝利 自治医科大学こころのケアセンター・精神科
- 繁田 雅弘 東京慈恵会医科大学精神医学講座
- 志津 雄一郎 志津クリニック
- 品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学精神医学講座
- 清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学
- 下田 和孝 獨協医科大学精神神経医学講座
- 白山 幸彦 帝京大学ちば総合医療センターメンタルヘルス科
- 神出 誠一郎 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻精神医学分野
- 杉原 玄一 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学
- 杉山 直也 公益財団法人復康会沼津中央病院
- 鈴木 健文 山梨大学医学部精神神経医学講座
- 鈴木 映二 東北医科薬科大学医学部精神科学教室
- 鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系
- 鈴木 道雄 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座
- 須田 史朗 自治医科大学精神医学講座
- 曾良 一郎 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野
- 武井 雄一 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学
- 竹内 崇 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野
リエゾン精神医学・精神腫瘍学担当

| | |
|----------|---------------------------|
| 竹林 実 | 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座 |
| 舘野 周 | 日本医科大学精神医学教室 |
| 辻野 尚久 | 済生会横浜市東部病院精神科 |
| 坪井 貴嗣 | 杏林大学医学部精神神経科学教室 |
| 寺尾 岳 | 大分大学医学部精神神経医学講座 |
| 戸田 裕之 | 防衛医科大学校 |
| 富田 博秋 | 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野 |
| 中尾 智博 | 九州大学大学院医学研究院精神病態医学 |
| 中川 伸 | 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座 |
| ○ 中込 和幸 | 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター |
| ○ 中里 道子 | 国際医療福祉大学成田病院精神科 |
| 中村 和彦 | 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座 |
| 中村 祐 | 香川大学医学部精神神経医学講座 |
| 中村 雅之 | 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野 |
| 成本 迅 | 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学 |
| 西村 勝治 | 東京女子医科大学医学部精神医学講座 |
| ○ 忽滑谷 和孝 | 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科 |
| 沼田 周助 | 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野 |
| 根本 清貴 | 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 |
| 根本 隆洋 | 東邦大学医学部精神神経医学講座 |
| ○ 根本 豊實 | 磯ヶ谷病院 |
| 野上 毅 | 日本医科大学付属病院 |
| 橋本 衛 | 近畿大学医学部精神神経科学教室 |
| ○ 橋本 佐 | 国際医療福祉大学医学部精神医学教室 |
| ○ 長谷川 直 | 千葉大学医学部附属病院緩和ケアセンター・精神神経科 |
| 花澤 寿 | 千葉大学教育学部養護教育講座 |
| 東 晋二 | 東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科 |
| 菱本 明豊 | 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野 |
| ○ 深見 悟郎 | 千葉県精神科医療センター |
| 福田 正人 | 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学 |
| 藤村 洋太 | 東京医科大学八王子医療センターメンタルヘルス科 |
| 古郡 規雄 | 獨協医科大学精神神経医学講座 |
| ○ 松尾 幸治 | 埼玉医科大学医学部精神医学 |
| 榎屋 二郎 | 東京医科大学精神医学分野 |
| 松永 寿人 | 兵庫医科大学精神科神経科学講座 |
| 三島 和夫 | 秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座 |
| 水野 雅文 | 東京都立松沢病院 |
| 三村 將 | 慶應義塾大学医学部精神神経科学教室 |
| ○ 宮川 晃一 | 順天堂大学医学部附属浦安病院メンタルクリニック |
| 村井 俊哉 | 京都大学大学院医学研究科精神医学 |
| 村松 太郎 | 慶應義塾大学医学部精神神経科 |
| 門司 晃 | 慈光会若久病院 |
| 矢部 博興 | 福島県立医科大学医学部こころと脳の医学講座 |



- | | |
|---------|-------------------|
| 山末 英典 | 浜松医科大学 |
| 山田 了士 | 岡山大学学術研究院精神神経病態学 |
| ○ 山内 直人 | 爽風会心の風クリニック千葉 |
| 山本 賢司 | 東海大学医学部総合診療学系精神科学 |
| 吉野 相英 | 防衛医科大学校精神科学講座 |
| 吉村 玲児 | 産業医科大学精神医学講座 |
| 鷲塚 伸介 | 信州大学医学部精神医学教室 |
| 渡邊 衡一郎 | 杏林大学医学部精神神経科学教室 |
| ○ 渡邊 博幸 | 医療法人学而会木村病院 |

(50音順)

※プログラム委員長

○コアプログラム委員

セッション一覧

(産) …日本医師会認定産業医制度産業医学研修会対象セッション

(倫) …日本精神神経学会倫理教育研修会対象セッション (専門医機構認定 共通講習とは異なります)

会長講演

| | 演題名 | 演者 | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|----------------|-------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | 応機展開の精神医学とその底流 | 伊豫 雅臣 | 6月22日(木) | 14:15～15:15 | A会場 | |

特別講演

| | 演題名 | 演者 | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|---|----------------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | The Maudsley Prescribing Guidelines | David Taylor | 6月22日(木) | 13:15～14:15 | B会場 | |
| 2 | The Maudsley Model of Anorexia Nervosa for Adults: Development, Evidence and New Directions | Ulrike Schmidt | 6月22日(木) | 15:30～16:30 | A会場 | |
| 3 | A non-discriminatory (mental) health law | George Szukler | 6月23日(金) | 9:30～10:30 | B会場 | |

受賞講演

| | 演題名 | 演者 | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|------------------------|-------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | 精神医学奨励賞受賞講演 | 塩飽 裕紀 | 6月23日(金) | 12:05～12:17 | A会場 | |
| 2 | フォリア賞受賞講演 | 河上 緒 | 6月23日(金) | 12:18～12:28 | A会場 | |
| 3 | フォリア賞受賞講演 | 竹内 秀暁 | 6月23日(金) | 12:29～12:39 | A会場 | |
| 4 | PCN Reports 最優秀論文賞受賞講演 | 石川 和宏 | 6月23日(金) | 12:40～12:50 | A会場 | |

先達に聴く

| | 演題名 | 演者 | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|---|--------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | 児童精神科臨床の展望 ～初期研修段階での経験とその後の児童精神科医としての歩みから～ | 齊藤 万比古 | 6月22日(木) | 13:15～14:15 | A会場 | |

教育講演

| | 演題名 | 演者 | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|--|--------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | うつ病、不安症、慢性疼痛の認知行動療法とイメージの書き直し技法 | 清水 栄司 | 6月22日(木) | 10:45～11:45 | B会場 | |
| 2 | 子ども虐待はなぜ起きるのか： 行動神経科学から見た親支援の必要性 | 黒田 公美 | 6月22日(木) | 11:45～12:45 | B会場 | |
| 3 | 日本精神神経学会におけるCOI申告の実際： 総論から各論まで | 稲垣 中 | 6月22日(木) | 14:15～15:15 | B会場 | |
| 4 | 精神障害における障害の社会モデルの重要性 | 熊谷 晋一郎 | 6月23日(金) | 8:30～9:30 | B会場 | |
| 5 | 刑事精神鑑定－最近の動向－ | 五十嵐 禎人 | 6月23日(金) | 13:15～14:15 | B会場 | |
| 6 | 回避・制限性食物摂取症 (ARFID) －コロナ禍の影響を受けて－ | 高宮 静男 | 6月23日(金) | 13:15～14:15 | Q会場 | |
| 7 | 女性と養育者のメンタルヘルスを再考する －大学病院女性外来とつぶくりから見える風景 | 加茂 登志子 | 6月23日(金) | 14:15～15:15 | B会場 | |
| 8 | 健康経営とメンタルヘルス ～新たな健康の 価値とこれからの健康づくり～ | 藤岡 雅美 | 6月24日(土) | 10:45～11:45 | A会場 | 産 |



| | 演題名 | 演者 | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|----|----------------------|-------|----------|-------------|-----|-----|
| 9 | 最近の自殺問題の推移と自殺予防医療の確立 | 河西 千秋 | 6月24日(土) | 12:00～13:00 | A会場 | 産 |
| 10 | 我が国における矯正精神医療の現状と課題 | 奥村 雄介 | 6月24日(土) | 13:15～14:15 | A会場 | |

会長企画シンポジウム

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|--------------------------------------|----------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | 統合失調症における抗精神病薬 誘発性ドーパミン過感受性精神病の克服 | 伊豫 雅臣 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | A会場 | |
| 2 | 若手精神科医から見た世界の中の日本の 精神医療の方向性 | 伊豫 雅臣 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | A会場 | |

委員会シンポジウム

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|----|---|---------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | ICD-11/DSM-5-TRから児童青年期精神医学の 診断の近未来を考える(児童精神科医療委員会) | 今村 明 岡田 俊 松本 英夫 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | B会場 | |
| 2 | 精神科医療スタッフとして乖離的スティグマ にどう立ち向かったらよいのか (アンチスティグマ委員会) | 金井 玉奈 小口 芳世 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | D会場 | |
| 3 | 災害における精神症状・心理状態についての ジェンダー観点からの検討 (男女共同参画委員会; 災害支援委員会) | 奥山 純子 高橋 晶 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | I会場 | |
| 4 | 子育てを支える精神医学 (親子・学校・女性に関する委員会) | 立花 良之 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | N会場 | |
| 5 | 当事者・家族版ガイドの作成過程について (ガイドライン検討委員会) | 吉村 公雄 前田 貴記 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | O会場 | |
| 6 | 日本の精神医療福祉の未来を考える (精神医療・福祉のあり方に関する常任委員会) | 佐久間 啓 水野 雅文 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | P会場 | |
| 7 | 公認心理師法施行5年を振り返って (心理職に関する委員会) | 中尾 智博 阿部 恵一郎 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | I会場 | |
| 8 | 着床前遺伝学的検査をめぐる倫理的課題 ー精神医学の観点から(医療倫理委員会) | 藤井 千代 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | N会場 | |
| 9 | 精神科医不足問題について考える：リターンズ (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画 に関する委員会) | 稲垣 中 濱田 博文 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | P会場 | |
| 10 | 電気けいれん療法(Electroconvulsive therapy : ECT)の新たな局面(ECT・rTMS等検討委員会) | 鮫島 達夫 奥村 正紀 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | Q会場 | |
| 11 | 周産期の女性を支える精神科診療のあり方 (男女共同参画委員会と親子・学校・女性に 関する委員会の共催) | 渡辺 雅子 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | D会場 | |
| 12 | 統合失調症事例の刑事精神鑑定 (司法精神医学委員会) | 五十嵐 禎人 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | H会場 | |
| 13 | 認知症者の経済的支援(認知症委員会) | 数井 裕光 井藤 佳恵 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | J会場 | |
| 14 | 一般診療に活かす各種精神療法 ー学派を超えた通院精神療法の在り方ー (精神療法委員会) | 池田 暁史 中尾 智博 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | D会場 | |
| 15 | rTMS療法の普及に向けた課題 (ECT・rTMS等検討委員会) | 鬼頭 伸輔 中村 元昭 野田 賀大 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | K会場 | |
| 16 | ウクライナ侵攻に関するメンタルヘルス上の 諸課題(災害支援委員会) | 重村 淳 高橋 晶 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | P会場 | |
| 17 | COVID-19のパンデミックが日本の女性と 子供のメンタルヘルスに及ぼした影響： 弱者・ジェンダの視点から (男女共同参画委員会) | 布施 泰子 加茂 登志子 安藤 久美子 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | R会場 | |

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|----|--|------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 18 | 精神科医のための認知症診療のピットフォール(認知症委員会) | 品川 俊一郎 橋本 衛 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | J会場 | |
| 19 | 国連障害者権利擁護委員会(CRPD)の対日審査をめぐってーこれからのわが国の精神医療のあり方を考える(精神医療・福祉のあり方に関する常任委員会) | 佐久間 啓 水野 雅文 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | B会場 | |
| 20 | ICD-11「精神、行動及び神経発達の疾患」についての解説(ICD-11委員会) | 神庭 重信 針間 博彦 秋山 剛 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | E会場 | |
| 21 | 精神科領域における医療DXとオンライン診療(オンライン精神科医療検討作業班) | 岸本 泰士郎 吉村 健佑 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | F会場 | |
| 22 | 次世代の精神医学研究のあり方：知の統合による課題解決に向けて(精神医学研究推進委員会) | 尾崎 紀夫 橋本 亮太 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | J会場 | |
| 23 | 各国におけるアディクションへの対応(国際委員会) | 秋山 剛 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | F会場 | |
| 24 | 旧優生保護法における精神科医の果たした役割についての学際的検討(法委員会) | 竹島 正 三野 進 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | I会場 | |
| 25 | 精神科医にどのように性別不合(Gender Incongruence)医療に参入してもらおうか(性別不合に関する委員会) | 中山 浩 早馬 俊 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | P会場 | |
| 26 | 気分障害患者における復職促進および判断基準の均てん化に向けて(産業保健に関する委員会) | 吉村 玲児 井上 幸紀 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | A会場 | 産 |
| 27 | 新たな自殺総合対策大綱：見直しに向けて当学会の取り組みと今後の課題(自殺予防に関する委員会) | 衛藤 暢明 太刀川 弘和 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | I会場 | |
| 28 | 精神科医の偏在対策は必要か？：現状と将来への影響(精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会) | 宋 龍平 根本 康 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | N会場 | |
| 29 | ADHD治療薬の課題と展望(薬事委員会) | 齊藤 卓弥 安田 由華 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | A会場 | |
| 30 | ここまで来ている新規治療法開発：期待と課題(PCN編集委員会) | 高橋 英彦 加藤 忠史 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | F会場 | |
| 31 | 地域ケアにおいて求められるアウトリーチ支援を考える(地域ケアにおける自立支援のあり方検討委員会) | 藤井 千代 林 輝男 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | N会場 | |
| 32 | 当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性：ゲノム研究を例にとって(倫理委員会) | 夏苅 郁子 尾崎 紀夫 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | B会場 | 倫 |
| 33 | 治療抵抗性統合失調症はどのように治療すべきか：我々の合意形成を目指して(薬事委員会) | 稲田 健 橋本 亮太 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | E会場 | |
| 34 | 日本で暮らす難民・避難民のメンタルヘルス支援を考える(国際委員会) | 桂川 修一 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | F会場 | |
| 35 | 多職種協働が動き出す時(多職種協働委員会) | 佐久間 啓 堀川 公平 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | K会場 | |
| 36 | 「精神疾患の予防と回復」高等学校教科書掲載1年後の現状と課題(アンチスティグマ委員会) | 小口 芳世 渡辺 雅子 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | P会場 | |
| 37 | 精神保健福祉法改正ーそれぞれの立場で考える精神保健福祉法のあるべき姿ー(精神保健福祉法委員会) | 佐竹 直子 太田 順一郎 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | G会場 | |
| 38 | 若手精神科医のための臨床研究事始めー症例報告からランダム化比較試験まで(PCN Reports編集委員会) | 明智 龍男 鈴木 道雄 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | I会場 | |
| 39 | こころのサポーター普及を目指すー地域での早期支援・アンチスティグマ活動ー(アンチスティグマ委員会) | 大矢 希 長 徹二 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | Q会場 | |



シンポジウム

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|----|--|--------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | 日常診療で、大人の発達障害を理解し支援する | 青木 省三 武井 明 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | C会場 | |
| 2 | 今後期待されるうつ病への新規治療法について考える | 坪井 貴嗣 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | E会場 | |
| 3 | ミスマッチ陰性電位の精神疾患におけるバイオマーカー応用 | 矢部 博興 住吉 太幹 志賀 哲也 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | F会場 | |
| 4 | ポスト・コロナ時代における精神医学教育と精神科診療 | 中尾 智博 中川 伸 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | G会場 | |
| 5 | 精神療法と治癒像 | 新村 秀人 北西 憲二 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | H会場 | |
| 6 | 周産期メンタルヘルス ～今後の発展すべき方向性とは～ | 竹内 崇 渡邊 博幸 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | J会場 | |
| 7 | 「精神神経医学」を再考する： 精神医学と神経医学のボーダーランド | 曾根 大地 品川 俊一郎 兼本 浩祐 | 6月22日(木) | 8:30～10:30 | K会場 | |
| 8 | 気分障害の睡眠 up-to-date －病態理解から診断・治療法開発へ－ | 鈴木 正泰 栗山 健一 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | A会場 | 産 |
| 9 | アルコール使用障害患者を日常診療で診るために：非専門の医療スタッフでも使える短時間の簡易アプローチ | 白坂 知彦 齋藤 利和 宮田 久嗣 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | C会場 | |
| 10 | 精神科の疾患と認知症との病態的関連性 Update | 品川 俊一郎 中島 振一郎 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | D会場 | |
| 11 | 高齢者のうつ病治療Up-to-Date | 馬場 元 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | E会場 | |
| 12 | 死別の精神医学 | 明智 龍男 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | G会場 | |
| 13 | 精神疾患におけるヒューマノイドロボットを用いた支援の現状と今後の課題 | 熊崎 博一 加藤 隆弘 吉川 雄一郎 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | H会場 | |
| 14 | 多機能型精神科診療所での外来医療の機能強化と地域包括ケア ～療養生活継続支援加算新設を機会に考える～ | 三家 英明 窪田 彰 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | J会場 | |
| 15 | 自己免疫性疾患/脳炎・脳症と精神症状 | 神林 崇 高木 学 来住 由樹 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | K会場 | |
| 16 | 電気けいれん療法(ECT)発作増強法の推奨事項 | 竹林 実 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | O会場 | |
| 17 | 神経発達症の感覚現象と実践的な支援 | 小坂 浩隆 中村 和彦 松永 寿人 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | C会場 | |
| 18 | 慢性疼痛 | 白井 千恵 井上 雄一 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | E会場 | |
| 19 | あるがままとマインドフルネスの間 －東洋と西洋の精神療法の相違－ | 館野 歩 小野 和哉 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | G会場 | |
| 20 | これからの精神医学に求められるものとは？ ポジティブ精神医学の活用 | 須賀 英道 大野 裕 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | I会場 | |
| 21 | 依存症調査研究事業の成果紹介 | 松下 幸生 松本 俊彦 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | K会場 | |
| 22 | 精神科領域における便秘症について考える | 山田 浩樹 坪井 貴嗣 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | N会場 | |
| 23 | 統合失調症治療におけるLAIの臨床的意義 | 根本 豊實 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | O会場 | |
| 24 | 精神科医療にSNSをどう活用するのか －その可能性と課題－ | 根本 清貴 松崎 朝樹 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | P会場 | |

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|----|--|-------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 25 | 向精神薬と自動車運転 ～エビデンスの医療への実装、そして課題～ | 松尾 幸治 中林 哲夫 岩本 邦弘 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | B会場 | |
| 26 | 一人からでも始められる物質使用障害の治療 ～その多様な実践から～ | 成瀬 暢也 松本 俊彦 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | C会場 | |
| 27 | コロナ禍における若い世代の摂食障害 ～発症数の増加とその要因～ | 井上 幸紀 西園マーハ 文 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | E会場 | |
| 28 | 現代のcommon diseaseとしての不安障害 ～その正常と病的の境界とは | 松永 寿人 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | G会場 | |
| 29 | わが国における認知症の疫学研究の最前線 | 小原 知之 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | H会場 | |
| 30 | 心拍変動自律神経バイオマーカー： 工学と精神医学のクロストーク | 榛葉 俊一 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | I会場 | |
| 31 | 治療失敗リスクを下げる精神病性障害急性期 の治療方略 | 八田 耕太郎 杉山 直也 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | J会場 | |
| 32 | ビデオ脳波でみるてんかん発作 | 西田 拓司 谷口 豪 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | M会場 | |
| 33 | リカバリーを巡るクロストーク ～当事者・メディア・行政・医療の立場から～ | 渡邊 衡一郎 菊地 俊暁 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | N会場 | |
| 34 | 脳を見る：統合失調症研究の新展開 | 糸川 昌成 尾崎 紀夫 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | O会場 | |
| 35 | 精神神経分野における若手団体の発展と未来 | 曾根 大地 堀之内 徹 大矢 希 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | Q会場 | |
| 36 | 課題解決型高度医療人材養成(精神領域)の これから～産業保健との関連から～ | 清水 栄司 笠井 清登 | 6月22日(木) | 16:45～18:45 | A会場 | 産 |
| 37 | 主治医産業医が「両立支援と職域の安全配慮・ 合理的配慮義務」を重視しながら取り組む 就労支援をめぐる | 工藤 喬 渡辺 洋一郎 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | A会場 | 産 |
| 38 | 自閉スペクトラム症の特性とは何か ～研究の視点を診療につなげる～ | 太田 晴久 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | C会場 | |
| 39 | 不安症、強迫症の診療ガイドラインと 臨床的实践 | 井上 猛 清水 栄司 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | D会場 | |
| 40 | 睡眠からみたAYA世代における 精神障害とその予防 | 根本 隆洋 田形 弘実 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | E会場 | |
| 41 | 初診患者の精神力動的アセスメントについて | 衛藤 暢明 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | G会場 | |
| 42 | がん診療において精神科医に何が期待されて いるのか？ | 秋月 伸哉 谷向 仁 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | H会場 | |
| 43 | うつ病へのrTMS治療の今後の発展への取り組み | 高橋 隼 松田 勇紀 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | I会場 | |
| 44 | 精神科へき地医療の新しい時代に向けて | 小澤 寛樹 中村 雅之 岩田 正明 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | K会場 | |
| 45 | 口腔領域の難治性疼痛に対し精神科医は何を すべきか？～歯科医と精神科医との対話から | 宮地 英雄 宮岡 等 名越 泰秀 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | O会場 | |
| 46 | 新専門医制度施行後の身体科領域の 生涯教育について | 清水 勇雄 俊野 尚彦 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | P会場 | |
| 47 | これからの摂食障害治療を考える： スタンダードな身体管理と精神療法に向けて | 中里 道子 竹林 淳和 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | C会場 | |
| 48 | 精神科救急における医療安全 | 松尾 幸治 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | D会場 | |
| 49 | 精神医学における個性と普遍性 | 榊原 英輔 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | G会場 | |
| 50 | いまなぜグループか？新しいつながり時代の 集団精神療法 | 林 公輔 嶋田 博之 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | H会場 | |
| 51 | 様々な生物学的現象から考える精神疾患の 病態生理 | 朴 秀賢 岩田 正明 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | I会場 | |



| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|----|---|-------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 52 | ハームリダクションを実践、 症例ベースで考える | 宮田 久嗣 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | K会場 | |
| 53 | 臨床倫理コンサルテーションにおける 精神科医の役割 | 戸田 裕之 小川 朝生 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | N会場 | |
| 54 | ウィズ・ポストコロナ社会におけるメンタル ヘルスケアー遠隔メンタルヘルスケアシステムの 社会実装にむけてー | 竹田 和良 中込 和幸 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | O会場 | |
| 55 | 精神科はてんかん診療から離れる時期にきて いるのか？ | 岩城 弘隆 谷口 豪 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | P会場 | |
| 56 | 高齢者精神科診療に必要な多様な視点を探る | 渡辺 雅子 | 6月23日(金) | 10:45～12:45 | Q会場 | |
| 57 | 統合失調症診断と医学の進歩 ー操作的な統合失調症診断概念における 「器質因」を考えるー | 尾関 祐二 高木 学 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | C会場 | |
| 58 | 精神科臨床の幅を広げるために知っておきたい 漢方薬～漢方専門医でなくても上手に漢方 薬を使うコツ～ | 山田 和男 久永 明人 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | D会場 | |
| 59 | ギフトッドの特徴を有する子どもたちの 実態と支援 | 池澤 聰 樋口 輝彦 熊崎 博一 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | E会場 | |
| 60 | 精神医学におけるconceptual historyの重要性 ー統合失調症、自閉、両価性 | 井上 猛 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | G会場 | |
| 61 | 防ぎえる合併症死亡を減らすため、 精神科身体合併症の治療の場を考える | 橋本 聡 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | H会場 | |
| 62 | 子供の司法精神医学 ー多職種・多組織による 包括的なアプローチを目指してー | 太田 順一郎 吉岡 真吾 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | J会場 | |
| 63 | 新型コロナウイルス感染症の罹患後症状に おける精神症状の病態と治療の最前線 | 高松 直岐 久我 弘典 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | K会場 | |
| 64 | うつ病治療への次なる期待 | 金沢 徹文 竹林 実 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | N会場 | |
| 65 | 産・官・学連携による日本におけるTMS療法 の普及と拡大に向けて | 盛山 宗太郎 野田 賀大 | 6月23日(金) | 13:15～15:15 | O会場 | |
| 66 | 高齢者犯罪の現状と司法精神医学的課題 | 田口 寿子 村松 太郎 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | B会場 | |
| 67 | 認知行動療法update: 診療ガイドラインから 臨床実践への橋渡し | 中川 敦夫 藤澤 大介 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | C会場 | |
| 68 | さまざまな精神科領域における身体症状症 ー専門的知見に基づく検討 | 富永 敏行 名越 泰秀 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | D会場 | |
| 69 | せん妄の臨床現場に残された重要課題と その対策・展望 | 八田 耕太郎 岸 泰宏 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | E会場 | |
| 70 | 高齢者のうつ病治療、次の一手 | 上田 諭 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | F会場 | |
| 71 | 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム における精神科医療機関の役割 | 太田 順一郎 野口 正行 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | G会場 | |
| 72 | アディクション診療におけるグリーンケア | 長 徹二 佐久間 寛之 入来 晃久 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | H会場 | |
| 73 | マタニティ・ハラスメントを考える ー妊娠・出産を巡るストレスー <日本精神神経科診療所協会推薦> | 鬼頭 有代 渡辺 雅子 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | J会場 | |
| 74 | 精神科臨床での音楽療法の実践ー具体的な 技法や患者にみられる変化・効果を中心に | 山本 賢司 馬場 存 阪上 正巳 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | K会場 | |
| 75 | 地域連携・地域支援を促進する 総合病院精神科医療 | 佐藤 茂樹 小石川 比良来 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | O会場 | |
| 76 | 精神疾患レジストリの現況報告 | 中込 和幸 尾崎 紀夫 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | P会場 | |

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|-----|--|-------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 77 | 医薬品・医療機器のエコシステムと精神科医－本邦のレギュラトリーサイエンスに対する精神科医の役割 | 横井 優磨 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | Q会場 | |
| 78 | COVID-19後遺症を含めた新しい形の認知機能障害とその援助 | 大谷 恭平 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | R会場 | |
| 79 | 統合失調症における自閉性と自閉スペクトラム症－病態における同異の研究を臨床に活かす知見－ | 金原 信久 木村 大 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | B会場 | |
| 80 | 診断閾下の発達障害 ～発達障害グレーゾーンという概念の意義と危険性～ | 原田 剛志 神尾 陽子 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | C会場 | |
| 81 | ゲーム障害の予防・治療について | 松崎 尊信 樋口 進 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | D会場 | |
| 82 | 不安症、物質使用症、摂食障害を支持的精神療法で治療するには、何が必要か？ | 永田 利彦 宮岡 等 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | E会場 | |
| 83 | ガイドライン普及事業の最前線と今後の展開 | 古郡 規雄 稲田 健 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | G会場 | |
| 84 | 曲がり角に立つ精神科入院医療－課題の多様性から将来を探る | 竹島 正 須田 史朗 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | H会場 | |
| 85 | 世に出ていく力動精神医学－今日的意義と課題 | 池田 暁史 林 公輔 木崎 英介 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | I会場 | |
| 86 | 精神科初期研修グレードアップ！ | 松坂 雄亮 杉原 正子 岩城 弘隆 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | J会場 | |
| 87 | 精神科診療におけるPrecisionについて | 齋藤 正範 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | K会場 | |
| 88 | 一次性妄想の内包と外延 | 岡 一太郎 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | M会場 | |
| 89 | ストーカー加害者への治療的介入 | 長谷川 直実 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | O会場 | |
| 90 | 精神科における臨床神経病理カンファレンスとその意義 | 入谷 修司 河上 緒 | 6月24日(土) | 8:30～10:30 | P会場 | |
| 91 | 日本生物学的精神医学会との合同シンポジウム：生物学的研究によって精神科医は何をすべきか？ | 上野 修一 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | C会場 | |
| 92 | 強迫症の理解と治療戦略のアップデート | 中尾 智博 豊見山 泰史 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | D会場 | |
| 93 | 診療科横断・多職種連携による複合介入の開発・検証と実装：サイコオンコロジー領域の研究開発 | 稲垣 正俊 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | G会場 | |
| 94 | 「進化精神医学」の現在と展開 | 高野 覚 加藤 敏 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | H会場 | |
| 95 | 精神科が地域医療に貢献できること～コンサルテーション・リエゾンによって活かされる精神医学の経験 | 安田 貴昭 五十嵐 友里 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | I会場 | |
| 96 | 災禍での育ち～みちのくこどもコホートから見つめる東日本大震災と新型コロナウイルス感染症パンデミック～ | 榎屋 二郎 八木 淳子 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | J会場 | |
| 97 | 地域創りは長期在院者の退院支援から | 浅見 隆康 高橋 恵 植田 俊幸 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | M会場 | |
| 98 | 統合失調症の外来治療の今後について考える | 渡邊 衡一郎 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | N会場 | |
| 99 | 全国の精神保健福祉センターにおける自殺予防の取り組み | 田中 治 太田 順一郎 | 6月24日(土) | 10:45～12:45 | O会場 | |
| 100 | 発達障害とNeurodiversity | 岩波 明 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | C会場 | |
| 101 | 朝起きられない不登校児への多面的な評価と介入 | 小鳥居 望 神林 崇 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | D会場 | |



| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|-----|---|--------------------------|----------|-------------|-----|-----|
| 102 | 精神科アウトリーチはいつ誰に必要なのか？ －対象と実施主体別にみた支援の実際と仕組みづくり－ | 渡邊 真里子 西尾 雅明 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | F会場 | |
| 103 | 被害と加害 | 石川 雅智 松木 悟志 渡邊 博幸 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | H会場 | |
| 104 | これまでの千葉県精神神経科診療所協会の活動と今後の課題 | 志津 雄一郎 大塚 芳克 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | K会場 | |
| 105 | 統合失調症の睡眠研究の現在 －最近のトピックスと臨床への展開－ | 鈴木 正泰 小曽根 基裕 金子 宜之 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | L会場 | |
| 106 | 学校や地域での子どもたちのこころの状態、支援と連携システム | 中村 和彦 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | M会場 | |
| 107 | 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)罹患後精神症状と精神保健施設における対応 | 中尾 智博 村山 桂太郎 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | N会場 | |
| 108 | マイクロアグレッションの理解と克服 ～精神医療の向上と共生社会の実現のために | 内田 千代子 加茂 登志子 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | O会場 | |
| 109 | 精神科における“身体的”リハビリテーションの現状と今後の課題 | 橋本 学 平川 淳一 | 6月24日(土) | 13:15～15:15 | P会場 | |

Fellowship Award Symposium

| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|--|---------------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | ～Roles of psychiatrists in emergency medical services(救急医療における精神科医の役割)～(国際委員会) | 伊井 俊貴 秋山 剛 | 6月22日(木) | 10:45～12:45 | F会場 | |
| 2 | ～Roles of psychiatrists in emergency medical services(救急医療における精神科医の役割)～(国際委員会) | 伊井 俊貴 秋山 剛 | 6月22日(木) | 13:15～15:15 | F会場 | |
| 3 | ～Roles of psychiatrists in emergency medical services(救急医療における精神科医の役割)～(国際委員会) | 伊井 俊貴 秋山 剛 | 6月22日(木) | 15:30～17:30 | F会場 | |
| 4 | ～Case Vignette: chronic pain(ケースビネット:慢性疼痛)～(国際委員会) | 伊井 俊貴 秋山 剛 | 6月23日(金) | 8:30～10:30 | F会場 | |

地方会優秀演題セッション

| | エリア | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|----------|----------|----------|-------------|-----|-----|
| 1 | 北海道・東北 | — | 6月22日(木) | 8:30～9:18 | Q会場 | |
| 2 | 東北・北陸・東京 | — | 6月22日(木) | 13:15～14:03 | Q会場 | |
| 3 | 東海・近畿 | — | 6月23日(金) | 8:30～9:18 | Q会場 | |
| 4 | 近畿・中国・四国 | — | 6月23日(金) | 9:30～10:18 | Q会場 | |

関連学会優秀演題ポスター

| | 学会名 | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 | 産/倫 |
|---|---|----------|----------|-------------|--------|-----|
| 1 | 日本統合失調症学会・日本臨床精神神経薬理学会 | — | 6月22日(木) | 11:45～12:17 | ポスター会場 | |
| 2 | 日本精神科救急学会・日本社会精神医学会・日本総合病院精神医学会・日本うつ病学会 | — | 6月23日(金) | 10:45～11:25 | ポスター会場 | |
| 3 | 日本不安症学会・日本うつ病学会 | — | 6月23日(金) | 11:45～12:25 | ポスター会場 | |

| Leaders Round Table | | | | | |
|---------------------|---|----------|----------|-------------|------------|
| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 産/倫 |
| 1 | Leaders Round Table: 各国精神医学会の協力について(国際委員会) | 秋山 剛 | 6月23日(金) | 15:30～17:30 | 3階 G320 |

| ワークショップ | | | | | |
|---------|--|-------------------------|----------|-------------|--------|
| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 産/倫 |
| 1 | 精神科診療における男女差を深掘りしてみよう ～疾患における男女差と治療者の男女差について～(男女共同参画委員会) | 榎戸 美佐子 安川 節子 | 6月22日(木) | 8:30～10:10 | L会場 |
| 2 | 児童精神科医療入門：新シリーズ(6)子どもの精神医学における治療論－技法・その2(児童精神科医療委員会) | 岡田 俊 松本 英夫 | 6月22日(木) | 10:45～12:25 | L会場 |
| 3 | 性別不合/性別違和に対するガイドラインに準拠した診療 ～医療チームと身体的治療適応判定会議の構築～(性別不合に関する委員会) | 織田 裕行 | 6月22日(木) | 13:15～14:55 | L会場 |
| 4 | 統合失調症とパーソナリティ障害との鑑別が難しい精神鑑定事例(司法精神医学委員会) | 五十嵐 禎人 | 6月22日(木) | 15:30～17:10 | L会場 |
| 5 | リエゾン精神科医が直面する臨床倫理的課題－生命に関わる身体疾患への治療を拒否する患者へのアプローチ－ | 和田 健 西村 勝治 | 6月23日(金) | 8:30～10:10 | N会場 |
| 6 | 複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ(自殺予防に関する委員会) | 河西 千秋 立花 良之 | 6月23日(金) | 9:10～11:50 | L会場 |
| 7 | <脳波の基礎コース> 精神科医が脳波を学ぶために | 太田 克也 矢部 博興 山内 俊雄 | 6月23日(金) | 13:15～14:55 | L会場 |
| 8 | <脳波の応用コース> 精神科医が脳波を臨床に生かすために | 太田 克也 矢部 博興 山内 俊雄 | 6月23日(金) | 15:30～17:10 | L会場 |
| 9 | 精神神経学雑誌に掲載される論文の書き方(研究計画と統計について) (精神神経学雑誌編集委員会) | 中尾 智博 細田 眞司 | 6月24日(土) | 8:30～10:10 | L会場 |
| 10 | 映像で学ぶ初診面接 －「死にたい」と訴える患者編－ (精神療法委員会) | 中村 伸一 田中 裕記 | 6月24日(土) | 10:45～12:25 | L会場 |

| オンデマンド配信限定セッション | | | | | |
|-----------------|--|------------------|----|----|--------|
| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 産/倫 |
| 1 | 患者にとっての医療の質の向上を目指したTMS療法リアルワールドリサーチ：TMSの適切な普及と拡大に向けて | 野田 賀大 | | | |
| 2 | 同席面接の勧め | 布施 泰子 渡辺 俊之 | | | |
| 3 | 「医療保護入院」という体験のもつ意味、この制度の廃止・縮減がもたらすことの意味 | 伊藤 順一郎 渡邊 真里子 | | | |
| 4 | 鍼灸師と精神科医の相互連携の意義 | 中村 元昭 松浦 悠人 | | | |
| 5 | 木村敏の精神病理学を未来の精神医学の診療にどう繋げるか | 丹羽 和賀美 深尾 憲二郎 | | | |

プログラム

Program



6月22日(木) A会場(パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8)

8:30~10:30 会長企画シンポジウム1

統合失調症における抗精神病薬誘発性ドパミン過感受性精神病の克服

司会：伊豫 雅臣 千葉大学大学院医学研究院精神医学／千葉大学社会精神保健教育研究センター

PS1-1 Antipsychotic-induced dopamine supersensitivity and what to do about it: Lessons from rats

○Anne-Noël Samaha

Department of Pharmacology & Physiology – Faculty of Medicine – University of Montreal



PS1-2 Current and future status of dopamine supersensitivity psychosis in the treatment of schizophrenia

○David Taylor

King's College London



PS1-3 統合失調症におけるドパミン過感受性・ドパミン過感受性精神病

○金原 信久

千葉大学社会精神保健教育研究センター



PS1-4 ドパミン過感受性精神病の治療戦略と戦術

○新津 富央

千葉大学大学院医学研究院精神医学



10:45~12:45 シンポジウム8

気分障害の睡眠 up-to-date – 病態理解から診断・治療法開発へ –

司会：栗山 健一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系

S8-1 気分障害と睡眠の関連 – 臨床・疫学研究のoverview –

○鈴木 正泰、斎藤 かおり、金子 宜之、久保 英之
日本大学医学部精神医学系

S8-2 ストレス抵抗性における睡眠の役割に関するマウス研究

○林 悠^{1,2}

¹東京大学大学院理学系研究科、²筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIIS)

S8-3 うつ病における睡眠脳波バイオマーカーの可能性：これまでの検討

○木村 昌由美
筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構

S8-4 気分障害の治療ターゲットとしての睡眠・概日リズム異常

○吉池 卓也
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部

S8-5 睡眠に着目した気分障害診療：リエゾン精神医学の視点から

○西村 勝治
東京女子医科大学医学部精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系
〈サブコーディネーター〉 栗山 健一 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

13:15～14:15 先達に聴く

司会：佐々木 剛 千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部

PM 児童精神科臨床の展望 ～初期研修段階での経験とその後の児童精神科医としての歩みから～

○齊藤 万比古^{1,2}
¹恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科、
²恩賜財団母子愛育会愛育研究所愛育相談所



14:15～15:15 会長講演

司会：久住 一郎 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

PL 応機展開の精神医学とその底流

○伊豫 雅臣^{1,2}
¹千葉大学大学院医学研究院精神医学、
²千葉大学社会精神保健教育研究センター





15:30～16:30 特別講演2

司会：中里 道子 国際医療福祉大学医学部精神医学

SL2 The Maudsley Model of Anorexia Nervosa for Adults: Development, Evidence and New Directions

○Ulrike Schmidt

Eating Disorders Group, Institute of Psychiatry, Psychology and Neuroscience, King's College London, London, UK



16:45～18:45 シンポジウム36

課題解決型高度医療人材養成(精神領域)のこれから－産業保健との関連から－

司会：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター
笠井 清登 東京大学大学院医学系研究科臨床神経精神医学講座

S36-1 精神科多職種連携治療・ケアを担う人材養成(PsySEPTA)の取り組みと今後の展望

○渡部 衣美¹、根本 清貴²、山川 百合子³、繁田 雅弘⁴、太刀川 弘和²、新井 哲明²

¹筑波大学附属病院精神神経科、²筑波大学医学医療系精神医学、³茨城県立医療大学、

⁴東京慈恵会医科大学精神医学講座

S36-2 「メンタルサポート医療人とプロの連携養成」とデジタルメンタルヘルスのこれから

○清水 栄司

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター

S36-3 医学領域のダイバーシティとインクルージョンに向けて－医学のダイバーシティ教育研究センターの取り組み－

○里村 嘉弘¹、金原 明子^{1,2}、宮本 有紀^{1,3}、大島 紀人⁴、熊谷 晋一郎^{5,6}、佐々木 理恵²、宇野 晃人²、熊倉 陽介²、柳下 祥⁷、笠井 清登^{1,2}

¹東京大学大学院医学系研究科医学のダイバーシティ教育研究センター、

²東京大学医学部附属病院精神神経科、³東京大学大学院医学系研究科・精神看護学分野、

⁴東京大学相談支援研究開発センター、⁵東京大学先端科学技術研究センター、

⁶東京大学バリアフリー支援室、⁷東京大学大学院医学系研究科・構造生理学部門

S36-4 京都大学 ASD projectの歩みと今後の展望

○義村 さや香、十一 元三

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端作業療法学講座

〈メインコーディネーター〉 清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター

〈サブコーディネーター〉 笠井 清登 東京大学大学院医学系研究科臨床神経精神医学講座

6月22日(木) B会場(パシフィコ横浜ノース 1F G5)

8:30～10:30 委員会シンポジウム1 (児童精神科医療委員会)

ICD-11/DSM-5-TRから児童青年期精神医学の診断の近未来を考える

司会：岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部
今村 明 長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

CS1-1 知的能力障害あるいは知的発達症の診断概念の変遷とこれから

○岡田 俊

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

CS1-2 児童青年期精神医学におけるDSM-5-TRとICD-11のハーモニゼーションと 溶融できなかったもの

○齊藤 卓弥

北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

CS1-3 複雑性PTSD、持続性複雑死別障害をはじめとする、トラウマ関連障害の新潮流

○林 みづ穂

仙台市精神保健福祉総合センター

CS1-4 回避制限性食物摂取症を含めた児童青年期の摂食障害

○中土井 芳弘

独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター児童精神科

CS1-5 性別違和あるいは性別不合と精神科診断における位置づけをめぐる課題

○本多 奈美

東北大学大学院教育学研究科教育心理学講座臨床心理学分野

〔指定発言〕

○今村 明

長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

〔指定発言〕

○齊藤 まなぶ

弘前大学大学院保健学研究科総合リハビリテーション科学領域

〈メインコーディネーター〉 今村 明

長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部

〈サブコーディネーター〉 岡田 俊

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
知的・発達障害研究部

松本 英夫

医療法人丹沢病院



10:45～11:45 **教育講演1**

司会：井上 猛 東京医科大学精神医学分野東京医科大学病院メンタルヘルス科

EL1 うつ病、不安症、慢性疼痛の認知行動療法とイメージの書き直し技法

○清水 栄司

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター



11:45～12:45 **教育講演2**

司会：加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニック

EL2 子ども虐待はなぜ起きるのか：行動神経科学から見た親支援の必要性

○黒田 公美

理化学研究所



13:15～14:15 **特別講演1**

司会：中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター理事

SL1 **The Maudsley Prescribing Guidelines**

○David Taylor

Director of Pharmacy and Pathology at the Maudsley Hospital and Professor of Psychopharmacology at King's College, London, UK. Editor-in-Chief of the journal Therapeutic Advances in Psychopharmacology



14:15～15:15 **教育講演3**

司会：仙波 純一 東京愛成会たかつきクリニック

EL3 **日本精神神経学会におけるCOI申告の実際：総論から各論まで**

○稲垣 中^{1,2}

¹青山学院大学教育人間科学部、²青山学院大学保健管理センター



15:30～17:30 シンポジウム25

向精神薬と自動車運転 —エビデンスの医療への実装、そして課題—

司会：吉村 玲児 産業医科大学精神医学
岩本 邦弘 名古屋大学精神科

S25-1 「向精神薬が自動車の運転技能に及ぼす影響の評価方法に関するガイドライン」の作成背景について

○中林 哲夫
独)医薬品医療機器総合機構

S25-2 抗てんかん薬の運転への影響—driving simulatorによるエビデンスの蓄積を中心に

○兼本 浩祐、佐治 木萌
愛知医科大学精神神経科

S25-3 統合失調症患者の自動車運転

○小西 勇輝
産業医科大学精神医学教室

S25-4 fNIRSを用いたドライビングシュミレーターにおける気分障害の脳機能

○岡井 公志
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S25-5 向精神薬服用中の就労者の自動車運転における課題

○池ノ内 篤子
産業医科大学精神医学教室、認知症センター

〔指定発言〕

○岩本 邦弘
名古屋大学精神科

〈メインコーディネーター〉 松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
〈サブコーディネーター〉 中林 哲夫 独) 医薬品医療機器総合機構研究支援・推進部
岩本 邦弘 名古屋大学精神科



6月22日(木) C会場(パシフィコ横浜ノース 1F G6)

8:30~10:30 シンポジウム1

日常診療で、大人の発達障害を理解し支援する

司会：青木 省三 公益財団法人慈圭会精神医学研究所
武井 明 市立旭川病院精神科

S1-1 大人の発達障害をどう理解するか

○武井 明
市立旭川病院精神科

S1-2 不安抑うつをどう支援するか

○宮崎 健祐
一般財団法人愛成会弘前愛成会病院精神科

S1-3 依存症をどう支援するか

○小林 桜児
神奈川県立精神医療センター精神科

S1-4 発達障害と精神病症状

○鷺田 健二
公益財団法人慈圭会慈圭病院

S1-5 大人の発達障害をどう支援するか

○村上 伸治
川崎医科大学精神科学教室

〈メインコーディネーター〉 青木 省三 公益財団法人慈圭会精神医学研究所
〈サブコーディネーター〉 武井 明 市立旭川病院精神科

10:45~12:45 シンポジウム9

アルコール使用障害患者を日常診療で診るために：非専門の医療スタッフでも使える短時間の簡易アプローチ

司会：齋藤 利和 社会医療法人博友会平岸病院精神医学研究所
宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

S9-1 SNAPPYプログラム ～アルコール使用障害に対するWEB上の介入ツール～

○角南 隆史
佐賀県医療センター好生館

S9-2 専門家でなくてもできる、減酒のための介入プログラム～ABCDプログラム～

○真栄里 仁¹、河合 麻衣子³、櫻井 純子⁴、角南 隆史²、白坂 知彦⁵、手塚 幸雄⁶、
長嶺 紘⁷、湯本 洋介¹、吉本 尚¹⁰、足達 淑子⁹、杠 岳文⁸

¹独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター教育情報部、²佐賀県医療センター好生館、

³東京女子医科大学病院、⁴湘南鎌倉医療大学、⁵稲沢仁会病院、⁶沖縄リハビリテーションセンター病院、

⁷トヨタ自動車株式会社、⁸独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、

⁹あだち健康行動学研究所、¹⁰筑波大学医学医療系地域総合診療医学

S9-3 外来診療を継続してもらおうコツ

○齋藤 利和
社会医療法人博友会平岸病院

S9-4 MI(動機づけ面接)超入門～患者さんのやる気を引き出す面接
～答えは患者さんが持っている！～

○小松 知己
沖縄協同病院

S9-5 SBIRTS：外来治療を受けている患者を自助グループに参加させるための技法

○白坂 知彦、常田 深雪
医療法人溪仁会手稲溪仁会病院精神保健科

〔指定発言〕

○杠 岳文
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

〈メインコーディネーター〉 白坂 知彦 医療法人溪仁会手稲溪仁会病院精神保健科
〈サブコーディネーター〉 齋藤 利和 社会医療法人博友会平岸病院精神医学研究所
宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

13:15～15:15 シンポジウム17
神経発達症の感覚現象と実践的な支援

司会：小坂 浩隆 福井大学医学部精神医学
松永 寿人 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

S17-1 聴覚科学からみた聴覚過敏

○土屋 賢治^{1,2}
¹浜松医科大学子どもこのころの発達研究センター、²大阪大学大学院連合小児発達学研究所

S17-2 自閉スペクトラム症者への嗅覚特性を考慮した支援

○熊崎 博一
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科未来メンタルヘルス学分野

S17-3 ASDの非定型的な触覚の特徴と社会性の関連

○福岡 彩加¹、北田 亮²、牧田 快²、牧野 拓也¹、小坂 浩隆¹
¹福井大学医学部精神医学、²神戸大学国際文化学研究所

S17-4 強迫症(OCD)患者に見る感覚特性～チック関連OCDを中心に～

○松永 寿人
兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

S17-5 産業精神医学における神経発達症の感覚特性支援

○今村 明
長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部



〔指定発言〕

○中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 小坂 浩隆

福井大学医学部精神医学

〈サブコーディネーター〉 中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

松永 寿人

兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

15:30～17:30 シンポジウム26

一人からでも始められる物質使用障害の治療～その多様な実践から～

司会：松本 俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

成瀬 暢也

埼玉県立精神医療センター精神科

S26-1

クリニックにおける物質使用障害に対するブリーフセラピー

○山下 悠毅

医療法人社団LIFEライフサポートクリニック

S26-2

ゼロから始めた物質使用障害の治療

○栗田 晋

医療法人優なぎ会雁の巣病院精神科

S26-3

大学病院でできる物質使用障害の治療

○常岡 俊昭

昭和大学附属鳥山病院医学部精神医学講座

S26-4

誰もが物質使用障害の治療にあたるために～茨城ダルクとの連携を中心に～

○小松崎 智恵

茨城県立こころの医療センター医局

S26-5

ゼロからはじめる依存症診療～5年目の「依存症なんでも診ます」部門立ち上げ

○佐久間 寛之

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター精神科

〔指定発言〕

○松本 俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

〈メインコーディネーター〉 成瀬 暢也

埼玉県立精神医療センター精神科

〈サブコーディネーター〉 松本 俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
薬物依存研究部

6月22日(木) D会場(パシフィコ横浜ノース 3F G303+G304)

8:30～10:30 委員会シンポジウム2 (アンチスティグマ委員会)

精神科医療スタッフとして乖離的スティグマにどう立ち向かったらよいか

司会：金井 玉奈 富士リハビリ病院精神科
小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

CS2-1 精神疾患と糖尿病に関するスティグマ：ミニレビュー

○山口 創生
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

CS2-2 がん診療における乖離的スティグマについて

○松原 敏郎、中川 伸
山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座(精神科神経科)

CS2-3 ピアサポートから学ぶこと

○田中 悟郎
長崎大学医学部保健学科

CS2-4 スティグマへのアクセプタンス&コミットメント・セラピーによるアプローチ

○津田 菜摘
同志社大学心理学部

〔指定発言〕

○小口 芳世
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

〈メインコーディネーター〉 金井 玉奈 富士リハビリ病院精神科
〈サブコーディネーター〉 小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

10:45～12:45 シンポジウム10

精神科の疾患と認知症との病態的関連性Update

司会：朴 秀賢 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

S10-1 神経発達症と認知症の関係 –主に臨床観察からの考察–

○三村 悠
慶應義塾大学病院精神神経科

S10-2 統合失調症における加齢とは

○中島 振一郎
慶應義塾大学医学部精神神経科



S10-3 うつ病と認知症の病態的関連

○品川 俊一郎
東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

S10-4 てんかんと加齢・認知症：その病態的関連性

○曾根 大地
東京慈恵会医科大学精神医学講座

S10-5 せん妄と認知症の病態的関連

○朴 秀賢
熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科
〈サブコーディネーター〉 中島 振一郎 慶應義塾大学医学部精神神経科

13:15～15:15 **委員会シンポジウム11** (男女共同参画委員会と親子・学校・女性に関する委員会の共催)
周産期の女性を支える精神科診療のあり方

司会：渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科
三原 伊保子 医療法人りぼん・りぼん三原デイケア+クリニックりぼん・りぼん

CS11-1 見逃されてきた周産期ボンディング障害

○北村 俊則
北村メンタルヘルス研究所所長

CS11-2 妊婦における妊娠中のメンタルヘルスと子どもの表情に対する認知バイアスの関連について

○田久保 陽司
東邦大学医学部精神神経医学講座

CS11-3 てんかんのある女性における包括的医療 安全な妊娠と出産のために

○原 恵子
原クリニック精神科
〈メインコーディネーター〉 渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科

15:30～17:30 **委員会シンポジウム14** (精神療法委員会)
一般診療に活かす各種精神療法—学派を超えた通院精神療法の在り方—

司会：大野 裕 大野研究所
福田 正人 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

CS14-1 認知行動療法を一般診療に活かす

○中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

CS14-2 「通院精神療法」をどのように実施するか

○中村 敬
東京慈恵会医科大学森田療法センター

CS14-3 精神分析と精神科外来診療

○池田 暁史
大正大学心理社会学部臨床心理学科

CS14-4 学派を超えた通院精神療法に関する私見－4つのキーワードを基にして

○原田 誠一
原田メンタルクリニック

〔指定発言〕

○藤山 直樹
個人開業

〈メインコーディネーター〉 池田 暁史 大正大学心理社会学部臨床心理学科
〈サブコーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学



6月22日(木) E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

8:30~10:30 シンポジウム2
今後期待されるうつ病への新規治療法について考える

司会：坪井 貴嗣 杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室
内田 裕之 慶應義塾大学病院

S2-1 ケタミン治療

○櫻井 準
杏林大学医学部精神神経科学教室

S2-2 うつ病治療に対する精神展開剤の最近の見解

○谷 英明
慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

S2-3 炎症標的新規抗うつ薬

○岩田 正明
鳥取大学医学部精神行動医学分野

S2-4 磁気けいれん療法(MST)

○鬼頭 伸輔
国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

S2-5 新たな認知行動療法で反芻思考に挑む：反芻焦点化認知行動療法

○中川 敦夫
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

〔指定発言〕

○三輪 亜梨紗
ReOPA

〈メインコーディネーター〉 坪井 貴嗣 杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室

10:45~12:45 シンポジウム11
高齢者のうつ病治療Up-to-Date

司会：三村 将 慶應義塾大学精神神経科学教室
馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院メンタルクリニック

S11-1 高齢者のうつ病の状態評価と基礎的介入

○藤瀬 昇
熊本大学保健センター

S11-2 高齢者のうつ病に対する精神療法

○忽滑谷 和孝、鮫島 大輔
東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科

S11-3 高齢者のうつ病に対する抗うつ薬による薬物療法

○伊賀 淳一
愛媛大学医学部附属病院

S11-4 第一選択薬による治療に成功しない高齢者うつ病に対する薬物療法戦略

○武島 稔^{1,2}
¹明心会柴田病院精神科、²東京医科大学精神医学分野

S11-5 高齢者のうつ病に対するニューロモデュレーション療法

○鬼頭 伸輔
国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

〈メインコーディネーター〉 馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院
メンタルクリニック

13:15～15:15 シンポジウム18
慢性疼痛

司会：白井 千恵 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科
井上 雄一 医療法人社団絹和会睡眠総合ケアクリニック代々木

S18-1 慢性疼痛とパーソナリティ、そして認知機能

○西原 真理
愛知医科大学病院

S18-2 痛覚変調性疼痛

○白井 千恵
順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科

S18-3 慢性痛診療における精神科医の役割とは —集学的治療の観点から—

○吉野 敦雄^{1,2}
¹広島大学保健管理センター、²広島大学脳・こころ・感性科学研究センター

S18-4 Restless legs症候群(RLS)の治療戦略をめぐって

○井上 雄一^{1,2}
¹東京医科大学睡眠学講座、²医療法人社団絹和会睡眠総合ケアクリニック代々木

S18-5 慢性疼痛と新型／現代型うつ

○加藤 隆弘^{1,2}、藤本 晃嗣^{3,4}、細井 昌子^{2,3,4}
¹九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²九州大学病院集学的痛みセンター、
³九州大学大学院医学研究院心身医学、⁴九州大学病院心療内科

〈メインコーディネーター〉 白井 千恵 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック科
〈サブコーディネーター〉 井上 雄一 医療法人社団絹和会睡眠総合ケアクリニック代々木



15:30～17:30 シンポジウム27

コロナ禍における若い世代の摂食障害～発症数の増加とその要因～

司会：西園マーハ 文 明治学院大学心理学部
井上 幸紀 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

S27-1 Impact of COVID-19 pandemic：摂食障害全国調査が教えてくれたこと

○井上 建
獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター

S27-2 COVID-19パンデミックによる10代の摂食障害患者の変化と診療の工夫

○原田 朋子
大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

S27-3 COVID-19による在宅時間の増加による摂食障害発症への影響

○吉内 一浩
東京大学医学部附属病院

S27-4 コロナ禍における若年者の摂食障害－精神科病院の場合

○林 公輔¹、金井 希人²、星野 大³、重田 理佐³、西園マーハ 文⁴
¹学習院大学文学部心理学科、²オリブ山病院、³特定医療法人群馬会群馬病院、⁴明治学院大学

〈メインコーディネーター〉 井上 幸紀 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学
〈サブコーディネーター〉 西園マーハ 文 明治学院大学心理学部

6月22日(木) F会場(パシフィコ横浜ノース 3F G312+G313)

8:30～10:30 シンポジウム3

ミスマッチ陰性電位の精神疾患におけるバイオマーカー応用

司会：矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S3-1 聴覚シナプス可塑性とミスマッチ陰性電位

○志賀 哲也^{1,2}、上田 由佳²、斎藤 智樹²、丹治 良²、平山 緑香²、羽金 裕也²、森 湧平²、戸田 亘²、落合 晴香²、星野 大²、菅野 和子²、堀越 翔²、三浦 至²、矢部 博興²
¹福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座、²福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

S3-2 統合失調症の早期段階におけるtranslatable brain markerとしてのミスマッチ陰性電位

○切原 賢治^{1,2}、多田 真理子^{2,3}、越山 太輔²、藤岡 真生²、白井 香²、西村 亮一²、荒木 剛^{2,4}、國井 尚人⁵、宇賀 貴紀⁶、笠井 清登²
¹東京大学バリアフリー支援室、²東京大学医学部附属病院精神神経科、³東京大学相談支援研究開発センター精神保健支援室、⁴帝京大学医学部附属溝口病院精神科、⁵東京大学医学部附属病院脳神経外科、⁶山梨大学大学院総合研究部医学域基礎医学系生理学講座統合生理学

S3-3 早期サイコーシスにおけるミスマッチ陰性電位を用いた予後予測

○樋口 悠子^{1,2,3}、住吉 太幹^{3,4}、立野 貴大^{1,2}、中島 英^{1,2}、金子 直史^{1,2}、水上 祐子¹、赤崎 有紀子¹、笹林 大樹^{1,2}、高橋 努^{1,2}、辻井 農五⁵、鈴木 道雄^{1,2}
¹富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、²富山大学アイドリッグ脳科学研究センター、³国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部、⁴国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部、⁵富山大学こどものこころと発達診療学講座

S3-4 注意欠如・多動症の薬物療法におけるミスマッチ陰性電位の臨床応用

○太田 豊作
奈良県立医科大学医学部看護学科人間発達学

〈メインコーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
〈サブコーディネーター〉 住吉 太幹 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
志賀 哲也 福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座

10:45～12:45 Fellowship Award Symposium 1 (国際委員会)

～Roles of psychiatrists in emergency medical services(救急医療における精神科医の役割)～

司会：伊井 俊貴 愛知医科大学病院

FAS1-1 When being a "psychiatric patient" creates a stigma in emergency room - experiences from Poland

○Gniewko Wieckiewicz
Department of Psychiatry, Faculty of Medical Sciences in Zabrze, Medical University of Silesia, Poland



FAS1-2 The role of psychiatrists in treating repeated self-harm at emergency departments

○Wei-Chen Huang

Tsaotun Psychiatric Center, Ministry of Health and Welfare, Taiwan

FAS1-3 Current status of psychiatry in emergency medical services in India: a scoping review

○Ananya Mahapatra

Dr. Baba Saheb Ambedkar Hospital and Medical College, New Delhi, India

FAS1-4 Importance of collaboration between psychiatrists and emergency physicians

○Hidehito Miyazaki

Yokohama City University Medical Center, Japan

〈メインコーディネーター〉 伊井 俊貴 愛知医科大学病院
〈サブコーディネーター〉 秋山 剛 NTT 東日本関東病院

13:15~15:15 **Fellowship Award Symposium 2 (国際委員会)**
~Roles of psychiatrists in emergency medical services(救急医療における精神科医の役割)~

司会：青木 藍 国立成育医療センター研究所政策科学研究部

FAS2-1 Improving assessment and care of anxiety in the emergency setting

○Fredrik Wikstrom

Department Molecular Medicine and Surgery, Karolinska Institute / Center for Molecular Medicine, Karolinska University Hospital, Sweden

FAS2-2 Catatonia: The Territory Where Psychiatry Merges Imperceptibly with Emergency Medical Service. A Perspective From Psychiatrist

○Chanatip Tongyonk

Prasimahabodhi Psychiatric Institute, Thailand

FAS2-3 A preliminary survey of roles of psychiatrists in emergency medical services of public hospitals in Indonesia

○Ekachaeryanti Zain

Department of Psychiatry, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Japan

FAS2-4 Cooperation with Emergency Physicians to Rescue Psychiatric Patients Visiting ER in Japan

○Mizuo Hoshino

Department of Mental Health, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Japan

〈メインコーディネーター〉 伊井 俊貴 愛知医科大学病院
〈サブコーディネーター〉 秋山 剛 NTT 東日本関東病院

15:30～17:30 **Fellowship Award Symposium 3 (国際委員会)**

～Roles of psychiatrists in emergency medical services(救急医療における精神科医の役割)～

司会：白坂 知彦 手稲溪仁会病院

FAS3-1 Psychiatric Emergency Services in Turkey: Overview, Challenges and Prospects

○Yasin Hasan Balcioglu

Bakirkoy Prof. Mazhar Osman Training and Research Hospital for Psychiatry, Neurology and Neurosurgery, Turkey

FAS3-2 Action, Collaboration and Transformation: Psychiatric Borders in Emergency Medical Services

○Raman Marwaha

Psychiatry, Case Western Reserve University MetroHealth System, U.S.A.

FAS3-3 A Deeper Sight of Collaboration in the Heart of Medicine

○Venus Vatankhah

Psychosomatic Medicine Research Center, Imam Khomeini Hospital, Tehran University of Medical Sciences, Iran

FAS3-4 Psychiatry-related issues in emergency medical services

○Ryo Kawagishi

Chiba Psychiatric Medical Center, Japan

〈メインコーディネーター〉 伊井 俊貴 愛知医科大学病院

〈サブコーディネーター〉 秋山 剛 NTT 東日本関東病院



6月22日(木) G会場(パシフィコ横浜ノース 3F G314+G315)

8:30~10:30 シンポジウム4

ポスト・コロナ時代における精神医学教育と精神科診療

司会：中川 伸 山口大学医学部精神科神経科
中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S4-1 ポストコロナ時代へ向けた大学におけるデジタル化への模索

○中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

S4-2 COVID-19禍で明らかになった臨床実習の問題点とプリンシパル・エージェント理論に基づいた改善の取り組み

○亀谷 仁郁、宮岸 良彰、坪本 真、内藤 暢茂、佐野 滋彦、奥田 丈士、菊知 充
金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学

S4-3 オンラインを用いた診療ガイドライン講習会

○稲田 健
北里大学医学部精神科学

S4-4 コロナ禍で生きる人々を精神科医として支援する

○大江 美佐里、松岡 美智子、小曾根 基裕
久留米大学医学部精神神経科

〔指定発言〕

○福田 正人
群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

〈メインコーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
〈サブコーディネーター〉 中川 伸 山口大学医学部精神科神経科

10:45~12:45 シンポジウム12

死別の精神医学

司会：藤澤 大介 慶應義塾大学医学部医療安全管理部／精神・神経科
明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

S12-1 死別後症状の精神医学的診断：うつ病、遷延性悲嘆障害

○岡村 優子
国立がん研究センターがん対策研究所支持・サバイバーシップTR研究部

S12-2 死別後うつ病、複雑性悲嘆の治療：遺族ケアガイドラインより

○倉田 明子
広島大学病院精神科／緩和ケアチーム

S12-3 遷延性悲嘆症(PGD)の治療 –PGDTの日本人遺族への導入の課題–

○中島 聡美
武蔵野大学人間科学部

S12-4 遺族のうつ病に対する対人関係療法の応用

○利重 裕子
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

〈メインコーディネーター〉 明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

13:15～15:15 シンポジウム19

あるがままとマインドフルネスの間－東洋と西洋の精神療法の相違－

司会： 館野 歩 東京慈恵会科大学附属病院精神医学講座
小野 和哉 聖マリアンナ医科大学神経精神科

S19-1 弁証法的行動療法の特性と展開

○小野 和哉
聖マリアンナ医科大学病院

S19-2 マインドフルネス心理療法の概略と展開

○藤澤 大介
慶應義塾大学医学部医療安全管理部／精神・神経科

S19-3 マインドフル・セルフ・コンパッションの概要と展望

○岸本 早苗
京都大学大学院医学研究科、健康増進・行動学分野

S19-4 森田療法の治療対象、精神病理仮説、介入方法、治療目標

○館野 歩
東京慈恵会医科大学精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 館野 歩 東京慈恵会科大学附属病院精神医学講座
〈サブコーディネーター〉 小野 和哉 聖マリアンナ医科大学神経精神科



15:30~17:30 シンポジウム28

現代のcommon diseaseとしての不安障害～その正常と病的の境界とは

司会：松永 寿人 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座
塩入 俊樹 岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S28-1 現代の不安とcommon diseaseとしてのパニック症・パニック発作

○塩入 俊樹
岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S28-2 現代のcommon diseaseとしての社交不安症

○朝倉 聡
北海道大学保健センター・大学院医学研究院精神医学教室

S28-3 Common diseaseとしての全般不安症(GAD)

○大坪 天平
東京女子医科大学附属足立医療センター精神科

S28-4 ありふれた精神疾患としてのPTSD

○金 吉晴
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

S28-5 現代のcommon diseaseとしての強迫症～その正常と病的の境界とは

○松永 寿人
兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

〈メインコーディネーター〉 松永 寿人 兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

6月22日(木) H会場(パシフィコ横浜ノース 3F G316+G317)

8:30～10:30 シンポジウム5 精神療法と治癒像

司会：新村 秀人 大正大学心理社会学部
北西 憲二 森田療法研究所、北西クリニック

S5-1 「あるがまま」は精神療法の普遍的な治癒像になり得るか？

○田所 重紀
札幌医科大学附属病院

S5-2 フロイト精神分析における治癒像：「死の欲動」を抱えること

○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S5-3 分析心理学における治癒イメージ

○林 公輔
学習院大学文学部心理学科

S5-4 森田療法の治癒像

○新村 秀人^{1,2}
¹大正大学心理社会学部、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〔指定発言〕

○北西 憲二
森田療法研究所、北西クリニック

〈メインコーディネーター〉 新村 秀人 大正大学心理社会学部
〈サブコーディネーター〉 北西 憲二 森田療法研究所、北西クリニック

10:45～12:45 シンポジウム13

精神疾患におけるヒューマノイドロボットを用いた支援の現状と今後の課題

司会：村松 太郎 慶應義塾大学医学部精神神経科
松本 吉央 国立研究開発法人産業技術総合研究所

S13-1 発達障害診療におけるロボット支援の可能性

○熊崎 博一
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科未来メンタルヘルス学分野

S13-2 診療支援を目指したコミュニケーションロボットの開発

○吉川 雄一郎
大阪大学大学院基礎工学研究科



S13-3 ひきこもり早期支援のためのコミュニケーションロボットによる診断評価法の開発

○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S13-4 ロボットとの触れ合いや対話を通じたメンタルヘルスサポートへの取り組み

○塩見 昌裕
株式会社国際電気通信基礎技術研究所インタラクシヨ科学研究所

S13-5 発達障害など児童精神疾患に対してのヒューマノイドロボットを用いた支援と子供の発達過程とのかかわり

○宮尾 益知
どんぐり発達クリニック

〔指定発言〕

○寺田 和憲
岐阜大学工学部

〔指定発言〕

○大野 裕
大野研究所

〈メインコーディネーター〉 熊崎 博一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
未来メンタルヘルス学分野

〈サブコーディネーター〉 加藤 隆弘 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
吉川 雄一郎 大阪大学大学院基礎工学研究科

13:15～15:15 委員会シンポジウム12 (司法精神医学委員会)

統合失調症事例の刑事精神鑑定

司会：五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門
川崎 弘詔 福岡大学医学部

CS12-1 統合失調症の精神鑑定：典型例のピットフォール

○安藤 久美子
聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

CS12-2 統合失調症に罹患した人の責任能力
－病的体験に影響され自殺目的で放火に至った事例を通じて－

○山口 大樹
東邦大学医学部精神神経医学講座

CS12-3 統合失調症の刑事精神鑑定－供述が変遷したことで「責任能力」が裁判員裁判の争点になった事例－

○赤崎 安昭
鹿児島大学医学部保健学科

CS12-4 統合失調症事例の精神鑑定－未治療のケース－

○太田 順一郎

岡山市こころの健康センター

〈メインコーディネーター〉 五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法
システム研究部門

15:30～17:30 シンポジウム29

わが国における認知症の疫学研究の最前線

司会：小原 知之 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S29-1 脳萎縮および白質病変が認知症発症に及ぼす影響：久山町研究

○中澤 太郎^{1,2}、小原 知之^{1,2}、二宮 利治²

¹九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野

S29-2 荒川区コホート研究の最新知見

○文 鐘玉¹、新村 秀人¹、喜田 恒^{1,2}、色本 涼^{1,3}、三村 将¹

¹慶應義塾大学医学部精神神経科、²社会医療法人あさかホスピタル、

³慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター

S29-3 愛媛県中山町における認知症の疫学研究

○伊賀 淳一

愛媛大学医学部附属病院

S29-4 身体的フレイル及び食品・栄養と脳萎縮・大脳白質病変との関連

○篠原 もえ子、小野 賢二郎

金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科

〈メインコーディネーター〉 小原 知之 九州大学大学院医学研究院精神病態医学



6月22日(木) |会場(パシフィコ横浜ノース 3F G318+G319)

8:30~10:30 **委員会シンポジウム3** (男女共同参画委員会; 災害支援委員会)
災害における精神症状・心理状態についてのジェンダー観点からの検討

司会：奥山 純子 東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科
高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

CS3-1 長期化したCOVID-19 パンデミックが日本にもたらした心理的影響についての縦断的研究

○門廻 充待¹、奥山 純子²
¹東北大学災害科学国際研究所、²東北大学病院

CS3-2 日本におけるセクシャルマイノリティの方々の災害時の課題

○北村 美和子
東北大学災害科学国際研究所

CS3-3 抑うつ気分やストレス改善のためのスマートフォンアプリを用いた取り組み

○本川 智紀¹、加藤 朋美¹、奥山 純子²、門廻 充待³
¹ポーラ化成工業株式会社、²東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科、
³東北大学災害科学国際研究所
〈メインコーディネーター〉 奥山 純子 東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科
〈サブコーディネーター〉 高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

10:45~12:45 **委員会シンポジウム7** (心理職に関する委員会)
公認心理師法施行5年を振り返って

司会：阿部 恵一郎 あべクリニック
中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

CS7-1 心理職の制度で何が変わったか

○阿部 恵一郎
あべクリニック

CS7-2 誰のための、何のための公認心理師か？

○下山 晴彦
跡見学園女子大学心理学部

CS7-3 大学および大学院における公認心理師を目指す学生への教育の課題

○宮岡 佳子
跡見学園女子大学心理学部臨床心理学科

CS7-4 公認心理師法施行5年を振り返って～精神科病院の現場から

○林 道彦
医療法人社団うら梅の郷会朝倉記念病院

〔指定発言〕

○佐藤 忠彦

社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会桜ヶ丘記念病院

〈メインコーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〈サブコーディネーター〉 阿部 恵一郎 あべクリニック

13:15～15:15 シンポジウム20

これからの精神医学に求められるものとは？ ポジティブ精神医学の活用

司会：佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
須賀 英道 龍谷大学短期大学部

S20-1 精神的健康の新たなパラダイムー病気(illness)モデルからIllness-Wellbeing Dual Continuum モデルへ

○中川 敦夫

聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S20-2 リカバリーを目指す認知療法がもたらす新たな精神科医療の展望

○耕野 敏樹

岡山県精神科医療センター医局

S20-3 スポーツ・運動とメンタルヘルスーこころの健康に与えるポジティブな影響ー

○関崎 亮^{1,2,3}

¹東邦大学、²株式会社Welcometotalk、³学校法人桐丘学園

S20-4 職域におけるポジティブメンタルヘルスの推進

○田中 克俊

北里大学大学院医療系研究科医学専攻産業精神保健学

〔指定発言〕

○大野 裕

大野研究所

〈メインコーディネーター〉 須賀 英道 龍谷大学短期大学部

〈サブコーディネーター〉 大野 裕 大野研究所



15:30~17:30 シンポジウム30

心拍変動自律神経バイオマーカー：工学と精神医学のクロストーク

司会：榛葉 俊一 静岡済生会総合病院精神科
松井 岳巳 東京都立大学システムデザイン研究科

S30-1 生体リズム・ゆらぎと精神疾患：心拍変動、皮膚コンダクタンス、脳波を用いた解析

○榛葉 俊一
静岡済生会総合病院精神科

S30-2 生体リズム・ゆらぎの複雑性と臨床的意義

○清野 健
大阪大学大学院基礎工学研究科

S30-3 ウェアラブルモニターによるうつ状態患者を対象とした活動量と心拍変動の同時計測

○功刀 浩^{1,2}、小松 陽子³、篠崎 亮⁴
¹帝京大学医学部精神神経科学講座、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
³東洋紡(株)総合研究所快適性工学センター、⁴ユニオンツール(株)開発部

S30-4 レビー小体病における自律神経障害に対する心拍変動の応用：起立性低血圧の発生予測

○角 幸頼、角谷 寛
滋賀医科大学精神医学講座

S30-5 精神負荷に対する自律神経応答を用いた統合失調症・うつ病スクリーニング法の検討

○松井 岳巳
東京都立大学システムデザイン研究科

〈メインコーディネーター〉 榛葉 俊一 静岡済生会総合病院精神科

6月22日(木) J会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

8:30～10:30 シンポジウム6

周産期メンタルヘルス～今後の発展すべき方向性とは～

司会：竹内 崇 東京医科歯科大学病院精神科
渡邊 博幸 学而会木村病院

S6-1 健やかな親子関係を醸成するために

○倉澤 健太郎
横浜市立大学産婦人科

S6-2 ガイドラインから読み解く精神疾患を有する女性の妊娠・出産と向精神薬

○根本 清貴
筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

S6-3 子ども虐待に至る親の精神病理 周産期からのアセスメントとマネージメント

○高橋 知久
自衛隊中央病院精神科

S6-4 コンセンサスガイドを起点とした周産期心理療法の発展を願って

○南 房香^{1,2,3}、横山 知加⁴、宮崎 弘美⁵、相川 祐里⁶、榎原 雅代³、雨宮 怜⁷
¹慶應義塾大学病院／慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、
²医療法人和楽会心療内科・神経科赤坂クリニック、³医療法人学而会木村病院、
⁴国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、⁵東京医科歯科大学、
⁶済生会横浜市東部病院、⁷筑波大学体育系

S6-5 周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド改訂版に関連して ～チーム医療から心理職を考える～

○相川 祐里
社会福祉法人恩賜財団神奈川県済生会横浜市東部病院こころのケアセンター心理室

〈メインコーディネーター〉 竹内 崇 東京医科歯科大学病院精神科
〈サブコーディネーター〉 渡邊 博幸 学而会木村病院

10:45～12:45 シンポジウム14

多機能型精神科診療所での外来医療の機能強化と地域包括ケア ～療養生活継続支援加算新設を機会に考える～

司会：三家 英明 医療法人三家クリニック
窪田 彰 医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック

S14-1 多機能型精神科診療所での外来医療の機能強化と地域包括ケア

○三家 英明
医療法人三家クリニック



S14-2 地域生活全般に関与する多機能型精神科診療所

○大嶋 正浩
医療法人社団至空会メンタルクリニック・ダダ

S14-3 院内多職種協働から広域連携まで一触法行為を繰り返す人への支援

○長谷川 直実
医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック

S14-4 開業時から始めるライトな多機能型診療所 –アウトリーチと地域連携の実践–

○大鶴 卓
琉球こころのクリニック

〔指定発言〕

○名雪 和美
厚生労働省社会援護局障害保健福祉部精神・障害保健課

〈メインコーディネーター〉 三家 英明 医療法人三家クリニック
〈サブコーディネーター〉 窪田 彰 医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック

13:15~15:15 委員会シンポジウム13 (認知症委員会)
認知症者の経済的支援

司会：数井 裕光 高知大学医学部神経精神科学講座
森村 安史 一般財団法人仁明会仁明会病院

CS13-1 若年性認知症に対する経済的支援と就労支援

○駒井 由起子
東京都若年性認知症総合支援センター

CS13-2 成年後見制度と認知症

○井藤 佳恵
東京都健康長寿医療センター研究所福祉と生活ケア研究チーム

CS13-3 認知機能低下が認知症者の経済活動や財産管理能力に与える影響

○松田 修
上智大学総合人間科学部・心理学科

CS13-4 認知症保険の業界動向と医師が注意すべき課題

○内田 隆
株式会社リスクマネジメント・ラボラトリー代表取締役

〈メインコーディネーター〉 数井 裕光 高知大学医学部神経精神科学講座
〈サブコーディネーター〉 井藤 佳恵 東京都健康長寿医療センター研究所福祉と生活ケア研究チーム

15:30～17:30 シンポジウム31

治療失敗リスクを下げる精神病性障害急性期の治療方略

司会：八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック
杉山 直也 公益財団法人復康会沼津中央病院

S31-1 救急急性期の現場における抗精神病薬選択：
精神科救急医療ガイドライン2022年版から

○八田 耕太郎
順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック

S31-2 抗精神病薬持効性注射製剤の次の課題：ブレイクスルー精神病にどう対応するか？

○嶽北 佳輝
関西医科大学精神神経科

S31-3 やむを得ず開始した抗精神病薬併用をどうするか：ドパミン過感受性精神病の視点から

○伊豫 雅臣^{1,2}
¹千葉大学大学院医学研究院精神医学、²千葉大学社会精神保健教育研究センター

S31-4 精神病性障害急性期におけるECTの使いどころ

○野田 隆政
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈メインコーディネーター〉 八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック
〈サブコーディネーター〉 杉山 直也 公益財団法人復康会沼津中央病院



6月22日(木) K会場(パシフィコ横浜ノース 4F G402)

8:30~10:30 シンポジウム7

「精神神経医学」を再考する：精神医学と神経医学のボーダーランド

司会：曾根 大地 東京慈恵会医科大学精神医学講座
品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

S7-1 精神医学と神経医学のボーダーランド：てんかんと精神神経医学

○曾根 大地
東京慈恵会医科大学精神医学講座

S7-2 認知症領域とBPSDにおける精神神経医学

○品川 俊一郎
東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

S7-3 多発性硬化症における高次脳機能障害

○藤盛 寿一
東北医科薬科大学病院脳神経内科

S7-4 神経病理学からみた精神神経医学

○高尾 昌樹
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〔指定発言〕

○兼本 浩祐
愛知医科大学精神神経科精神神経科

〈メインコーディネーター〉 曾根 大地 東京慈恵会医科大学精神医学講座
〈サブコーディネーター〉 品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科
兼本 浩祐 愛知医科大学精神神経科精神神経科

10:45~12:45 シンポジウム15

自己免疫性疾患/脳炎・脳症と精神症状

司会：神林 崇 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構／茨城県立こころの医療センター
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

S15-1 認知症および様々な神経変性疾患との鑑別を要する自己免疫性脳炎

○田中 恵子^{1,2}、川村 名子¹、崎村 建司¹、阿部 学¹
¹新潟大学脳研究所モデル動物開発分野、²福島県立医科大学多発性硬化症治療学講座

S15-2 自己免疫性精神病：診断は治療に繋がるか

○高木 学
岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学

S15-3 自己免疫疾患に伴う精神神経症状について 自己免疫性精神病の観点から

○千葉 悠平¹、阿部 紀絵²、服部 早紀²、伊倉 崇浩²、斎藤 知之⁶、勝瀬 大海²、須田 颯²、藤城 弘樹³、高橋 幸利⁴、西野 精治⁵、菱本 明豊²

¹積愛会横浜舞岡病院精神科、²公立大学法人横浜市立大学附属病院精神科、

³名古屋大学医学部附属病院、⁴静岡てんかん・神経医療センター、

⁵スタンフォード大学医学部精神医学、⁶誠心会よりどころメンタルクリニック横浜西口

S15-4 自己免疫性脳炎/脳症と精神科臨床

○筒井 幸^{1,2,3}、大森 佑貴⁴、神林 崇^{5,6}、加藤 倫紀¹、嵯峨 佑史¹、三島 和夫³、清水 徹男⁷、加藤 征夫¹、田中 恵子⁸

¹医療法人祐愛会加藤病院精神科、²平鹿総合病院心療センター、³秋田大学医学部附属病院、

⁴東京都健康長寿医療センター、⁵茨城県立こころの医療センター、

⁶筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、⁷秋田県精神保健福祉センター、

⁸新潟大学脳研究所モデル動物開発分野

〈メインコーディネーター〉 神林 崇 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構/
茨城県立こころの医療センター

〈サブコーディネーター〉 高木 学 岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学教室
来住 由樹 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

13:15～15:15 シンポジウム21

依存症調査研究事業の成果紹介

司会：木村 充 国立病院機構久里浜医療センター精神科

松本 俊彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

S21-1 薬物事犯者における保護観察対象者のコホート研究～Voice Bridges Project～

○宇佐美 貴士¹、熊倉 陽介²、高野 歩³、金澤 由佳⁴、堤 史織⁵、松本 俊彦⁵

¹北九州市立精神保健福祉センター、²東京大学医学部附属病院、

³東京医科歯科大学大学院精神保健看護学分野、⁴成城大学治療の司法研究センター、

⁵国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S21-2 覚醒剤事犯者の理解とサポート：法務省法務総合研究所との共同研究

○嶋根 卓也¹、高橋 哲^{1,2}、近藤 あゆみ¹、大伴 真理恵³、小林 美智子⁴、秋田 悠希⁵、竹下 賀子⁶、松本 俊彦¹

¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²お茶の水女子大学生活科学部、

³東京拘置所、⁴名古屋矯正管区、⁵法務省法務総合研究所、⁶富山少年鑑別支所

S21-3 全国依存症専門医療機関を受診するアルコール依存症の実態UPDATE：
多施設共同研究による12ヵ月予後調査から

○新田 千枝

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター臨床研究部

S21-4 ギャンブル実態調査～ギャンブル障害の有病率と相談機関における対応について～

○松下 幸生、新田 千枝、柴崎 萌未、西村 光太郎、松崎 尊信、樋口 進

国立病院機構久里浜医療センター精神科



〔指定発言〕

○樋口 進

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科

〔指定発言〕

○成瀬 暢也

埼玉県立精神医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 松下 幸生

国立病院機構久里浜医療センター精神科

〈サブコーディネーター〉 松本 俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
薬物依存研究部

15:30～17:30 **委員会シンポジウム15** (ECT・rTMS等検討委員会)

rTMS療法の普及に向けた課題

司会：高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
水野 雅文 東京都立松沢病院

CS15-1 うつ病に対するrTMS保険診療の実施状況に関するアンケート調査

○高橋 隼¹、野田 賀大²

¹大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、²慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

CS15-2 TMS療法関連データベース・レジストリ構築に関する研究での取り組み

○野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

CS15-3 市販後使用成績調査(PMS)から見てきたわが国のrTMS療法の実態

○中村 元昭^{1,2}

¹昭和大学発達障害医療研究所、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

CS15-4 rTMS適正使用指針の改訂

○鬼頭 伸輔

国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

〔指定発言〕

○中田 勝己

厚生労働省保険局医療課

〔指定発言〕

○三村 將

慶應義塾大学精神神経科学教室

〈メインコーディネーター〉 鬼頭 伸輔

国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

〈サブコーディネーター〉 中村 元昭

昭和大学発達障害医療研究所

野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

6月22日(木) L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

8:30～10:10 **ワークショップ1** (男女共同参画委員会)

精神科診療における男女差を深掘りしてみよう ～疾患における男女差と治療者の男女差について～

司会：平山 太日子 名古屋市精神保健福祉センター精神保健福祉施策推進参与
梅田 寿美代 住友病院メンタルヘルス科

WS1 <講演者> 山田 敦朗 名古屋市立大学病院
榎戸 芙佐子 医療法人社団和敬会谷野呉山病院医局
<メインコーディネーター> 榎戸 芙佐子 医療法人社団和敬会谷野呉山病院医局
<サブコーディネーター> 安川 節子 熊本ファミリーメンタルクリニック

10:45～12:25 **ワークショップ2** (児童精神科医療委員会)

児童精神科医療入門：新シリーズ(6)子どもの精神医学における治療論－技法・その2

司会：松本 英夫 医療法人丹沢病院
岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部

WS2 <講演者> 小野 和哉 聖マリアンナ医科大学神経精神科
榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野
中土井 芳弘 独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの
医療センター児童精神科
佐々木 剛 千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部
<メインコーディネーター> 岡田 俊 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
知的・発達障害研究部
<サブコーディネーター> 松本 英夫 医療法人丹沢病院

13:15～14:55 **ワークショップ3** (性別不合に関する委員会)

性別不合/性別違和に対するガイドラインに準拠した診療 ～医療チームと身体的治療適応判定会議の構築～

司会：織田 裕行 医療法人桐葉会きじまこころクリニック
今井 伸 総合病院聖隷浜松病院

WS3 <講演者> 織田 裕行 医療法人桐葉会きじまこころクリニック
阿部 恵一郎 あべクリニック
今井 伸 総合病院聖隷浜松病院
百澤 明 山梨大学医学部附属病院
<メインコーディネーター> 織田 裕行 医療法人桐葉会きじまこころクリニック



15:30～17:10 **ワークショップ4** (司法精神医学委員会)

統合失調症とパーソナリティ障害との鑑別が難しい精神鑑定事例

司会：田口 寿子 神奈川県立精神医療センター
村松 太郎 慶應義塾大学医学部精神神経科

WS4

〈講演者〉

五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法
システム研究部門
今井 淳司 東京都立松沢病院
吉岡 真吾 愛知県精神医療センター
柏木 宏子 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈メインコーディネーター〉 五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法
システム研究部門

6月22日(木) M会場(パシフィコ横浜ノース 4F G411)

8:30～9:42 一般演題(口演) 1
気分(感情)障害、その他(1)

司会：山内 直人 心の風クリニック千葉

1-01-1 精神科と心療内科の違いが一目で分かる図ー精神科における症状説明の図表ー

○田中 宏明

医療法人誠之会氏家病院精神科心療内科

1-01-2 うつ病患者のリワーク後の就労継続について

○松下 満彦^{1,2}、徳永 雄一郎¹、後藤 玲央²、杉本 浩利¹

¹医療法人新光会不知火病院精神科、²福岡大学医学部精神医学教室

1-01-3 ADHDの特性を併発するうつ病患者に対する認知行動療法の実践

○野田 祥子¹、加藤 典子^{1,2}、片山 奈理子¹、中川 敦夫^{1,3}、三村 将¹

¹慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、

²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、

³聖マリアンナ医科大学神経精神科

1-01-4 双極性障害に対する短期集団心理教育プログラム参加者の長期的な服薬アドヒアランスに関連する要因について

○岡崎 智行^{1,2}、中津 啓吾¹、浅岡 聡¹、岡村 仁²

¹医療法人社団更生会草津病院、²広島大学大学院医系科学研究科精神機能制御科学研究室

1-01-5 Aripiprazoleによりakathisiaが生じた双極性障害患者にLurasidone追加でうつ状態とアカシジアが改善した例

○井上 悟

医療法人社団優仁会鈴木神経科病院

1-01-6 向精神薬多剤処方に関する診療報酬改定が気分障害患者の処方に与えた影響：DPCデータによる分割時系列解析

○山崎 龍一¹、大邊 寛幸²、松田 勇紀¹、繁田 雅弘¹、鬼頭 伸輔^{1,3}

¹東京慈恵会医科大学精神医学講座、

²東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻臨床疫学・経済学分野、

³国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部



9:42~10:42 一般演題(口演)3
気分(感情)障害、その他(2)

司会：山本 賢司 東海大学医学部総合診療学系精神科学

1-03-1 受動的データソースによるうつ病スクリーニングのためのデジタルフェノタイピングの比較研究

○呂 天元
東京大学医学系研究科医学博士課程

1-03-2 Effect of duloxetine on plasma VEGF levels in first-episode, drug-naive major depression

○吉村 玲児、岡本 直通、池ノ内 篤子
産業医科大学精神医学

1-03-3 治療抵抗性うつ病における血漿中SITH-1抗体価と抑うつ症状との関連

○小高 文聰¹、山崎 龍一¹、岡 直美²、石井 梓²、石井 洵平¹、松田 勇紀¹、鬼頭 伸輔^{1,3}、近藤 一博²、繁田 雅弘¹
¹東京慈恵会医科大学精神医学講座、²東京慈恵会医科大学ウイルス学講座、³国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

1-03-4 双極性障害における体細胞変異の役割

○西岡 将基^{1,2}、高山 順⁴、酒井 直美^{1,3}、数野 安亜³、石渡 みずほ^{1,3}、林 順子³、早馬 俊⁵、藤井 久彌子⁶、染矢 俊幸⁷、栗山 進一⁴、田宮 元⁴、高田 篤³、加藤 忠史^{1,2,3}
¹順天堂大学・医学部・精神医学講座、²順天堂大学・医学部・気分障害分子病態学講座、³理化学研究所・脳神経科学研究センター、⁴東北大学・東北メディカル・メガバンク機構、⁵医療法人南山会・横浜メンタルクリニック戸塚、⁶滋賀医科大学・医学部・精神医学講座、⁷新潟大学・医学部・精神医学教室

1-03-5 統合失調症スペクトラム障害における網膜異常と精神症状の重症度との関連性：メタ解析による知見

○小松 浩¹、小野口 豪²、矢花 武史³、富田 博秋^{1,2}
¹東北大学病院精神科、²東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、³東北大学医学部眼科学教室

10:45~11:45 一般演題(口演)5
統合失調症(1)

司会：根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座・社会実装精神医学講座

1-05-1 メタ認知トレーニングの治療効果の複数のメタ解析に対するメタ解析様の比較検討

○宮田 淳¹、田近 亜蘭²、村井 俊哉¹
¹京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室、²京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康要因学講座健康増進・行動学

1-05-2 単科精神科病院におけるリカバリーを目指す認知療法(Recovery-Oriented Cognitive Therapy)普及の取り組み

○耕野 敏樹、佐藤 康治郎
岡山県精神科医療センター医局

1-05-3 統合失調症の社会認知機能障害に対する経頭蓋直流刺激の効果と性差

○山田 悠至¹、末吉 一貴²、横井 優磨³、稲川 拓磨⁴、平林 直次¹、白間 綾²、住吉 太幹²
¹国立精神・神経医療研究センター病院司法精神診療部、
²国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部、
³国立精神・神経医療研究センター病院教育研修部、
⁴国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

1-05-4 統合失調症家族心理教育に参加した親のEEと悩みの関係について
-3地域のデータから

○渡部 和成
医療法人崇徳会田宮病院精神科

1-05-5 急性期の統合失調症において、抗精神病薬の短期間の中止は症状を悪化させるか？

○竹内 啓善¹、渡部 恵²
¹慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、²住友ファーマ株式会社・開発本部

11:45～12:45 一般演題（口演）7
統合失調症(2)

司会：木村 大 学而会木村病院

1-07-1 10年以上の長期入院からGH退院に至ったASD合併統合失調症男性の一例

○沖野 慎治
復光会総武病院精神科

1-07-2 ADOS-2による統合失調症と自閉スペクトラム症間の症状評価の検討

○中村 暖、花輪 洋一、岩見 有里子、長塚 雄大、鈴木 洋久、青柳 啓介、佐賀 信之、
音羽 健司、岩波 明
昭和大学附属烏山病院精神科

1-07-3 統合失調症におけるバソプレシン系システムの検討

○山崎 史暁¹、仲田 祐介¹、金原 信久²、宮澤 惇宏³、廣瀬 祐紀¹、小田 靖典¹、
新津 富央¹、伊豫 雅臣¹
¹千葉大学医学部附属病院精神神経科、²千葉大学医学部社会精神保健教育研究センター、
³社会医療法人社団同仁会木更津病院

1-07-4 クロザピン誘発性の薬剤性肺炎による投与中止後に、緩徐増量によりクロザピン
再投与に成功した一例

○菊地 佑樹¹、小松 浩²、佐久間 篤²、谷藤 弘淳³、富田 博秋⁴
¹こだまホスピタル精神科、²東北大学病院精神科、³こだまホスピタル薬剤部、
⁴東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野



1-O7-5 衝動的な過量服薬のためにクロザピンの血中濃度が3108ng/mlという異常高値を示した一例

○木田 直也¹、前田 佑樹¹、村上 優³、中原 辰雄²、橋本 喜次郎²

¹国立病院機構琉球病院精神科、²独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、

³独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター

13:15~14:03 専攻医・初期研修医・学部学生演題（口演）1
若手チャレンジ口演（1）

司会：仲田 祐介 千葉大学大学院医学研究院精神医学

1-KO1-1 高齢患者における抗精神病薬持続性注射製剤(LAI)の使用実態

○武井 真人、三澤 史斉

地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院精神科

1-KO1-2 大学病院における「遅発性ジスキネジア」の有病率調査

○亀井 洸介、伊藤 隆仁、藤田 貢平、森 康浩

愛知医科大学精神神経科

1-KO1-3 Clozapineによる劇症肝炎の経験

○福森 崇之、野村 憲一、滝澤 弘規、本村 啓介、佐久間 寛之、村上 優

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター精神科

1-KO1-4 当院における治療抵抗性統合失調症患者71例に対するclozapineの使用の検討

○福森 崇之、石丸 直樹、山下 健、小川 太郎、熊谷 航一郎、下村 拓也、岡田 俊也、

滝澤 弘規、田地 枝理、市村 遥、鈴木 順美、苗田 洋生、浅見 友美子、田村 洋子、

野村 憲一、高橋 有紀子、佐久間 寛之、本村 啓介、村上 優

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター精神科

14:15~15:15 専攻医・初期研修医・学部学生演題（口演）2
若手チャレンジ口演（2）

司会：稲田 健 北里大学医学部精神科学

1-KO2-1 統合失調症の昏迷に対しての治療内容の検討ー昏迷群と非昏迷群の処方内容の違い

○成田 友加里、渡邊 理紗、石田 喬士朗、小黒 早紀、岩田 健

多摩総合医療センター精神科

1-KO2-2 愛媛大学医学部附属病院におけるプロナンセリン経皮吸収型製剤の使用実態調査

○松本 優^{1,2}、河邊 憲太郎²、上野 修一²

¹医療法人十全会十全ユキノキ病院、²愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座

1-KO2-3 7施設250名の看護師によるプロナンセリン経皮吸収製剤の印象アンケート調査

○伊藤 隆仁¹、森 康浩¹、藤田 貢平¹、亀井 洸介¹、岩崎 真三²
¹愛知医科大学病院、²医療法人社団浅ノ川桜ヶ丘病院

1-KO2-4 緊張病性昏迷を呈した頭部外傷歴を有する統合失調症患者にECTを施行した一例

○石橋 拓実¹、岡本 敦子²、諏訪 太郎³
¹公立豊岡病院組合立豊岡病院精神科、²関西青少年サナトリウム医局、³京都大学医学部附属病院

1-KO2-5 寄生虫妄想を主訴として入院したが、乳癌StageⅣが判明した一例

○清水 梨々花、安藤 久美子、渡邊 亮、古茶 大樹
 聖マリアンナ医科大学病院神経精神科

15:30～17:30 シンポジウム32

ビデオ脳波でみるてんかん発作

司会：山田 了士 地方独立行政法人岡山県精神科医療センター
 栗田 紹子 市立稚内病院

S32-1 精神科医が知っておきたい基本的なてんかん発作

○西田 拓司
 静岡てんかん・神経医療センター精神科

S32-2 精神症状と鑑別が難しいてんかん

○長谷川 直哉¹、伊藤 陽祐²
¹国立病院機構西新潟中央病院てんかん科、²国立病院機構西新潟中央病院脳神経外科

S32-3 PNES(心因性非てんかん発作)とPNESに酷似したてんかん発作

○谷口 豪、加藤 英生、大竹 真央、中田 千尋
 国立精神・神経医療研究センター病院精神科

〈メインコーディネーター〉 西田 拓司 静岡てんかん・神経医療センター精神科
 〈サブコーディネーター〉 谷口 豪 国立精神・神経医療研究センター病院精神科



6月22日(木) N会場(パシフィコ横浜ノース 4F G412+G413)

8:30~10:30 委員会シンポジウム4 (親子・学校・女性に関する委員会)
子育てを支える精神医学

司会：立花 良之 国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科
平山 哲 大阪母子医療センター子どものこころの診療科

CS4-1 日本の性教育を見つめなおす –性的虐待や若年妊娠の臨床経験から考えること–

○上野 千穂
京都市第二児童福祉センター診療所

CS4-2 親になるための教育–児童精神科の立場から–

○細金 奈奈
恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育クリニック小児精神保健科

CS4-3 流産・死産経験者へのグリーフケア、ピアサポートについて

○岩崎 陽子
医療法人微風会浜寺病院

CS4-4 父親の産後うつ予防と対策

○黒川 駿哉^{1,2}
¹不知火クリニック、²慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〔指定発言〕

○布施 泰子
茨城大学保健管理センター

〈メインコーディネーター〉 立花 良之 国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

10:45~12:45 委員会シンポジウム8 (医療倫理委員会)
着床前遺伝学的検査をめぐる倫理的課題–精神医学の観点から

司会：中川 伸 山口大学医学部精神科神経科
新村 秀人 大正大学心理社会学部

CS8-1 着床前遺伝学的検査をめぐる精神医学領域の課題

○尾崎 紀夫
名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学

CS8-2 AYA世代に対する遺伝外来：着床前遺伝学的検査をめぐるクライアントの葛藤と精神科医療のあり方について

○石黒 浩毅^{1,2,3}
¹山梨大学大学院総合研究部医学域臨床遺伝学講座、
²山梨大学大学院総合研究部医学域精神神経医学講座、
³山梨大学医学部附属病院遺伝子疾患診療センター

CS8-3 日本産科婦人科学会から日本精神神経学会へのPGT-Mに関する審査協力依頼について
○佐々木 愛子
国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター

CS8-4 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査と関連する医療倫理委員会の動向
○石川 博康
島田病院精神科

CS8-5 着床前遺伝学的検査をめぐる昨今の倫理的論点
○稲生 宏泰
東京都立松沢病院精神科

〈メインコーディネーター〉 藤井 千代 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

13:15～15:15 シンポジウム22

精神科領域における便秘症について考える

司会：水野 雅文 東京都立松沢病院
稲本 淳子 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター

S22-1 精神科領域の便秘症の最新知見

○結束 貴臣
国際医療福祉大学成田病院緩和医療科

S22-2 精神科領域における便秘症のエビデンス

○坪井 貴嗣
杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室

S22-3 精神科領域における便秘症：実臨床における便秘症リスク調査より

○山田 浩樹^{1,2}
¹昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、²昭和大学医学部精神医学講座

S22-4 松沢便秘プロジェクト

○長尾 知子
都立松沢病院内科

〔指定発言〕

○小野 正博
福島県立宮下病院

〈メインコーディネーター〉 山田 浩樹 昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター
〈サブコーディネーター〉 坪井 貴嗣 杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室



15:30～17:30 シンポジウム33

リカバリーを巡るクロストーク～当事者・メディア・行政・医療の立場から～

司会：渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室
菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S33-1 リカバリーって、そんなにピカピカなものなの？

○加藤 伸輔^{1,2}

¹ピアサポートグループ在、²認定NPO法人地域精神保健福祉機構(コンボ)

S33-2 当事者が「リカバリー」に託す思い～その思いを支える社会基盤構築についての考察

○小嶋 修一

TBS報道局

S33-3 地域共生社会の実現に向けた精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築とリカバリーの考え方

○戸部 美起

厚生労働省社会・援護局精神・障害保健課

S33-4 医療者の考える精神疾患のリカバリー

○坪井 貴嗣

杏林大学医学部付属病院精神神経科学教室

〔指定発言〕

○菊地 俊暁

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〈メインコーディネーター〉 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

〈サブコーディネーター〉 菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

6月22日(木) ○会場(パシフィコ横浜ノース 4F G414+G415)

8:30～10:30 委員会シンポジウム5 (ガイドライン検討委員会)

当事者・家族版ガイドの作成過程について

司会：尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学
前田 貴記 慶應義塾大学医学部精神神経科

CS5-1 統合失調症に合併する肥満・糖尿病の予防ガイド

○古郡 規雄¹、菅原 典夫¹、鈴木 雄太郎²、前田 貴記³、井出 由美子⁴、久住 一郎⁵

¹獨協医科大学精神神経医学講座、²新潟大学医歯学総合病院、³慶應義塾大学病院、⁴京都女子大学、⁵北海道大学病院精神科神経科

CS5-2 精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイド

当事者・家族版の作成過程について

○鈴木 映二

東北医科薬科大学医学部精神科学教室

CS5-3 診療ガイドライン作成への当事者・家族の参画：期待と課題

○蔭山 正子^{1,2}

¹大阪大学高等共創研究院、²大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生看護学

CS5-4 当事者・家族版ガイドの作成において考えること

○宮岡 等^{1,2}

¹北里大学、²医薬品医療機器総合機構(PMDA)

CS5-5 当事者・家族版作成過程のガイドラインについて

○吉村 公雄

慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室

〔指定発言〕

○ゆきこ

子育てピアサポートグループゆらいく

〈メインコーディネーター〉 吉村 公雄

慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室

〈サブコーディネーター〉 前田 貴記

慶應義塾大学医学部精神神経科



10:45~12:45 シンポジウム16

電気けいれん療法(ECT)発作増強法の推奨事項

司会：竹林 実 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
野田 隆政 国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

S16-1 電気けいれん療法における発作誘発困難例と200%機器について
—発作増強法に関する現況調査と文献レビュー—

○諏訪 太郎¹、安田 和幸²、川島 啓嗣¹、青木 宣篤³、内沼 虹衣菜²、嶽北 佳輝³、
和田 健⁴

¹京都大学医学部附属病院精神科神経科、²山梨大学医学部附属病院、³関西医科大学附属病院、
⁴広島市立広島市民病院精神科

S16-2 電気けいれん療法における適切な発作誘発困難時の対応に関するエキスパート
コンセンサス及び推奨事項の作成

○嶽北 佳輝
関西医科大学精神神経科

S16-3 発作増強法におけるエビデンスまとめ(主に麻酔、併用薬など)

○安田 和幸
山梨大学医学部精神神経医学

S16-4 ECTの刺激パラメータ調節による発作増強法

○川島 啓嗣
京都大学医学部附属病院

〈メインコーディネーター〉 竹林 実 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

13:15~15:15 シンポジウム23

統合失調症治療におけるLAIの臨床的意義

司会：根本 豊實 磯ヶ谷病院精神科

S23-1 地域定着における統合失調症に対する抗精神病薬持効性注射剤治療の役割

○木村 大^{1,2,3}
¹学而会木村病院精神科、²国際医療福祉大学医学部精神科、³千葉大学大学院医学研究院精神医学

S23-2 臨床におけるLAIの意義と当院におけるLAIの実施状況について

○竹之内 奈穂
医療法人社団直樹会磯ヶ谷病院

S23-3 持続性注射剤による治療を再考する

○井上 悟
医療法人社団優仁会鈴木神経科病院精神科

〔指定発言〕

○太田 克也

医療法人明柳会恩田第二病院院長

〈メインコーディネーター〉 根本 豊實 磯ヶ谷病院精神科

15:30～17:30 シンポジウム34

脳を見る：統合失調症研究の新展開

司会：糸川 昌成 東京都医学総合研究所病院等連携研究センター
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学

S34-1 脳からみた統合失調症 –過去・現在・未来–

○入谷 修司

桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所

S34-2 統合失調症のMRI研究—代謝疾患モデルとの関連を中心に—

○孫 樹洛

京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学教室

S34-3 統合失調症における神経細胞の三次元的な変化

○水谷 隆太¹、雑賀 里乃¹、志賀 楓¹、山本 義郎²、上相 真之³、竹内 晃久³、
上杉 健太郎³、寺田 靖子³、鈴木 芳生⁴、Nikitin, Viktor⁵、De Carlo, Francesco⁵、
竹腰 進⁶、井野元 智恵⁶、中村 直哉⁶、鳥居 洋太⁷、久島 周⁷、尾崎 紀夫⁷、
入谷 修司⁸、大島 健一^{9,10}、糸川 昌成^{9,10}、新井 誠¹⁰

¹東海大学工学部、²東海大学理学部、³高輝度光科学研究センター／SPring-8、

⁴高エネルギー加速器研究機構、⁵Advanced Photon Source, Argonne National Laboratory、

⁶東海大学医学部、⁷名古屋大学大学院医学系研究科、⁸桶狭間病院藤田こころケアセンター、

⁹東京都立松沢病院、¹⁰東京都医学総合研究所

S34-4 ペントシジンの脳内蓄積：蓄積は精神症状の原因か結果か？

○石田 裕昭^{1,2}、大島 健一^{2,3}、宮下 光弘³、永田 栄一郎⁴、糸川 昌成^{1,2}、新井 誠^{1,2}

¹東京都医学総合研究所統合失調症プロジェクト、²東京都立松沢病院、

³東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター、⁴東海大学医学部内科学系脳神経内科

〔指定発言〕

○村井 俊哉

京都大学医学部附属病院

〈メインコーディネーター〉 糸川 昌成 東京都医学総合研究所病院等連携研究センター

〈サブコーディネーター〉 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学



6月22日(木) P会場(パシフィコ横浜ノース 4F G416+G417)

8:30~10:30 **委員会シンポジウム6** (精神医療・福祉のあり方に関する常任委員会)
日本の精神医療福祉の未来を考える

司会：佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
水野 雅文 東京都立松沢病院

CS6-1 急性期治療のあり方検討委員会のこれまでの取り組み

○田口 寿子
神奈川県立精神医療センター

CS6-2 慢性療養者の医療・支援のあり方検討委員会からの報告

○針間 博彦
東京都立松沢病院

CS6-3 地域ケアにおける自立支援のためのアウトリーチ

○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

CS6-4 精神医療・福祉に関する在り方常任委員会から

○佐久間 啓
社会医療法人あさかホスピタル

〔指定発言〕

○水野 雅文
東京都立松沢病院

〈メインコーディネーター〉 佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
〈サブコーディネーター〉 水野 雅文 東京都立松沢病院

10:45~12:45 **委員会シンポジウム9** (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会)
精神科医不足問題について考える：リターンズ

司会：濱田 博文 医療法人純青会せいざん病院医局
稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部/保健管理センター

CS9-1 わが国の精神科医数と職域・地域分布について

○稲垣 中^{1,2}
¹青山学院大学教育人間科学部、²青山学院大学保健管理センター

CS9-2 離島における精神科医不足の現状と課題

○濱田 博文
医療法人純青会せいざん病院

CS9-3 離島・僻地におけるオンライン精神科医療の可能性

○木下 翔太郎
慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座

CS9-4 離島における精神科医師不足問題：地方行政の立場から

○春日井 基文
鹿児島県精神保健福祉センター

CS9-5 フランスにおける地域精神科医療の現状

○蓮澤 優
九州大学キャンパスライフ・健康支援センター

〔指定発言〕

○中庭 洋一
なかにわメンタルクリニック

〔指定発言〕

○栗田 紹子
市立稚内病院

〈メインコーディネーター〉 稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部／保健管理センター
〈サブコーディネーター〉 濱田 博文 医療法人純青会せいざん病院医局

13:15～15:15 シンポジウム24

精神科医療にSNSをどう活用するのか - その可能性と課題 -

司会：根本 清貴 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
松崎 朝樹 筑波大学精神神経科

S24-1 精神科医療にSNSをどう活用するのか - その可能性と課題 -

○益田 裕介
早稲田メンタルクリニック

S24-2 インターネット上の様々なツールを用いた情報発信について

○大武 陽一^{1,2}
¹たけお内科クリニックからだと心の診療所、²水谷クリニック

S24-3 なぜ？どのように？心理学の情報発信をするのか？

○青木 俊太郎¹、岩野 卓²
¹福島県立医科大学医療人育成・支援センター、²大分大学福祉健康科学部

S24-4 SNSで精神医学的内容を発信する際のあるべき内容について

○松崎 朝樹
筑波大学精神神経科

〈メインコーディネーター〉 根本 清貴 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学
〈サブコーディネーター〉 松崎 朝樹 筑波大学精神神経科



15:30～17:30 **委員会シンポジウム16**（災害支援委員会）

ウクライナ侵攻に関するメンタルヘルス上の諸課題

司会：高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学
重村 淳 目白大学保健医療学部

CS16-1 ロシアによるウクライナ侵攻と核危機：WHOフレームワークからみたメンタルヘルス上の懸念

○前田 正治
福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座

CS16-2 JICAウクライナ避難民に係る緊急人道支援・保健医療分野協力ニーズ調査団の活動から

○久保 達彦
広島大学大学院医系科学研究科公衆衛生学

CS16-3 緊急時における外務省と在外公館職員のメンタルヘルス

○吉田 常孝
外務省外務省診療所

CS16-4 ウクライナ戦争後における在ロシア邦人の不安・抑うつ・心的外傷後ストレス症状

○黒澤 美枝^{1,2}、小室 葉月³、重村 淳²
¹武蔵野大学心理臨床センター、²目白大学保健医療学部、
³帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科

CS16-5 ロシア侵攻下のウクライナにおけるメンタルヘルスの実態

○國井 泰人¹、藤井 進²、日野 瑞城¹、濱家 由美子¹、野中 小百合²、江川 新一³、
栗山 進一⁴、富田 博秋⁵
¹東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、
²東北大学災害科学国際研究所災害医療情報学分野、
³東北大学災害科学国際研究所災害医療国際協力学分野、
⁴東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野、⁵東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

〔指定発言〕

○高橋 晶
筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

〈メインコーディネーター〉 重村 淳 目白大学保健医療学部
〈サブコーディネーター〉 高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

6月22日(木) Q会場(パシフィコ横浜ノース 4F G418+G419)

8:30～9:18 地方会優秀演題セッション1 <北海道・東北>

司会：浅見 剛 横浜市立大学医学部精神医学教室

RM1-1 自殺企図患者(未遂者)の家族：企図直後の心理とその推移

○佐野 智章¹、河西 千秋²、煤賀 隆宏³、岩木 敦子²、昌川 安希子²、柏木 智則²、石橋 竜太郎²

¹帯広厚生病院精神科、²札幌医科大学医学部神経精神医学講座、³札幌医科大学附属病院看護部

RM1-2 自殺ハイリスク者に対する第1介入者のAttitude

○柏木 智則¹、津山 雄亮^{1,2}、菅原 夏海¹、橋本 恵理¹、成田 賢治¹、河西 千秋^{1,2}

¹札幌医科大学医学部神経精神医学講座、²札幌医科大学保健管理センター

RM1-3 札幌市における救急患者精神科継続支援の実施状況

○石橋 竜太郎¹、伊藤 侯輝²、宇土 仁木³、東谷 敬介²、坪内 雅行³、久住 一郎⁴、河西 千秋¹

¹札幌医科大学医学部神経精神医学講座、²市立札幌病院精神科、³北海道医療センター精神科、

⁴北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

RM1-4 長期入院中の統合失調症患者のself-stigmaに関わる臨床要因に関する予備的検討

○尾之内 勇治¹、小松 浩^{1,2}、大野 高志¹、富田 博秋^{2,3}、角藤 芳久¹

¹宮城県立精神医療センター、²東北大学病院精神科、³東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

9:18～10:30 一般演題(口演) 4

神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(2)

司会：富田 博秋 東北大学大学院医学系研究科

1-O4-1 瞑想箱庭療法を用いた一症例

○朝倉 新

医療法人新久会新泉こころのクリニック

1-O4-2 複雑性PTSDの高齢男性に対して持続的曝露療法を行なった一例

○池水 結輝¹、大木 望²、柴田 真太郎³、早津 龍之介⁴、小田 靖典^{1,5}、伊豫 雅臣^{1,5}

¹千葉大学医学部附属病院精神神経科、²医療法人同和会千葉病院、³医療法人社団直樹会磯ヶ谷病院、

⁴国際医療福祉大学成田病院、⁵千葉大学大学院医学研究院精神神経学

1-O4-3 社交不安症に対する認知行動療法の治療反応予測モデルの作成: 機械学習アプローチ

○小川 成^{1,2}

¹名古屋市立大学大学院人間文化研究科、²名古屋市立大学病院



1-04-4 強迫症の治療に抗うつ薬は本当に必要か？

○片岡 優介¹、岡嶋 美代^{1,2}、藤田 観喜¹、藤田 基¹
¹道玄坂ふじたクリニック、²BTCセンター

1-04-5 解離性同一性障害に対する非統合治療の試み

○松原 慎
まっばら心療内科

1-04-6 解離症治療のエキスパート・コンセンサスを日常臨床に活かす

○新谷 宏伸
本庄児玉病院精神科

10:45～12:45 委員会シンポジウム10 (ECT・rTMS等検討委員会)

電気けいれん療法(Electroconvulsive therapy : ECT)の新たな局面

司会：高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
中村 満 医療法人社団翠会成増厚生病院

CS10-1 ECTの麻酔管理の変遷

○奥村 正紀
大石記念病院精神科

CS10-2 ECT施行時に筋弛緩薬をスキサメトニウムからロクロニウムに変更した際の麻酔管理

○鈴木 孝浩
日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野

CS10-3 深部静脈血栓症に対する経口抗凝固療法施行中の電気けいれん療法

○平田 卓志
山梨大学医学部附属病院

CS10-4 我が国における精神科病院におけるECTの問題・課題

鮫島 達夫¹、門井 雄司²、奥村 正紀³、○中村 満⁴、大西 良⁵、一瀬 邦弘⁶

¹特定医療法人勇愛会大島病院精神科、²群馬大学医学部附属病院、

³医療法人社団八葉会大石記念病院、⁴医療法人社団翠会成増厚生病院、⁵医療法人水の木会下関病院、

⁶特定医療法人社団聖美会多摩中央病院

〔指定発言〕

○中村 満
医療法人社団翠会成増厚生病院

〈メインコーディネーター〉 鮫島 達夫 特定医療法人勇愛会大島病院精神科

〈サブコーディネーター〉 奥村 正紀 大石記念病院精神科

13:15～14:03 地方会優秀演題セッション2 <東北・北陸・東京>

司会：東 晋二 東京医科大学茨城医療センターメンタルヘルス科

RM2-1 福島第一原子力発電所事故による病院避難を経験した精神科入院患者における避難後の福島への帰還の可否に関連する要因

○本間（照井）稔宏¹、國井 康人²、星野 大¹、各務 竹康³、日高 友郎³、福島 哲仁³、安西 信雄⁴、後藤 大介¹、三浦 至¹、矢部 博興¹

¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²東北大学災害科学国際研究所・災害精神医学分野、³福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座、⁴帝京平成大学大学院臨床心理学研究科

RM2-2 ロラゼパムが奏効した肺血栓塞栓症を伴った悪性緊張病の一例

○安本 真衣¹、奥田 丈士²、宮岸 良彰²、菊知 充²

¹金沢大学附属病院神経科精神科、²金沢大学医薬保健研究域医学系精神行動科学

RM2-3 反復する急性精神病症状を合併する難治性てんかんに対して外科手術を検討・施行した一例

○伊藤 愛¹、谷口 豪²、宮川 希²

¹国立精神・神経医療研究センター第一精神診療部、²国立精神・神経医療研究センターてんかん診療科

RM2-4 クロザピン治療中に反応性低血糖を繰り返した統合失調症の1例

○河合 史彦、清水 直樹、海老原 弘剛、大島 史織、岡井 公志、横山 香、渡邊 さつき、新井 久敏、松岡 孝裕、松尾 幸治

埼玉医科大学病院

14:15～15:15 専攻医・初期研修医・学部学生演題（口演）3
若手チャレンジ口演(3)

司会：木村 敦史 千葉大学大学院医学研究院精神医学

1-KO3-1 解離性同一症の治療として性別違和に介入した一例

○川口 慎吾、白石 直、明智 龍男

名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

1-KO3-2 うつ病治療ガイドライン第3章「中等症・重症うつ病」の批判的吟味

○西 若奈、幅田 加以瑛、石橋 知明、大森 一郎、小坂 浩隆

福井大学医学部精神医学

1-KO3-3 ボルチオキセチンで薬剤性SIADHを生じた高齢うつ病患者の一例

○槻宅 雅史、大拙 孝治、伊藤 司、佐藤 皓平、錦織 光、山下 智子、長濱 道治、岡崎 四方、和氣 玲、稲垣 正俊

島根大学医学部精神医学講座



1-KO3-4 多飲水による低ナトリウム血症に横紋筋融解症を合併した統合失調症の1例

○上村 幸正¹、姜 善貴¹、村岡 寛之¹、小川 陽子¹、鈴木 龍太郎^{1,2}、劔持 幸男¹、
稲田 健¹

¹北里大学病院精神神経科、²北里大学医学部精神科学地域児童精神科医療学

1-KO3-5 リチウム内服中に重篤な高ナトリウム血症となり腎性尿崩症と診断された一例

○山田 眞子¹、森田 啓史²、津田 敦²、赤松 正規²、藤戸 良子²、數井 裕光²

¹高知県立あき総合病院、²高知大学医学部附属病院神経精神科学教室

15:30~17:30 シンポジウム35

精神神経分野における若手団体の発展と未来

司会：堀之内 徹 北海道大学病院精神科神経科
大矢 希 京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科

S35-1 医学界における若手団体の役割と未来：Can the youth change the world?

○曾根 大地
東京慈恵会医科大学精神医学講座

S35-2 日本若手精神科医の会(JYPO)のこれまでとこれから

○安藝 森央^{1,10}、入來 晃久^{2,10}、大熊 彩子^{3,10}、河岸 嶺将^{4,10}、清水 勇雄^{5,10}、福島 弘之^{6,10}、
北岡 淳子^{7,10}、宮野 史也^{8,10}、清水 俊宏^{9,10}

¹京都大学大学院医学研究科脳病態生理学教室(精神医学)、
²地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪精神医療センター、³東京大学医学部附属病院、
⁴千葉県精神科医療センター、⁵医療法人恵風会高岡病院、⁶医療法人桜花会醍醐病院、
⁷医療法人せのがわ瀬野川病院、⁸北海道立向陽ヶ丘病院、⁹埼玉県立精神医療センター、
¹⁰認定特定非営利団体日本若手精神科医の会

S35-3 若手リエゾン精神科医の会(JSOUL)のこれまでの活動と今後の展望

○平山 貴敏
国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科

S35-4 日本若手てんかん従事者部門(YES-Japan)のこれまでとこれから

○黒田 直生人^{1,2,3}、久保田 隆文^{3,4,5}、藤川 真由^{3,6,7}
¹ウェイン州立大学小児科、²東北大学大学院てんかん学分野、³YES-Japan、
⁴東北大学医学系研究科神経内科学分野、⁵国立病院機構仙台医療センター脳神経内科、
⁶東北大学病院てんかん科、⁷慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〈メインコーディネーター〉 曾根 大地 東京慈恵会医科大学精神医学講座
〈サブコーディネーター〉 堀之内 徹 北海道大学病院精神科神経科
大矢 希 京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科

6月22日(木) R会場(パシフィコ横浜ノース 4F G420)

8:30～9:42 一般演題(口演) 2
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害(1)

司会：井上 幸紀 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

1-O2-1 職場適応における表層状態と深層

○中川 誠秀¹、丹生谷 正史¹、櫻田 久美²、吉村 淳¹、鈴木 映二¹
¹東北医科薬科大学精神科学、²仙台赤十字病院精神科

1-O2-2 自衛官の精神疾患に対するスティグマの調査

○山崎 真之¹、戸田 裕之¹、長峯 正典²、古賀 農人¹、江戸 直樹²、脇 文子²、
北野 誠人²、立森 久照³、吉野 相英¹
¹防衛医科大学校精神科学講座、²防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学部門、
³慶應義塾大学医学部医療システムイノベーション寄附講座

1-O2-3 大学生における抑うつ状態の発症と生活習慣因子の関連：2年間の前向き研究

○降旗 隆二¹、石田 真美²、中神 由香子¹、梁瀬 まや¹、上床 輝久³、岡林 里枝⁴、
清原 康介⁵、川村 孝²
¹京都大学学生総合支援機構、²京都大学医学研究科社会健康医学系専攻予防医療学分野、
³京都大学医学部附属病院精神科神経科、⁴京都大学環境安全保健機構、
⁵大妻女子大学家政学部食物学科

1-O2-4 精神科専門研修プログラムにおけるマインドフルネス研修の実践

○本屋敷 美奈^{1,2}、岸本 早苗³、松本 恭典¹、武藤 健太郎¹、井上 猛¹
¹東京医科大学病院メンタルヘルス科、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
³京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康増進・行動学分野

1-O2-5 医学生の自閉症様特性と臨床実習中のバーンアウトや抑うつとの関連について

○渡邊 孝文、明智 龍男
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

1-O2-6 臨床実習における医学生の燃え尽き軽減のためのアクセプタンス&コミットメント・トレーニング

○渡邊 孝文¹、近藤 真前¹、酒井 美枝²、明智 龍男¹
¹名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野、
²名古屋市立大学大学院医学研究科麻酔科学・集中治療医学分野



10:45~11:45 一般演題（口演）6
ECT・TMS・ニューロモデュレーション(1)

司会：岩田 正明 鳥取大学医学部脳神経医科学講座精神行動医学分野

1-O6-1 NDB オープンデータに基づく修正型電気痙攣療法(m-ECT)の実態
—Gini係数による都道府県格差の分析—

○花岡 晋平^{1,2}、中西 健太³、深見 悟郎¹、平田 豊明^{1,4}

¹千葉県精神科医療センター、²東邦大学医学部社会医学講座、³医療法人人生生会松蔭病院、⁴医療法人学而会木村病院

1-O6-2 電気けいれん療法を検討したが、ベンラファキシンへの変薬により改善を得た
高齢者うつ病の2例

○大盛 航、丹京 優衣、増田 慶一、岡本 泰昌
広島大学病院精神科

1-O6-3 ECTにより抗がん剤の治療再開に至った高齢うつ病の2例

○原口 昌明、福原 竜治、塩川 奈理、今村 研介、宇宿 梓、近藤 哲也、佐々木 なつき、
石塚 貴周、中村 雅之
鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

1-O6-4 磁気けいれん療法(MST)により寛解した高齢者うつ病の一例

○林 大祐¹、五十嵐 俊¹、山崎 龍一²、松田 勇紀²、松尾 淳子¹、稲川 拓磨¹、川上 裕³、
沖田 恭治¹、藤井 猛¹、野田 隆政¹、住吉 太幹⁴、鬼頭 伸輔^{1,2}

¹国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部、²東京慈恵会医科大学精神医学講座、
³国立精神神経・医療研究センター病院麻酔科、
⁴国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

1-O6-5 磁気けいれん療法(MST)から電気けいれん療法(ECT)に切り替えた
高齢者うつ病の一例

○林 大祐¹、五十嵐 俊¹、山崎 龍一²、松田 勇紀²、松尾 淳子¹、稲川 拓磨¹、川上 裕³、
沖田 恭治¹、藤井 猛¹、野田 隆政¹、住吉 太幹⁴、鬼頭 伸輔^{1,2}

¹国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部、²東京慈恵会医科大学精神医学講座、
³国立精神神経・医療研究センター病院麻酔科、
⁴国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

11:45~12:45 一般演題（口演）8
ECT・TMS・ニューロモデュレーション(2)

司会：繁田 雅弘 東京慈恵会医科大学精神医学講座

1-O8-1 治療抵抗性うつ病への両側シータバースト刺激療法の両側rTMS療法に対する
無作為化非劣性臨床試験の中間解析

○和田 真孝
慶應義塾大学病院精神・神経科学教室

1-08-2 当院におけるrTMS療法開始後の患者層変化と治療普及のための工夫

○平木 文代、横山 祐子、櫻井 斉司
聖ルチア病院精神科

1-08-3 修正型電気けいれん療法が嚥下機能の改善に寄与したと考えられる
レビー小体病の一例

○三原 靖葉¹、長濱 道治³、林 茉衣³、林 真一郎²、正岡 浩³、槻宅 雅史³、伊藤 司³、
佐藤 皓平³、錦織 光³、山下 智子³、河野 公範³、大肚 孝治³、林田 麻衣子³、
岡崎 四方³、和氣 玲³、稲垣 正俊³、安田 英彰¹

¹特定医療法人恵和会石東病院、²鳥根県立こころの医療センター、³鳥根大学医学部精神医学講座

1-08-4 85歳以上の超高齢者に修正型電気けいれん療法を施行した症例の臨床的検討

○竹村 幸洋、榎本 栞、岡田 滋裕、杉田 大輔、荒賀 哲也、松山 賢一、山下 麻希、
渡辺 史恵、吉田 昇生、森 美佳、元木 郁代、宮軒 将
医療法人実風会新生病院精神科

1-08-5 電気けいれん療法後のアジテーション症状についての臨床疫学的研究(中間報告)

○陳 楼¹、渡辺 杏里¹、綾仁 信貴^{1,2}、大矢 希¹、松岡 照之¹、富永 敏行¹、成本 迅¹

¹京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、

²独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター精神科

13:15～14:27 一般演題(口演) 9
精神科救急及び精神保健福祉

司会：大塚 耕太郎 岩手医科大学

1-09-1 スーパー救急病棟における身体的拘束のリスクとその期間に寄与する因子の検討

○河合 恵太^{1,2}、山田 浩樹^{1,2}、岩波 明²、稲本 淳子^{1,2}

¹昭和大学横浜市北部病院メンタルケアセンター、²昭和大学医学部精神医学講座

1-09-2 松沢病院における包括的支援マネジメントに関する研究

○岡村 泰¹、荒川 育子²、西 宏隆²、佐藤 さやか³、吉田 光爾⁴、山口 創生³、
藤井 千代³、水野 雅文²

¹東京都立松沢病院横浜市立大学医学部精神医学教室、²東京都立松沢病院、

³国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、⁴東洋大学

1-09-3 単科精神病院での福祉との間における多職種連携の試み

○萩原 聡、山口 義弘、佐藤 京子、川野 ゆかり

医療法人明和会佐藤病院精神科

1-09-4 NDB オープンデータに基づく持効性抗精神病注射製剤(LAI)の使用実態
－Gini係数による都道府県格差の分析－

○中西 健太¹、花岡 晋平^{2,3}、深見 悟郎²、平田 豊明^{2,4}

¹医療法人生会松蔭病院精神科、²千葉県精神科医療センター、

³東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学分野、⁴医療法人学会木村病院



1-09-5 NDBオープンデータを活用した日本における精神科退院前訪問看護の現状

○菊地 信示郎¹、森内 加奈恵¹、野崎 章子²
¹千葉大学医学部附属病院精神神経科、²千葉大学大学院看護学研究院

1-09-6 NDB オープンデータに基づく精神科在宅患者支援管理料算定数の実態
—Gini係数による都道府県格差の分析—

○高橋 由美子¹、花岡 晋平^{1,2}、中西 健太⁴、瀧地 典夫¹、安田 貴子¹、澁谷 孝之¹、
深見 悟郎¹、平田 豊明^{1,3}
¹千葉県精神科医療センター、²東邦大学医学部社会医学講座、³医療法人学而会木村病院、
⁴医療法人生会松蔭病院

15:30～17:30 委員会シンポジウム17 (男女共同参画委員会)

COVID-19のパンデミックが日本の女性と子供のメンタルヘルスに及ぼした影響：弱者・ジェンダの視点から

司会：加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニックメンタルケア科PCIT研修センター
布施 泰子 茨城大学保健管理センター

CS17-1 コロナ禍であぶりだされた女性のメンタルヘルスにかかる問題

○加茂 登志子
若松町こころとひふのクリニックメンタルケア科PCIT研修センター

CS17-2 COVID-19パンデミックがメンタルヘルスに及ぼす影響：
デジタルサポート導入の試み

○奥山 純子^{1,2}、門廻 充侍⁴、本川 智紀³、加藤 朋美³
¹東北大学病院肢体不自由リハビリテーション科、²指定国立大災害科学世界トップレベル研究拠点、
³ポーラ化成工業株式会社、⁴東北大学災害科学国際研究所

CS17-3 長期化するCOVID-19パンデミックによりひき起こされた職業性ストレスと
女性のメンタルヘルスについて

○阪上 優
京都大学環境安全保健機構産業厚生部門

CS17-4 COVID-19のパンデミック下における日本女性の自殺の増加

○布施 泰子
茨城大学保健管理センター

CS17-5 COVID-19が子どもに与えた長期的影響とは何か

○安藤 久美子
聖マリアンナ医科大学病院

〈メインコーディネーター〉 布施 泰子 茨城大学保健管理センター
〈サブコーディネーター〉 加茂 登志子 若松町こころとひふのクリニックメンタルケア科
PCIT 研修センター
安藤 久美子 聖マリアンナ医科大学病院神経精神科学教室

6月22日(木) ポスター会場(パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4)

11:45～12:17 関連学会優秀演題ポスター1

日本統合失調症学会・日本臨床精神神経薬理学会

司会：笠井 清登 東京大学大学院医学系研究科臨床神経精神医学教室

RS1-1

Cortical structural mega-analysis across four major psychiatric disorders in 5432 individuals

○Junya Matsumoto¹、Masaki Fukunaga²、Kenichiro Miura¹、Kiyotaka Nemoto³、Naohiro Okada^{4,5}、Naoki Hashimoto⁶、Kentaro Morita⁷、Daisuke Koshiyama⁴、Kazutaka Ohi^{8,9}、Tsutomu Takahashi^{10,11}、Koeda Michihiko¹²、Hidenaga Yamamori^{1,13,14}、Michiko Fujimoto^{1,13}、Yuka Yasuda^{1,15}、Naomi Hasegawa¹、Hisashi Narita⁶、Satoshi Yokoyama¹⁶、Ryo Mishima¹⁷、Takahiko Kawashima¹⁷、Yuko Kobayashi¹⁷、Daiki Sasabayashi^{10,11}、Kenichiro Harada¹⁸、Maeri Yamamoto¹⁹、Yoji Hirano²⁰、Takashi Itahashi²¹、Masahito Nakataki²²、Ryu-ichiro Hashimoto^{21,23}、Khin K. Tha²⁴、Shinsuke Koike^{5,25,26,27}、Toshio Matsubara¹⁸、Go Okada¹⁶、Reiji Yohimura²⁸、Osamu Abe²⁹、Toshiaki Onitsuka³⁰、Yoshiyuki Watanabe³¹、Koji Matsuo³²、Hidenori Yamasue³³、Yasumasa Okamoto¹⁶、Michio Suzuki^{10,11}、Norio Ozaki¹⁹、Kiyoto Kasai^{4,5,25,26}、Ryota Hashimoto^{1,13}

¹Department of Pathology of Mental Diseases, National Institute of Mental Health, National Center of

Neurology and Psychiatry, ²Division of Cerebral Integration, National Institute for Physiological Sciences,

³Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, University of Tsukuba,

⁴Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo,

⁵The International Research Center for Neurointelligence (WPI-IRCN), The University of Tokyo Institutes for

Advanced Study (UTIAS), ⁶Department of Psychiatry, Hokkaido University Graduate School of Medicine,

⁷Department of Rehabilitation, University of Tokyo Hospital,

⁸Department of Psychiatry, Gifu University Graduate School of Medicine,

⁹Department of General Internal Medicine, Kanazawa Medical University,

¹⁰Department of Neuropsychiatry, University of Toyama Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences,

¹¹Research Center for Idling Brain Science, University of Toyama,

¹²Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, Nippon Medical School,

¹³Department of Psychiatry, Osaka University, Graduate School of Medicine,

¹⁴Japan Community Health Care Organization Osaka Hospital, ¹⁵Medical Corporation Foster,

¹⁶Department of Psychiatry and Neurosciences, Hiroshima University,

¹⁷Department of Psychiatry, Graduate School of Medicine, Kyoto University,

¹⁸Division of Neuropsychiatry, Department of Neuroscience, Yamaguchi University Graduate School of Medicine,

¹⁹Department of Psychiatry, Nagoya University, Graduate School of Medicine,

²⁰Department of Neuropsychiatry, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University,

²¹Medical Institute of Developmental Disabilities Research, Showa University,

²²Department of Psychiatry, Tokushima University Hospital,

²³Department of Language Sciences, Graduate School of Humanities, Tokyo Metropolitan University,

²⁴Department of Radiation Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine,

²⁵University of Tokyo Institute for Diversity & Adaptation of Human Mind (UTIDAHM),

²⁶UTokyo Center for Integrative Science of Human Behavior (CiSHuB), The University of Tokyo,

²⁷Center for Evolutionary Cognitive Sciences, Graduate School of Arts and Sciences, The University of Tokyo,

²⁸Department of Psychiatry, University of Occupational and Environmental Health,

²⁹Department of Radiology, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo,

³⁰Department of Neuroimaging Psychiatry, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University,

³¹Department of Radiology, Shiga University of Medical Science,



³²Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Saitama Medical University、

³³Department of Psychiatry, Hamamatsu University School of Medicine

RS1-2

多施設共同研究による統合失調症と双極性障害の大脳皮質構造画像解析

○松本 純弥¹、福永 雅喜²、三浦 健一郎¹、岡田 直大^{3,4}、根本 清貴⁵、藤本 美智子^{1,6}、
肥田 道彦⁷、宮田 淳⁸、大井 一高⁹、中瀧 理仁¹⁰、吉村 玲児¹¹、岡本 泰昌¹²、
原田 健一郎¹³、橋本 直樹¹⁴、鬼塚 俊明¹⁵、山本 真江里¹⁶、山末 英典^{3,17}、高橋 努¹⁸、
渡邊 嘉之¹⁹、笠井 清登^{3,4}、橋本 亮太^{1,8}

¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、

²生理学研究所システム脳科学研究領域心理生理学研究部門、

³東京大学大学院医学系研究科精神医学分野、

⁴東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス国際研究機構、⁵筑波大学医学医療系精神医学、

⁶大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、⁷日本医科大学医学部大学院精神・行動医学分野、

⁸京都大学大学院医学研究科精神医学教室、⁹岐阜大学医学部附属病院精神科、

¹⁰徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、¹¹産業医科大学医学部精神医学、

¹²広島大学大学院医歯薬保健学研究科精神神経科学、

¹³山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座、¹⁴北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、

¹⁵九州大学大学院医学研究院神経画像解析学講座、

¹⁶名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野、¹⁷浜松医科大学精神医学講座、

¹⁸富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、¹⁹滋賀医科大学放射線医学講座

RS1-3

遅発性ジスキネジアと持効性抗精神病薬注射製剤：

副作用自発報告データベースを用いた解析

○三澤 史斉¹、藤井 康男¹、竹内 啓善^{1,2}

¹山梨県立北病院、²慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

RS1-4

治療抵抗性統合失調症患者におけるクロザピンへの暴露と副作用との関連についての包括的評価：母集団薬物動態解析

○野村 信行^{1,2,3}、北川 航平⁴、宋 龍平⁴、三澤 史斉³、児玉 匡史⁴、竹内 啓善²、
Robert Bies⁵、Thomas Straubinger⁵、Christopher Banker⁵、水野 裕也^{2,6}、三村 將²、
内田 裕之²

¹ミュンヘン工科大学、²慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、³山梨県立北病院、

⁴岡山県精神科医療センター、⁵ニューヨーク州立大学バッファロー校、

⁶キングス・カレッジ・ロンドン

RS1-5

札幌医科大学附属病院高度救命救急センターに搬送された自殺企図事例の実態

○古俣 皓涼¹、石橋 竜太郎¹、佐野 智章^{1,2}、大江 開^{1,3}、津山 雄亮⁴、岩木 敦子¹、
昌川 安希子¹、柏木 智則¹、石井 貴男¹、河西 千秋¹

¹札幌医科大学医学部神経精神医学講座、²帯広厚生病院精神科、³北見赤十字病院神経精神科、

⁴札幌医科大学保険管理センター

13:15～14:10 一般演題（ポスター）1

アルコール・作用物質関連

司会：忽滑谷 和孝 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科

- 1-P1-1 令和3年度の栃木県立岡本台病院でのアルコール依存症の初診患者の外来継続に与える要因について
○市川 貴一、増井 晃、天野 託、伊集院 将、織田 裕美子
栃木県立岡本台病院
- 1-P1-2 神戸大学医学部附属病院におけるギャンブル障害専門外来の実態調査
○山木 愛久、江口 典臣、青山 慎介
神戸大学医学部附属病院精神科神経科
- 1-P1-3 精神科病院での入院加療を要する窃視症の1例
○萩倉 祥一、佐藤 明信、佐藤 寛一
医療法人和合会和合病院精神科
- 1-P1-4 本邦における境界性パーソナリティ障害(BPD)の診断と治療に関する横断研究－医師コホート調査結果
○池田 暁史¹、白波瀬 丈一郎²、井合 真海子³、遊佐 安一郎⁴、阪本 亘⁵、吉田 慎哉⁵、牛島 定信⁶
¹大正大学心理社会学部臨床心理学科、²東京都済生会中央病院、³早稲田大学、⁴長谷川メンタルヘルス研究所、⁵日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、⁶市ヶ谷ひもろぎクリニック
- 1-P1-5 低用量ベンゾジアゼピン系薬の中断で離脱せん妄をきたし、ベンゾジアゼピン系薬のみで速やかに改善した一例
○酒井 良江¹、柳澤 奈々美¹、三浦 元太郎¹、藤井 浩之¹、木崎 英介¹、富田 真幸¹、竹内 啓善²
¹大泉病院精神科、²慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- 1-P1-6 ベンゾジアゼピン受容体作動薬中止後にカタトニアとせん妄を来した一例
○北元 健、沖村 宰、花岡 昭、堀 達
長谷川病院精神科



13:15~14:10 一般演題（ポスター）2
気分（感情）障害（1）

司会：戸田 裕之 防衛医科大学校精神科学講座

1-P2-1 うつ病に対するボルチオキセチンの実臨床における安全性、有効性に関する多施設後方視コホート研究

○中村 倫之¹、富田 克²、逸見 竜次¹、高瀬 文敬¹、沈 龍佑³、広田 進⁴、上松 謙⁵、小鳥居 望⁶、小曾根 基裕¹

¹久留米大学病院精神神経科、²楡の木クリニック、³しん漢方心療クリニック、⁴広田クリニック、⁵うえまつメンタルクリニック、⁶医療法人仁祐会小鳥居謙早病院

1-P2-2 80歳以上の高齢うつ病患者に対する抗うつ薬療法の有効性、忍容性に関する検討—第2報—

○皆尾 望、木村 彩乃、竹林地 郁、李大賢、川下 芳雄、和田 健
地方独立行政法人広島市立広島市民病院精神科

1-P2-3 うつ病患者における免疫学的グルテン感受性と精神・身体症状の関連性

○本山 美久仁、山田 恒、前林 憲誠、吉村 知穂、松永 寿人
兵庫医科大学精神科神経科学講座

1-P2-4 抗うつ薬の使用と脂質異常症の発症リスク：日本の大規模データベースを用いたコホート研究

○吉沢 和久、竹島 正浩、三島 和夫
秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

1-P2-5 演題取り下げ

13:15~14:10 一般演題（ポスター）3
AI・社会精神医学・自殺予防

司会：田所 重紀 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

1-P3-1 自然言語処理を使った現病歴からの精神疾患の診断予測

○大塚 紀朗¹、川西 悠¹、土居 史磨¹、竹田 奨¹、奥村 和生¹、山内 崇平¹、矢田 竣太郎²、若宮 翔子²、荒牧 英治²、牧之段 学¹

¹奈良県立医科大学精神医療センター、²奈良先端科学技術大学院大学

1-P3-2 ひきこもり傾向に関連する心理的特性社会的孤立・孤独に関するオンラインアンケート調査結果より

○翠川 晴彦¹、相羽 美幸²、古村 健太郎³、櫛引 夏歩⁴、菅原 大地⁵、川上 直秋⁵、白鳥 裕貴⁶、太刀川 弘和⁴

¹筑波大学附属病院精神神経科、²東洋学園大学人間科学部、³弘前大学人文社会科学部、⁴筑波大学医学医療系臨床医学域災害・地域精神医学、⁵筑波大学人間系心理学域、⁶筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

1-P3-3 **デイケア利用者が遠隔操作型ロボットに抱く信頼感に影響を与える条件について比較検討したので報告する**

○冠地 信和¹、熊崎 博一¹、今村 明¹、小澤 寛樹¹、谷口 大輔²、塚崎 稔²、吉川 雄一郎³、石黒 浩³、馬場 惇⁴、村山 真一⁵

¹長崎大学病院精神科、²医療法人清潮会三和中央病院、³大阪大学大学院基礎工学研究科、⁴株式会社サイバーエージェント、⁵琉球大学医学部

1-P3-4 **自殺再企図防止のための救急患者精神科継続支援研修会(オンライン開催)の効果について**

山田 光彦¹、○川島 義高^{1,2}、川島 友子¹

¹国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神薬理研究部、²明治大学文学部心理社会学臨床心理学専攻

1-P3-5 **検案要請書の情報に基づく自殺者の精神科受診に寄与する因子の検討**

○村上 龍¹、上久保 敦^{1,2}、守岡 大吾¹、皆藤 竜弥¹、高橋 司¹、黒木 尚長^{2,3}

¹明治国際医療大学保健医療学部救急救命学科、²大阪府監察医事務所、³千葉科学大学危機管理学部保健医療学科

13:15～14:10 **一般演題 (ポスター) 4**
コンサルテーションリエゾン・睡眠障害(1)

司会：小池 香 成田赤十字病院精神神経科

1-P4-1 **身体疾患加療中の不眠に対して使用された睡眠導入剤とせん妄発生に関する後方視研究**

○逸見 竜次、高瀬 文敬、増本 政也、中村 倫之、小曾根 基裕
久留米大学病院神経精神医学講座

1-P4-2 **入院患者における睡眠薬処方の推移と院内インシデント発生の推移について**

○中澤 太郎、大橋 綾子、畑部 暢三、小原 知之、中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

1-P4-3 **睡眠薬の長期処方に対する診療報酬改定と新規睡眠薬の効果**

○竹島 正浩、吉沢 和久、小笠原 正弥、伊藤 結生、三島 和夫
秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

1-P4-4 **佐賀大学医学部附属病院におけるせん妄患者への処方の変遷**

○村川 徹¹、友成 央¹、松島 淳¹、祖川 倫太郎²、川崎 美紀子²、深井 アイリ¹、高田 拳¹、平野 正貴¹、永浜 千賀¹、大石 絢子¹、菊地 潤¹、小嶋 亮平¹、立石 洋¹、國武 裕¹、溝口 義人¹、門司 晃¹

¹佐賀大学医学部精神医学講座、²佐賀大学医学部附属病院



1-P4-5 救命救急センターで人工呼吸管理を要する重症患者に対するsuvorexantと lemborexantのせん妄予防効果の検証

○松岡 綾華¹、祖川 倫太郎²、村川 徹³、溝口 義人³、門司 晃^{3,4}、島ノ江 千里²、
品田 公太¹、小網 博之¹、阪本 雄一郎¹

¹佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター、²佐賀大学医学部附属病院薬剤部、
³佐賀大学医学部精神神経学講座、⁴医療法人慈光会若久病院

1-P4-6 短時間作用型睡眠薬使用時の睡眠随伴症状の異常行動発現の頻度について

○齋藤 晴紀¹、山口 裕太郎¹、菅沼 慶¹、山本 憲²、坂寄 健²、野上 毅²、下田 健吾¹、
館野 周²

¹日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、²日本医科大学付属病院

14:15～15:00 一般演題（ポスター）5
高齢期精神障害

司会：齋藤 正範 帝京大学医学部附属溝口病院精神神経科

1-P5-1 アルツハイマー型認知症に合併したうつ病に対して修正電気痙攣療法が有効であった一例

○鈴木 伸哉^{1,3}、塩田 勝利²、津田 眞珠子²、高山 剛^{2,3}、須田 史朗²

¹自治医科大学精神医学講座、²自治医科大学附属病院精神科、³上都賀総合病院

1-P5-2 一般精神科棟より精神科救急病棟で認知症患者を入院させた方が入院期間、身体拘束率などが減少する

○宮軒 将、榎本 栞、岡田 滋裕、荒賀 哲也、松山 賢一、山下 麻希、杉田 大輔、
渡辺 史恵、吉田 昇生、森 美佳、元木 郁代、竹村 幸洋

新生病院精神科

1-P5-3 ポケット嗅覚識別テストを用いた外来高齢者の3年間の経過

○佐藤 守^{1,2}、森田 喜一郎^{2,3}、山下 裕之^{1,2}、児玉 英也^{1,2,4}、吉本 幸治²、小路 純央^{1,2}

¹久留米大学病院神経精神医学講座、²久留米大学高次脳疾患研究所、

³特定医療法人社団相和会中村病院、⁴医療法人社団芳英会宮の陣病院

1-P5-4 前頭側頭型認知症様失語を合併したレビー小体型認知症の一例

○大関 彬子^{1,2}、辻 知紘¹、岩城 弘隆²、柞木田 なつみ²

¹八戸市立市民病院臨床研修センター、²八戸市立市民病院精神神経科

14:15～15:00 一般演題（ポスター）6

ADHD及び神経画像、神経生理

司会：金原 信久 千葉大学社会精神保健教育研究センター

1-P6-1 角回血流低下を認め自我障害を呈したearly psychosisの3例

○吉川 茜、小畑 洋平、垣内 千尋、加藤 忠史
順天堂大学医学部精神医学講座

1-P6-2 貧血を伴わない鉄欠乏症を併発した全般不安症の一例

○江畑 琢矢、井原 裕、中根 えりな
獨協医科大学埼玉医療センターこころの診療科

1-P6-3 曜日別のADHDプログラム参加者の比較

○中村 善文^{1,2}、中村 暖^{1,2}、佐賀 信之^{1,2}、太田 晴久^{1,2}、水野 健²、横井 英樹²、
五十嵐 美紀²、今井 美穂²、岩波 明^{1,2}

¹昭和大学附属烏山病院昭和大学医学部精神医学教室、²昭和大学附属烏山病院

1-P6-4 昭和大学附属烏山病院ADHD専門外来におけるグアンファシンの成人への治療効果について、更なる評価を交えて

○鈴木 洋久^{1,2}、林 若穂^{1,2}、中村 暖^{1,2}、花輪 洋一^{1,2}、宇野 宏光^{1,2}、岩見 有里子^{1,2}、
長塚 雄大^{1,2}、音羽 健司^{1,2}、真田 建史^{1,2}、岩波 明^{1,2}

¹昭和大学附属烏山病院、²昭和大学医学部精神医学講座

1-P6-5 マウスにおけるメチルフェニデート作用へのL-DOPA受容体GPR143の関与

○内村 放、金井 香央里、井上 美優、増川 大輝、五嶋 良郎
横浜市立大学大学院医学研究科分子薬理神経生物学

14:15～15:00 一般演題（ポスター）7

発達障害及び摂食障害

司会：宮川 晃一 順天堂大学医学部附属浦安病院メンタルクリニック

1-P7-1 肥満恐怖のない神経性やせ症についての試論－反射形成からヒステリーの成立へ－

○稲川 優多、西依 康、安田 学、岡田 剛史、志賀 順一、渡邊 亮介、高崎 創太、
手塚 未希、小林 聡幸、須田 史朗
自治医科大学附属病院精神医学講座

1-P7-2 下痢を伴う低体重の摂食障害患者における免疫学的グルテン感受性に関する予備的研究

○山田 恒、本山 美久仁、前林 憲誠、吉村 知穂、松永 寿人
兵庫医科大学精神科神経科学講座



1-P7-3

自閉スペクトラム症に回避・制限性食物摂取症が合併した2症例

○大平 洋明、吉田 佳奈、後田 眞樹、久保 浩明、船橋 英樹、石田 康
宮崎大学医学部附属病院精神科

1-P7-4

侵襲的手段をとる10代自殺企図者には、自閉スペクトラム症者が多い

近藤 忠一¹、五明 佐也香^{1,3}、○齊間 草平¹、中根 えりな¹、江畑 琢矢¹、赤松 直哉¹、
尾形 広行¹、松島 久雄^{2,3}、井原 裕^{1,2}

¹獨協医科大学埼玉医療センターこころの診療科、

²獨協医科大学埼玉医療センター救命救急センター、³獨協医科大学埼玉医療センター救急医療科

1-P7-5

児童自閉スペクトラム症におけるさまざまな精神症状に対するアリピプラゾールの効果検討：ケーススタディ

○早津 龍之介、石井 宏樹、佐藤 愛子、木村 大、橋本 佐、中里 道子
国際医療福祉大学成田病院精神科

15:30~16:10 **専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）1**
認知症・器質性障害等

司会：伊藤 賢伸 順天堂大学医学部精神医学講座

1-KP1-1

初期意味性認知症と診断された60代後半男性に対する疾患の特性を活用したケア

○赤羽 彩、菅原 一晃、鈴木 洋平、瀬下 翔也、古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学病院神経精神科

1-KP1-2

演題取り下げ

1-KP1-3

内側側頭葉てんかんの精神症状に薬剤調整が著効した一例

○高木 英俊¹、横塚 紗永子¹、窪田 真明¹、天田 大輔²、篠山 大明¹、福山 哲広³、
北原 明彦⁴、鷲塚 伸介¹

¹信州大学医学部附属病院精神科、²横浜市総合リハビリテーションセンター、

³信州大学医学部附属病院小児科、⁴北原メンタルクリニック

1-KP1-4

精神疾患と血清蛋白質との関係

○日浦 悠斗、中村 勇基、末吉 利成、辻 利佳子、羽岡 健史、寺尾 敦、菊池 章
浦和神経サナトリウム精神科

1-KP1-5

双極性障害・統合失調症におけるミトコンドリアDNA変異の一分子解析

○大谷 紘揮^{1,2}、加藤 忠史^{1,3}、西岡 将基^{1,3,4}

¹順天堂大学医学部精神医学講座、²成仁病院、³順天堂大学医学部気分障害分子病態学講座、

⁴理化学研究所脳神経科学研究センター

15:30～16:10 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）2
統合失調症等（1）

司会：澁谷 孝之 千葉県精神科医療センター診療科

1-KP2-1 脊髄小脳変性症3型を合併した統合失調症の1例

○植村 哲也¹、金子 宜之¹、上村 宗平¹、小嶋 悠太¹、小宮 志の¹、趙 純玉¹、
大槻 怜¹、村田 沙樹子¹、斎藤 かおり¹、金森 正¹、溝口 知孝²、秋元 高義²、
中嶋 秀人²、鈴木 正泰¹

¹日本大学医学部精神医学系精神医学分野、²日本大学医学部内科学系神経内科学分野

1-KP2-2 精神病性障害患者における三年間の第一世代抗精神病薬の処方率変化

○森 啓輔、小高 文聰、小林 珠代、酒井 祥行、亀山 洋、山崎 龍一、石井 洵平、
繁田 雅弘

東京慈恵会医科大学精神医学講座

1-KP2-3 治療抵抗性統合失調症の陽性症状に対して電気けいれん療法が効果を示した1例

○野村 海里¹、渡邊 奈保子^{1,2}、持田 拓昌¹、渡邊 雅子¹、櫻井 準^{1,2}、片桐 健志^{1,2}、
青鹿 由紀³、坪井 貴嗣^{1,2}、渡邊 衡一郎^{1,2}

¹杏林大学医学部付属病院精神神経科、²杏林大学医学部精神神経科学教室、

³杏林大学医学部付属病院看護部

1-KP2-4 緊張病に対する修正型電気けいれん療法施行後に遅発性発作からてんかん重積に
移行した1症例

○津田 崇登、蓬萊 政、木村 敦、新名 尚史、山木 愛久、青山 慎介

神戸大学医学部附属病院

1-KP2-5 当院精神科救急病棟の身体拘束患者における深部静脈血栓症の後方視的調査

○玉井 大地、北元 健、堀 達

長谷川病院精神科

16:30～17:20 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）3
統合失調症等（2）

司会：根本 豊實 磯ヶ谷病院

1-KP3-1 持効性注射剤の治療転帰と中断後治療内容の調査

○松田 京介、橋本 伸彦

医療法人資生会八事病院

1-KP3-2 中等度知的障害を合併した統合失調症患者における病的多飲水に対して、イラスト
を用いた指導が奏功した一例

○盛野 弘法、蒔田 郁人、井上 千華、白井 豊、細見 和代、白川 治

湊川病院精神科医局



- 1-KP3-3 水中毒患者における横紋筋融解症の発症に関与する要因の後方視的研究
○小田 哲朗、三上 克央、木本 啓太郎、渡邊 己弦、石山 雄一、高世 駿也、山本 賢司
東海大学医学部附属病院精神科
- 1-KP3-4 逆行性射精を呈したクロザピン投与患者の1例
○造酒 慶喬、渡邊 真治、高橋 正洋、山田 尚登
上林記念病院精神科
- 1-KP3-5 薬剤性好酸球性肺炎を呈したが、Clozapine を継続投与/再増量が可能であった治療抵抗性統合失調症の一例
○田中 優樹^{1,2}、嶽北 佳輝¹、青木 宣篤¹、杉江 拓也²、木下 利彦¹
¹関西医科大学精神神経科学講座、²医療法人仁康会小泉病院

16:30~17:20 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）4
初期臨床研修医ポスター演題

司会：青木 勉 地方独立行政法人総合病院国保旭中央病院神経精神科

- 1-KP4-1 強迫行為が発症や再発に関連していた直腸脱の1症例
○藤原 翔太郎、岡村 泰、阪下 和美、和氣 仁美、多田 雅典、水野 雅文
東京都立松沢病院
- 1-KP4-2 緊急措置入院時のスクリーニング検査の有用性
○藤原 翔太郎、石田 琢人、水野 雅文
東京都立松沢病院
- 1-KP4-3 松沢病院入院中に死亡した患者の死因分析
○目黒 雄大、石田 琢人、水野 雅文
東京都立松沢病院
- 1-KP4-4 うつ病への抗うつ剤内服治療にてセロトニン症候群を発症したがパニック障害の合併と判断されていた一例
○横濱 堯、黒沢 顕三、鈴木 健太郎
地域医療機能推進機構東京新宿メディカルセンター
- 1-KP4-5 札幌医科大学附属病院高度救命救急センターに搬送された自殺企図患者の特徴と予後
○加藤 紘幹、石橋 竜太郎、佐野 智章、大江 開、津山 雄亮、昌川 安希子、柏木 智則、河西 千秋
札幌医科大学医学部神経精神医学講座
- 1-KP4-6 Pure autonomic failureで発症した約16年後に認知機能低下を呈したレビー小体型認知症
○佐藤 晃敏、鶴飼 克行
総合上飯田第一病院

6月23日(金) A会場(パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8)

8:30～10:30 シンポジウム37

主治医産業医が「両立支援と職域の安全配慮・合理的配慮義務」を重視しながら取り組む就労支援をめぐる

司会：工藤 喬 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科
渡辺 洋一郎 医療法人メディカルメンタルケア横山・渡辺クリニック名誉院長

S37-1 メンタルヘルス対策を巡る最近の労働衛生行政の動向

○伊藤 遼太郎
厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課

S37-2 安全配慮、合理的配慮、両立支援を意識した就労支援をめぐる ～精神科主治医の立場から～

○高野 知樹
医療法人社団弘富会神田東クリニック

S37-3 嘱託産業医や都道府県医師会の取り組み

○森口 次郎
京都工場保健会産業保健推進本部

S37-4 メンタルヘルス不調者の就労支援をめぐる 産業医(精神科)の立場から

○田中 和秀
ひつじクリニック

S37-5 メンタルヘルス不調者の両立支援と法的問題

○井上 洋一
愛三西尾法律事務所

〔指定発言〕

○神山 昭男
有楽町桜クリニック

〈メインコーディネーター〉 工藤 喬 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター精神科
〈サブコーディネーター〉 渡辺 洋一郎 医療法人メディカルメンタルケア
横山・渡辺クリニック名誉院長



受賞報告会

11:00~12:50

1. 精神医学奨励賞

司会：神奈川県立精神医療センター

群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

田口 寿子

福田 正人

東京医科歯科大学大学院精神行動医科学分野

塩飽 裕紀

2. フォリア賞

司会：順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学／医学部精神医学講座

加藤 忠史

京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座精神医学、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学

竹内 秀暁

順天堂大学医学部大学院精神医学講座

河上 緒

3. PCN Reports 最優秀論文賞

司会：関西医科大学精神神経科

富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座

木下 利彦

鈴木 道雄

医療法人社団八峰会池田病院

石川 和宏

4. 国際学会発表賞

司会：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学

高橋 英彦

奈良県立医科大学精神医学講座

水井 亮

(個人発表部門) 東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

越山 太輔

5. 若手国際シンポジウム発表賞

司会：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学

高橋 英彦

横浜市立大学附属市民総合医療センター

宮崎 秀仁

千葉県精神科医療センター

河岸 嶺将

東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野

星野 瑞生

国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、東京大学医学部附属病院精神神経科

高松 直岐

6. PCN Reviewer Awards

司会：順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学／医学部精神医学講座

加藤 忠史

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学

高橋 英彦

岐阜大学大学院医学系研究科精神医学

大井 一高

一般社団法人臨床疫学研究推進機構

奥村 泰之

九州大学大学院医学研究院精神病態医学

加藤 隆弘

千葉大学社会精神保健教育研究センター

金原 信久

| | |
|-------------------------------|--------|
| 藤田医科大学精神神経科 | 岸 太郎 |
| 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科 | 品川 俊一郎 |
| 岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学教室 | 高木 学 |
| 筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学 | 根本 清貴 |
| 福岡大学医学部精神医学教室 | 堀 輝 |
| 九州大学大学院医学研究院附属総合コホートセンター | 本田 貴紀 |
| 藤田医科大学大学院保健学研究科レギュラトリーサイエンス部門 | 毛利 彰宏 |
| 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野 | 渡部 雄一郎 |

7. PCN Reports Best Reviewer Awards

司会：関西医科大学精神神経科
富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座

木下 利彦
鈴木 道雄

愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座 伊賀 淳一
福岡大学医学部精神医学教室 堀 輝

8. PCN Reports Reviewer Awards

司会：関西医科大学精神神経科
富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座

木下 利彦
鈴木 道雄

山形大学医学部精神医学講座 小林 良太
特定医療法人さっぽろ悠心の郷ときわ病院 館農 勝
大正大学社会心理学部 新村 秀人

13:15～15:15 会長企画シンポジウム2 若手精神科医から見た世界の中の日本の精神医療の方向性

司会：橋本 佐 国際医療福祉大学医学部精神医学准教授

PS2-1 英国留学の体験－薬物使用障害、ギャンブル障害、摂食障害の 治療現場にて

○橋本 望
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター



PS2-2 児童思春期精神科医療：イタリアにおける歴史、専門研修プログラム および地域医療提供体制について

○マンゾッティ 須美礼^{1,2}
¹南八街病院、²国保旭中央病院





PS2-3 日本のサイコセラピー、精神療法の位置づけについて
—スイス留学、日本での外国人診療の経験をもとに—

○清水 加奈子
聖路加国際病院



PS2-4 Comparing Mental Health Systems of US, Italy, and Japan:
Identifying opportunities for improvement and collaboration

○Gianluigi Campanile
Alma Mater Studiorum – Bologna University- Dept. Psychiatry



15:30～17:30 委員会シンポジウム26 (産業保健に関する委員会)
気分障害患者における復職促進および判断基準の均てん化に向けて

司会：吉村 玲児 産業医科大学精神医学
井上 幸紀 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

CS26-1 うつ病当事者の復職促進および判断基準均てん化に向けて

○坪井 貴嗣
杏林大学医学部附属病院精神神経科学教室

CS26-2 初老期以降の気分障害患者における職場復帰支援

○池ノ内 篤子
産業医科大学精神医学教室、認知症センター

CS26-3 企業や大学における復職支援プロセスの実際

○佐渡 充洋^{1,2,3}
¹慶應義塾大学保健管理センター、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
³慶應義塾大学ストレス研究センター

CS26-4 気分障害患者の復職基準：職業適性の観点から

○渡辺 洋一郎
横山・渡辺クリニック

CS26-5 気分障害を有する労働者の復職判定に関する法的問題

○佐々木 達也
名古屋学院大学法学部

〈メインコーディネーター〉 吉村 玲児 産業医科大学精神医学
〈サブコーディネーター〉 井上 幸紀 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

6月23日(金) B会場(パシフィコ横浜ノース 1F G5)

8:30～9:30 教育講演4

司会：神庭 重信 日本うつ病センター理事長／九州大学名誉教授

EL4 精神障害における障害の社会モデルの重要性

○熊谷 晋一郎
東京大学先端科学技術研究センター



9:30～10:30 特別講演3

司会：藤井 千代 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所社会復帰研究部

SL3 A non-discriminatory(mental)health law

○George Szmukler
Emeritus Professor of Psychiatry and Society, Institute of Psychiatry, Psychology and Neuroscience, King's College London



10:45～12:45 委員会シンポジウム19 (精神医療・福祉のあり方に関する常任委員会)

国連障害者権利擁護委員会(CRPD)の対日審査をめぐって－これからのわが国の精神医療のあり方を考える

司会：佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
水野 雅文 東京都立松沢病院

CS19-1 尊厳と自己決定を重視する社会に

○森本 美紀
朝日新聞記者

CS19-2 障害者権利条約から見た日本の精神障害分野における人権課題について

○山田 悠平
一般社団法人精神障害当事者会ポルケ

CS19-3 勧告へ現場からリアルに回答する－障害者権利擁護の視点からみた精神科医療のあるべき具体像－

○来住 由樹
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

CS19-4 CRPDの勧告から見た本邦における精神障害者の就労支援の課題と方向性

○林 輝男
社会医療法人清和会西川病院



〔指定発言〕

○藤井 千代

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

〈メインコーディネーター〉 佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル

〈サブコーディネーター〉 水野 雅文 東京都立松沢病院

13:15～14:15 教育講演5

司会：岡田 幸之 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻認知行動医学講座精神行動医科学

EL5 刑事精神鑑定－最近の動向－

○五十嵐 禎人

千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門



14:15～15:15 教育講演7

司会：立花 良之 国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

EL7 女性と養育者のメンタルヘルスを再考する
－大学病院女性外来とつぶくりから見える風景

○加茂 登志子

若松町こころとひふのクリニックメンタルケア科PCIT研修センター



15:30～17:30 シンポジウム66

高齢者犯罪の現状と司法精神医学的課題

司会：五十嵐 禎人 千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門
田口 寿子 神奈川県立精神医療センター

S66-1 超高齢社会における高齢受刑者の現状と課題

○小山田 静枝¹、川西 智也²

¹昭和大学保健医療学部、²鳴門教育大学大学院

S66-2 医療観察法病棟における高齢入院対象者の現状と課題

○大町 佳永

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

S66-3 高齢者の刑事責任能力・訴訟能力

○村松 太郎

慶應義塾大学病院

S66-4

高齢者による介護殺人－超高齢化社会のメンタルヘルス問題として

○田口 寿子

神奈川県立精神医療センター

〔指定発言〕

○五十嵐 禎人

千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門

〈メインコーディネーター〉 田口 寿子 神奈川県立精神医療センター

〈サブコーディネーター〉 村松 太郎 慶應義塾大学医学部精神神経科



6月23日(金) C会場(パシフィコ横浜ノース 1F G6)

8:30~10:30 シンポジウム38

自閉スペクトラム症の特性とは何か～研究の視点を診療につなげる～

司会：太田 晴久 昭和大学発達障害医療研究所
中村 元昭 昭和大学発達障害医療研究所

S38-1 自閉スペクトラム症における「抽象的態度」の問題

○丹治 和世
小石川東京病院精神科

S38-2 意思決定の観点から検証する自閉スペクトラム症の特性： 行動経済学的手法を用いた試み

○藤野 純也^{1,2}
¹東京医科歯科大学精神科、²昭和大学附属烏山病院

S38-3 自閉症者の終助詞「ね」の使用に関する研究

○幕内 充
国立障害者リハビリテーションセンター研究所高次脳機能障害研究室

S38-4 昭和大学発達障害医療研究所での取り組み：ADHDとの異同に関する脳画像研究、 ダイケアプログラム

○太田 晴久¹、中村 元昭¹、沖村 幸¹、板橋 貴史¹、橋本 龍一郎²、青木 隆太¹、
青木 悠太³、加藤 進昌⁴
¹昭和大学発達障害医療研究所、²東京都立大学、³あおきクリニック、⁴小石川東京病院

S38-5 ギフテッドの特徴を持つ人々の実態と支援のあり方

○池澤 聰
東京大学大学院総合文化研究科ギフテッド創成寄付講座

〈メインコーディネーター〉 太田 晴久 昭和大学発達障害医療研究所

10:45~12:45 シンポジウム47

これからの摂食障害治療を考える：スタンダードな身体管理と精神療法に向けて

司会：中里 道子 国際医療福祉大学医学部精神医学精神科
竹林 淳和 浜松医科大学附属病院精神科神経科

S47-1 モーズレイ神経性やせ症治療(MANTRA)の普及と実践に向けて

○中里 道子^{1,2}
¹国際医療福祉大学医学部精神医学精神科、²千葉大学医学部附属病院精神神経科

S47-2 神経性やせ症に対する身体治療マニュアルの開発

○竹林 淳和¹、原田 朋子²、栗田 大輔³、井上 幸紀²
¹浜松医科大学医学部附属病院精神神経科、²大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学、
³社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院精神科

S47-3 児童思春期神経性やせ症に対するFamily based treatment(FBT)

○北島 翼

獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター

S47-4 日本におけるCBT(Enhanced cognitive behavior therapy)の研修システム

○河合 啓介

国立国際医療研究センター国府台病院心療内科

〈メインコーディネーター〉 中里 道子 国際医療福祉大学医学部精神医学精神科
 〈サブコーディネーター〉 竹林 淳和 浜松医科大学附属病院精神科神経科

13:15～15:15 シンポジウム57

統合失調症診断と医学の進歩 - 操作的な統合失調症診断概念における「器質因」を考える -

司会：尾関 祐二 滋賀医科大学精神医学講座
 高木 学 岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学教室

S57-1 統合失調症診断概念における「自己免疫」というアプローチ

○酒本 真次

岡山大学病院精神科神経科

S57-2 レビー小体病における精神病症状の特徴

○角 幸頼

滋賀医科大学精神医学講座

S57-3 『統合失調症』に隠れる成人ニーマンピック病C型の可能性を検討する

○藤井 久彌子

滋賀医科大学精神医学講座

S57-4 狭義の「てんかん精神病」：てんかん患者にみられる統合失調症類似の精神病

○谷口 豪、加藤 英生、大竹 眞生、中田 千尋

国立精神・神経医療研究センター病院精神科

〈メインコーディネーター〉 尾関 祐二 滋賀医科大学精神医学講座
 〈サブコーディネーター〉 高木 学 岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学教室

15:30～17:30 シンポジウム67

認知行動療法update: 診療ガイドラインから臨床実践への橋渡し

司会：中川 敦夫 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室
 藤澤 大介 慶應義塾大学医学部医療安全管理部／精神・神経科

S67-1 個人・集団認知行動療法の均てん化に向けた基礎調査とマニュアル整備

○藤澤 大介

慶應義塾大学医学部医療安全管理部／精神・神経科



S67-2 認知行動療法の効率化と今後の実装に向けて－SCBT：効率型認知行動療法－

○久我 弘典^{1,2}、梅本 育恵^{1,2}、三田村 康衣^{1,2}、牧野 みゆき¹、駒沢 あさみ^{1,3}、
上原 陽子^{1,4}、中島 俊¹、伊藤 正哉¹、大野 裕⁵、堀越 勝¹

¹国立精神神経医療研究センター認知行動療法センター、²東京慈恵会医科大学大学院医学研究科、
³目白大学心理カウンセリング学科、⁴東日本矯正医療センター、
⁵一般社団法人認知行動療法研修開発センター

S67-3 診療ガイドラインから臨床実装へ：オンラインを用いた認知行動療法の普及
(INITIATE研究)

○中川 敦夫
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S67-4 認知行動療法を普及させるためには

○菊地 俊暁
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

〔指定発言〕

○煙山 剛史
社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会桜ヶ丘記念病院

〔指定発言〕

○大野 裕
大野研究所

〈メインコーディネーター〉 中川 敦夫 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室
〈サブコーディネーター〉 藤澤 大介 慶應義塾大学医学部医療安全管理部／精神・神経科

6月23日(金) D会場(パシフィコ横浜ノース 3F G303+G304)

8:30～10:30 シンポジウム39

不安症、強迫症の診療ガイドラインと臨床的実践

司会：清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター
井上 猛 東京医科大学精神医学分野／東京医科大学病院メンタルヘルス科

S39-1 パニック症の診療ガイドラインと臨床的実践

○塩入 俊樹

岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

S39-2 強迫症(OCD)治療ガイドラインの臨床的実践

○松永 寿人

兵庫医科大学精神科精神科神経科講座

S39-3 社交不安症の診療ガイドラインと臨床的実践

○朝倉 聡

北海道大学保健センター・大学院医学研究院精神医学教室

S39-4 全般不安症のガイドラインと臨床的実践

○大坪 天平

東京女子医科大学附属足立医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 井上 猛

東京医科大学精神医学分野／

東京医科大学病院メンタルヘルス科

〈サブコーディネーター〉 清水 栄司

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター

10:45～12:45 シンポジウム48

精神科救急における医療安全

司会：深見 悟郎 千葉県精神科医療センター
松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S48-1 身体拘束と深部静脈血栓症

○成田 尚

北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

S48-2 急速鎮静と呼吸抑制

○八田 耕太郎

順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック

S48-3 精神科救急診療における適正な診断のために —大学病院精神科の果たすべき役割—

○松岡 孝裕、渡邊 さつき、新井 久稔、松尾 幸治

埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科



S48-4 精神科医療訴訟の動向と対策－強制治療に関する最近の裁判例を踏まえて

○木ノ元 直樹

木ノ元総合法律事務所弁護士

〈メインコーディネーター〉 松尾 幸治 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

13:15～15:15 シンポジウム58

精神科臨床の幅を広げるために知っておきたい漢方薬～漢方専門医でなくても上手に漢方薬を使うコツ～

司会：神庭 重信

堀口 淳

社会医療法人栗山会飯田病院精神科

島根大学医学部附属病院

S58-1 精神科臨床における酸棗仁の活用

○山寺 博史

医療法人先陣会やまでらクリニック

S58-2 精神科臨床における柴胡桂枝乾姜湯の活用

○高橋 晶^{1,2,3}

¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター、

³筑波メディカルセンター病院精神科

S58-3 桂枝加芍薬湯を過敏性腸症候群に用いる

○小野 真吾

研究学園ななほクリニック精神科

S58-4 女性のうつ病エピソードに対する女神散の応用可能性

○井口 博登

医療法人社団澤記念会神経科浜松病院

S58-5 精神科臨床における桃核承気湯の活用

○辰巳 礼奈^{1,2}

¹こころと眠りのクリニック成増、²慶應義塾大学医学部漢方医学センター

〔指定発言〕

○山田 和男

東北医科薬科大学病院精神科

〔指定発言〕

○久永 明人

医療法人清風会ホスピタル坂東

〈メインコーディネーター〉 山田 和男

東北医科薬科大学病院精神科

〈サブコーディネーター〉 久永 明人

医療法人清風会ホスピタル坂東

15:30～17:30 シンポジウム68

さまざまな精神科領域における身体症状症－専門的知見に基づく検討

司会：富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学系研究科精神機能病態学

S68-1 身体化する児童青年期の症例をどのように診るか？

○山下 達久

からすま五条・やましたクリニック精神科

S68-2 老年期における身体症状症：認知機能との関連も含めて

○稲村 圭亮

東京慈恵会医科大学附属病院

S68-3 乳房切除後疼痛症候群に対するスマホアクセプタンス&コミットメントセラピーの有効性－ランダム化比較試験

○明智 龍男

名古屋市立大学病院

S68-4 物質使用症臨床における身体症状症

○松本 俊彦

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

【指定発言】

○名越 泰秀

京都第一赤十字病院精神科（心療内科）

〈メインコーディネーター〉 富永 敏行

京都府立医科大学大学院医学系研究科精神機能病態学

〈サブコーディネーター〉 名越 泰秀

京都第一赤十字病院精神科（心療内科）



6月23日(金) E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

8:30~10:30 シンポジウム40

睡眠からみたAYA世代における精神障害とその予防

司会：清水 徹男 秋田県精神保健福祉センター
根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座

S40-1 神経発達症における睡眠障害の特徴と治療

○和田 真孝
慶應義塾大学病院

S40-2 睡眠医学をふまえた統合失調症の予防に関する新たな展望

○金子 宜之、斎藤 かおり、大槻 怜、藤井 伸邦、鈴木 貴浩、鈴木 正泰
日本大学医学部精神医学系精神医学分野

S40-3 AYA世代におけるトラウマと睡眠の関連

○富本 和歩¹、佐久間 篤¹、松本 和紀²、富田 博秋^{1,3,4}
¹東北大学病院精神科、²こころのクリニックOASIS、³東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、
⁴東北大学大学院医学系研究科災害精神医学分野

S40-4 AYA世代の精神病発症危険状態(ARMS)における睡眠障害

○田形 弘実
東邦大学医療センター大森病院

〈メインコーディネーター〉 根本 隆洋 東邦大学医学部精神神経医学講座
〈サブコーディネーター〉 田形 弘実 東邦大学医療センター大森病院東邦大学医学部
精神神経医学講座

10:45~12:45 委員会シンポジウム20 (ICD-11委員会)

ICD-11「精神、行動及び神経発達」の疾患」についての解説

司会：丸田 敏雅 聖徳大学
松本 ちひろ 日本精神神経学会

CS20-1 ICD-11CDDRの翻訳と病名和訳の現状

○神庭 重信
社会医療法人栗山会飯田病院精神科

CS20-2 ICD-11における解離症

○岡野 憲一郎
本郷の森診療所

CS20-3 自己臭関係づけ症の概念の歴史とICD-11での診断基準

○中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

CS20-4 物質使用症又は嗜癖行動症群

○樋口 進

独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科

CS20-5 遷延性悲嘆症について

○本村 啓介

独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 神庭 重信 社会医療法人栗山会飯田病院精神科
 〈サブコーディネーター〉 針間 博彦 東京都立松沢病院精神科
 秋山 剛 NTT 東日本関東病院

13:15～15:15 シンポジウム59

ギフテッドの特徴を有する子どもたちの実態と支援

司会：樋口 輝彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター／日本うつ病センター
 池澤 聡 東京大学大学院総合文化研究科ギフテッド創成寄付講座

S59-1 ギフテッドを有する方の心理社会的特徴について

○池澤 聡

東京大学大学院総合文化研究科ギフテッド創成寄付講座

S59-2 児童精神科のクリニックは、ギフテッドの子供たちにどのように治療すべきか

○宮尾 益知

どんぐり発達クリニック

S59-3 成人の神経発達症における高IQ者の特徴

○太田 晴久^{1,2}、中村 善文²、西尾 崇志²、中村 暖²、岩見 有里子²、長塚 雄大²、
 鈴木 洋久²、中村 元昭^{1,2}、沖村 宰^{1,2}、岩波 明²、加藤 進昌³

¹昭和大学発達障害医療研究所、²昭和大学附属鳥山病院、³小石川東京病院

S59-4 ヒューマノイドロボットを用いたギフテッド者への支援

○熊崎 博一

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科未来メンタルヘルス学分野

〔指定発言〕

○山末 英典

独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

〈メインコーディネーター〉 池澤 聡 東京大学大学院総合文化研究科ギフテッド創成
 寄付講座

〈サブコーディネーター〉 樋口 輝彦 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター／
 日本うつ病センター

熊崎 博一 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科未来メンタル
 ヘルス学分野



15:30~17:30 シンポジウム69

せん妄の臨床現場に残された重要課題とその対策・展望

司会：八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック
岸 泰宏 日本医科大学武蔵小杉病院精神科

S69-1 拒薬するせん妄患者にどうアプローチするか

○八田 耕太郎
順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック

S69-2 開始したせん妄の薬物療法をいつ中止するか？

○和田 健
広島市立広島市民病院精神科

S69-3 抗精神病薬でも制御できないせん妄

○岸 泰宏、大山 覚照
日本医科大学武蔵小杉病院精神科

S69-4 小型脳波計に適用したせん妄検出アルゴリズム (bispectral EEG: BSEEG) の有用性

○篠崎 元
スタンフォード大学医学部精神科

〈メインコーディネーター〉 八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック
〈サブコーディネーター〉 岸 泰宏 日本医科大学武蔵小杉病院精神科

6月23日(金) F会場(パシフィコ横浜ノース 3F G312+G313)

8:30～10:30 Fellowship Award Symposium 4 (国際委員会)
～Case Vignette: chronic pain(ケースビネット:慢性疼痛)～

司会: 安藝 森央 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学教室 (精神医学)

FAS4-1 DELIVERING THE BEST ACCESSIBLE SERVICES IN CONSULTATION-LIAISON NEUROPSYCHIATRIC PRACTICE:A CASE VIGNETTE OF A SOMATOFORM DISSOCIATIVE DISORDER

○Yesiru Kareem
Association of Psychiatrists in Nigeria

FAS4-2 Clinical case

○Marianna Tumova
Department of Biological Therapy V.M. Bekhterev National Medical Research Center for Psychiatry and Neurology, Russia

FAS4-3 Treatment of anxiety disorders in Poland - case analysis

○Joanna Smolarczyk-Kosowska
Department of Psychoprophylaxis, Faculty of Medical Science in Zabrze, Medical University of Silesia, Poland

FAS4-4 The role of psychiatrists in the interdisciplinary care of chronic pain

○Naoki Takamatsu
National Center for Cognitive Behavior Therapy and Research, National Center for Neurology and Psychiatry / Department of Neuropsychiatry, University of Tokyo Hospital, Japan

〈メインコーディネーター〉 伊井 俊貴 愛知医科大学病院
〈サブコーディネーター〉 秋山 剛 NTT 東日本関東病院

10:45～12:45 委員会シンポジウム21 (オンライン精神科医療検討作業班)
精神科領域における医療DXとオンライン診療

司会: 稲垣 中 青山学院大学教育人間科学部/保健管理センター
辻本 哲士 滋賀県立精神保健福祉センター

CS21-1 医療DX・オンライン診療を取り巻く政策動向

○木下 翔太郎
慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座

CS21-2 職場におけるデジタル技術を活用したメンタルヘルス一次予防対策

○今村 幸太郎
東京大学大学院医学系研究科デジタルメンタルヘルス講座



CS21-3 本邦におけるオンライン診療のエビデンス

○岸本 泰士郎

慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座

CS21-4 精神科診療現場でのオンライン診療の有用性と課題

○長尾 喜一郎

医療法人長尾会ねや川サナトリウム

〈メインコーディネーター〉 岸本 泰士郎 慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・
ウェルネス共同研究講座

〈サブコーディネーター〉 吉村 健佑 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター

13:15~15:15 委員会シンポジウム23 (国際委員会)

各国におけるアディクションへの対応

司会：高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
秋山 剛 NTT東日本関東病院

CS23-1 The Addiction Landscape in the 2020s: New Science, New Addictions, New Treatments, and a New Medical Framework

○Petros Levounis

President-Elect, American Psychiatric Association (President: 2023 May-)

CS23-2 Alcohol and other drugs and mental health comorbidity: How can we do this better?

○Elizabeth Moore

President-Elect, Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists (President: May 31, 2023-)

CS23-3 Rebuilding Addiction Services in UK

○Adrian James

President, Royal College of Psychiatrists
Devon Partnership NHS Trust

CS23-4 Addiction - education and research systems related to addiction and responses to new problems

○Ming-Chyi Huang

Taiwanese Society of Psychiatry

Song-De branch of Taipei City Hospital / Department of Psychiatry, Taipei Medical University

CS23-5 Countermeasures for addiction in Japan

○Matsumoto Toshihiko

Japanese Society of Psychiatry and Neurology
National Center of Neurology and Psychiatry

〈メインコーディネーター〉 秋山 剛 NTT東日本関東病院

15:30～17:30 シンポジウム70

高齢者のうつ病治療、次の一手

司会：上田 諭 東京さつきホスピタル精神科
古田 光 東京都健康長寿医療センター精神科

S70-1 ガイドラインに基づく高齢者のうつ病治療、次の一手

○伊賀 淳一
愛媛大学医学部附属病院

S70-2 高齢者うつ病治療次の一手 ECT、薬物療法、変性疾患

○古田 光
東京都健康長寿医療センター

S70-3 高齢者うつ病、効果を生む薬の出し方ガイドラインを超えて

○上田 諭
東京さつきホスピタル精神科

S70-4 高齢者の精神病性うつ病の治療

○古野 毅彦
独立行政法人国立病院機構東京医療センター精神科

S70-5 右片側性で始める高齢者うつ病の電気けいれん療法

○安田 和幸
山梨大学医学部精神神経医学

〈メインコーディネーター〉 上田 諭 東京さつきホスピタル精神科



6月23日(金) G会場(パシフィコ横浜ノース 3F G314+G315)

8:30~10:30 シンポジウム41

初診患者の精神力動的アセスメントについて

司会：衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室
池田 暁史 大正大学心理社会学部臨床心理学科

S41-1 初回面接における精神力動的アセスメントについて概説する

○岡田 暁宜
慶應義塾大学環境情報学部

S41-2 精神力動的アセスメントは介入の可能性を広げる

○白波瀬 丈一郎
東京都済生会中央病院健康デザインセンター

S41-3 認知行動療法と力動精神医学の初診時アセスメントにおける共通点と相違点

○中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〔指定発言〕

○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

〔指定発言〕

○古賀 靖彦
医療法人浜江堂油山病院

〈メインコーディネーター〉 衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室

10:45~12:45 シンポジウム49

精神医学における個別性と普遍性

司会：村井 俊哉 京都大学医学部附属病院

S49-1 精神医学における反信頼性主義の擁護

○榊原 英輔
東京大学医学部精神神経科

S49-2 2つの精神医学の調停は可能か

○鈴木 貴之
東京大学大学院総合文化研究科

S49-3 2つの個別性—特殊性と一人称的視点

○植野 仙経
京都大学医学部附属病院

S49-4 人の生き方における個別性と普遍性

○田所 重紀
札幌医科大学附属病院

S49-5 精神疾患のネットワークモデルと個別性

○信原 幸弘
東京大学総合文化研究科

〈メインコーディネーター〉 榊原 英輔 東京大学医学部精神神経科

13:15～15:15 シンポジウム60

精神医学におけるconceptual historyの重要性－統合失調症、自閉、両価性

司会：古茶 大樹 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S60-1 精神医学における「概念史」の重要性－Bleuler, E.の業績を中心に

○玉田 有
東京医科大学八王子医療センターメンタルヘルス科

S60-2 両価性：その歴史と現代的意義

○池田 暁史
大正大学心理社会学部臨床心理学科

S60-3 「自閉」概念の変遷：Bleuler, E.からKanner, L.へ

○佐々木 雅明^{1,2}
¹虎の門病院分院、²聖マリアンナ医科大学病院

S60-4 統合失調症群をとりまとめる心理学的全体・臨床的核あるいは核となるゲシュタルト－BleulerからDSMまで－

○大前 晋
国家公務員共済組合連合会虎の門病院精神科

〈メインコーディネーター〉 井上 猛 東京医科大学精神医学分野／
東京医科大学病院メンタルヘルス科

15:30～17:30 シンポジウム71

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムにおける精神科医療機関の役割

司会：太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
藤井 千代 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

S71-1 市区町村を中心とした相談支援体制の充実に向け精神科医療機関に求められる役割

○名雪 和美
厚生労働省社会援護局障害保健福祉部精神・障害保健課



S71-2 川口市における医療機関と連携した「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築に向けた取り組み

○岡本 秀行
川口市保健所

S71-3 過疎地において必然的に生まれた「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」

○永田 雅子
医療法人慈和会大口病院

S71-4 精神科診療所による地域ネットワークの展開

○藤原 修一郎
金沢文庫エールクリニック

〔指定発言〕

○長野 敏宏
公益財団法人正光会御荘診療所

〔指定発言〕

○野口 正行
岡山県精神保健福祉センター

〈メインコーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
〈サブコーディネーター〉 野口 正行 岡山県精神保健福祉センター

6月23日(金) H会場(パシフィコ横浜ノース 3F G316+G317)

8:30～10:30 シンポジウム42

がん診療において精神科医に何が期待されているのか？

司会：谷向 仁 京都大学医学部附属病院
 秋月 伸哉 がん・感染症センター都立駒込病院精神腫瘍科・メンタルクリニック

S42-1 精神科医への期待ーがん治療との統合

○松本 禎久
 公益財団法人がん研究会有明病院緩和治療科

S42-2 がん医療における遺族のこころのケアと精神科医への期待

○真島 喜幸
 NPO法人パンキャンジャパン

S42-3 サイコオネオロジストの精神科医の役割

○小早川 誠
 広島赤十字・原爆病院精神科

S42-4 がん診療における精神科医の役割とは何かー若手精神科医の視点からー

○五十嵐 江美
 東北大学病院

〈メインコーディネーター〉 秋月 伸哉 がん・感染症センター都立駒込病院精神腫瘍科・メンタルクリニック
 〈サブコーディネーター〉 谷向 仁 京都大学医学部附属病院

10:45～12:45 シンポジウム50

いまなぜグループか？新しいつながり時代の集団精神療法

司会：田辺 等 医療法人北仁会旭山病院

S50-1 オンライングループをめぐる考察

○嶋田 博之
 東日本矯正医療センター

S50-2 ひきこもりと集団精神療法母校的居場所の中で「ひきこもる能力」を獲得すること

○加藤 隆弘
 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S50-3 COVID-19対応看護スタッフに対するコンサルテーション・グループ

○衛藤 暢明
 福岡大学医学部精神医学教室



S50-4 本日にコロナのせいですか？：精神科病院における集団精神療法

○林 公輔
学習院大学文学部心理学科

〔指定発言〕

○岡島 美朗
自治医科大学附属さいたま医療センターメンタルヘルス科

〈メインコーディネーター〉 林 公輔 学習院大学文学部心理学科
〈サブコーディネーター〉 嶋田 博之 東日本少年矯正医療・教育センター医療部

13:15～15:15 シンポジウム61

防ぎえる合併症死亡を減らすため、精神科身体合併症の治療の場を考える

司会：藤田 潔 桶狭間病院藤田こころケアセンター
三宅 康史 帝京大学医学部附属病院救急医学講座

S61-1 一般有床総合病院精神科における身体合併症治療

○長谷川 雄介
富山市立富山市民病院精神科

S61-2 身体合併症の診療に重点を置いた病棟からの報告

○根本 康
さいたま市立病院精神科

S61-3 精神科救急と身体科救急の連携強化—アウトカム指標を救急車現場滞在時間、救急指令電話回数として—

○来住 由樹
地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

S61-4 急性期病棟および内科病棟を要する精神科病院の地域医療における役割

○北元 健
長谷川病院精神科

S61-5 精神科身体合併症の診療には、救急と精神科両方での臨床経験を持つ救急医の育成も必要である

○寺山 毅郎^{1,2}、戸田 裕之²、吉野 相英²
¹自衛隊中央病院救急科、²防衛医科大学校病院

〔指定発言〕

○杉山 直也
公益財団法人復康会沼津中央病院

〔指定発言〕

○橋本 聡
独立行政法人国立病院機構熊本医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 橋本 聡 独立行政法人国立病院機構熊本医療センター精神科

15:30～17:30 シンポジウム72

アディクション診療におけるグリーフケア

司会：佐久間 寛之 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター精神科
長 徹二 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん臨床教育センター

S72-1 自身の振り返りと自死遺族へのグリーフケア

○福田 貴博
医療法人見松会あきやま病院医局

S72-2 グリーフが遺したもの

○射場 亜希子
兵庫県立はりま姫路総合医療センター精神科

S72-3 訪問診療によるアルコール依存症患者の自死について

○眞城 耕志
岩出こころの診療所

S72-4 アディクション診療におけるグリーフケア—患者の死、仲間の死、私にできることは？—

○阿部 かおり
さいがた医療センター看護部

S72-5 アルコールアディクション患者の自死に向き合う時

○齋藤 利和
社会医療法人博友会平岸病院

〔指定発言〕

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 長 徹二 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん
臨床教育センター

〈サブコーディネーター〉 佐久間 寛之 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター
精神科

入来 晃久 大阪精神医療センター



6月23日(金) |会場(パシフィコ横浜ノース 3F G318+G319)

8:30~10:30 シンポジウム43

うつ病へのrTMS治療の今後の発展への取り組み

司会：高橋 隼 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
松田 勇紀 東京慈恵会医科大学附属病院精神医学講座

S43-1 rTMS療法と他の治療法の併用療法

○松田 勇紀^{1,3}、鬼頭 伸輔^{1,2}

¹東京慈恵会医科大学附属病院精神医学講座、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
³京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻

S43-2 関西TMSネットワークのレジストリデータからみえたこと

○今津 伸一¹、高橋 隼^{2,3,4,5}、戸井 優樹⁶、佐野 祥子⁷、池田 俊一郎⁸

¹大阪医科薬科大学神経精神医学教室、²大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、
³公益財団法人浅香山病院臨床研究研修センター、⁴大阪公立大学リハビリテーション学研究所、
⁵和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室、⁶公益財団法人浅香山病院精神科、
⁷医療法人杏和会阪南病院精神科、⁸関西医科大学精神神経科学講座

S43-3 治療抵抗性うつ病への反復経頭蓋磁気刺激による維持療法

○鬼頭 伸輔

国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

S43-4 世界最先端のTMS治療プロトコル(反復QPS法)の開発に向けた特定臨床研究の取り組み

○野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

【指定発言】

○竹林 実

熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 高橋 隼 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室
〈サブコーディネーター〉 松田 勇紀 東京慈恵会医科大学附属病院精神医学講座

10:45~12:45 シンポジウム51

様々な生物学的現象から考える精神疾患の病態生理

司会：朴 秀賢 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
岩田 正明 鳥取大学医学部精神行動医学分野

S51-1 精神病の神経生理学的研究

○平野 羊嗣^{1,2}

¹宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、²九州大学大学院医学研究院精神病態医学

S51-2 うつ病の神経炎症仮説とその広がり

○岩田 正明
鳥取大学医学部精神行動医学分野

S51-3 せん妄のエピジェネティクスとゲノム網羅的DNAメチル化解析

○篠崎 元
スタンフォード大学医学部精神科

S51-4 精神疾患の病態生理における成体海馬神経細胞新生の役割

○朴 秀賢
熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 朴 秀賢 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
〈サブコーディネーター〉 岩田 正明 鳥取大学医学部精神行動医学分野

13:15～15:15 委員会シンポジウム24 (法委員会)

旧優生保護法における精神科医の果たした役割についての学際的検討

司会：竹島 正 川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター
三野 進 みのクリニック

CS24-1 神奈川県における旧優生保護法の運用実態－県立公文書館所蔵資料の分析

○後藤 基行
立命館大学

CS24-2 診療録を用いた優生手術の実態調査に向けた方法論の開発

○中村 江里¹、後藤 基行²、竹島 正³、三野 進⁴、富田 三樹生⁵
¹広島大学大学院人間社会科学研究科、²立命館大学先端総合学術研究科、
³川崎市総合リハビリテーション推進センター、⁴みのクリニック、
⁵医療法人社団新新会多摩あおば病院

CS24-3 1950年代の北海道の優生保護法の運用と精神科医の関与

○三野 進
みのクリニック

CS24-4 旧優生保護法の運用実態と優生手術の実相－自治体の公文書から

○利光 恵子
立命館大学生存学研究所

〈メインコーディネーター〉 竹島 正 川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター
〈サブコーディネーター〉 三野 進 みのクリニック



15:30～17:30 **委員会シンポジウム27**（自殺予防に関する委員会）

新たな自殺総合対策大綱：見直しに向けて当学会の取り組みと今後の課題

司会：太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学
衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室

CS27-1 新たな「自殺総合対策大綱」について

○鈴木 航太
厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室

CS27-2 新たな自殺総合対策大綱の改定への当学会からの提言

○大塚 耕太郎^{1,2,3}
¹岩手医科大学神経精神科学講座、²岩手医科大学医学部災害・地域精神医学講座、
³岩手県こころのケアセンター

CS27-3 新たな自殺総合対策大綱：自殺未遂者等対策に関する要綱と課題

○河西 千秋
札幌医科大学附属病院

CS27-4 コロナ禍の女性のメンタルヘルスと大綱改定

○八木 淳子
岩手医科大学医学部神経精神科学講座／附属病院児童精神科

CS27-5 子どもの自殺予防対策の課題について

○立花 良之
国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

〔指定発言〕

○張 賢徳
六番町メンタルクリニック

〈メインコーディネーター〉 衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室
〈サブコーディネーター〉 太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

6月23日(金) J会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

8:30～10:30 **委員会シンポジウム18** (認知症委員会)

精神科医のための認知症診療のピットフォール

司会：三村 將 慶應義塾大学精神神経科学教室
品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

CS18-1 **精神科医のための認知症診療のピットフォール ～症候学的立場から～**

○橋本 衛
近畿大学医学部精神神経科学教室

CS18-2 **精神科医のための認知症診療のピットフォールー画像診断の立場からー**

○小林 良太
山形大学医学部精神医学講座

CS18-3 **精神科医のための認知症診療のピットフォール 認知機能検査の立場から**

○品川 俊一郎
東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科

CS18-4 **薬物療法の立場から**

○水上 勝義
筑波大学大学院人間総合科学学術院

〈メインコーディネーター〉 品川 俊一郎 東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科
〈サブコーディネーター〉 橋本 衛 近畿大学医学部精神神経科学教室

10:45～12:45 **委員会シンポジウム22** (精神医学研究推進委員会)

次世代の精神医学研究のあり方：知の統合による課題解決に向けて

司会：尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学
橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

CS22-1 **当事者・家族の生活が良くなるために、新規科学技術を精神科医療にどう活かすのか？**

○夏苺 郁子
やきつべの径診療所精神科

CS22-2 **AI研究が目指す次世代の精神医学研究**

○荒牧 英治
奈良先端科学技術大学院大学

CS22-3 **次世代の基礎精神医学研究のめざすもの：
疾患病態生理の因果関係をマルチスケールに解明する**

○林 朗子
RIKEN CBS



CS22-4 神経科学と科学技術ガバナンス

○標葉 隆馬
大阪大学社会技術共創研究センター

CS22-5 次世代の精神医学研究に看護学が期待すること

○野末 聖香
慶應義塾大学看護医療学部

〈メインコーディネーター〉 尾崎 紀夫
〈サブコーディネーター〉 橋本 亮太

名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
精神疾患病態研究部

13:15~15:15 シンポジウム62

子供の司法精神医学 –多職種・多組織による包括的なアプローチを目指して–

司会：太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
吉岡 眞吾 愛知県精神医療センター

S62-1 非行少年の処遇と司法精神医学のかかわり –少年法の視点を中心に

○吉中 信人
広島大学法学部

S62-2 司法手続きが必要となる子どもたち
(児童相談所での支援が係属する子どもたちを中心に)

○橋本 佳子
名古屋市中央児童相談所

S62-3 児童精神医学と司法精神医学の接点

○安藤 久美子
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S62-4 自治体・児童相談所・病院との連携で措置入院制度を活用した中学生事例

○吉岡 眞吾
愛知県精神医療センター

〈メインコーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
〈サブコーディネーター〉 吉岡 眞吾 愛知県精神医療センター

15:30～17:30 シンポジウム73

マタニティ・ハラスメントを考えるー妊娠・出産を巡るストレスー<日本精神神経科診療所協会推薦>

司会：鬼頭 有代 有希クリニックきとう医院
宮内 和瑞子 医療法人医生会宮内クリニック

S73-1 てんかんをもつ女性の妊娠出産をめぐるメンタルヘルスをどう支えるか

○渡辺 雅子
新宿神経クリニック精神科

S73-2 不妊治療当事者が抱える社会的ストレスを考える

～愛知県不妊・不育相談センターでの事例報告～

○糠谷 敬子^{1,2}、森山 恭子²、外ノ池 隆史²、大須賀 智子¹、大澤 功²
¹愛知県不妊・不育相談センター、²愛知学院大学保健センター

S73-3 コロナ禍のマタニティ・ハラスメントの現状ー労働相談から見える妊娠・出産・育児を担う女性たちの苦悩

○仁田 裕子
女性ユニオン東京

S73-4 妊婦、産婦のメンタルヘルスに影響を与える因子と周産期管理のポイント

○久保 隆彦
代田産婦人科産科

〔指定発言〕

○千葉 裕子
厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課ハラスメント防止対策室長

〈メインコーディネーター〉 鬼頭 有代 有希クリニックきとう医院
〈サブコーディネーター〉 渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科



6月23日(金) K会場(パシフィコ横浜ノース 4F G402)

8:30~10:30 シンポジウム44

精神科へき地医療の新しい時代に向けて

司会：小澤 寛樹 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻精神神経科学

S44-1 山陰におけるへき地支援

○岩田 正明
鳥取大学医学部精神行動医学分野

S44-2 長崎県における離島・へき地支援

○熊崎 博一
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科未来メンタルヘルス学分野

S44-3 鹿児島県における離島・へき地支援

○中村 雅之^{1,2}、松本 一記²
¹鹿児島大学大学院医歯薬学総合研究科精神機能病学分野、²鹿児島大学病院

S44-4 沖縄県における離島・へき地精神科医療の新しい時代に向けて

○山本 和儀
山本クリニック院長

S44-5 長崎県における児童精神科医療へき地支援体制の構築

今村 明^{1,4}、○山本 直毅¹、三宅 通¹、熊崎 博一^{1,2}、小澤 寛樹³、岩永 竜一郎⁴、
田中 悟郎⁴
¹長崎大学病院地域連携児童思春期精神医学診療部、
²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科未来メンタルヘルス学、
³長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経科学、⁴長崎大学大学院医歯薬総合研究科作業療法学

〔指定発言〕

○岸本 泰士郎
慶應義塾大学医学部ヒルズ未来予防医療・ウェルネス共同研究講座

〈メインコーディネーター〉 小澤 寛樹 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻
精神神経科学

〈サブコーディネーター〉 中村 雅之 鹿児島大学大学院医歯薬学総合研究科精神機能病学分野
岩田 正明 鳥取大学医学部精神行動医学分野

10:45～12:45 シンポジウム52

ハームリダクションを実践、症例ベースで考える

司会：齋藤 利和 社会医療法人博友会平岸病院精神医学研究所
宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

S52-1 ハームリダクションの新たな展開：ハームリダクションに基づく治療的支援

○高野 歩
東京医科歯科大学保健衛生学研究科精神保健看護学分野

S52-2 ハームリダクションをベースにした治療

○湯本 洋介
国立病院機構久里浜医療センター精神科

S52-3 ハームリダクションをベースにしたゲーム障害の予防・啓発活動の実践

○白坂 知彦、常田 深雪
医療法人溪仁会手稲溪仁会病院精神保健科

S52-4 ハームリダクションを活かした治療者-患者関係の形成

○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター

〔指定発言〕

○齋藤 利和
社会医療法人博友会平岸病院精神医学研究所

〔指定発言〕

○宮田 久嗣
東京慈恵会医科大学精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 宮田 久嗣 東京慈恵会医科大学精神医学講座

13:15～15:15 シンポジウム63

新型コロナウイルス感染症の罹患後症状における精神症状の病態と治療の最前線

司会：久我 弘典 国立精神神経医療研究センター認知行動療法センター
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学

S63-1 新型コロナウイルス感染症罹患後症状の概要

○森岡 慎一郎
国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院

S63-2 コロナ後遺症における精神症状の研究と患者レジストリ構築

○高松 直岐^{1,2}、木村 健太郎¹、梅本 育恵¹、久我 弘典¹、鬼頭 伸輔¹
¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²東京大学医学部附属病院



S63-3 COVID-19後遺症の病態解明と新規治療法開発に向けたストラテジー

○木村 大樹¹、尾崎 紀夫²

¹名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野、
²名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学

S63-4 COVID-19 罹患後のメンタルヘルスの問題に対する心理社会介入の動向

杉田 創¹、畑 琴音²、高松 直岐^{1,3}、木村 健太郎^{1,3}、Gonzalez Lecsy³、
Kodaiarasu Krandhasi⁴、Miller Christian³、梅本 育恵¹、村山 桂太郎⁵、中尾 智博⁶、
鬼頭 伸介¹、久我 弘典¹、○伊藤 正哉¹

¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²早稲田大学人間科学研究科、³コーネル大学、
⁴マククリーン病院、⁵九州大学病院、⁶九州大学大学院医学系学府

〔指定発言〕

○鬼頭 伸輔

国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

〈メインコーディネーター〉 高松 直岐 国立精神・神経医療研究センター CBT センター
〈サブコーディネーター〉 久我 弘典 国立精神神経医療研究センター認知行動療法センター

15:30～17:30 シンポジウム74

精神科臨床での音楽療法の実践－具体的な技法や患者にみられる変化・効果を中心に

司会：山本 賢司 東海大学医学部専門診療学系精神科学
村林 信行 医療法人社団信俊会心療内科アーツクリニック大崎

S74-1 統合失調症の音楽療法

○馬場 存

駿河台大学心理学部

S74-2 自閉スペクトラム症に対する音楽療法：介入技法とその有用性

○上羽（糟谷）由香^{1,2}

¹白菊園病院リハビリテーション科、²京都大学大学院医学研究科

S74-3 緩和ケア病棟における家族ケアとしての音楽療法の一考察

○伊藤 マミ

聖路加国際病院緩和ケア科

S74-4 復職支援デイケアにおける調整的音楽療法

○森平 直子

相模女子大学

S74-5 大学病院神経精神科での音楽療法 医療者の考える音楽療法の選択基準 研究結果報告

○久松 春子

東京女子医科大学病院

【指定発言】

○村林 信行

医療法人社団信俊会心療内科アーツクリニック大崎

〈メインコーディネーター〉 山本 賢司 東海大学医学部専門診療学系精神科学
〈サブコーディネーター〉 馬場 存 駿河台大学心理学部
阪上 正巳 国立音楽大学



6月23日(金) L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

9:10~11:50 **ワークショップ6** (自殺予防に関する委員会)

複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ 【事前申込制】

司会：河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座
立花 良之 国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

WS6 〈講演者〉 大塚 耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座
張 賢徳 六番町メンタルクリニック
太刀川 弘和 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学
成田 賢治 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 河西 千秋 札幌医科大学医学部神経精神医学講座
〈サブコーディネーター〉 立花 良之 国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科

13:15~14:55 **ワークショップ7**

<脳波の基礎コース>精神科医が脳波を学ぶために

司会：山内 俊雄 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長

WS7 〈講演者〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
渡邊 さつき 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
原 恵子 原クリニック精神科
高木 俊輔 東京医科歯科大学病院

〈メインコーディネーター〉 太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長
〈サブコーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
山内 俊雄 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

15:30~17:10 **ワークショップ8**

<脳波の応用コース>精神科医が脳波を臨床に生かすために

司会：矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
原 恵子 原クリニック精神科

WS8 〈講演者〉 太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長
原 恵子 原クリニック精神科
渡邊 さつき 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
高木 俊輔 東京医科歯科大学病院
山内 俊雄 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

〈メインコーディネーター〉 太田 克也 医療法人明柳会恩田第二病院院長
〈サブコーディネーター〉 矢部 博興 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
山内 俊雄 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

6月23日(金) M会場(パシフィコ横浜ノース 4F G411)

8:30～9:42 一般演題(口演) 10
発達障害及び器質性症候性精神障害

司会：鈴木 映二 東北医科薬科大学医学部精神科学教室

2-O10-1 成人ADHD患者における身体疾患の併存に関するデータベース研究
ー併存精神疾患や年齢の影響を含めてー

○高江洲 義和¹、佐藤 優美²、岩田 晋平³、石本 義和²、宮内 秀之³、
Takizawa Patcharapim⁴、近藤 毅¹

¹琉球大学精神病態医学講座、²塩野義製薬株式会社、

³シオノギファーマコビジランスセンター株式会社、⁴武田薬品工業株式会社

2-O10-2 慢性腰痛患者のADHD尺度得点は有意に高く、多動・衝動性と疼痛NRSは相関する

○笠原 諭^{1,2}、松平 浩^{2,3}、佐藤 直子⁴、岡 敬之³、藤井 朋子³、紺野 慎一⁶、菊地 臣一⁶、
丹羽 真一⁵、山田 芳嗣⁷

¹東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター、²福島県立医科大学疼痛医学講座、

³東京大学医学部附属病院22世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座、

⁴東京大学医学部附属病院看護部、⁵福島県立医科大学会津医療センター附属病院、

⁶福島県立医科大学整形外科講座、⁷国際医療福祉大学麻酔科

2-O10-3 慢性疼痛とADHD ー『風と共に去りぬ』の著者マーガレット・ミッチェルの事例ー

○笠原 諭^{1,2}、松平 浩^{2,3}、佐藤 直子⁴、丹羽 真一⁵

¹東京大学医学部附属病院麻酔科・痛みセンター、²福島県立医科大学疼痛医学講座、

³東京大学医学部附属病院22世紀医療センター運動器疼痛メディカルリサーチ&マネジメント講座、

⁴東京大学医学部附属病院看護部、⁵福島県立医科大学会津医療センター附属病院

2-O10-4 原発性アルドステロン症に合併した広場恐怖とパニック発作がエプレレノン内服により改善した一例

○木島 玲緒人、手銭 宏文、井形 亮平、岡本 直通、吉村 玲児

産業医科大学精神医学教室

2-O10-5 抑うつ気分を主訴に受診しCADASILの診断に至った一例

○齊之平 一隆、崎元 仁志、新井 薫、石塚 貴周、佐々木 なつき、福原 竜治、
中村 雅之

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野

2-O10-6 発作性運動誘発性ジスキネジアにおける体性感覚定常反応課題時の皮質活動異常

○三笥 良¹、田村 俊介^{1,2}、成 儒彬¹、眞崎 勝久³、平野 昭吾¹、中尾 智博¹

¹九州大学大学院医学研究院精神病態医学、²宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、

³九州大学大学院医学研究院神経内科学教室



9:42~10:54 一般演題（口演）12
精神作用物質使用関連障害

司会：真田 建史 昭和大学精神医学講座

- 2-O12-1 当院における依存症治療としての片頭痛治療に関する鎮痛薬適正化支援外来での取り組みについて
○井上 悟^{1,2}、三島 隆巳知^{1,2}、日高 志緒^{1,2}、伊藤 孝浩^{1,2}、田辺 奈緒美^{1,2}
¹医療法人社団優仁会鈴木神経科病院、²ポプラクリニック
- 2-O12-2 依存症専門外来における市販薬使用障害患者の予備的調査
○西村 康平、板橋 登子、小林 桜児、青山 久美、黒澤 文貴
神奈川県立精神医療センター
- 2-O12-3 依存症専門外来における大麻使用障害患者と覚醒剤使用障害患者の比較検討
○西村 康平、板橋 登子、小林 桜児、青山 久美、黒澤 文貴
神奈川県立精神医療センター
- 2-O12-4 依存症外来での初診5年後予後調査(第2報)－5年間もしくは直近2年間の乱用の有無及び影響因
○板橋 登子、小林 桜児、青山 久美、黒澤 文貴、西村 康平
神奈川県立精神医療センター
- 2-O12-5 ADHDを併存する覚せい剤依存症患者にコンサータ使用を積極的に検討するべきである
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科
- 2-O12-6 コンサータにより断薬ができた重症覚せい剤依存症の1例
○成瀬 暢也
埼玉県立精神医療センター精神科

10:54~11:54 一般演題（口演）14
器質性症候性障害及びリエゾンコンサルテーション

司会：竹内 崇 東京医科歯科大学病院精神科

- 2-O14-1 頭蓋咽頭腫摘出術後に発症したサイコース
○矢野 幹一良、卜部 葉子、成島 健二
公益財団法人東京都保健医療公社荏原病院精神科
- 2-O14-2 精神科病院における異物誤飲(消化管異物)について
○北元 健、玉井 大地、堀 達
長谷川病院精神科

2-O14-3 経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)後のせん妄発生率及び生命予後に関する臨床疫学的研究(中間報告)

○綾仁 信貴^{1,2}、大矢 希²、松本 佳大^{2,3}、全 完⁴、成木 迅²

¹独立行政法人国立病院舞鶴医療センター精神科、

²京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、³京都府精神保健福祉総合センター、

⁴京都府立医科大学大学院医学研究科循環器内科学・腎臓内科学

2-O14-4 総合病院身体科入院患者の精神症状の変遷：リエゾン活動におけるCOVID-19流行前後での比較

○松岡 秀樹¹、衛藤 暢明¹、緒方 宗玄¹、鈴木 総一郎¹、矢野 里佳¹、河野 さつき²、堀 輝¹、後藤 玲央¹、川崎 弘詔¹

¹福岡大学医学部精神医学教室、²福岡大学病院看護部

2-O14-5 身体合併症に力点を置いた精神病床を開設してから現在までの軌跡と今後に向けた課題

○根本 康¹、仙波 純一²、黒田 安計³

¹さいたま市立病院精神科、²たかつきクリニック、³さいたま市子ども家庭総合センター

11:54～12:54 一般演題（口演）16
コロナウィルス感染関連(1)

司会：大溪 俊幸 千葉大学総合安全衛生管理機構

2-O16-1 高校生アスリートのメンタルヘルスに関する調査報告

○矢野 郁明、仲田 祐介、新津 富央、伊豫 雅臣

千葉大学医学部附属病院精神神経科

2-O16-2 長崎大学病院における新型コロナウイルスに関連する職員のストレス状況調査と心理的支援 第3報

○木下 裕久^{1,4}、福原 視美¹、黒木 優子¹、小川 さやか¹、中田 奈々¹、中道 聖子¹、古林 正和¹、西野 友哉^{1,2}、松坂 雄亮^{3,4}、山本 直毅⁴、小澤 寛樹⁴

¹長崎大学保健センター、²長崎大学病院腎臓内科、³長崎県精神医療センター、

⁴長崎大学病院精神科神経科

2-O16-3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行が医療従事者に与えた長期的な心理的影響

○福島 春子¹、今井 必生^{2,3}、宮越 千智⁴、吉川 遼平¹、内藤 敦海¹、大谷 恭平⁵、松石 邦隆¹

¹神戸市立医療センター中央市民病院精神・精神科、²京都大学医学研究科健康増進・行動学分野、

³大橋クリニック、⁴神戸市立医療センター中央市民病院臨床研究推進センター、

⁵加古川中央市民病院精神神経科

2-O16-4 COVID-19の大流行を契機に神経性やせ症を発症した思春期の3例

○中村 佳夏¹、和久田 智靖¹、日比 里彩子¹、神谷 亮²、竹林 淳和¹、山末 英典¹

¹浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科、²医療法人社団凜和会藤枝駿府病院



2-O16-5 当院における精神・神経疾患患者に対する新型コロナウイルス感染症診療の変遷

○稲川 拓磨¹、佐竹 直子²、岡野 宏紀¹、榎田 嵩子¹、宇佐美 高士³、鶴沼 敦¹、
齊藤 勇二¹、佐伯 幸治¹、高野 和夫¹、宇都宮 智¹、有賀 元¹、野田 隆政¹

¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²国立国際医療研究センター国府台病院、
³北九州市立精神保健福祉センター

13:15~14:15 一般演題（口演）18
コロナウィルス感染関連(2)

司会：小松 尚也 医療法人同和会千葉病院

2-O18-1 新型コロナウイルス感染症発症後16月22日の抗原定性検査陽性は、
中等症IIへ至った症例で有意に多い

○八木澤 究、栗林 邦明、猪股 良之、杉山 和
杉山病院精神科

2-O18-2 SARS-CoV-2ワクチン有害事象・副反応:神経精神症状の観点から

○齊尾 武郎
SMBC日興証券健康管理室

2-O18-3 精神科病院の新型コロナのクラスター感染における安価なIT・IoTの活用について

○福田 英道¹、苗 鉄軍²、坪田 聡¹、湯浅 悟¹
¹医療法人明寿会、²株式会社TAOS研究所

2-O18-4 神奈川県立精神医療センターにおけるCOVID-19中等症例治療実績
単科病院での合併症治療のあり方について

○北川 理映子、茨木 丈博、吉 尚彦、金澤 さやか、小林 桜児、石田 正人、田口 寿子
神奈川県立精神医療センター精神科

2-O18-5 疥癬のクラスター感染(集団感染)への対応 ～コロナウイルス感染症との違いについて～

○和田 康夫
赤穂市民病院皮膚科

14:15~15:27 一般演題（口演）19
神経生理学及び睡眠障害

司会：鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系

2-O19-1 精神症状に対しての10秒呼吸下での心拍変動測定

○端谷 毅¹、奥田 明子²
¹はしたにクリニック、²医療法人明宣会奥田内科クリニック

2-O19-2 人間の脳代謝研究データを用いたエネルギー代謝を表す非化学量論的当量近似方程式の妥当性の検証

○新谷 太
新谷医院

2-O19-3 睡眠・覚醒相後退障害の入院治療効果予測因子の検討

○長尾 賢太郎^{1,2}、吉池 卓也²、河村 葵²、松井 健太郎³、岡邨 しのぶ²、内海 智博²、都留 あゆみ³、伊豆原 宗人³、木附 隼³、篠崎 未生²、羽澄 恵²、栗山 健一²
¹国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院精神診療部、
²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部、
³国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部

2-O19-4 反復睡眠潜時検査(MSLT)の後方視的解析

○岡田 一平、谷口 充孝、山野 里恵、黒田 大介、仲野 梨奈、藤井 陽子、杉田 淑子、大井 元晴
大阪回生病院睡眠医療センター

2-O19-5 統合失調症・うつ病入院患者の睡眠薬処方の年次推移の検討

○中村 敏範¹、降籬 隆二²、長谷川 尚美³、大槻 玲⁴、小高 文聰⁵、古郡 規雄⁶、村岡 寛之⁷、坪井 貴嗣⁸、越智 紳一郎⁹、市橋 香代¹⁰、堀 輝¹¹、三浦 健一郎³、松本 純弥³、沼田 周助¹²、渡邊 衡一郎⁸、稲田 健⁷、鷺塚 伸介¹、橋本 亮太³
¹信州大学医学部精神医学教室、²京都大学環境安全保健機構附属健康科学センター、
³国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、⁴日本大学医学部精神医学系精神医学講座、
⁵東京慈恵会医科大学精神医学講座、⁶獨協医科大学精神神経医学講座、⁷北里大学医学部精神科学、
⁸杏林大学医学部精神神経科学教室、⁹愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、
¹⁰東京大学医学部附属病院精神神経科、¹¹福岡大学医学部精神医学教室、¹²徳島大学精神科神経科

2-O19-6 微量の非定型抗精神病薬は、ベンゾジアゼピン系抗不安薬に代わりうるか - 第2報 -

○宮本 洋
医療法人聖和会つくば病院



6月23日(金) N会場(パシフィコ横浜ノース 4F G412+G413)

8:30~10:10 ワークショップ5

リエゾン精神科医が直面する臨床倫理的課題-生命に関わる身体疾患への治療を拒否する患者へのアプローチ-

司会：和田 健 広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科
西村 勝治 東京女子医科大学医学部精神医学講座

WS5 (講演者) 根本 康 さいたま市立病院精神科
和久田 智靖 浜松医科大学医学部附属病院精神神経科
瀧本 禎之 東京大学医学部附属病院
池原 毅和 東京アドヴォカシー法律事務所

(メインコーディネーター) 和田 健 広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科
(サブコーディネーター) 西村 勝治 東京女子医科大学医学部精神医学講座

10:45~12:45 シンポジウム53

臨床倫理コンサルテーションにおける精神科医の役割

司会：戸田 裕之 防衛医科大学校病院精神科学講座
小川 朝生 国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

S53-1 わが国における臨床倫理コンサルテーションの歴史と実践

○稲葉 一人
いなば法律事務所弁護士

S53-2 がん専門施設における臨床倫理コンサルテーションの取組み

○小川 朝生^{1,2}
¹国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野、
²国立研究開発法人国立がん研究センター東病院

S53-3 防衛医科大学校病院における臨床倫理コンサルテーションチームの取組み

○戸田 裕之
防衛医科大学校病院精神科学講座

S53-4 岡山県認知症臨床倫理研究会, 5年間の歩みとその後の展開

○寺田 整司¹、近藤 啓子²、石津 秀樹³、稲葉 一人⁴
¹岡山大学病院、²一般財団法人江原積善会積善病院、³公益財団法人慈圭会慈圭病院、
⁴いなば法律事務所

〔指定発言〕

○西村 勝治
東京女子医科大学医学部精神医学講座

(メインコーディネーター) 戸田 裕之 防衛医科大学校病院精神科学講座
(サブコーディネーター) 小川 朝生 国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

13:15～15:15 シンポジウム64

うつ病治療への次なる期待

司会：金沢 徹文 大阪医科薬科大学精神神経科
 竹林 実 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

S64-1 経頭蓋電気刺激療法(tES)使用の未来形 – うつ病治療への可能性 –

○西田 圭一郎¹、金沢 徹文²、木下 利彦¹
¹関西医科大学精神神経科、²大阪医科薬科大学神経精神医学教室

S64-2 fMRIニューロフィードバックを用いたうつ病治療の可能性

○岡田 剛
 広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学

S64-3 大阪医科薬科大学病院でのrTMS療法に関する実践

○今津 伸一、金沢 徹文
 大阪医科薬科大学神経精神医学教室

S64-4 マインドフルネス認知療法

○佐渡 充洋^{1,2,3}
¹慶應義塾大学保健管理センター、²慶應義塾大学医学部精神神経科学教室、
³慶應義塾大学ストレス研究センター

〈メインコーディネーター〉 金沢 徹文 大阪医科薬科大学精神神経科
 〈サブコーディネーター〉 竹林 実 熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

15:30～17:30 委員会シンポジウム28 (精神科医・精神科医療の実態把握・将来計画に関する委員会)
 精神科医の偏在対策は必要か？：現状と将来への影響

司会：吉村 健佑 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター
 宋 龍平 岡山県精神科医療センター

CS28-1 医師偏在対策の現状とその対応策：専門医制度・シーリングから考える

○吉村 健佑
 千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター

CS28-2 働き方改革による精神科医の勤務や診療への影響

○福田 正人
 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

CS28-3 精神科救急医療の均てん化と偏在対策

○杉山 直也
 公益財団法人復康会沼津中央病院



CS28-4 5疾病6事業と在宅医療を推進するために必要な精神科医配置を岡山県を例に検討する

○来住 由樹

地方独立行政法人岡山県精神科医療センター

CS28-5 分岐点にきている総合病院精神科～精神科医の偏在問題を通して

○根本 康

さいたま市立病院精神科

〈メインコーディネーター〉 宋 龍平

岡山県精神科医療センター

〈サブコーディネーター〉 根本 康

さいたま市立病院精神科

6月23日(金) O会場(パシフィコ横浜ノース 4F G414+G415)

8:30～10:30 シンポジウム45

口腔領域の難治性疼痛に対し精神科医は何をすべきか? - 歯科医と精神科医との対話から

司会：名越 泰秀 京都第一赤十字病院精神科（心療内科）
宮岡 等 北里大学医学部精神科

S45-1 他覚所見のない口腔領域の愁訴に対する精神科医の関わり

○宮岡 等^{1,2}

¹北里大学、²医薬品医療機器総合機構

S45-2 口腔領域の難治性疼痛治療の現状と精神科との連携を考える
～歯科医師の立場から～

○村岡 渡

川崎市立井田病院

S45-3 難治性疼痛の精神医学的考え方と対応

○宮地 英雄

こころのホスピタル町田精神科

S45-4 口腔領域の難治性疼痛に関して精神科医には何が必要とされているのか?
- 総合病院精神科外来の立場から -

○名越 泰秀

京都第一赤十字病院精神科（心療内科）

〈メインコーディネーター〉 宮地 英雄 こころのホスピタル町田精神科

〈サブコーディネーター〉 宮岡 等 北里大学医学部精神科

名越 泰秀 京都第一赤十字病院精神科（心療内科）

10:45～12:45 シンポジウム54

ウィズ・ポストコロナ社会におけるメンタルヘルスケア-遠隔メンタルヘルスケアシステムの社会実装にむけて-

司会：中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター理事
羽藤 邦利 特定非営利活動法人メンタルケア協議会

S54-1 遠隔メンタルヘルスケアシステムKOKOROBOの開発

○中込 和幸¹、藤井 猛¹、岩田 遼¹、飯島 由佳²、久我 弘典¹、鬼頭 伸輔¹、竹田 和良¹、
小居 秀紀¹

¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²復旦大学上海医学院

S54-2 認知行動変容アプローチを応用したチャットロボットによるメンタルケア
～その特徴と有用性について～

○菊地 俊暁

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室



S54-3 SNS・電話相談アクセスの実態とメンタルヘルス予防への効用

○西村 由紀
特定非営利活動法人メンタルケア協議会

S54-4 市民・患者参画によるメンタルヘルス予防

○吉見 明香¹、藤田 純一²、浅見 剛¹、菱本 明豊^{1,3}
¹横浜市立大学医学部精神科、²横浜市立大学医学部児童精神科、³神戸大学医学部附属病院

S54-5 メンタル・ウェルビーイングの向上をめざしたメンタルヘルスプラットフォーム開発と社会実装(JST COI-NEXT)

○竹田 和良¹、根本 敦¹、岡田 俊²、今井 健³、吉見 明香⁴、山田 悠至⁵、金田 匠海¹、大庭 真梨¹、小居 秀紀¹、中込 和幸⁶
¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・教育研修部門情報管理・解析部、
²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部、
³東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター医工情報学部門、
⁴横浜市立大学医学部精神医学教室、
⁵国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院司法精神診療部、
⁶国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〔指定発言〕

○大野 裕
大野研究所

〈メインコーディネーター〉 竹田 和良 国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・教育研修部門情報管理・解析部臨床研究計画・解析室
〈サブコーディネーター〉 中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター理事

13:15～15:15 シンポジウム65

産・官・学連携による日本におけるTMS療法の普及と拡大に向けて

司会：三村 將 慶應義塾大学精神神経科学教室
野田 賀大 慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

S65-1 オールジャパンTMS療法関連データベース・レジストリプロジェクトの推進に向けた取り組み～企業の視点～

○木崎 淳一郎
株式会社TENNE

S65-2 TMS療法と保険適用について～行政の視点から～

○中田 勝己
厚生労働省保険局医療課

S65-3 日本における治療抵抗性うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激療法と抗うつ薬治療の比較による費用対効果分析

○野田 賀大
慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

S65-4 日本におけるTMS療法の普及と拡大に向けての提言

○三村 將

慶應義塾大学医学部精神神経科学教室

〔指定発言〕

○田村 憲久

自由民主党

〈メインコーディネーター〉 盛山 宗太郎 慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

〈サブコーディネーター〉 野田 賀大 慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

15:30～17:30 シンポジウム75

地域連携・地域支援を促進する総合病院精神科医療

司会：小石川 比良来 亀田総合病院
佐藤 茂樹 成田赤十字病院精神神経科

S75-1 山形県置賜地方における有床総合病院精神科を中心とした地域支援
公立置賜総合病院精神科開設22年を通して

○赤羽 隆樹、鈴木 春芳、佐藤 洋三、鈴木 淳也、能登 契介
公立置賜総合病院診療部精神科

S75-2 総合病院における有床精神科の可能性について

○和田 央

大阪赤十字病院

S75-3 富山市立富山市民病院における退院支援とその問題点

○長谷川 雄介

富山市立富山市民病院精神科

S75-4 「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」構築のための地域連携・地域支援

○青木 勉

旭中央病院神経精神科・児童精神科

〈メインコーディネーター〉 佐藤 茂樹 成田赤十字病院精神神経科

〈サブコーディネーター〉 小石川 比良来 亀田総合病院



6月23日(金) P会場(パシフィコ横浜ノース 4F G416+G417)

8:30~10:30 シンポジウム46

新専門医制度施行後の身体科領域の生涯教育について

司会：清水 勇雄 特定医療法人恵風会高岡病院精神科、内科
俊野 尚彦 十条産業保健事務所

S46-1 精神科単科病院での専攻医研修の中で身体的な治療をする際の困難さ、工夫について

○小笹 俊哉
杏和会阪南病院精神科

S46-2 単科精神科病院での身体管理について

○小橋 大輔¹、清水 勇雄²
¹社会福祉法人シナプス埼玉精神神経センター、²医療法人恵風会高岡病院

S46-3 精神科医療で身体科疾患を扱う際の問題点: いま何をすべきか?

○角 幸頼
滋賀医科大学精神医学講座

S46-4 精神科医がベンチャー企業をつくった経験からの共有すべきこと

○物部 真一郎
高知大学

S46-5 精神科医が身体疾患診療を効率的に学ぶ方法を考える

○石田 琢人
東京都立松沢病院

S46-6 専攻医への身体科領域の教育について～自院での関わり・Web勉強会を通じて～

○清水 勇雄
医療法人恵風会高岡病院

〔指定発言〕

○松坂 雄亮
長崎県精神医療センター精神科

〔指定発言〕

○小野 正博
福島県立宮下病院

〔指定発言〕

○長 徹二
一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん臨床教育センター

〈メインコーディネーター〉 清水 勇雄 特定医療法人恵風会高岡病院精神科、内科
〈サブコーディネーター〉 俊野 尚彦 十条産業保健事務所

10:45～12:45 シンポジウム55

精神科はてんかん診療から離れる時期にきているのか？

司会：渡邊 さつき 埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科
谷口 豪 国立精神・神経医療研究センター病院精神科

S55-1 イントロダクション：本シンポジウムを企画した背景

○谷口 豪
国立精神・神経医療研究センター病院精神科

S55-2 てんかん診療の歴史：なぜ日本では精神科医がてんかんを診るのか？

○渡辺 裕貴
医療法人天仁会天久台病院精神科

S55-3 てんかん非専門医の立場から

○古郡 規雄
獨協医科大学精神神経医学講座

S55-4 てんかん診療が精神医療を、リエゾン診療を劇的に良くする：
総合病院精神科医の立場から

○岩城 弘隆^{1,2}
¹八戸市立市民病院精神神経科、²八戸市立市民病院臨床研修センター

S55-5 てんかん医療における最強人材である精神科医に、どうすれば「てんかん医療」を好きになってもらえるか

○柿坂 庸介
東北大学病院てんかん科

〔指定発言〕

○松坂 雄亮
長崎県精神医療センター精神科

〔指定発言〕

○高橋 弘樹
八戸市立市民病院

〈メインコーディネーター〉 岩城 弘隆 八戸市立市民病院精神神経科
〈サブコーディネーター〉 谷口 豪 国立精神・神経医療研究センター病院精神科



13:15～15:15 **委員会シンポジウム25** (性別不適合に関する委員会)

精神科医にどのように性別不適合(Gender Incongruence)医療に参入してもらうか

司会：中山 浩 川崎市こども家庭センター
早馬 俊 横浜メンタルクリニック戸塚

CS25-1 性別違和を抱える子どもに対する医療的ケアの実践と課題、今後の展望

○岸本 真希子¹、佐々木 掌子²

¹国立成育医療研究センター乳幼児メンタルヘルス診療科、

²明治大学文学部心理社会学科臨床心理学専攻

CS25-2 早く行きたければ一人で、遠くへ行きたければ皆と行こう

○森井 智美^{1,2,3}

¹医療法人ディーブインテンション日吉心療所、²医療法人貴秋会ちあきクリニック、

³昭和大学医学部精神医学講座

CS25-3 東北地方における性別不適合医療の現状と解決すべき課題

○富田 博秋、佐藤 祐太郎、小林 奈津子、菊地 紗耶、林 昌伸、黒沢 是之、渡邊 善、志賀 尚美、立花 眞仁、山下 慎一、伊藤 明宏、島田 宗昭、今井 啓道
東北大学病院

CS25-4 性別不適合医療への精神科医の関与の現状と課題：富山県におけるアンケート調査から

○鈴木 道雄¹、古市 厚志¹、佐武 利彦²、種部 恭子³

¹富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、²富山大学附属病院形成再建外科・美容外科、

³女性クリニックWe! TOYAMA

〈メインコーディネーター〉 中山 浩 川崎市こども家庭センター
〈サブコーディネーター〉 早馬 俊 横浜メンタルクリニック戸塚

15:30～17:30 **シンポジウム76**

精神疾患レジストリの現況報告

司会：神庭 重信 社会医療法人栗山会飯田病院精神科
久住 一郎 北海道大学大学院医学研究院精神医学教室

S76-1 精神疾患レジストリの意義と目的

○中込 和幸、吉村 直記、竹田 和良、小居 秀紀

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S76-2 精神疾患の病態に基づく層別化を目指した臨床情報を具備した血液由来試料の解析

○尾崎 紀夫

名古屋大学大学院医学系研究科

S76-3 脳神経画像の解析と縦断データに基づく、精神疾患の治療効果及び予後に関する層別化

○橋本 亮太

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

S76-4 ウェラブルデバイス由来情報に基づく睡眠関連症状の層別化と臨床転帰予測

○三島 和夫

秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座

S76-5 精神疾患領域のレジストリデータに適した統計解析手法の検討

○松山 裕¹、大庭 真梨²、塘 由惟²、神坂 遼²、小居 秀紀²

¹東京大学大学院医学系研究科・生物統計学、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S76-6 TMSデータベース解析によるうつ病患者の層別化と治療反応予測に向けたTMS療法関連レジストリの構築

○野田 賀大

慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

【指定発言】

○夏苺 郁子

やきつべの径診療所精神科

〈メインコーディネーター〉 中込 和幸

国立精神・神経医療研究センター理事

〈サブコーディネーター〉 尾崎 紀夫

名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学



6月23日(金) Q会場(パシフィコ横浜ノース 4F G418+G419)

8:30~9:18 地方会優秀演題セッション3 <東海・近畿>

司会：神出 誠一郎 東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻精神医学分野

RM3-1 てんかんとして治療歴を有する抗NMDA受容体抗体脳炎の再発が疑われた一例

○西村 晃萌¹、谷口 豪²、宮川 希²、加藤 英生²、長尾 賢太郎¹、佐藤 英樹¹

¹国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部、

²国立精神・神経医療研究センター病院てんかん診療部

RM3-2 精神症状を伴ったビタミンB12欠乏症の1例

○篠田 祐希、佐久間 健二、齋藤 竹生、北島 剛司、岩田 仲生

藤田医科大学医学部精神神経科学講座

RM3-3 選択性緘黙患者に対する 治療アプローチ

○月形 遼、二宮 光平、江崎 幸生、岩田 仲生

藤田医科大学病院

RM3-4 意味性認知症における心の理論の検討

○佐久田 静¹、高崎 昭博²、堀田 牧¹、福原 竜治³、石川 智久⁴、池田 学²、竹林 実⁵、
橋本 衛¹

¹近畿大学病院精神神経科学教室、²大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、

³鹿児島大学病院神経科精神科、⁴医療法人洗心会荒尾こころの郷病院精神科、

⁵熊本大学大学院生命科学研究部精神神経医学講座

9:30~10:18 地方会優秀演題セッション4 <近畿・中国・四国>

司会：武井 雄一 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

RM4-1 電気けいれん療法(ECT)における重度の発作誘発困難例への対応と効果について

○菅原 聡真、川島 啓嗣、諏訪 太朗

京都大学医学部附属病院精神科神経科

RM4-2 高齢の統合失調症患者に出現したパーキンソニズムの鑑別・治療にDATscanが有用であった症例

○吉岡 大祐、山梨 豪彦、岩田 正明

鳥取大学医学部附属病院精神科

RM4-3 自験例における刑事精神鑑定への傾向

○青木 岳也

周南病院(山口県)

RM4-4 岡山大学病院におけるケタミンを使用したECT9例の検討

○馬場 悠花里^{1,3}、山田 裕士¹、酒本 真次¹、竹之下 慎太郎¹、寺田 整司²、高木 学²
¹岡山大学病院精神科神経科、²岡山大学学術研究院医歯薬学域精神神経病態学教室、
³岡山県精神科医療センター

10:45～12:45 シンポジウム56
 高齢者精神科診療に必要な多様な視点を探る

司会：渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科

S56-1 高齢発症てんかんの診断と治療

○曾根 大地
 東京慈恵会医科大学精神医学講座

S56-2 高齢者のうつと自殺

○谷淵 由布子
 医療法人同和会千葉病院精神科

S56-3 老年期の気分障害の背景には脳の変性疾患があるのではないかと考えて治療方針をたてる事が重要である

○芦刈 伊世子
 あしかりクリニック医局

S56-4 高齢者の認知機能低下とトラブルの間に目を向けるー司法精神医学的視点

○岡田 幸之
 国立大学法人東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医学分野

〈メインコーディネーター〉 渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科

13:15～14:15 教育講演6

司会：中里 道子 国際医療福祉大学医学部精神医学精神科

EL6 回避・制限性食物摂取症 (ARFID)ーコロナ禍の影響を受けてー

○高宮 静男
 たかみやこころのクリニック





14:15~15:15 専攻医・初期研修医・学部学生演題（口演）5
若手チャレンジ口演(5)

司会：渡邊 博幸 医療法人学術会木村病院

- 2-KO5-1 高知大学医学部附属病院における児童精神科医のコンサルテーション・リエゾン活動
○中村 朔也、小松 静香、大原 伸騎、藤戸 良子、赤松 正規、津田 敦、數井 裕光、高橋 秀俊
高知大学医学部附属病院
- 2-KO5-2 摂食障害例における家族関係に対する親子双方向の評価：
Family Diagnostic Testを用いた検討
○高畑 賢¹、江間 彩子¹、三澤 史斉¹、児玉 啓輔¹、小村 慶和³、竹内 啓善²
¹地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院、²慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室、³京都大学大学院医学研究科
- 2-KO5-3 神経性やせ症に対するCVポートを用いた治療の有効性に関する検討
○小川 鴻基¹、三井 信幸²、黒鳥 偉作³、豊島 邦義²、藤井 泰²、賀古 勇輝⁴、久住 一郎²
¹市立室蘭総合病院、²北海道大学病院精神科神経科、³北海道大学大学院医学院社会医学講座公衆衛生学教室、⁴北海道大学病院附属司法精神医療センター
- 2-KO5-4 奈良県立医科大学附属病院精神医療センターにおける
COVID19クラスター対応と経済的損失
○赤木 優月¹、中村 明世²、徳谷 純子²、盛本 翼¹、井川 大輔¹、小森 崇史¹、牧之段 学¹、笠原 敬³
¹奈良県立医科大学精神医学講座、²奈良県立医科大学附属病院感染管理室、³奈良県立医科大学感染症センター
- 2-KO5-5 遠隔操作型ロボット(Sota100)を用いた産休育休中の医師支援についての予備的研究
○川原 紘子、冠地 信和、熊崎 博一、今村 明、小澤 寛樹
長崎大学病院精神科神経科

15:30~17:30 シンポジウム77

医薬品・医療機器のエコシステムと精神科医－本邦のレギュラトリーサイエンスに対する精神科医の役割

司会：横井 優磨 国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・教育研修部門教育研修部

- S77-1 精神科臨床医のキャリアとしてのPMDA
○大園 啓子^{1,2}
¹横浜市総合リハビリテーションセンター発達支援部、²東海大学医学部総合診療学系精神科学
- S77-2 精神科領域のプログラム医療機器開発におけるPMDAの役割
○古森 亜矢
独立行政法人医薬品医療機器総合機構

S77-3 PMDAの臨床医学担当とアカデミアにおける開発支援の専門性

○西野 良

独立行政法人国立病院機構東尾張病院

S77-4 新薬の開発段階におけるPMDAの関わり

○星野 達郎

独立行政法人医薬品医療機器総合機構新薬審査第三部

S77-5 PMDAにおける精神科臨床医学担当の役割とその先

○横井 優磨

国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・教育研修部門教育研修部

〈メインコーディネーター〉 横井 優磨 国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・
教育研修部門教育研修部



6月23日(金) R会場(パシフィコ横浜ノース 4F G420)

8:30~9:42 一般演題(口演) 11
認知症及び老年期精神障害

司会: 館野 周 日本医科大学精神医学教室

2-O11-1 地域在住高齢者における脳脊髄液体積変化と認知機能障害との関連:
熊本県荒尾市研究

○日高 洋介¹、橋本 衛²、末廣 聖³、福原 竜治⁴、石川 智久⁵、津野田 尚子⁶、
小山 明日香⁷、本田 和揮¹、宮川 雄介¹、吉浦 和宏¹、朴 秀賢⁷、石井 一成⁸、
池田 学³、竹林 実⁷

¹熊本大学病院神経精神科、²近畿大学医学部精神神経科学教室、
³大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、⁴鹿児島大学病院神経科精神科、
⁵医療法人洗心会荒尾こころの郷病院、⁶医療法人医誠会みつぐまち診療所、
⁷熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座、⁸近畿大学医学部放射線医学講座

2-O11-2 ものわずれ予防検診における単一「しりとり」課題施行中の脳酸素化ヘモグロビンの
変動: 嗅覚障害との検討

○児玉 英也^{1,2}、森田 喜一郎^{1,3}、吉村 絵美¹、佐藤 守¹、山下 裕之¹、吉本 幸治¹、
小路 純央¹

¹久留米大学病院精神科、²医療法人社団芳英会宮の陣病院、³特定医療法人社団相和会中村病院

2-O11-3 健忘、物盗られ妄想を呈した両側性視床内側部梗塞
-脳画像・認知機能検査による検討-

○坂西 信彦、塩沢 真揮、山下 建昭、渡邊 健次郎
独立行政法人国立病院機構菊池病院

2-O11-4 せん妄は認知症のどれだけの発症リスクになるのか?
~大阪医科薬科大学病院26万人の全例調査に基づく報告~

○南 博也¹、豊田 勝孝¹、畑 武生²、犬山 麻亜弥¹、辻 明里¹、今津 伸一¹、西原 雅美²、
根尾 昌志²、金沢 徹文¹

¹大阪医科薬科大学病院神経精神医学教室、²大阪医科薬科大学病院薬剤部

2-O11-5 口腔の体感幻覚症状を呈した患者における脳機能画像および有効な治療法の検討

○松井 仁美^{1,2}、岡村 毅³、保田 竜太郎^{1,2}、清水 真央^{1,2}、大森 佑貴¹、片岡 宗子^{1,2}、
古田 光^{1,2}

¹東京都健康長寿医療センター精神科、²東京医科歯科大学病院精神科、
³東京都健康長寿医療センター研究所

2-O11-6 レビー小体型認知症の予後に関する研究

○深津 孝英、兼本 浩祐
愛知医科大学精神科学講座

9:42～10:54 一般演題（口演）13

自殺予防、その他

司会：長谷川 直 千葉大学医学部附属病院緩和ケアセンター・精神神経科

2-O13-1 予期せぬ妊娠に対する意思決定とその後の女性の精神健康：
大規模オンライン調査より

○佐々木 那津¹、池田 真里²、西 大輔¹

¹東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野、

²東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻家族看護学分野

2-O13-2 重篤な境界例に自殺をしない約束を迫ることは得策ではない

○深尾 琢

岐阜大学保健管理センター

2-O13-3 自殺者と非自殺死亡者の体内リチウム濃度比較：眼房水解析

○安藤 俊太郎^{1,8}、鈴木 秀人^{2,5}、松川 岳久³、宇佐美 慧⁴、村松 尚範⁵、福永 龍繁⁶、
横山 和仁³、岡崎 祐士⁷、西田 淳志⁸

¹東京大学医学部附属病院精神神経科、²自治医科大学附属病院、³順天堂医院・メンタルクリニック、

⁴東京大学、⁵東京都監察医務院、⁶科学警察研究所、⁷医療法人厚生会道ノ尾病院、

⁸東京都医学総合研究所

2-O13-4 早期再分極所見におけるST部分の形状パターンと自殺行動との関連に関する
予備的検討

○亀山 洋^{1,2}、杉本 健一³、小高 文聰²、森 啓輔²、石井 洵平²、忽滑谷 和孝^{1,2}、
繁田 雅弘²

¹東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科、²東京慈恵会医科大学精神医学講座、

³東京慈恵会医科大学循環器内科

2-O13-5 三次救命救急センターに搬送された自殺企図患者を地域にどう繋ぐか？
～地域E-P連携の提案

○白杵 理人^{1,3}、小原 佐衣子¹、松本 俊彦²、長谷川 栄寿¹

¹国立病院機構災害医療センター救命救急科、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、

³一般社団法人日本うつ病センター

2-O13-6 がん医療における「医療従事者向け短時間ゲートキーパー研修」の効果について

○木尾 祐子¹、丸中 淳²、西村 晴美²、西海 嘉能²、尾張 夕子²

¹兵庫県立がんセンター精神科、²兵庫県立がんセンター緩和ケア内科



10:54~12:06 一般演題（口演）15

神経画像及び精神病理

司会：兼本 浩祐 中部PNESリサーチセンター

2-O15-1 多施設大規模脳画像データより明らかになった精神疾患の脳内大規模ネットワーク間の因果性結合異常

○石田 卓也^{1,2}、中村 優子^{2,3}、田中 沙織^{4,5}、岡本 泰昌⁶、村井 俊哉⁷、笠井 清登^{2,3,8,9}、川人 光男⁴、小池 進介^{2,3,9}

¹和歌山県立医科大学附属病院神経精神科、²東京大学進化認知研究センター、

³東京大学心の多様性と適応の連携研究機構、⁴国際電気通信基礎技術研究所（ATR）、

⁵奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科情報科学領域、

⁶広島大学大学院医歯薬保健学科医学講座精神神経医学教室、

⁷京都大学大学院医学研究科精神医学教室、⁸東京大学大学院医学研究科精神医学教室、

⁹東京大学ニューロインテリジェンス国際研究機構（IRCN）

2-O15-2 MEGを用いた統合失調症および双極性障害における安静時ネットワークのグラフ理論解析

○武井 雄一¹、須永 匡一¹、加藤 隆^{1,3}、田川 みなみ^{1,2}、須藤 友博²、福田 正人¹

¹群馬大学医学部附属病院、²群馬県立精神医療センター

³医療法人康生会つつじメンタルホスピタル

2-O15-3 精神病理学が臨床精神医学に寄与出来ることに関しての一考察

○鈴木 洋平

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

2-O15-4 現象学的精神病理学からマインドフルネスへ

○根本 豊實

磯ヶ谷病院精神科

2-O15-5 意識や心は唯物論的還元主的アプローチで説明できるのか

○山田 博規

西八王子病院

2-O15-6 最新の意識の研究に基づく精神医学の可能性

○山田 博規

西八王子病院内科

12:06～13:06 一般演題（口演）17

精神保健福祉

司会：塩田 勝利 自治医科大学こころのケアセンター・精神科

2-O17-1 川崎市における社会復帰医療センターの設立とその活動
—政令指定都市の歴史的挑戦から学ぶ

○竹島 正

川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター

2-O17-2 組織・職種・国境をこえた「顔の見える関係」を基礎にした
「こころのケア」ネットワーク作り

○益田 充

日本赤十字和歌山医療センター

2-O17-3 22q11.2欠失症候群の重複障害の解析：療育手帳の有無に伴う医療的困難・ニーズ

○澤井 大和¹、宇野 晃人¹、高橋 優輔¹、田中 美歩¹、金原 明子¹、熊倉 陽介¹、
柳下 祥²、神出 誠一郎¹、笠井 清登¹

¹東京大学医学部附属病院精神神経科、

²東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター構造生理学部門

2-O17-4 障害児医療/福祉の所得制限問題。当事者アンケート100例の結果にて明らかになった
“子育て罰”

○原 紘志

財団法人林精神医学研究所附属林道倫精神科神経科病院

2-O17-5 川崎市における精神障害者保健福祉手帳保有者の特徴分析

○柴崎 聡子¹、清水 寛之²、河野 稔明¹、藤野 雅人¹、田所 由起子¹、石井 美緒¹、
竹島 正¹

¹川崎市総合リハビリテーション推進センターこころの健康課、²川崎市多摩区役所

13:15～14:15 専攻医・初期研修医・学部学生演題（口演）4

若手チャレンジ口演(4)

司会：根本 清貴 筑波大学医学医療系精神医学

2-KO4-1 垂水病院における薬物依存症再発防止プログラム-SMARPP-の有効性について

○野村 政彰^{1,2}、佐々木 寛^{1,2}、高橋 慶子¹、高田 涼平²、井川 大輔²、鳥塚 通弘²、
麻生 克郎¹、山本 訓也¹、牧之段 学²

¹公益財団法人復光会垂水病院、²奈良県立医科大学精神医療センター

2-KO4-2 エチゾラムのinterdose rebound anxietyを呈した2症例

○野中 眞莉、神崎 至乃、仮屋 麻衣、齊之平 一隆、島田 尚子、新井 薫、石塚 貴周、
佐々木 なつき、福原 竜治、中村 雅之

鹿児島大学病院



2-KO4-3 妊娠、出産・授乳を契機に摂食障害、アルコール使用障害を併存する持続性抑うつ障害が改善した1例

○高岡 正和、堀 達
長谷川病院精神科

2-KO4-4 日本におけるうつ病への反復経頭蓋磁気刺激療法の有用性：前向き観察研究

○垂石 七星¹、山崎 龍一¹、松田 勇紀¹、林 大祐^{1,2}、五十嵐 俊²、鬼頭 伸輔^{1,2}、
繁田 雅弘¹
¹東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

2-KO4-5 電気けいれん療法後の体温変化とうつ症状の改善との関連性の調査

○河瀬 希望、渡辺 杏里、大矢 希、松岡 照之、富永 敏行、成木 迅
京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

14:15~15:27 専攻医・初期研修医・学部学生演題（口演）6
若手チャレンジ口演(6)

司会：片桐 直之 東邦大学医学部精神神経医学講座

2-KO6-1 クロザピンによる過活動膀胱の発現メカニズムの解明と臨床的指標の探索

○可児 涼真¹、成田 尚²、石川 修平²、久住 一郎³
¹北海道大学医学部、²北海道大学病院精神科神経科、
³北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室

2-KO6-2 抑うつを伴うAt-risk mental state (ARMS)における事象関連電位の特徴

○天能 雅人¹、樋口 悠子^{2,3}、立野 貴大^{2,3}、中島 英^{2,3}、金子 直史^{2,3}、水上 裕子²、
赤崎 有紀子²、笹林 大樹^{2,3}、高橋 努^{2,3}、鈴木 道雄^{2,3}
¹富山大学医学部医学科、²富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、
³富山大学研究推進機構アイドリング脳科学研究センター

2-KO6-3 児童思春期・発達障害外来における初診時自記式心理検査のスコア間相互関連要因の機械学習による評価の試み

○小川 軌明¹、三好 紀子^{2,3}、松本 恵^{3,4}、金井 講治⁵、佐久田 静⁶、藪田 拓哉⁷、池田 学⁶
¹大阪大学医学部医学科、
²大阪大学大学院連合小児発達学研究科子どものこころの分子制御機構研究センター、
³大阪大学大学院医学系研究科精神医学、
⁴大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄付講座、
⁵大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター保険管理部門、
⁶近畿大学病院精神神経科学教室・メンタルヘルス科、
⁷大阪大学大学院人間科学研究科臨床心理学分野

2-KO6-4 リチウム中毒後に長期に神経障害が残存した一例

○渡部 倫太郎¹、姜 善貴²、村岡 寛之²、西川 大曜²、三宅 慎²、上村 幸正²、
鈴木 龍太郎³、小川 陽子²、稲田 建²
¹北里大学病院、²北里大学医学部精神科学、³北里大学医学部精神科学地域児童精神科医療学

2-KO6-5

異常行動の対応に苦慮した成人発症II型シトルリン血症の一例

○山崎 慎一¹、鷲塚 伸介²、横塚 紗永子²、鴻池 紗耶²、日根野 晃代³、矢崎 正英⁴

¹信州大学医学部附属病院卒後臨床研修センター、²信州大学医学部附属病院精神科、

³信州大学医学部附属病院脳神経内科、

⁴信州大学医学部信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所

2-KO6-6

レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)オープンデータを用いた電気痙攣療法の臨床疫学

○雨宮 大晟¹、早川 達郎²、近藤 忠之²、柳内 秀勝¹、吉村 健佑³、酒匂 赤人¹

¹国際医療研究センター国府台病院総合内科、²国際医療研究センター国府台病院精神科、

³千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター

15:45～17:45 **シンポジウム78**

COVID-19後遺症を含めた新しい形の認知機能障害とその援助

司会：谷向 仁

京都大学医学部附属病院

小川 朝生

国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

S78-1

せん妄と認知機能障害

○井上 真一郎

新見公立大学

S78-2

COVID-19と認知機能障害

○大谷 恭平

地方独立行政法人加古川市民病院機構加古川中央市民病院精神神経科

S78-3

COVID-19関連認知機能障害

○小川 朝生^{1,2}

¹国立がん研究センター東病院先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野、

²国立研究開発法人国立がん研究センター東病院

S78-4

がんに関連した認知機能障害へのリハビリテーション評価と援助

○齊田 和哉、金子 史子、岡村 仁

広島大学医系科学研究科精神機能制御科学研究室

〈メインコーディネーター〉 大谷 恭平

地方独立行政法人加古川市民病院機構加古川中央市民病院精神神経科



6月23日(金) 国際委員会会場(パシフィコ横浜ノース 3F G320)

15:30~17:30 **Leaders Round Table** (国際委員会)

各国精神医学会の協力について

Chairpersons : 高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
秋山 剛 NTT東日本関東病院

[Speakers] 高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
Petros Levounis American Psychiatric Association
Elizabeth Moore Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists
Ming-Chyi Huang Taiwanese Society of Psychiatry

<Coordinator> 秋山 剛 NTT東日本関東病院

6月23日(金) ポスター会場(パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4)

10:45～11:25 関連学会優秀演題ポスター2

日本精神科救急学会・日本社会精神医学会・日本総合病院精神医学会・日本うつ病学会

司会：須田 史朗 自治医科大学精神医学講座

RS2-1 わが国における措置入院を含む非自発的入院制度運用の地域格差の分析

－Gini係数による可視化の試み－

○花岡 晋平^{1,2}、松本 邦愛²、中西 健太³、石川 敬子¹、深見 悟郎¹、平田 豊明^{1,4}

¹千葉県精神科医療センター、²東邦大学医学部 社会医学講座、³医療法人生会 松蔭病院、

⁴医療法人学而会 木村病院

RS2-2 精神的な問題を抱える親の養育困難に関する調査

○田中 裕子、森田 展彰、斎藤 環、大谷 保和

筑波大学

RS2-3 わが国の判例からみたDV(ドメスティック・バイオレンス)被害者の現状と課題

－男性被害者の検討－

○森下 順子

自治医科大学精神医学講座

RS2-4 地域生活中的精神障害者のセルフ・スティグマに関連する要因についての検討

－精神障害者の家族や身近なものが持つスティグマに対する捉え方を中心に－

○浦山 悠子、斎藤 環、森田 展彰、大谷 保和

筑波大学

RS2-5 乳がんサバイバーの再発恐怖に対するスマートフォン精神療法の有効性

－分散型無作為割付比較試験

○明智 龍男¹、内田 恵¹、今井 文信¹、古川 壽亮²、内富 庸介³

¹名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知行動医学、

²京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学、³国立がん研究センターがん研究所

RS2-6 治療抵抗性抑うつエピソードに対する深部経頭蓋磁気刺激療法の有効性と安全性の検討：偽刺激対照無作為化二重盲検比較試験

○松田 勇紀^{1,2}、山崎 龍一¹、五十嵐 良雄³、繁田 雅弘¹、鬼頭 伸輔^{1,4}

¹東京慈恵会医科大学精神医学講座、²京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻、

³メディカルケア虎ノ門・大手町、⁴国立精神・神経医療研究センター病院



11:45~12:25 関連学会優秀演題ポスター3

日本不安症学会・日本うつ病学会

司会：佐々木 司 東京大学大学院教育学研究科健康教育学分野

RS3-1 通常治療と比較した強迫症のガイド付きインターネット認知行動療法の有効性：
多施設ランダム化比較試験

○松本 一記^{1,2}、濱谷 沙世^{2,3}、小坂 浩隆^{3,4}、友田 明美³、片山 寛人⁵、高橋 純平²、
須藤 千尋⁶、鈴木 太³、牧野 拓也^{3,4}、新野 青那⁷、井階 友貴⁷、林 寛之⁸、清水 栄司^{2,6,9}

¹鹿児島大学病院臨床心理室、²千葉大学子どものこころの発達教育研究センター、

³福井大学子どものこころの発達研究センター、

⁴福井大学医学系部門医学領域病態制御医学講座精神医学、⁵こころとからだクリニック福井、

⁶千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学、

⁷福井大学医学系研究科統合先進医学専攻地域医療統合コース、

⁸福井大学医学系部門医学領域（附属病院）総合診療部、

⁹千葉大学医学部附属病院認知行動療法センター

RS3-2 社交不安症と閾値下社交不安の神経基盤の差異

○佐々木 翼^{1,2}、大田 淳子^{1,3}、野田 義和¹、鎌下 莉緒¹、吉田 斎子¹、栗田 幸平^{1,2,3}、
Ritu Bhusal Chhatkuli¹、荒木 謙太郎¹、大平 育世¹、松本 浩史⁴、柘田 喜正⁴、
清水 栄司^{1,3,5}、平野 好幸^{1,2,3}

¹千葉大学子どものこころの発達教育研究センター、²大阪大学大学院連合小児発達学研究所、

³量子科学技術開発研究機構、⁴千葉大学医学部附属病院放射線部、

⁵千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

RS3-3 オピオイドδ受容体作動薬は代理社会的敗北ストレスモデルにおける
過敏性腸症候群様症状を改善する

○山崎 万有奈¹、吉岡 寿倫¹、大橋 美咲¹、松本 健次郎⁴、小俣 知貴¹、濱野 匠¹、
公木 彩夏¹、岡野 功太郎¹、小林 里帆¹、飯尾 啓太²、山田 大輔¹、羽田 紀康³、
加藤 伸一⁴、長瀬 博²、斎藤 顕宜¹

¹東京理科大学薬学部薬理学研究室、²筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構創薬化学研究室、

³東京理科大学薬学部生薬・薬用植物学研究室、⁴京都薬科大学薬学部病態薬科学系薬物治療学分野

RS3-4 中高生における精神病様体験と希死念慮・自傷行為の縦断的関連性

○周 瑞、山口 智史、西田 明日香、小川 佐代子、東郷 史治、佐々木 司

東京大学教育学研究科

RS3-5 難治性うつ状態患者における認知機能とその後の生活の質の改善度との関連

○大江 悠樹^{1,2}、栗原 真理子^{1,2}、櫻井 準^{1,2}、坪井 貴嗣^{1,2}、片桐 建志^{1,2}、早坂 友成^{2,3}、
二田 未来^{2,3}、長島 泉^{2,3}、青鹿 由紀³、小野田 直子⁴、渡邊 衛一郎^{1,2}

¹杏林大学医学部精神神経科学教室、²杏林大学医学部付属病院、³杏林大学保健学部作業療法学科、

⁴医療法人社団慶神会武田病院

13:15～14:00 一般演題（ポスター）8
統合失調症(1)

司会：西本 雅彦 医療法人社団青木末次郎記念会相州病院医局

2-P8-1 統合失調症薬物治療ガイドライン/うつ病治療ガイドラインへの治療適合度 (individual fitness score) の開発

○福本 健太郎¹、稲田 健²、小高 文聰^{3,4}、長谷川 尚美⁴、村岡 寛之²、堀 輝⁵、市橋 香代⁶、安田 由華⁷、飯田 仁志⁵、大井 一高⁸、越智 紳一郎⁹、松本 純弥⁴、三浦 健一郎⁴、古郡 規雄¹⁰、渡邊 衡一郎¹¹、大塚 耕太郎¹、橋本 亮太⁴

¹岩手医科大学医学部神経精神科学講座、²北里大学医学部精神科学教室、

³東京慈恵会医科大学精神医学講座、

⁴国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、

⁵福岡大学医学部精神医学教室、⁶東京大学医学部附属病院精神神経科、

⁷生きる育む輝くメンタルクリニック、⁸岐阜大学大学院医学系研究科精神医学分野、

⁹愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学、¹⁰獨協医科大学医学部精神神経医学講座、

¹¹杏林大学医学部精神神経科学教室

2-P8-2 持効性注射剤に関するアンケート調査の結果とアンケートがもたらした患者への影響について

○橋本 和子

社会医療法人芳和会菊陽病院

2-P8-3 日本人統合失調症患者における blonanserin テープ長期貼付による寛解～治験データの事後解析～

○井上 善文¹、中村 洋¹、松本 裕司¹、嶋 泰一¹、渡部 恵²

¹住友ファーマ株式会社メディカルアフェアーズ部、²住友ファーマ株式会社データサイエンス部

2-P8-4 統合失調症患者における blonanserin テープの有効性、安全性、薬物動態の性別比較～治験データ～

○井上 善文¹、松本 裕司¹、西部 宏紀²、渡部 恵³

¹住友ファーマ株式会社メディカルアフェアーズ部、²住友ファーマ株式会社臨床企画部、

³住友ファーマ株式会社データサイエンス部

2-P8-5 統合失調症患者の Life Engagement に対する ルラシドンの影響：JEWEL 試験の post hoc 解析

○三浦 至¹、佐野 文哉²、坂口 玲子³、岡本 恵佑⁴、高井 健太郎⁵、丸山 秀徳⁵

¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²住友ファーマ株式会社データサイエンス部、

³住友ファーマ株式会社臨床企画部、⁴住友ファーマ株式会社臨床推進部、

⁵住友ファーマ株式会社メディカルアフェアーズ部



13:15~14:00 一般演題（ポスター）9

統合失調症及び地域精神医療

司会：小松 浩 東北大学病院精神科

2-P9-1 Prader-Willi症候群に併発した統合失調症にアリピプラゾールが有効であった一例

○萩倉 美奈子¹、稲田 俊也²、田中 有華¹、松永 由美子¹、鈴木 幸恵¹、嶋 宏昭¹、
西垣 誠¹、園田 学¹、新藤 琢生¹、坪井 重博¹

¹豊田西病院精神科、²名古屋大学医学部附属病院

2-P9-2 New long-stay患者における自閉性特性と多飲症との関連についての調査

○小松 浩^{1,2}、大野 高志²、尾之内 勇治²、小野口 豪³、米田 芳則²、富田 博秋^{1,3}、
角藤 芳久²

¹東北大学病院精神科、²宮城県立精神医療センター、³東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

2-P9-3 統合失調症患者の認知機能に対する精神科医アンケート調査結果

○遠矢 俊司¹、高井 健太郎¹、増田 孝裕¹、中川 伸²

¹住友ファーマ株式会社メディカルアフェアーズ部、
²山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

2-P9-4 精神科救急病棟における精神保健福祉士等の人員配置と治療アウトカムとの関連
－厚労科研全国実態調査－

○鈴木 耕輔¹、新津 富央¹、木村 大^{1,2,3}、柳澤 雄太²、小野 まり奈⁴、小松 英樹⁴、
吉村 健佑⁴、渡邊 博幸^{2,5}、伊豫 雅臣¹

¹千葉大学大学院医学研究院精神医学、²医療法人学術会木村病院、³国際医療福祉大学、
⁴千葉大学医学部附属病院、⁵千葉大学社会精神保健教育研究センター

2-P9-5 地方精神科病院の多職種チームによるIPS(Individual Placement and Support)の
実践

○福武 周作、中岡 恵理、尾宮 和咲、河原 理華、高井 優花、新井 亨、原田 紀行、
佐藤 創一郎、引地 充

社会医療法人高見徳風会希望ヶ丘ホスピタル

13:15~14:00 一般演題（ポスター）10

気分(感情)障害及び高齢期精神障害

司会：赤羽 晃寿 帝京大学医学部精神神経科学講座

2-P10-1 地域高齢男性を対象とした睡眠充足度と概日活動リズムの関連

○内海 智博^{1,2}、吉池 卓也²、有竹 清夏³、松井 健太郎²、河村 葵²、長尾 賢太郎²、
伏見 もも^{2,3}、都留 あゆみ²、木附 隼^{2,4}、羽澄 恵²、斎藤 かおり⁴、鈴木 正泰⁴、
栗山 健一²

¹東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科、

²国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・覚醒障害研究部、

³埼玉県立大学大学院保健医療福祉学研究科／保健医療福祉学部健康開発学科、

⁴日本大学医学部精神医学系精神医学分野

2-P10-2

高齢者うつ病の経時的脳形態学的変化

○下田 健吾¹、木村 真人^{1,3}、館野 周²

¹日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、²日本医科大学付属病院、³北総メンタルクリニック

2-P10-3

高齢者うつ病の発症前から認知症に至る12年間追跡することができた1症例の経時的脳形態学的変化

○下田 健吾¹、菅沼 慶¹、齋藤 晴紀¹、山口 裕太郎¹、館野 周²

¹日本医科大学千葉北総病院メンタルヘルス科、²日本医科大学付属病院

2-P10-4

うつ病との鑑別が問題となったFTLD-tauの一例

○木村 朴^{1,2}、河上 緒^{1,2,3}、池田 研二^{2,3}、永倉 暁人^{1,2}、新里 和弘²、大島 健一²、長谷川 成人³、加藤 忠史¹

¹順天堂大学医学部精神医学講座、²東京都立松沢病院精神科、

³東京都医学総合研究所認知症プロジェクト

2-P10-5

メトホルミンによるせん妄リスクおよび死亡率の低減の可能性：後ろ向きコホート研究

○山梨 豪彦^{1,2,3}、岩田 正明⁴、篠崎 元^{2,3}

¹鳥取大学医学部附属病院、²スタンフォード大学、³アイオワ大学、⁴鳥取大学医学部

13:15～14:00 一般演題（ポスター）11

発達障害及び強迫性障害

司会：松澤 大輔 新津田沼メンタルクリニック

2-P11-1

精神科病院に入院中の強度行動障害を伴う自閉症スペクトラム障害患者に自立課題の手法を用いた一例

○難波 達顕、原田 俊樹、大矢 芳男、中田 圭一、白形 鷹博、兒玉 昌純、樋口 裕二
さきがけホスピタル

2-P11-2

NODDIを用いた自閉スペクトラム症のPTSD症状と脳灰白質微小構造の関連についての検討

○北村 聡一郎^{1,2}、松岡 究^{1,2}、高橋 誠人¹、吉川 裕晶¹、石田 理緒¹、岸本 直子¹、橋本 亮太³、安田 由華^{3,4}、宮坂 俊輝⁵、吉川 公彦⁵、牧之段 学¹

¹奈良県立医科大学精神科、²量研機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究部、

³国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、

⁴医療法人フォスター、⁵奈良県立医科大学放射線・核医学科

2-P11-3

自閉スペクトラム症の傾向を認める造血細胞移植患者の精神医学的特徴

○大西 雄一¹、三上 克央¹、赤間 史明²、高橋 有記¹、木本 啓太郎¹、山本 賢司¹

¹東海大学医学部総合診療学系精神科学、²医療法人芳州会村井病院

2-P11-4

強迫症専門クリニックにおける診療実績－原井クリニック診療実績

○原井 宏明、松浦 文香

原井クリニック精神科



2-P11-5 強迫症に対する動画モバイル治療(Mobi-Therapy)の効果：パイロット研究

○今井 必生^{1,2}、古川 壽亮²

¹大橋クリニック医局、²京都大学大学院医学研究科健康増進・行動学分野

14:15~15:00 一般演題 (ポスター) 12

妊娠および児童思春期関連

司会：赤穂 理絵 東京女子医科大学精神医学講座

2-P12-1 深層学習を用いた妊婦の心拍情報によるメンタルヘルスと睡眠状況の予測手法の開発

○李 雪¹、Chiaki Ono²、Noriko Warita²、Tomoka Shoji¹、Takashi Nakagawa^{1,2}、Hitomi Usukura²、Zhiqian Yu²、Yuta Takahashi²、Kei Ichiji⁴、Norihiro Sugita⁵、Natsuko Kobayashi²、Saya Kikuchi²、Yasuto Kunii²、Keiko Murakami³、Mami Ishikuro³、Taku Obara³、Tomohiro Nakamura⁶、Fuji Nagami⁷、Takako Takai⁶、Soichi Ogishima⁶、Junichi Sugawara⁸、Tetsuro Hoshiai⁹、Masatoshi Saito⁹、Gen Tamiya¹⁰、Nobuo Fuse¹⁰、Shinichi Kuriyama³、Masayuki Yamamoto⁹、Nobuo Yaegashi⁹、Noriyasu Honma⁴、Hiroaki Tomita^{1,2,7,8}

¹東北大学医学系研究科精神神経学分野、²東北大学病院精神科、

³東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学、

⁴東北大学医学系研究科医用画像工学分野、⁵東北大学工学研究科・工学部、

⁶東北大学東北メディカル・メガバンク機構医療情報ICT部門、⁷東北大学災害科学国際研究所、

⁸東北大学東北メディカル・メガバンク機構地域医療支援部門、⁹東北大学医学系研究科周産期医学、

¹⁰東北大学東北メディカル・メガバンク機構ゲノム解析部門

2-P12-2 妊婦における精神神経用剤服薬および心理的苦痛の有無と

2歳時点の児の行動特性との関連

○高橋 一平¹、小原 拓^{1,2,3}、菊地 紗耶^{4,5}、小林 奈津子^{4,5}、小原 竜^{1,6}、野田 あおい^{1,2,3}、上野 史彦^{1,2}、大沼 ともみ^{1,2}、村上 慶子^{1,2}、石黒 真美^{1,2}、富田 博秋^{2,4,5,7}、栗山 進一^{1,2,8}

¹東北大学大学院医学系研究科分子疫学分野、

²東北大学東北メディカル・メガバンク機構予防医学・疫学部門、³東北大学病院薬剤部、

⁴東北大学病院精神科、⁵東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野、⁶川崎こころ病院薬剤科、

⁷東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野、

⁸東北大学災害科学国際研究所災害公衆衛生学分野

2-P12-3 子ども時代の逆境の体験(ACEs)と産後1ヶ月時のエジンバラ産後うつ病質問票(EPDS)に関する後方視的調査

○本多 笑奈¹、川村 花恵²、福本 健太郎¹、大塚 耕太郎¹

¹岩手医科大学神経精神科学講座、²岩手医科大学産婦人科学講座

2-P12-4 精神疾患患者の子育て支援—親子を対象としたインタビュー調査から—

○松岡 美智子、大江 美佐里、内村 直尚、小曾根 基裕

久留米大学医学部精神神経科

2-P12-5 小学生の感情や行動に影響する因子に関するパス解析結果

○松岡 美智子^{1,2}、松石 豊次郎^{2,4}、永光 信一郎^{2,5}、角間 辰之³、内村 直尚¹、小曾根 基裕¹

¹久留米大学医学部精神神経科、²久留米大学医学部小児科、³久留米大学バイオ統計センター、⁴社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院、⁵福岡大学病院

14:15～15:00 一般演題（ポスター）13

コロナ感染症関連及びストレス関連

司会：井手本 啓太 千葉大学医学部附属病院精神神経科

2-P13-1 COVID-19パンデミックの前後における大学職員の精神的ストレスの変化に関する検討

○谷藤 貴紀¹、毛利 健太郎²、山本 泰司²、青山 慎介¹

¹神戸大学附属病院精神科神経科、

²神戸大学インクルーシブキャンパス&ヘルスケアセンター保健管理部門

2-P13-2 COVID-19流行開始1年後の大学病院職員の心理的影響調査(第2回) - 流行初期の第1回調査と比較して -

○井出 恵子^{1,2}、浅見 剛²、野本 宗孝²、菱本 明豊²

¹横浜市立大学附属病院精神科、²横浜市立大学医学部精神医学教室

2-P13-3 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対する感染防御行動と心理社会的状態の関連

○井手本 啓太¹、新津 富央¹、椎名 明大²、小堀 修³、小野寺 みさき⁴、太田 貴代光¹、宮澤 惇宏¹、橘 真澄¹、木村 允¹、関 亮太¹、橋本 佐⁵、吉村 健佑⁶、伊藤 彰一⁴、中里 道子⁵、五十嵐 禎人²、清水 栄司⁷、伊豫 雅臣^{1,2}

¹千葉大学大学院医学研究院精神医学、²千葉大学社会精神保健教育研究センター、

³国際医療福祉大学心理学科、⁴千葉大学大学院医学研究院医学教育学、

⁵国際医療福祉大学精神神経科、⁶千葉大学医学部附属病院次世代医療構想センター、

⁷千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

2-P13-4 静岡県新型コロナウイルス感染症対応医療機関における医療従事者のメンタルヘルスサポート事業の調査結果

○亀野 陽亮^{1,2}、西村 倫子³、内藤 由美²、浅井 大輔^{1,2}、井上 淳^{1,2}、望月 洋介^{1,2}、磯部 智代^{1,2}、花田 敦子⁴、榎本 紀之²、山末 英典^{1,2}

¹浜松医科大学精神医学講座、²浜松医科大学保健管理センター、

³浜松医科大学子どものこころの発達研究センター、⁴浜松医科大学医学部附属病院看護部

2-P13-5 医療従事者を対象としたヨガ療法による情緒的消耗への影響：単群前後比較試験

○猪飼 紗恵子^{1,2}、神山 咲樹³、宗 未来³、三村 将¹、内田 裕之¹

¹慶應義塾大学精神・神経科学教室、²医療法人くすのき会南飯能病院、³東京歯科大学市川総合病院



14:15~15:00 一般演題（ポスター）14
気分(感情)障害(2)

司会：佐藤 愛子 国際医療福祉大学成田病院精神科／千葉大学大学院医学研究院精神医学

2-P14-1 解離性障害・転換性障害の背後に潜む気分障害についての検討

○木村 敦史、新津 富央、伊豫 雅臣
千葉大学医学部附属病院精神神経科

2-P14-2 新規評価尺度(ERP-D-24)を用いた気分障害患者のライフイベントに関連する心理的苦悩の検討

○石井 宏樹^{1,2}、橋本 佐^{1,2}、佐藤 愛子^{1,2}、田中 麻未³、関 亮太^{1,4}、小川 道¹、
木村 敦史¹、中里 道子²、伊豫 雅臣¹
¹千葉大学医学部精神医学教室、²国際医療福祉大学成田病院、
³千葉大学社会精神保健教育研究センター、⁴医療法人同和会千葉病院

2-P14-3 双極性障害患者の認知機能に対する精神科医アンケート調査結果

○増田 孝裕¹、遠矢 俊司¹、高井 健太郎¹、中川 伸²
¹住友ファーマ株式会社メディカルアフェアーズ部、
²山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座

2-P14-4 リアルワールドにおける双極性障害外来患者の入院予測因子

○徳満 敬大¹、古郡 規雄¹、足立 直人²、窪田 幸久²、渡辺 洋一郎²、三木 和平²、
阿瀬川 孝治²、枝川 浩二²、勝元 榮一²、本郷 誠司²、後藤 英一郎²、上田 均²、
加藤 正樹³、中川 敦夫⁴、菊地 俊暁⁵、坪井 貴嗣⁶、渡邊 衡一郎⁶、下田 和孝¹、
吉村 玲児⁷
¹獨協医科大学精神神経医学講座、²日本精神神経科診療所協会、³関西医科大学精神神経科学講座、
⁴聖マリアンナ医科大学神経精神科、⁵慶應義塾大学精神神経科学教室、
⁶杏林大学医学部精神神経科学教室、⁷産業医科大学精神医学教室

2-P14-5 抗パーキンソン病薬中止によって衝動制御障害(露出障害)に伴う抑うつ症状が改善した1例

○右田 香奈枝¹、岡本 直通¹、池ノ内 篤子^{1,2}、橋本 智代³、足立 弘明³、吉村 玲児¹
¹産業医科大学医学部精神医学教室、²産業医科大学病院認知症センター、
³産業医科大学医学部神経内科学講座

14:15~15:00 一般演題（ポスター）15
精神保健福祉

司会：村松 太郎 慶應義塾大学医学部精神神経科

2-P15-1 当院の外国人入院患者の実態調査研究

○中島 えり菜、是木 明宏、森口 翔、加治 正喬、岡田 麻衣、岩村 慧、須藤 亜紗実
国立病院機構下総精神医療センター

2-P15-2

**精神保健福祉法第24条に基づく検察官通報の現状把握に関する研究(その1)
通報・事前調査について**

○瀬戸 秀文¹、稲垣 中²、太田 順一郎³、小口 芳世⁴、島田 達洋⁵、椎名 明大⁶、
中西 清晃⁷、中村 仁⁸、小池 純子⁷、藤井 千代⁷

¹福岡県立精神医療センター太宰府病院精神科、²青山学院大学、³岡山市こころの健康センター、
⁴聖マリアンナ医科大学病院、⁵栃木県精神保健福祉センター、⁶千葉大学医学部附属病院精神神経科、
⁷国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、⁸長崎県精神医療センター

2-P15-3

**精神保健福祉法第24条に基づく検察官通報の現状把握に関する研究(その2)
指定医診察例について**

○瀬戸 秀文¹、稲垣 中²、太田 順一郎³、小口 芳世⁴、島田 達洋⁵、椎名 明大⁶、中西 清晃⁷、
中村 仁⁸、小池 純子⁷、藤井 千代⁷

¹福岡県立精神医療センター太宰府病院精神科、²青山学院大学、³岡山市こころの健康センター、
⁴聖マリアンナ医科大学病院、⁵栃木県精神保健福祉センター、⁶千葉大学医学部附属病院精神神経科、
⁷国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、⁸長崎県精神医療センター

2-P15-4

措置入院となった精神障害者の前向きコホート研究 退院2年後の治療状況

○瀬戸 秀文^{1,5}、稲垣 中²、島田 達洋³、大塚 達以⁴、岩永 英之⁵、中西 清晃⁶、中村 仁⁷、
渡辺 純一⁸、横島 孝至⁹、奥野 栄太¹⁰

¹福岡県立精神医療センター太宰府病院精神科、²青山学院大学、³栃木県精神保健福祉センター、
⁴東北大学病院、⁵独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、
⁶国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、⁷長崎県精神医療センター、
⁸公益財団法人井之頭病院、⁹公益財団法人復康会沼津中央病院、¹⁰医療法人一灯の会沖縄中央病院

2-P15-5

措置診察を担当する精神保健指定医の招聘システムの各自治体における現状について

○瀬戸 秀文¹、稲垣 中²、太田 順一郎³、小口 芳世⁴、島田 達洋⁵、椎名 明大⁶、
中西 清晃⁷、中村 仁⁸、小池 純子⁷、藤井 千代⁷

¹福岡県立精神医療センター太宰府病院精神科、²青山学院大学、³岡山市こころの健康センター、
⁴聖マリアンナ医科大学病院、⁵栃木県精神保健福祉センター、⁶千葉大学医学部附属病院精神神経科、
⁷国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、⁸長崎県精神医療センター

15:30～16:10 **専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）5**
緩和ケア・器質性精神疾患

司会：杉原 玄一 東京医科歯科大学精神行動医学分野

2-KP5-1

単科精神病院における緩和ケアの取り組み

○積 豪英、尾上 毅、橋本 和子
社会医療法人芳和会菊陽病院医局

2-KP5-2

心因性非てんかん発作を疑われた、抗NMDA受容体脳炎の1例

○石原 森生¹、藤原 祐大¹、山崎 真之¹、戸田 裕之¹、吉野 相英¹、石原 圭人²、
本郷 悠²、鈴木 一詩²、谷口 裕亮³、瀬野 宗一郎³

¹防衛医科大学校病院防衛医科大学校精神科学講座、²防衛医科大学校神経・抗加齢血管内科、
³防衛医科大学校病院救急部



- 2-KP5-3 卵巣嚢腫と画像診断された卵巣奇形腫に伴う、抗NMDA受容体脳炎による器質性精神病の1例
○松尾 悠史¹、服部 英典²、安康 Mayuka²、須田 哲史¹、井出 健太郎¹、中島 和樹¹、小林 駿¹、桑原 達郎¹
¹国家公務員共済組合連合会立川病院精神神経科、²国家公務員共済組合連合会立川病院

- 2-KP5-4 レビー小体型認知症の診断におけるDaT-SCANの位置づけについて
○福本 俊太郎、吉野 祐太、橘 侑南、山崎 聖広、奥村 力、上野 真梨子、日根野 清、上野 修一
愛媛大学医学部附属病院精神科

- 2-KP5-5 若年性アルツハイマー型認知症から神経梅毒に診断変更した一例
○玉川 博章¹、井手本 啓太²、倉田 勉¹、菊池 周一¹
¹袖ヶ浦さつき台病院精神科、²千葉大学医学部附属病院精神神経科

15:30~16:10 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）6
ストレス・神経症等

司会：浅見 剛 横浜市立大学医学部精神医学

- 2-KP6-1 COVID-19発生後の希死念慮を主訴とした大学病院精神科コンサルテーションの実情
○大屋 久晴、白石 直、渡邊 孝文、明智 龍男
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

- 2-KP6-2 COVID-19パンデミック下における共食頻度と精神的苦痛との関連：横断研究
○辻 利佳子^{1,2}、西 大輔¹、佐々木 那津¹、秋山 浩杜¹、黒田 玲子³、津野 香奈美⁴、今村 幸太郎^{1,5}、川上 憲人^{1,5}
¹東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野、²医療法人白翔会浦和神経サナトリウム、³東京大学環境安全本部、⁴神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科、⁵東京大学大学院医学系研究科社会連携講座デジタルメンタルヘルズ講座

- 2-KP6-3 技能研修中に幻覚妄想状態を呈した統合失調症の一例
○松崎 裕香¹、赤羽 学爾²、野村 健太郎²、松田 ひろし²
¹東京医科大学病院、²医療法人立川メディカルセンター柏崎厚生病院

- 2-KP6-4 精神病症状を呈し診断に難渋した醜形恐怖症の一例
○渡邊 真治、高橋 慧、高橋 正洋、山田 尚登
社会医療法人杏嶺会上林記念病院精神心療科

- 2-KP6-5 機能不全家族に対して親子並行面接を行った思春期の3症例
○坂口 文¹、久保 洋一郎¹、伊達 京香¹、竹井 謙貴¹、藤本 健士郎¹、岡山 達志^{1,2}、杉本 峻也¹、河村 仁美¹、高山 真衣¹、若林 暁子¹、川端 康雄¹、金沢 徹文¹
¹大阪医科薬科大学病院、²医療法人稲門会いわくら病院

16:30～17:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）7
精神疾患のバイオマーカー等

司会：野上 毅 日本医科大学付属病院

2-KP7-1 統合失調症者、妄想性障害者の嗅覚識別テストと頭部MRI検査の検討

○吉村 絵美^{1,2}、森田 喜一郎^{1,3}、児玉 英也¹、佐藤 守¹、山下 裕之¹、吉本 幸治¹、
小路 純央¹

¹久留米大学病院神経精神科、²医療法人松籟会松籟病院、³特定医療法人社団相和会中村病院

2-KP7-2 統合失調症及び気分障害における海馬と大脳皮質及び皮質下白質間の構造学的結合性と認知機能障害との関連

○池田 奈津子¹、山田 信一¹、安田 香澄¹、上西 真也^{1,2}、玉置 敦之^{1,2}、石田 卓也¹、
田畑 倫代¹、辻 富基美¹、紀本 創兵¹、高橋 隼^{1,3,4,5}

¹和歌山県立医科大学医学部神経精神医学教室、²国保日高総合病院、

³大阪大学大学院医学研究科精神医学教室、⁴大阪公立大学大学院リハビリテーション学研究所、

⁵公益財団法人浅香山病院

2-KP7-3 不安症のポリジェニックリスクスコアと大脳皮質構造の関連

○藤兼 大輔¹、大井 一高¹、根本 清貴²、塩入 俊樹¹

¹岐阜大学大学院医学系研究科精神医学分野、²筑波大学医学医療系精神医学

2-KP7-4 統合失調型パーソナリティ特性、自閉スペクトラム特性、感情知能による大学生における精神疾患患者の予測

○坂井田 有哉¹、大井 一高²、藤兼 大輔²、高井 健太郎²、蔵満 彩結実²、藤田 浩司²、
武藤 恭昌²、杉山 俊介²、塩入 俊樹²

¹岐阜大学医学部、²岐阜大学大学院医学系研究科精神医学

2-KP7-5 統合失調症患者、非罹患近親者、健常者における嗅覚同定能力

○福田 仙一¹、大井 一高^{2,3}、藤兼 大輔²、高井 健太郎²、蔵満 彩結実²、杉山 俊介²、
塩入 俊樹²

¹岐阜大学医学部、²岐阜大学大学院医学研究科精神医学分野、³金沢医科大学総合内科

16:30～17:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）8
双極性障害及び緊張病

司会：辻野 尚久 済生会横浜市東部病院精神科

2-KP8-1 アンケート調査結果報告－双極性障害当事者は主治医との関係性および自身の治療法をどのように考えているか

○毛塚 大¹、磯谷 悠子¹、鈴木 千穂²、鈴木 映二³

¹東北医科薬科大学病院精神科、²NPO法人日本双極性障害団体連合会、

³東北医科薬科大学医学部精神科学教室



2-KP8-2 入院を繰り返す双極性障害患者への包括的心理教育の導入により病状が安定した一例

○大立目 真臣、渡邊 亮、中川 敦夫、古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学神経精神科

2-KP8-3 炭酸リチウム服用中に副甲状腺機能亢進症を認め薬剤調整に難渋した双極性障害の一例

○三好 智浩、久保田 智香
国立精神神経医療研究センター第一精神診療部

2-KP8-4 特定不能のカタトニアにカルバマゼピンが著効した一例

○上田 万里子、千葉 比呂美、比江島 啓至、小曾根 基裕
久留米大学病院精神神経科

2-KP8-5 アマンタジンが奏功した緊張病の1例

○岡井 文^{1,2}、幾瀬 大介²、田玉 紘史²、藤井 健太郎²、藤森 翔哉³、山内 美聡²、
富岡 大²、稲本 淳子²、岩波 明³
¹昭和大学病院臨床研修センター、²昭和大学横浜市北部病院、³昭和大学附属烏山病院

16:30~17:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）9
統合失調症等（3）

司会：紀本 創兵 和歌山県立医科大学神経精神医学講座

2-KP9-1 統合失調症の昏迷に対する治療内容の検討－入院時と退院時の処方内容の違い

○渡邊 理紗、森川 友加里、石田 喬士朗、小黒 早紀、岩田 健
多摩総合医療センター精神神経科

2-KP9-2 抗精神病薬の減量によって不穏行動に改善を認めた慢性期統合失調症の一例

○齋藤 有紀、鈴木 均、細井 尚人、石毛 稔、菊池 周一
社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院

2-KP9-3 mECTとプロナンセリン経皮吸収型製剤の併用にて高度の便秘及び
排尿障害が改善した一例

○福本 基
碧水会長谷川病院精神科

2-KP9-4 名古屋市立大学病院における反復経頭蓋磁気刺激療法(rTMS)治療の立ち上げ：
多職種チーム医療の視点から

○船井 政希¹、久保田 陽介¹、野木村 茜¹、投石 浩次¹、山村 結衣¹、松久 守¹、
丹羽 みちる¹、大屋 久晴¹、川崎 友香²、朝日 昌子²、立松 理恵²、明智 龍男¹
¹名古屋市立大学病院こころの医療センター、²名古屋市立大学病院看護部

6月24日(土) A会場(パシフィコ横浜ノース 1F G7+G8)

8:30～10:30 **委員会シンポジウム29 (薬事委員会)**
ADHD治療薬の課題と展望

司会：齊藤 卓弥 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門
安田 由華 医療法人フォスター生きる育む輝くメンタルクリニックNeo梅田茶屋町

CS29-1 児童期の治療：薬物療法と心理社会的治療

○山下 裕史朗
久留米大学医学部・小児科学講座

CS29-2 成人期ADHDの薬物療法 ～臨床現場からの報告

○岩波 明、中村 暖、林 若穂、鈴木 洋久
昭和大学医学部精神医学講座

CS29-3 臨床現場におけるADHD治療薬の適正使用と流通管理に関する問題

○安田 由華^{1,2}
¹医療法人フォスター生きる育む輝くメンタルクリニックNeo梅田茶屋町、
²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

CS29-4 ADHD治療薬の流通及び規制について～諸外国との比較の観点から～

○齊藤 卓弥
北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門

CS29-5 ADHD治療薬の適正流通管理について

○竹内 大輔
厚生労働省医薬・生活衛生局監視指導・麻薬対策課

〈メインコーディネーター〉 齊藤 卓弥 北海道大学病院児童思春期精神医学研究部門
〈サブコーディネーター〉 安田 由華 医療法人フォスター生きる育む輝くメンタルクリニックNeo梅田茶屋町

10:45～11:45 教育講演8

司会：井上 幸紀 大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

EL8 健康経営とメンタルヘルス ～新たな健康の価値とこれからの健康づくり～

○藤岡 雅美
経済産業省ヘルスケア産業課





12:00～13:00 教育講演9

司会：張 賢徳 六番町メンタルクリニック

EL9 最近の自殺問題の推移と自殺予防医療の確立

○河西 千秋¹、張 賢徳²

¹札幌医科大学医学部神経精神医学講座、²六番町メンタルクリニック



13:15～14:15 教育講演10

司会：田口 寿子 神奈川県立精神医療センター

EL10 我が国における矯正精神医療の現状と課題

○奥村 雄介

東日本矯正医療センター



6月24日(土) B会場(パシフィコ横浜ノース 1F G5)

8:30～10:30 シンポジウム79

統合失調症における自閉性と自閉スペクトラム症－病態における同異の研究を臨床に活かす知見－

司会：金原 信久 千葉大学社会精神保健教育研究センター
木村 大 学会会木村病院精神科

S79-1 統合失調症の自閉症的特性と神経・社会認知機能：
自閉症スペクトラム障害との比較検討

○仲田 祐介
千葉大学大学院医学研究院精神医学

S79-2 自閉スペクトラム症における精神病エピソード

○大塚 達以
東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

S79-3 統合失調症と閉スペクトラム症の疾患概念に関する、EBMを踏まえた考察

○桑原 斉
埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科

S79-4 統合失調症の自閉症的特性に関連するバイオマーカー研究の取り組み

○小松 浩¹、小野口 豪²、富田 博秋^{1,2}
¹東北大学病院精神科、²東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野

〈メインコーディネーター〉 金原 信久 千葉大学社会精神保健教育研究センター
〈サブコーディネーター〉 木村 大 学会会木村病院精神科

10:45～12:45 委員会シンポジウム32 (倫理委員会)

〔日本精神神経学会倫理教育研修会対象セッション〕

当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性：ゲノム研究を例にとって

司会：夏苺 郁子 やきつべの径診療所精神科
尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学

CS32-1 当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性～当事者・家族の立場から～

○井上 恵子
医療過誤原告の会

CS32-2 当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性 ー精神障害者家族の立場からー

○岡田 久実子
全国精神保健福祉会連合会

CS32-3 当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性：双極性障害の当事者・家族の視点から

○佐藤 純
ノーチラス会



CS32-4 精神疾患のゲノム解析結果の患者・家族への還元

○久島 周
名古屋大学精神科

CS32-5 ゲノム研究成果をどのようにゲノム医療に活かすか？
－研究者・遺伝カウンセラーの立場から－

○堀内 泰江^{1,2}
¹東京都医学総合研究所精神行動医学研究分野、²静岡社会健康医学大学院大学

〈メインコーディネーター〉 夏莉 郁子 やきつべの径診療所精神科

〈サブコーディネーター〉 尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学

※参加された方のうち希望者に「倫理教育研修会修了証」を発行いたします。

※専門医機構認定共通講習とは異なります。

6月24日(土) C会場(パシフィコ横浜ノース 1F G6)

8:30～10:30 シンポジウム80

診断閾下の発達障害 ～発達障害グレーゾーンという概念の意義と危険性～

司会：村上 伸治 川崎医科大学精神科学教室
原田 剛志 医療法人悠志会パークサイドこころの発達クリニック

S80-1 「職場のうつ」にひそむグレーゾーン

○原田 剛志
パークサイドこころの発達クリニック

S80-2 成人期発症ADHDをめぐる議論から閾下(あるいはグレーゾーン)を再考する

○神尾 陽子^{1,2,3}
¹国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、²神尾陽子クリニック、³お茶の水女子大学

S80-3 ふだんは診断を必要としない自閉スペクトラムの特性のある人が一時的に示す社会生活の支障

○本田 秀夫^{1,2}
¹信州大学医学部子どもこころの発達医学教室、²信州大学医学部附属病院子どもこころ診療部

S80-4 診断閾下の発達障害の臨床的諸問題――精神病理学の立場から

○内海 健
日本銀行医務室

〔指定発言〕

○大瀧 和男
かずおメンタルクリニック

〔指定発言〕

○秋山 剛
NTT東日本関東病院

〈メインコーディネーター〉 原田 剛志 医療法人悠志会パークサイドこころの発達クリニック
〈サブコーディネーター〉 神尾 陽子 医療法人社団神尾陽子記念会発達障害クリニック

10:45～12:45 シンポジウム91

日本生物学的精神医学会との合同シンポジウム：生物学的研究によって精神科医は何をすべきか？

司会：岡本 泰昌 広島大学病院
上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

S91-1 精神疾患ゲノム研究の成果を臨床に活かす戦略と戦術

○池田 匡志
藤田医科大学医学部精神神経科学



S91-2 脳画像研究の進歩に精神科医はどう対応していくべきか？

○小池 進介

東京大学大学院総合文化研究科附属進化認知科学センター

S91-3 動物モデルによって精神科医は何ができるのか？

○牧之段 学

奈良県立医科大学医学部精神科

S91-4 脳機能画像研究の成果を臨床に還元する方略

○平野 羊嗣^{1,2}

¹宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、²九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〈メインコーディネーター〉 上野 修一 愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学

13:15～15:15 シンポジウム100

発達障害とNeurodiversity

司会：岩波 明
柏 淳

昭和大学医学部精神医学講座
ハートクリニック横浜

S100-1 ニューロダイバーシティ-発達障害者の活躍を促す、産業界の新たなアプローチ

○高田 篤史

株式会社野村総合研究所ヘルスケア・サービスコンサルティング部

S100-2 精神科診療におけるNeurodiversity

○本田 秀夫^{1,2}、柏 淳³

¹信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、²信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、

³ハートクリニック横浜

S100-3 ギフテッドとNeurodiversity

○池澤 聡

東京大学大学院総合文化研究科ギフテッド創成寄付講座

S100-4 障害者雇用を超えられるか？ 発達障害からニューロダイバーシティへ
福祉における取り組み

○鈴木 慶太

株式会社Kaizen

〈メインコーディネーター〉 岩波 明 昭和大学医学部精神医学講座

6月24日(土) D会場(パシフィコ横浜ノース 3F G303+G304)

8:30～10:30 シンポジウム81 ゲーム障害の予防・治療について

司会：樋口 進 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科
松崎 尊信 国立病院機構久里浜医療センター精神科

S81-1 ゲーム障害の治療概説と久里浜医療センターのこれまでの取り組みについて

○松崎 尊信
国立病院機構久里浜医療センター精神科

S81-2 ゲーム障害に対する認知行動療法プログラム(CAP-G)および治療キャンプ(SDiC)の効果

○三原 聡子
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター心理療法士室

S81-3 インターネット・ゲーム問題(依存的)使用の予防活動と診療

○中山 秀紀
北仁会旭山病院

S81-4 小児におけるゲーム障害の現状 –IGDS9-SF日本語版を用いて–

○井上 建
獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター

S81-5 社会的ひきこもりとゲーム障害における鶏卵問題とその打開策の提案

○加藤 隆弘
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〔指定発言〕

○樋口 進
独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 松崎 尊信 国立病院機構久里浜医療センター精神科
〈サブコーディネーター〉 樋口 進 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター精神科

10:45～12:45 シンポジウム92 強迫症の理解と治療戦略のアップデート

司会：中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
金生 由紀子 東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野

S92-1 強迫症の基本的な治療戦略と脳神経基盤

○豊見山 泰史
九州大学病院



S92-2 チック関連強迫症(OCD)の理解と治療

○金生 由紀子^{1,2}

¹東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野、

²東京大学医学部附属病院こころの発達診療部

S92-3 不安が関与し認知的な増悪プロセスを有する典型的な強迫症(cognitive type)に対する認知行動療法の工夫

○飯倉 康郎

医療法人社団宗仁会筑後吉井こころホスピタル

S92-4 強迫症の新規治療；グルタミン酸系薬剤

○阿部 能成

京都府立医科大学附属病院

〔指定発言〕

○村山 桂太郎

九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〈メインコーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〈サブコーディネーター〉 豊見山 泰史 九州大学病院精神科医局

13:15～15:15 シンポジウム101

朝起きられない不登校児への多面的な評価と介入

司会：小鳥居 望
神林 崇

仁祐会小鳥居諫早病院神経精神医学講座

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構／茨城県立こころの医療センター

S101-1 小児科医から見た「不登校と起床困難」、起立性調節障害を中心に

○呉 宗憲

東京医科大学病院小児科・思春期科

S101-2 睡眠医療から見た起床困難、概日リズム障害を中心に

○高江洲 義和

琉球大学精神病態医学講座

S101-3 起床困難の児童生徒への非薬物療法的アプローチ

○綾部 直子^{1,2}

¹秋田大学教育文化学部、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S101-4 起床困難例における睡眠脳波の検討

○大島 勇人^{1,2}、小鳥居 望^{2,3}、小曾根 基裕²、内村 直尚²

¹医療法人勇愛会大島病院、²久留米大学病院精神神経科、³医療法人仁祐会小鳥居諫早病院

【指定発言】

○神林 崇

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構／茨城県立こころの医療センター

〈メインコーディネーター〉 小島居 望

仁祐会小島居諫早病院神経精神医学講座

〈サブコーディネーター〉 神林 崇

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構／

茨城県立こころの医療センター



6月24日(土) E会場(パシフィコ横浜ノース 3F G301+G302)

8:30~10:30 シンポジウム82

不安症、物質使用症、摂食障害を支持的精神療法で治療するには、何が必要か？

司会：宮岡 等 北里大学医学部精神科
山下 達久 からすま五条・やましたクリニック精神科

S82-1 不安・強迫における支持的精神療法・動機づけ面接とは？ランダム化比較試験におけるプラセボ反応から

○原井 宏明
原井クリニック精神科

S82-2 物質使用症臨床における支持的精神療法—harm reduction psychotherapyの実践

○松本 俊彦
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部

S82-3 不知の姿勢，共に探索することによる支持

○崔 炯仁
稲門会いわくら病院精神科

S82-4 摂食障害への支持的精神療法

○永田 利彦
壺燈会なんば・ながたメンタルクリニック

〈メインコーディネーター〉 永田 利彦 壺燈会なんば・ながたメンタルクリニック
〈サブコーディネーター〉 宮岡 等 北里大学医学部精神科

10:45~12:45 委員会シンポジウム33 (薬事委員会)

治療抵抗性統合失調症はどのように治療すべきか：我々の合意形成を目指して

司会：三村 將 慶應義塾大学精神神経科学教室
橋本 亮太 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

CS33-1 治療抵抗性統合失調症の診断と治療～診療ガイドラインより～

○稲田 健
北里大学医学部精神科学

CS33-2 治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン処方の実態

○古郡 規雄
獨協医科大学精神神経医学講座

CS33-3 クロザピン普及に向けての規制緩和

○新津 富央
千葉大学大学院医学研究院精神医学

CS33-4 治療抵抗性統合失調症に対する診療報酬制度

○山之内 芳雄、森 隆夫
あいせい紀年病院精神科

CS33-5 クロザピン治療における薬理ゲノム学研究の応用と治療抵抗性統合失調症の遺伝子研究

○齋藤 竹生、岩田 仲生
藤田医科大学医学部精神科

〈メインコーディネーター〉 稲田 健
〈サブコーディネーター〉 橋本 亮太

北里大学医学部精神科学
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
精神疾患病態研究部



6月24日(土) F会場(パシフィコ横浜ノース 3F G312+G313)

8:30~10:30 委員会シンポジウム30 (PCN編集委員会)

ここまで来ている新規治療法開発：期待と課題

司会：高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
加藤 忠史 順天堂大学医学部精神医学講座

CS30-1 アルツハイマー病治療法開発の現状と課題

○岩坪 威
東京大学大学院医学系研究科神経病理学

CS30-2 中枢神経を標的にしたヘテロ核酸医薬の現状

○横田 隆徳
東京医科歯科大学脳神経内科

CS30-3 経頭蓋超音波刺激法の課題と臨床応用の可能性

○小西 清貴、長田 貴宏
順天堂大学医学部

CS30-4 統合失調症における新規シナプス自己抗体の発見

○塩飽 裕紀
東京医科歯科大学精神行動医学分野

〈メインコーディネーター〉 高橋 英彦 東京医科歯科大学病院
〈サブコーディネーター〉 加藤 忠史 順天堂大学医学部精神医学講座

10:45~12:45 委員会シンポジウム34 (国際委員会)

日本で暮らす難民・避難民のメンタルヘルス支援を考える

司会：桂川 修一 東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック
秋山 剛 NTT東日本関東病院

CS34-1 ウクライナ避難民のメンタルヘルス不調に対する診療の実際

○花岡 晋平^{1,2}
¹千葉県精神科医療センター、²東邦大学医学部社会医学講座

CS34-2 日本の難民・避難民支援の現状と展望

○石川 美絵子
日本国際社会事業団

CS34-3 在留ウクライナ人からみた日本の難民支援の課題

○Evtushuk Igor
日本ウクライナ友好協会

CS34-4 難民の受け入れ国での心理的適応および彼らへのメンタルヘルスケアの留意点

○鶴川 晃
大正大学

〈メインコーディネーター〉 桂川 修一 東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルス
クリニック

13:15～15:15 シンポジウム102

精神科アウトリーチはいつ誰に必要なのか？－対象と実施主体別にみた支援の実際と仕組みづくり－

司会：西尾 雅明 東北福祉大学総合福祉学部総合福祉学部
渡邊 真里子 ちはやACTクリニック

S102-1 入院からの地域移行支援に必要なアウトリーチ

○上島 雅彦
竹田綜合病院精神科

S102-2 開業時からできるアウトリーチと顔の見える地域連携
－ライトな多機能型診療所の実践－

○大鶴 卓
琉球こころのクリニック

S102-3 地域でのリエゾン活動とケースマネジメントの実際と課題

○渡邊 真里子
ちはやACTクリニック

S102-4 発達障害の地域支援からみるアウトリーチの課題

○植田 俊幸
鳥取県立厚生病院精神科

〈メインコーディネーター〉 渡邊 真里子 ちはや ACT クリニック
〈サブコーディネーター〉 西尾 雅明 東北福祉大学総合福祉学部総合福祉学部



6月24日(土) G会場(パシフィコ横浜ノース 3F G314+G315)

8:30~10:30 シンポジウム83

ガイドライン普及事業の最前線と今後の展開

司会：尾崎 紀夫 名古屋大学大学院医学系研究科精神疾患病態解明学
中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター理事

S83-1 治療ガイドラインの意味するところ

○渡邊 衡一郎
杏林大学医学部精神神経科学教室

S83-2 診療ガイドラインの普及とその検証

○橋本 亮太
国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部

S83-3 EGUIDEプロジェクトから見えてきた臨床技術向上に関する下位診断及び重症度診断の重要性について

○村岡 寛之
北里大学病院精神科

S83-4 ガイドラインに基づいた診療を実践するコツを学ぶためのEGUIDE
クリニカルプラクティス(EGUIDE-CP)

○福本 健太郎
岩手医科大学神経精神科学講座

S83-5 大阪精神科診療所協会における診療ガイドライン普及活動について

○勝元 榮一
かつもとメンタルクリニック

S83-6 『統合失調症薬物治療ガイド2022』を用いた心理教育の試み

○市橋 香代
東京大学医学部附属病院精神神経科

〔指定発言〕

○福田 正人
群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学

〔指定発言〕

○樋口 輝彦
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター／日本うつ病センター

〈メインコーディネーター〉 古郡 規雄 獨協医科大学精神神経医学講座
〈サブコーディネーター〉 稲田 健 北里大学医学部精神科学

10:45～12:45 シンポジウム93

診療科横断・多職種連携による複合介入の開発・検証と実装：サイコオンコロジー領域の研究開発

司会：稲垣 正俊 島根大学医学部精神医学講座
内富 庸介 国立研究開発法人国立がん研究センター

S93-1 がん患者の自殺の実態と対策

○藤森 麻衣子
国立がん研究センターがん対策研究所

S93-2 がん患者さんへのマインドフルネス認知療法の実証研究

○藤澤 大介
慶應義塾大学医学部医療安全管理部／精神・神経科

S93-3 乳がん患者の再発恐怖に対するスマホ問題解決療法および行動活性化療法の有効性
—分散型ランダム化比較試験

○明智 龍男
名古屋市立大学病院

S93-4 精神科医療機関におけるケースマネジメントを用いた統合失調症患者に対する
がん検診勧奨法の開発

○藤原 雅樹
岡山大学病院

〈メインコーディネーター〉 稲垣 正俊 島根大学医学部精神医学講座

13:15～15:15 委員会シンポジウム37（精神保健福祉法委員会）

精神保健福祉法改正 —それぞれの立場で考える精神保健福祉法のあるべき姿—

司会：太田 順一郎 岡山市こころの健康センター
佐竹 直子 国立国際医療研究センター国府台病院精神科

CS37-1 脱精神保健福祉法体制に向けた政策の青写真

○桐原 尚之
全国「精神病」者集団運営委員

CS37-2 精神保健福祉法改正 —家族の立場から考える精神保健福祉法のあるべき姿—

○赤池 千明
公益社団法人全国精神保健福祉社会連合会

CS37-3 精神保健福祉法改正～法学者の立場から

○柑本 美和
東海大学法学部法律学科



CS37-4

2022年精神保健福祉法改正－概略、学会見解、私見

○中島 直^{1,2}

¹医療法人社団新新会多摩あおば病院、²日本精神神経学会精神保健福祉法委員会

〈メインコーディネーター〉 佐竹 直子 国立国際医療研究センター国府台病院精神科

〈サブコーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

6月24日(土) H会場(パシフィコ横浜ノース 3F G316+G317)

8:30～10:30 シンポジウム84

曲がり角に立つ精神科入院医療－課題の多様性から将来を探る

司会：竹島 正 川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター
須田 史朗 自治医科大学附属病院

S84-1 人口、精神病床数、在院患者数の変化をもとにした
都道府県の精神科医療提供の類型化の試み

○河野 稔明、竹島 正
川崎市総合リハビリテーション推進センター

S84-2 臨床現場からの改革は可能か

○木村 勝智、森 隆夫
あいせい紀年病院

S84-3 過疎地における地域密着型精神科病院の取り組み(もしくは苦闘)

○永田 雅子
医療法人慈和会大口病院

S84-4 精神医療は一般医療に近づけるのか?

○北村 立
石川県立こころの病院精神科

S84-5 本質的な行動制限最小化の方策と行政の役割について

○杉山 直也
公益財団法人復康会沼津中央病院

〔指定発言〕

○佐伯 吉規
がん研有明病院

〔指定発言〕

○須田 史朗
自治医科大学附属病院

〈メインコーディネーター〉 竹島 正 川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター
〈サブコーディネーター〉 須田 史朗 自治医科大学附属病院



10:45～12:45 シンポジウム94

「進化精神医学」の現在と展開

司会：神庭 重信 社会医療法人栗山会飯田病院精神科
加藤 敏 小山富士見台病院精神科

S94-1 進化精神医学の概要と現在

○高野 覚
医療法人社団明雄会本庄児玉病院精神科

S94-2 老年精神医学と進化人類学

○池田 学
大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室

S94-3 進化精神医学の問題枠からみる統合失調症－分子生物学と精神病理学から

○加藤 敏
医療法人心教会小山富士見台病院

S94-4 進化的視点はココロのみかた・精神科臨床をどう変えるか
－「ココロの医者」のための進化学

○豊嶋 良^{1,2}
¹医療法人静和会中山病院精神科、²埼玉医科大学名誉教授（精神医学）

〈メインコーディネーター〉 高野 覚 医療法人社団明雄会本庄児玉病院精神科
〈サブコーディネーター〉 加藤 敏 小山富士見台病院精神科

13:15～15:15 シンポジウム103

被害と加害

司会：石川 雅智 千葉大学大学院医学研究院精神医学
松本 悟志 学会会木村病院精神科

S103-1 オープンダイアログ的対応から性的加害・被害と発達障害を考察する

○石川 真紀
千葉県精神保健福祉センター臨床検査課

S103-2 高齢者の権利擁護支援

○細井 尚人
社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき台病院

S103-3 刑事施設における「被害と加害」に関わる取り組み

○東本 愛香
千葉大学社会精神保健教育研究センター

S103-4 多様化するハラスメント問題

○仲田 祐介
千葉大学大学院医学研究院精神医学

S103-5 単科精神科病院における家族支援チームの実践

○松木 悟志
医療法人学術会木村病院

| | | |
|---------------|-------|------------------|
| 〈メインコーディネーター〉 | 石川 雅智 | 千葉大学大学院医学研究院精神医学 |
| 〈サブコーディネーター〉 | 松木 悟志 | 学術会木村病院精神科 |
| | 渡邊 博幸 | 学術会木村病院 |



6月24日(土) |会場(パシフィコ横浜ノース 3F G318+G319)

8:30~10:30 シンポジウム85

世に出ていく力動精神医学—今日的意義と課題

司会：近藤 直司 大正大学心理社会学部臨床心理学科

S85-1 アウトリーチ・訪問診療場面における精神力動的視点について

○木崎 英介
医療法人財団厚生協会大泉病院

S85-2 組織における力動精神医学の応用

○嶋田 博之
東日本矯正医療センター

S85-3 「行うこと」のない「知ること」は無意味である：力動精神医学が効力を発揮するために

○白波瀬 丈一郎
東京都済生会中央病院健康デザインセンター

S85-4 トマトはどんな味？—教育現場における集団精神療法の魅力

○林 公輔
学習院大学文学部心理学科

〔指定発言〕

○池田 暁史
大正大学心理社会学部臨床心理学科

〈メインコーディネーター〉 池田 暁史 大正大学心理社会学部臨床心理学科
〈サブコーディネーター〉 林 公輔 学習院大学文学部心理学科
木崎 英介 医療法人財団厚生協会大泉病院

10:45~12:45 シンポジウム95

精神科が地域医療に貢献できること～コンサルテーション・リエゾンによって活かされる精神医学の経験

司会：安田 貴昭 埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック
五十嵐 友里 東京家政大学人文学部

S95-1 過度な血糖コントロールから低血糖を繰り返す1型糖尿病患者の2症例

○皆川 真哉
皆川医院

S95-2 精神科診療所が周産期の地域医療に貢献できること
～他科医療機関・行政機関との連携～

○生田 洋子
クリニックおぐら

S95-3 家族往診における現状と課題

○池田 憲二
むさしの北総クリニック小児科

S95-4 地域医療におけるコンサルテーション・リエゾン精神医学の枠組み

○安田 貴昭
埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック

S95-5 地域リエゾンに心理職が貢献できることは何か？

○五十嵐 友里^{1,2}
¹東京家政大学人文学部、²埼玉医科大学総合医療センター

〔指定発言〕

○西村 勝治
東京女子医科大学医学部精神医学講座

〈メインコーディネーター〉 安田 貴昭 埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック
〈サブコーディネーター〉 五十嵐 友里 東京家政大学人文学部

13:15～15:15 委員会シンポジウム38 (PCN Reports編集委員会)

若手精神科医のための臨床研究事始め－症例報告からランダム化比較試験まで

司会：鈴木 道雄 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座
明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

CS38-1 対人関係療法を複雑性PTSDに実施して改善をみた一例

○利重 裕子
名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野

CS38-2 横断的観察研究の計画から論文化まで

○菅原 典夫
獨協医科大学精神神経医学講座

CS38-3 せん妄予防をラメルテオンの保険適用に追加することを目指した臨床試験

○貞廣 良一、松岡 弘道
国立研究開発法人国立がん研究センター

〔指定発言〕

○古郡 規雄
獨協医科大学精神神経医学講座

〔指定発言〕

○岩田 仲生
藤田保健衛生大学病院精神科

〈メインコーディネーター〉 明智 龍男 名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野
〈サブコーディネーター〉 鈴木 道雄 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座



6月24日(土) J会場(パシフィコ横浜ノース 4F G403+G404)

8:30~10:30 シンポジウム86

精神科初期研修グレードアップ!

司会：松坂 雄亮 長崎県精神医療センター精神科
杉原 正子 まさこ心のクリニック自由が丘

S86-1 大学病院における精神科初期研修の実際と課題

○大矢 希
京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

S86-2 「楽をする」から「楽しい」実習へ：精神医療過疎地域における総合病院の精神科教育

○岩城 弘隆^{1,2}、今 明秀^{2,3}
¹八戸市立市民病院精神神経科、²八戸市立市民病院臨床研修センター、
³八戸市立市民病院救急救命センター

S86-3 リエゾンチームを活用した研修医トレーニング

○猪狩 圭介
麻生飯塚病院リエゾン精神科

S86-4 臨床研修における精神科単科病院の強みと課題

○松坂 雄亮^{1,2}
¹長崎県精神医療センター精神科、²長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経科学

S86-5 自律的な学習で初期研修医のモチベーションを高める -医学教育研究者の立場から-

○佐野 樹^{1,2}
¹三重県立こころの医療センター、²名古屋大学大学院医学研究科総合医学教育センター

〈メインコーディネーター〉 松坂 雄亮 長崎県精神医療センター精神科
〈サブコーディネーター〉 杉原 正子 まさこ心のクリニック自由が丘
岩城 弘隆 八戸市立市民病院精神神経科

10:45~12:45 シンポジウム96

災禍での育ち~みちのくこどもコホートから見つめる東日本大震災と新型コロナウイルス感染症パンデミック~

司会：榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野
八木 淳子 岩手医科大学医学部神経精神科学講座/附属病院児童精神科

S96-1 災禍における子どもの心 ~大規模震災とパンデミック~

○榎屋 二郎^{1,2}
¹東京医科大学精神医学分野、²ふくしま子どもの心のケアセンター

S96-2 みちのくこどもコホート研究の概要と進捗状況
-新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響を含めて-

○八木 淳子
岩手医科大学医学部神経精神科学講座/附属病院児童精神科

S96-3 どのような支援が地域では有効なのか？

○福地 成^{1,2}

¹東北医科薬科大学病院、²公益社団法人宮城県精神保健福祉協会みやぎ心のケアセンター

S96-4 長期経過の分析と今後の災害への備え

○松浦 直己

三重大学教育学部

〈メインコーディネーター〉 梶屋 二郎

東京医科大学精神医学分野

〈サブコーディネーター〉 八木 淳子

岩手医科大学医学部神経精神科学講座／
附属病院児童精神科



6月24日(土) K会場(パシフィコ横浜ノース 4F G402)

8:30~10:30 シンポジウム87
精神科診療におけるPrecisionについて

司会：齋藤 正範 北里大学医学部精神科学

S87-1 Precisionとは何だろうか

○齋藤 正範
北里大学医学部精神科学

S87-2 統合失調症薬物療法の個別最適化の現状と展望

○嶽北 佳輝
関西医科大学精神神経科

S87-3 双極性障害と抑うつ障害群の治療における個別最適化について考える

○鈴木 映二
東北医科薬科大学医学部精神科学教室

S87-4 認知症診療の個別適正化を問う

○上田 諭
東京さつきホスピタル精神科

S87-5 神経画像を用いたprecision medicine

○中島 振一郎
慶應義塾大学医学部精神神経科

〔指定発言〕

○大野 裕
大野研究所

〈メインコーディネーター〉 齋藤 正範 北里大学医学部精神科学

10:45~12:45 委員会シンポジウム35 (多職種協働委員会)
多職種協働が動き出す時

司会：西松 能子 医療法人社団久響会あいクリニック神田・立正大学
渡邊 忠義 社会医療法人あさかホスピタル

CS35-1 ソーシャルワーカーに求められる多職種協働

○藤原 隆之
社会医療法人智徳会未来の風せいわ病院これからの暮らし支援部医療福祉相談室

CS35-2 多職種協働のはじまりと利点

○島津 聖子
公益財団法人浅香山病院

CS35-3 多職種協働が動き出す時～児童思春期病棟の公認心理師の立場から～

○桑原 綾乃
のぞえの丘病院臨床心理士

CS35-4 ほっとステーションでの多職種協働の取り組みについて

○佐々木 渉
医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック

〔指定発言〕

○堀川 公平
医療法人コミュニテ風と虹のぞえ総合心療病院

〈メインコーディネーター〉 佐久間 啓 社会医療法人あさかホスピタル
〈サブコーディネーター〉 堀川 公平 医療法人コミュニテ風と虹のぞえ総合心療病院

13:15～15:15 シンポジウム104

これまでの千葉県精神神経科診療所協会の活動と今後の課題

司会：志津 雄一郎 志津クリニック精神科

S104-1 これまでの千葉県精神神経科診療所協会の活動と今後の課題

○岩崎 弘一^{1,2}、志津 雄一郎^{2,5}、大塚 芳克^{2,4}、織田 辰郎^{2,3}、西尾 正人^{2,6}
¹いやしのメンタルクリニック誉田、²千葉県精神神経科診療所協会、³高洲公園心療医院、
⁴こころクリニック船橋、⁵志津クリニック、⁶鎌取メンタルクリニック

〔指定発言〕

○西尾 正人
千葉県精神神経科診療所協会

〔指定発言〕

○織田 辰郎
千葉県精神神経科診療所協会

〈メインコーディネーター〉 志津 雄一郎 志津クリニック精神科
〈サブコーディネーター〉 大塚 芳克 千葉県精神神経科診療所協会



6月24日(土) L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

8:30~10:10 **ワークショップ9** (精神神経学雑誌編集委員会)

精神神経学雑誌に掲載される論文の書き方(研究計画と統計について)

司会：谷井 久志 三重大学保健管理センター
山田 和男 東北医科薬科大学病院精神科

WS9 〈講演者〉 忽滑谷 和孝 東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科
奥村 泰之 一般社団法人臨床疫学研究推進機構
福地 成 東北医科薬科大学精神科学教室
樋口 早子 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

〈メインコーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
〈サブコーディネーター〉 細田 眞司 こころの診療所細田クリニック

10:45~12:25 **ワークショップ10** (精神療法委員会)

映像で学ぶ初診面接-「死にたい」と訴える患者編-

司会：新宮 一成 京都産業大学
水野 雅文 東京都立松沢病院

WS10 〈講演者〉 菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
白波瀬 丈一郎 東京都済生会中央病院健康デザインセンター
渡辺 俊之 渡辺医院/高崎西口精神療法研修室
中村 伸一 中村心理療法研究室クボタクリニック
田中 裕記 国立病院機構九州医療センター精神神経科

〈メインコーディネーター〉 中村 伸一 中村心理療法研究室クボタクリニック
〈サブコーディネーター〉 田中 裕記 国立病院機構九州医療センター精神神経科

13:15~15:15 **シンポジウム105**

統合失調症の睡眠研究の現在 -最近のトピックスと臨床への展開-

司会：小曾根 基裕 久留米大学病院精神神経科
鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系

S105-1 統合失調症でみられる睡眠の問題と臨床経過との関連

○金子 宜之、斎藤 かおり、大槻 怜、藤井 伸邦、早乙女 優太、鈴木 正泰
日本大学医学部精神医学系精神医学分野

S105-2 統合失調症に生じる睡眠・覚醒リズム障害

○松井 健太郎
国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部

S105-3 統合失調症における睡眠紡錘波異常の病態的意義と今後の展望

○水木 慧¹、小曾根 基裕¹、小鳥居 望²、内村 直尚¹

¹久留米大学神経精神医学講座、²医療法人仁祐会小鳥居諫早病院

S105-4 統合失調症の不眠に対する認知行動療法と生活指導

○伊豆原 宗人

国立精神・神経医療研究センター臨床検査部

〈メインコーディネーター〉 鈴木 正泰 日本大学医学部精神医学系

〈サブコーディネーター〉 小曾根 基裕 久留米大学病院精神神経科

金子 宜之 日本大学医学部精神医学系精神医学分野



6月24日(土) M会場(パシフィコ横浜ノース 4F G411)

8:30~10:30 シンポジウム88
一次性的妄想の内包と外延

司会：岡 一太郎 もみじヶ丘病院医局
古茶 大樹 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S88-1 慢性統合失調症の妄想着想について

○岡 一太郎
もみじヶ丘病院医局

S88-2 妄想の類型化について

○古茶 大樹
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

S88-3 妄想の記述的特徴をめぐって

○熊崎 努
東京農工大学保健管理センター

S88-4 妄想知覚の今日的意義

○前田 貴記
慶應義塾大学医学部精神神経科

〈メインコーディネーター〉 岡 一太郎 もみじヶ丘病院医局

10:45~12:45 シンポジウム97
地域創りは長期在院者の退院支援から

司会：高橋 恵 北里大学北里研究所病院
加瀬 昭彦 医療法人積愛会横浜舞岡病院

S97-1 地域精神医学農村型の展開長期在院患者と地域から考える

○土田 正一郎
俱知安厚生病院精神神経科

S97-2 十勝・帯広地域での退院支援と地域づくり

○門屋 充郎
NPO法人十勝障がい者支援センター

S97-3 アセスメント、動機付け、持続する精神疾患と行動変容

○浅見 隆康
群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室

S97-4 先端技術であるVR(バーチャルリアリティ)を活用したソーシャルスキルトレーニング

○外川 大希
株式会社ジョリーグッドDTx事業部

S97-5 退院支援に必要なケアマネジメントの理念と実践

○植田 俊幸

鳥取県立厚生病院精神科

〈メインコーディネーター〉 浅見 隆康

群馬大学健康支援総合センター昭和健康支援室

〈サブコーディネーター〉 高橋 恵

北里大学北里研究所病院

植田 俊幸

鳥取県立厚生病院精神科

13:15～15:15 シンポジウム106

学校や地域での子どもたちのこころの状態、支援と連携システム

司会：中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

S106-1 小・中学生の学校コホートによる子どもたちのこころの状態について

○中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座

S106-2 子どもたちから得られた心理面の客観的指標を活かすための地域における連携システム

○榎屋 二郎

東京医科大学精神医学分野

S106-3 WEBでの子どものストレスチェックと認知行動療法の活用によるメンタルヘルス問題への対処

○清水 栄司

千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学・子どものこころの発達教育研究センター

S106-4 福島県における東日本大震災後の被災した子どもたちへの支援
ー県民健康調査「ここから調査」よりー

○板垣 俊太郎^{1,2}、矢部 博興^{1,2}、前田 正治²、大平 哲也²、安村 誠司²、神谷 研二²

¹福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、²福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

〈メインコーディネーター〉 中村 和彦

弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座



6月24日(土) N会場(パシフィコ横浜ノース 4F G412+G413)

8:30~10:30 **委員会シンポジウム31** (地域ケアにおける自立支援のあり方検討委員会)
地域ケアにおいて求められるアウトリーチ支援を考える

司会：藤井 千代 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部
林 輝男 清和会西川病院診療部

CS31-1 精神科領域におけるアウトリーチ支援の重要性

○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

CS31-2 精神科医療機関におけるアウトリーチ：医療・福祉・保健の一体的運用に向けて

○林 輝男
社会医療法人清和会西川病院

CS31-3 地域ケアにおいて求められるアウトリーチ支援を考える～精神科診療所の立場から

藤井 千代²、○上ノ山 一寛¹、林 輝男³、太田 順一郎⁴

¹医療法人南彦根クリニック、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、
³社会医療法人清和会西川病院、⁴岡山市こころの健康センター

CS31-4 精神保健福祉センターのアウトリーチ支援活動

○太田 順一郎
岡山市こころの健康センター

〔指定発言〕

○廣江 仁
社会福祉法人養和会

〔指定発言〕

○二飯田 真由美
川口市保健所

〈メインコーディネーター〉 藤井 千代 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部
〈サブコーディネーター〉 林 輝男 清和会西川病院診療部

10:45～12:45 シンポジウム98

統合失調症の外来治療の今後について考える

司会：窪田 幸久 中央公園クリニック
渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

S98-1 統合失調症の外来治療の今後について考える～精神科診療所の立場から

渡邊 衡一郎²、○上ノ山 一寛¹、竹内 啓善³、阿瀬川 孝治⁴、渡邊 博幸⁵、藤井 千代⁶
¹医療法人南彦根クリニック、²杏林大学医学部付属病院、³慶應義塾大学病院、
⁴医療法人三精会汐入メンタルクリニック、⁵千葉大学医学部附属病院精神神経科、
⁶国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

S98-2 世界の統合失調症外来診療

○竹内 啓善
慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

S98-3 統合失調症の外来治療で浮かぶ臨床疑問と多施設調査研究への期待

○阿瀬川 孝治
汐入メンタルクリニック精神科

S98-4 単科精神科病院での統合失調症外来診療

○渡邊 博幸
学会会木村病院

S98-5 統合失調症の外来治療はどうあるべきか 政策面から

○藤井 千代
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部

〔指定発言〕

○堀合 研二郎
横浜ピアスタッフ協会

〈メインコーディネーター〉 渡邊 衡一郎 杏林大学医学部精神神経科学教室

13:15～15:15 シンポジウム107

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)罹患後精神症状と精神保健施設における対応

司会：中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
高橋 晶 筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

S107-1 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)罹患後精神症状の現在までの文献からの考察

○高橋 晶^{1,2,3}
¹筑波大学医学医療系災害・地域精神医学、²茨城県立こころの医療センター、
³筑波メディカルセンター病院精神科



S107-2 新型コロナウイルス感染症罹患後における精神症状の発生状況

○福田 治久
九州大学大学院医学研究院

S107-3 コロナ罹患後症状に対する地域の精神保健における対応の現状

○萱間 真美
国立看護大学校

S107-4 オンラインメンタルヘルスケアシステム「KOKOROBO」の概要と社会的実装にむけた課題

○村山 桂太郎
九州大学病院

〔指定発言〕

○中尾 智博
九州大学大学院医学研究院精神病態医学

〈メインコーディネーター〉 中尾 智博 九州大学大学院医学研究院精神病態医学
〈サブコーディネーター〉 村山 桂太郎 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

6月24日(土) O会場(パシフィコ横浜ノース 4F G414+G415)

8:30～10:30 シンポジウム89
 ストーカー加害者への治療的介入

司会：長谷川 直実 医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック

S89-1 北海道警察の受診勧奨によりつながったストーカー事例について

○長谷川 直実
 医療法人社団ほっとステーション大通公園メンタルクリニック

S89-2 ストキングの病態と重症例に必須の条件反射制御法

○平井 慎二
 独立行政法人国立病院機構下総精神医療センター

S89-3 ストーカーの重症度による対応法の差異、それによる高い改善率

○小早川 明子
 NPOヒューマニティ

S89-4 警察におけるストーカー加害者に関する取組について

○太田尾 磨
 警察庁人身安全・少年課

〈メインコーディネーター〉 長谷川 直実 医療法人社団ほっとステーション大通公園
 メンタルクリニック

10:45～12:45 シンポジウム99
 全国の精神保健福祉センターにおける自殺予防の取り組み

司会：田中 治 青森県立精神保健福祉センター
 大塚 耕太郎 岩手医科大学神経精神科学講座

S99-1 川崎市におけるCOVID-19流行の自殺対策への影響

○竹島 正¹、橋本 貢河¹、木下 直美²
¹川崎市健康福祉局総合リハビリテーション推進センター、
²川崎市健康福祉局障害保健福祉部精神保健課

S99-2 自殺対策としての警察官通報措置移送業務～群馬県からの報告～

○佐藤 浩司、大館 実穂、草野 健祐、三浦 侑乃
 群馬県こころの健康センター

S99-3 滋賀県における県・市等が連携・協力した自殺対策

○辻本 哲士
 滋賀県立精神保健福祉センター



S99-4 岡山市におけるこころの健康に関する市民意識調査
－相談先の選択とストレスコーピングにおける性差－

○太田 順一郎
岡山市こころの健康センター

S99-5 教員養成課程からの精神保健および自殺予防教育の必要性
－浜松市の教員調査からの提言

○二宮 貴至¹、奥村 明美²、土屋 賢治^{2,3}

¹浜松市精神保健福祉センター、²浜松医科大学子どもこころの発達研究センター、

³大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所

S99-6 持続可能な自死遺族支援に向けた横浜市の取り組み

○白川 教人、佐々木 祐子
横浜市こころの健康相談センター

〔指定発言〕

○原田 豊
鳥取県立精神保健福祉センター

〈メインコーディネーター〉 田中 治 青森県立精神保健福祉センター

〈サブコーディネーター〉 太田 順一郎 岡山市こころの健康センター

13:15～15:15 シンポジウム108

マイクロアグレッションの理解と克服～精神医療の向上と共生社会の実現のために

司会：渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科
内田 千代子 星槎大学大学院教育実践研究科

S108-1 日本女性の立場をマイクロアグレッションに注目して考える

○内田 舞
マサチューセッツ総合病院精神科

S108-2 SNS空間でのジェンダーに関わるマイクロアグレッションについて、
フェミニズムの知見からの問題提起

○田中 東子
東京大学大学院情報学環

S108-3 LGBT当事者として、心理学者としてマイクロアグレッションを考える：
クリニカル・バイアスの危険性

○梅宮 れいか
福島学院大学大学院心理学研究科

S108-4 日常臨床でのマイクロアグレッションへの気づきと対応

○内田 千代子^{1,2}

¹星槎大学大学院教育実践研究科、²東京都医学総合研究所

〔指定発言〕

○糸川 昌成

東京都医学総合研究所病院等連携研究センター

〔指定発言〕

○大川 匡子

公益財団法人神経研究所睡眠健康推進機構

〈メインコーディネーター〉 内田 千代子 星槎大学大学院教育実践研究科

〈サブコーディネーター〉 加茂 登志子 若松町ころとひふのクリニックメンタルケア科
PCIT 研修センター



6月24日(土) P会場(パシフィコ横浜ノース 4F G416+G417)

8:30~10:30 シンポジウム90

精神科における臨床神経病理カンファレンスとその意義

司会：入谷 修司 桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所附属脳研究所
河上 緒 順天堂大学医学部大学院精神医学講座

S90-1 稀なゲノム変異を有する統合失調症の脳病理は？

○鳥居 洋太
名古屋大学医学部附属病院精神科

S90-2 双極性障害の病態解明への神経病理学的アプローチ

○関口 裕孝
桶狭間病院藤田こころケアセンター

S90-3 アルコール依存症・アルコール精神病の脳病理

○池田 研二^{1,2}
¹東京都医学総合研究所・認知症プロジェクト、²東京都立松沢病院

S90-4 Anorexia Nervosaの神経病理学的研究

○梅田 健太郎
都立松沢病院精神科

S90-5 高齢者の不安と身体愁訴の臨床病理学的検討

○藤城 弘樹、荒深 周生
名古屋大学医学部附属病院精神科

〔指定発言〕

○新井 哲明
筑波大学精神科

〈メインコーディネーター〉 入谷 修司 桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所
附属脳研究所

〈サブコーディネーター〉 河上 緒 順天堂大学医学部大学院精神医学講座

10:45~12:45 委員会シンポジウム36 (アンチスティグマ委員会)

「精神疾患の予防と回復」高等学校教科書掲載1年後の現状と課題

司会：鈴木 道雄 富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座
渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科

CS36-1 精神疾患の伝え方—高校教育と医療の連携

○安藤 久美子
聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室

CS36-2 ラジオと映画で伝える障害者の日常

○和島 香太郎
映画監督、脚本家

CS36-3 高等学校「保健」における精神疾患の授業の現状と課題

○綱島 毅
群馬県教育委員会健康体育課

CS36-4 教科書掲載以前の日本の高校生の精神疾患に対する知識とメンタルヘルスリテラシー

○小口 芳世
聖マリアンナ医科大学病院

〔指定発言〕

○高橋 秀俊
高知大学医学部附属病院

〈メインコーディネーター〉 小口 芳世 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室
〈サブコーディネーター〉 渡辺 雅子 新宿神経クリニック精神科

13:15～15:15 シンポジウム109

精神科における“身体的”リハビリテーションの現状と今後の課題

司会：橋本 学 国立病院機構肥前精神医療センター精神科・リハビリテーション科
平川 淳一 医療法人社団光生会平川病院

S109-1 精神科における“身体的”リハビリテーションと現状と問題点

○橋本 学
独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター

S109-2 リハビリテーション科専門医からみた精神科におけるリハビリテーション医療

○松嶋 康之^{1,2}、蜂須賀 明子¹、佐伯 覚¹
¹産業医科大学医学部リハビリテーション医学、²産業医科大学若松病院リハビリテーション科

S109-3 精神科における“身体的”リハビリテーションのシステム構築と実践

○平川 淳一
医療法人社団光生会平川病院

S109-4 精神科患者に対する“身体的”リハビリテーションー精神科病院セラピストの立場からー

○塚原 宏恵
独立行政法人国立病院機構菊池病院



S109-5

精神科患者に対する“身体的”リハビリテーション—一般病院セラピストの立場から—

○田中 成和¹、塚原 宏恵²、橋本 学³

¹独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センターリハビリテーション科、

²独立行政法人国立病院機構菊池病院、³独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター精神科

〈メインコーディネーター〉 橋本 学 国立病院機構肥前精神医療センター精神科・

リハビリテーション科

〈サブコーディネーター〉 平川 淳一 医療法人社団光生会平川病院

6月24日(土) Q会場(パシフィコ横浜ノース 4F G418+G419)

8:30～9:42 一般演題(口演) 20
統合失調症(3)

司会: 太田 克也 恩田第二病院

3-O20-1 初回エピソード精神病(FEP)に関する36ヶ月間のカルテ調査
ー持効性注射製剤(LAI)の投与状況と転帰ー

○田中 康平

地方独立行政法人山梨県立病院機構山梨県立北病院診療部

3-O20-2 持続性抗精神病注射薬剤(LAI)と経口抗精神病薬の併用薬の状況:
日本における実態調査

○鬼塚 俊明¹、岡田 剛史²、長谷川 尚美³、坪井 貴嗣⁴、伊賀 淳一⁵、古郡 規雄⁶、
山田 直輝⁷、堀 輝⁸、村岡 寛之⁹、大井 一高¹⁰、小笠原 一能¹¹、越智 紳一郎⁵、
竹島 正浩¹²、市橋 香代¹³、福本 健太郎¹⁴、飯田 仁志⁸、山田 恒^{3,15}、降旗 隆二¹⁶、
牧之段 学¹⁷、高江洲 義和¹⁸、沼田 周助⁷、小松 浩¹⁹、菱本 明豊²⁰、木戸 幹雄^{21,22}、
阿竹 聖和²³、山形 弘隆²⁴、菊地 紗耶¹⁹、橋本 直樹²⁵、宇佐美 政英²⁶、勝元 榮一²⁷、
浅見 剛¹⁹、久保田 智香²⁸、松本 純弥³、三浦 健一郎³、平野 羊嗣^{29,30}、渡邊 衡一郎⁴、
稲田 健⁹、橋本 亮太³

¹九州大学大学院医学研究院神経画像解析学講座、²自治医科大学精神医学講座、

³国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、

⁴杏林大学医学部精神神経科学教室、⁵愛媛大学大学院精神神経科学講座、

⁶獨協医科大学精神神経医学講座、⁷徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、

⁸福岡大学精神医学教室、⁹北里大学医学部精神科学、¹⁰岐阜大学医学部附属病院精神科、

¹¹名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センター、

¹²秋田大学大学院医学系研究科精神科学講座、¹³東京大学医学部附属病院精神神経科、

¹⁴岩手医科大学神経精神科学講座、¹⁵兵庫医科大学精神科神経科学、¹⁶京都大学学生総合支援機構、

¹⁷奈良県立医科大学精神医学講座、¹⁸琉球大学大学院精神病態医学講座、¹⁹東北大学病院精神科、

²⁰横浜市立大学医学部精神医学、²¹木戸クリニック、²²富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座、

²³NTT西日本九州健康管理センター、²⁴山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座、

²⁵北海道大学精神医学教室、²⁶国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科、

²⁷かつもとメンタルクリニック、²⁸国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部、

²⁹宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野、³⁰九州大学病院精神科神経科

3-O20-3 持続性注射剤による修正型電気けいれん療法反応後の維持療法

○今井 智之¹、諸岡 慎士¹、佐藤 英明¹、島本 祐希¹、高島 諒¹、荻野 肅¹、吉富 碧¹、
新井 琴子¹、佐々木 博之¹、本田 和揮¹、宮川 雄介¹、朴 秀賢²、竹林 実^{1,2}

¹熊本大学病院神経精神科、²熊本大学大学院生命科学研究所神経精神医学講座

3-O20-4 大学病院における持効性抗精神病薬注射製剤導入検討外来の開設

○小口 芳世

聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室



3-O20-5

ドパミン過感受性精神病に対するm-ECT後のLAI導入の有効性

○西本 雅彦、富山 恵一郎、小坂 淳、渡邊 俊太郎、小川 理世、高津 圭介、
本杉 太一、黒岩 隆

医療法人社団青木末次郎記念会相州病院医局

3-O20-6

統合失調症として治療され、先天性心疾患や特徴的顔貌を欠くものの、
22q11.2欠失症候群と診断された一例

○松山 光一^{1,2}、金原 信久³、阿久津 実彩⁴

¹千葉大学医学部附属病院精神神経科、²医療法人同和会千葉病院、

³千葉大学社会精神保健教育研究センター、⁴千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

9:42~10:54

一般演題（口演）21

児童思春期及び摂食障害

司会：橘 真澄

千葉大学総合安全衛生管理機構

3-O21-1

子どもの攻撃性と反社会的行動の測定～DBD-RS日本語版の検討

○石橋 佐枝子^{1,2}、西山 毅³、鈴木 太⁴、牧野 拓也⁵、中道 秀尚⁶、東 琢磨⁵、
飯田 知子⁷、倉田 佐和^{4,8}、濱村 尚子^{4,8}、渡真利 真治⁵、今成 英司⁵、福元 進太郎⁵、
木村 拓磨⁹、小坂 浩隆⁵

¹敦賀市立看護大学看護学部、²福井大学大学院医学系研究科精神医学、

³名古屋市立大学大学院医学系研究科公衆衛生学、⁴福井大学子どものこころの発達研究センター、

⁵福井大学医学部精神医学、⁶こころとからだクリニック福井、⁷新潟県立新発田病院、

⁸福井大学医学部附属病院子どものこころ診療部、⁹名古屋経営短期大学子ども学科

3-O21-2

米国発祥の訪問型虐待防止プログラムSafeCare[®]の概要と今後の日本での
展開について

○近藤 強¹、山岡 祐衣²

¹チヨダクリニック精神科、児童精神科、²東京医科歯科大学病院

3-O21-3

不明熱との関連が示唆された思春期うつ病の1例

○佐々木 博之¹、城野 匡²、朴 秀賢^{1,3}、竹林 実^{1,3}

¹熊本大学病院神経精神科、²熊本学園大学社会福祉学部、

³熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座

3-O21-4

医療機関を受診した不登校の中学生における卒業後の転帰

○中島 望、長谷部 真歩、三澤 史斉

山梨県立北病院精神科

3-O21-5

食生活管理アプリ「たべ活ちゃん」を用いた神経性やせ症患者の2症例

○撫井 章弘、山内 常生、原田 朋子、宮本 沙緒里、大原 直樹、本多 美穂子、松塚 巧、
井上 幸紀

大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学

3-O21-6 過食症に対する亜鉛・L-カルノシン錯体ポラプレジンの効果と本症における亜鉛欠乏の関与

○榮 兼作^{1,2}、須賀 万智²、柳澤 裕之²

¹医療法人慶榮会八潮病院精神科、²東京慈恵会医科大学環境保健医学講座

10:54～11:54 一般演題（口演）22
発達障害（1）

司会：小坂 浩隆 福井大学医学部精神医学

3-O22-1 長時間作用型メチルフェニデートが著効した成人期ADHDに併発した神経性大食症の2例

○太田 健介

医療法人耕仁会札幌太田病院

3-O22-2 自閉症スペクトラム障害に良性小児てんかんが併発した同胞3例の遺伝子変異解析

○有村 尚也¹、笠毛 溪¹、松永 愛香²、佐々木 なつき¹、浦田 結嘉¹、新井 薫¹、
佐野 のぞみ²、佐野 輝³、中村 雅之¹

¹鹿児島大学大学院医歯学総合研究科精神機能病学分野、²国立病院機構南九州病院、³鹿児島大学

3-O22-3 低体重出生のASD(ADHD)群と正常体重出生ASD(ADHD)群との2群比較

○大野 泰裕^{1,3}、河合 恵太^{2,3}、長塚 雄大³、岩見 有里子^{1,3}、花輪 洋一^{1,3}、西尾 崇志^{1,3}、
中村 善文^{1,3}、鈴木 洋久^{1,3}、太田 晴久^{1,3,4}、加藤 進昌^{3,4}、岩波 明^{1,3}

¹昭和大学附属烏山病院、²昭和大学横浜市北部病院、³昭和大学医学部精神医学講座、
⁴昭和大学発達障害医療研究所

3-O22-4 老年期にはじめて気づかれる発達障害とそのプロフィールについて

○長塚 雄大^{1,2,3}、太田 晴久^{1,2,4}、鈴木 洋久^{1,2}、西尾 崇志^{1,2}、中村 善文^{1,2}、花輪 洋一^{1,2}、
岩見 有里子^{1,2}、山田 真理^{1,2}、大野 泰裕^{1,2}、岩波 明^{1,2}

¹昭和大学精神医学講座、²昭和大学附属烏山病院、³医療法人社団正史会大和病院、
⁴昭和大学発達障害医療研究所

3-O22-5 成人期における注意欠如・多動症の診断とWAIS-IVの関連

○倉田 孝一、坂井 尚登

社会医療法人財団松原愛育会松原病院医療部



13:15～15:15 **委員会シンポジウム39 (アンチスティグマ委員会)**

こころのサポーター普及を目指す ～地域での早期支援・アンチスティグマ活動～

司会：大矢 希
長 徹二

京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科
一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん臨床教育センター

CS39-1 「こころの病気」に対してできることを多くの人に知ってほしい
～「ここサポ」養成事業への期待～

○入来 晃久
大阪精神医療センター

CS39-2 啓発活動の重要性とアンチスティグマ研究

○倉持 泉
埼玉医科大学総合医療センター

CS39-3 こころサポーター養成事業を地域の中に

○西邑 章
京都府中丹東保健所福祉課

CS39-4 知って欲しいメンタルヘルスの不調と回復 ～繋がっていくアンチスティグマ～

○内布 智之
日本メンタルヘルスパイアサポート専門員研修機構

〔指定発言〕

○内布 智之
当事者

〈メインコーディネーター〉 大矢 希
〈サブコーディネーター〉 長 徹二

京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科
一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん
臨床教育センター

6月24日(土) ポスター会場(パシフィコ横浜ノース 1F G1～G4)

8:30～9:20 一般演題(ポスター) 16
児童思春期関連

司会：高橋 純平 千葉市立青葉病院児童精神科

3-P16-1 子どもの虐待の世代間伝達について、米国文献等を参照した考察(第2報)

○鷺山 拓男
とよたまこころの診療所

3-P16-2 思春期における自立のテーマと家庭内葛藤に起因した転換性障害の一例

○鍋山 豊久¹、吹田 恭子¹、小原 奈美¹、大樂 良和¹、石津 宏^{1,2}
¹医療法人愛命会泉原病院、²琉球大学名誉教授

3-P16-3 発達障害と愛着障害の呈する言動の鑑別についての検討

○稲垣 卓司¹、和氣 玲²
¹島根大学教育学部特別支援教育専攻、²島根大学人間科学部

3-P16-4 自然災害を経験した子どもの心的外傷後ストレス障害に対する介入の
スコーピングレビュー

○岸本 真希子、黒神 経彦、鈴木 博道、小河 邦雄、小枝 達也
国立研究開発法人国立成育医療研究センター

3-P16-5 Child Psychosis-risk Screening System(CPSS)の診断特異性
ー神経発達障害との鑑別に役立つ

○濱崎 由紀子^{1,5}、阪上 由子²、松尾 雅博³、眞田 陸³、上羽 智子⁴、中山 貴夫¹、
道越 秀吾¹、疋田 貴俊⁶
¹京都女子大学現代社会学部、²滋賀医科大学医学部小児科学講座、
³滋賀医科大学医学部精神医学講座、⁴済生会守山市民病院小児科、⁵医療法人藤樹会滋賀里病院、
⁶大阪大学蛋白質研究所高次脳機能学研究室

8:30～9:20 一般演題(ポスター) 17
心理社会産業精神医学

司会：桂川 修一 東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック

3-P17-1 在日コリアンのメンタルヘルスに関するアンケート調査

○金 泰泳
東洋大学社会学部

3-P17-2 公認心理師養成カリキュラムにおける心理実習・実践実習での産業精神医学の実践例

○中野 倫仁¹、森 伸幸¹、本谷 亮¹、河田 祐輔²、浦田 昇龍²、芦澤 健²、佐藤 正俊²
¹北海道医療大学心理科学部臨床心理学科、²資生会千歳病院



- 3-P17-3 **ストレス関連性精神疾患モデルラットが示す社会的回避行動と睡眠パラメータの相関解析**
○松田 芳樹¹、小澤 信幸¹、篠崎 たき子¹、榛葉 俊一^{1,2}、楯林 義孝³、本多 真¹
¹公益財団法人東京都医学総合研究所睡眠プロジェクト、²静岡済生会総合病院精神科、³医療法人社団東京愛成会メンタルクリニックおぎくぼ

- 3-P17-4 **おとなの発達障害入院治療プログラムの試み**
○枝 雅俊¹、長沼 陸雄²
¹北海道立緑ヶ丘病院精神科、²十勝むつみのクリニック

- 3-P17-5 **リワークプログラム利用者における時系列に着目した病態の差異に関する検討**
○桂川 修一¹、小山 文彦^{1,2}、松崎 淳人¹、林 果林¹、前田 隆光²、松田 由美江²、海保 知宏²、小林 宏美²、池内 綾香²
¹東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック、²東邦大学医療センター佐倉病院産業精神保健・職場復帰支援センター

8:30~9:20 **一般演題（ポスター）18**
コンサルテーションリエゾン・睡眠障害(2)

司会：金子 宜之 日本大学医学部精神医学系精神医学分野

- 3-P18-1 **生体肝移植ドナーの精神科診察**
○浅野 聡子¹、田村 恵美²、井原 欣幸²、水田 耕一²、渡邊 明子³、齋藤 美和³、野田 敦子³、新村 兼康⁴、三澤 仁¹
¹さいたま赤十字病院心療科、²埼玉県立小児医療センター移植外科、³さいたま赤十字病院看護部、⁴さいたま赤十字病院外科

- 3-P18-2 **総合病院における統合失調症の身体合併症治療への精神科的支援の状況について**
○井田 逸朗、山崎 雄高、石井 あかね
独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター精神科

- 3-P18-3 **進行期子宮内膜癌患者におけるリチウム中毒による意識障害の1例**
○夏山 知也¹、岡本 直通¹、赤路 悠²、星野 香²、池ノ内 篤子^{1,3}、吉村 玲児¹
¹産業医科大学精神医学教室、²産業医科大学産科婦人科学教室、³産業医科大学病院認知症疾患医療センター

- 3-P18-4 **Restless genital syndromeの2症例：症例報告と文献レビュー**
○大森 佑貴^{1,2}、松井 仁美^{1,3}、片岡 宗子^{1,3}、清水 真央^{1,3}、保田 竜太郎^{1,3}、古田 光^{1,3}
¹東京都健康長寿医療センター精神科、²医療法人社団大坪会小石川東京病院、³東京医科歯科大学精神科

- 3-P18-5 **外傷患者における抗潰瘍薬のせん妄に対する影響**
○祖川 倫太郎¹、松岡 綾華²、村川 徹³、橘川 奈生¹、加茂 真宏¹、飛田 修康¹、品田 公太²、溝口 義人³、門司 晃^{3,4}、阪本 雄一郎²、島ノ江 千里¹
¹佐賀大学医学部附属病院薬剤部、²佐賀大学医学部附属病院高度救命救急センター、³佐賀大学医学部附属病院精神医学講座、⁴医療法人慈光会若久病院

3-P18-6 **せん妄の遷延に関連する因子は何か？**

○木村 彩乃、竹林地 郁、皆尾 望、李 大賢、川下 芳雄、和田 健
広島市立広島市民病院精神科

8:30～9:20 **一般演題（ポスター）19**
器質性精神疾患及びてんかん

司会：坪井 貴嗣 杏林大学医学部精神神経科学教室

3-P19-1 **感染性辺縁系脳炎後に10年間の逆行性健忘と認知機能障害、海馬萎縮を呈した1例**

○岡本 直通¹、池ノ内 篤子^{1,2}、清水 少一³、井手 智⁴、チバタール エンヘルム¹、
吉村 玲児¹

¹産業医科大学医学部精神医学教室、²産業医科大学病院認知症センター、
³産業医科大学医学部免疫学・寄生虫学、⁴産業医科大学医学部放射線科学講座

3-P19-2 **精神科で発見された、肝不全を伴わない高アンモニア血症の3症例**

○許 全利、嶽北 佳輝、木下 利彦
関西医科大学医学部精神神経科学講座

3-P19-3 **精神科医療における成人発症II型シトルリン血症の実態調査研究(一次調査報告)**

○許 全利¹、嶽北 佳輝¹、朝日 結実子²、内山 和久³、西澤 友宏²、加藤 正樹¹、
木下 利彦¹

¹関西医科大学医学部精神神経科学講座、²第一三共株式会社スペシャルティ第一研究所、
³第一三共株式会社臨床開発第三部

3-P19-4 **一過性てんかん性健忘(TEA発作)：臨床的分類の試み**

○鷓飼 克行^{1,2}

¹総合上飯田第一病院老年精神科、²名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

3-P19-5 **幻視、変形視、記憶力低下を初発症状に、後に意識減損を呈した、
高齢者てんかんの1例**

○栗栖 猛^{1,2}

¹社会医療法人三上会東香里第二病院精神科、²社会医療法人三上会東香里病院精神科

9:30～10:20 **一般演題（ポスター）20**
統合失調症(2)

司会：榎屋 二郎 東京医科大学精神医学分野

3-P20-1 **治療抵抗性very early onset Schizophrenia(VEOS)にclozapineが奏功した一例**

○坂本 奈緒、植木 悠介、神菌 淳司、梶原 眞理、山田 茂人、大治 太郎
社会医療法人聖ルチア会聖ルチア病院



3-P20-2 長期入院している治療抵抗性統合失調症患者に対するclozapineの有用性

○水野 謙太郎、水野 恵三子
若草病院精神科

3-P20-3 クロザピンが処方可能な施設体制と治療抵抗性の検討が統合失調症の抗精神病薬単剤治療に関連する

○越智 紳一郎¹、小高 文聰²、長谷川 尚美³、古郡 規雄⁴、伊賀 淳一¹、柏木 宏子³、
小松 浩⁵、田形 弘実⁶、坪井 貴嗣⁷、沼田 周助⁸、飯田 仁志⁹、五十嵐 俊³、
大井 一高¹⁰、高江洲 義和¹¹、福本 健太郎¹²、村岡 寛之¹³、三浦 健一郎³、松本 純弥³、
上野 修一¹、渡邊 衡一郎⁷、稲田 健¹³、橋本 亮太³

¹愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座、²東京慈恵会医科大学精神医学講座、

³国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部、

⁴獨協医科大学精神神経医学講座、⁵東北大学病院精神科、⁶東邦大学医学部精神神経医学講座、

⁷杏林大学医学部精神神経科学教室、⁸徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野、

⁹福岡大学医学部精神医学教室、¹⁰岐阜大学大学院医学系研究科脳神経科学講座精神医学分野、

¹¹琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座、¹²岩手医科大学神経精神科学講座、

¹³北里大学医学部精神科学

3-P20-4 白血球数4000/ μ L未満による頻回の血液検査が続きクロザピン中止を希望した治療抵抗性統合失調症の一例

○佐久間 篤¹、五十嵐 江美¹、内海 裕介¹、菊地 佑樹^{1,4}、畠山 拓志^{1,3}、高橋 雄太^{1,2}、
小松 浩¹、菊地 紗耶¹、富田 博秋¹

¹東北大学病院精神科、²国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター、

³宮城県立精神医療センター、⁴医療法人有恒会こだまホスピタル

3-P20-5 炭酸リチウム併用下でクロザピンによる急性尿細管間質性腎炎を生じたと考えられた一例

○須田 哲史¹、殿村 駿^{2,3}、緒方 謙太郎⁴、武田 詩穂⁵、桑原 達郎¹

¹国家公務員共済組合連合会立川病院精神神経科、²国家公務員共済組合連合会立川病院腎臓内科、

³慶應義塾大学病院腎臓内分泌代謝内科、⁴国家公務員共済組合連合会立川病院病理診断科、

⁵国家公務員共済組合連合会立川病院

9:30~10:20 一般演題 (ポスター) 21

ECT・TMS・ニューロモデュレーション

司会：松田 勇紀 東京慈恵会医科大学精神医学講座

3-P21-1 経頭蓋直流電流刺激による脳波microstate mapの変化

○西田 圭一郎¹、南 翔太^{1,2}、池田 俊一郎¹、山根 倫也¹、金沢 徹²、木下 利彦¹

¹関西医科大学総合医療センター、²大阪医科薬科大学病院

3-P21-2 若年性うつ病に対するrTMS療法の5例

○佐藤 謙伍、須田 史朗

自治医科大学精神科

3-P21-3 うつ病の認知機能障害のrTMSによる改善効果における神経炎症仮説からの検討

○立石 洋、溝口 義人、門司 晃
佐賀大学医学部附属病院精神神経科

3-P21-4 和歌山県立医科大学附属病院における大うつ病性障害への反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)療法の後方視的観察調査

○喜多 彬¹、玉置 敦之^{1,2}、上西 優介¹、山口 泰成¹、池田 裕美子¹、和田 由佳¹、松浦 広樹¹、紀本 創兵¹
¹和歌山県立医科大学附属病院神経精神科、²国保日高総合病院

3-P21-5 日本医科大学付属病院で施行した高齢者に対するm-ECTの有効性と安全性に関する報告

○大矢 智之、坂寄 健、山本 憲、野上 毅、館野 周
日本医科大学付属病院精神神経科

3-P21-6 精神疾患へのニューロモデュレーション療法のための探索的マスタープロトコル: アンブレラ・バスケット試験

○松尾 淳子¹、林 大祐¹、五十嵐 俊¹、松田 勇紀²、山崎 龍一²、稲川 拓磨¹、川上 裕³、沖田 恭治¹、藤井 猛¹、野田 隆政¹、住吉 太幹⁴、鬼頭 伸輔¹
¹国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部、²東京慈恵会医科大学精神医学講座、³国立精神・神経医療研究センター病院麻酔科、⁴国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所児童・予防精神医学研究部

9:30～10:20 一般演題（ポスター）22
神経症・気分障害・コロナ感染症関連

司会：白鳥 裕貴 筑波大学保健管理センター

3-P22-1 ウェアラブル表情筋筋電図を用いた動画視聴課題遂行時の快・不快感情の分析

○佐藤 希音¹、杉本 篤言^{1,2}、難波 太一³、大竹 雅也^{1,2}、Ekachaeryanti Zain¹、Faisal Budisasmata¹、Muhammad Dwi¹、佐久間 楓太⁴、中沢 雪菜³、大竹 雅貴¹、橋尻 洸陽^{1,5}、熊谷 航一郎⁶、江川 純¹、飯島 敦彦^{3,4,7}、染矢 俊幸¹
¹新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野、²新潟県立精神医療センター、³新潟大学工学部工学科人間支援感性科学プログラム、⁴新潟大学大学院自然科学研究科電気情報工学専攻人間支援科学コース、⁵新潟市民病院、⁶独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター、⁷新潟大学医学部保健学科

3-P22-2 リモートワークによって疾病が増悪したと考える3症例
病院診療・診療所診療・産業医面談を通じての考察

○岡本 真吾
美喜和会オレンジホスピタル診療部

3-P22-3 精神科病院病棟内にて発生した新型コロナウイルス感染症クラスター事例の報告および対策について(第2報)

○浜口 達也、前田 和輝、大井 元泰、宇佐見 彰浩、山村 哲史、河合 正弘、中澤 恵太、林 伸行、山口 哲郎、野村 泉、高山 学、奥山 香、中瀬 真治
三重県厚生農業協同組合連合会鈴鹿厚生病院



3-P22-4 コロナ感染回復後にbrain fogを呈し治癒しえた1症例

○林 皓章、岩田 正明
鳥取大学医学部附属病院精神科

3-P22-5 COVID-19流行時の留学生のメンタルヘルスについて

○白鳥 裕貴^{1,3}、小川 貴史²、太田 深秀^{1,3}、袖山 紀子^{1,3}、新井 哲明³、太刀川 弘和⁴
¹筑波大学医学医療系臨床医学域精神神経科保健管理センター、²茨城県立こころの医療センター、
³筑波大学医学医療系精神医学、⁴筑波大学医学医療系災害・地域精神医学

9:30~10:20 一般演題（ポスター）23
海外

司会：安藝 森央 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学教室（精神医学）

3-P23-1 Role of Education for Re-hospitalized Paranoid Schizophrenia Patients: A Case Report

○Muhammad Luthfi Adnan¹、Baiq Rohaslia Rohaslia Rhadiana²、Romy Novrizal³
¹Faculty of Medicine, Universitas Islam Indonesia、
²Department of Psychiatry, Faculty of Medicine, Universitas Islam Indonesia、
³Department of Psychiatry, dr. Soediran Mangun Sumarso General Public Hospital, Wonogiri, Indonesia

3-P23-2 The expressions of prostaglandins and their receptors in attenuated niacin flush response pathway as diagnostic biomarkers for schizophrenia

○Sheng-Hsiang Lin¹、Chi-Wei Chiu¹、Jin-Jia Lin²、Huai-Hsuan Tseng³、
Po-See Chen³
¹Institute of Clinical Medicine, College of Medicine, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan、
²Department of Psychiatry, Chi Mei Medical Center, Tainan, Taiwan、
³Department of Psychiatry, National Cheng Kung University Hospital, College of Medicine, National Cheng Kung University, Tainan, Taiwan

3-P23-3 Is The Glymphatic System Impaired In Schizophrenia?

○Ali Abdolizadeh^{1,2}、Edgardo Torres Carmona^{1,2}、Fumihiko Ueno^{1,2}、
Shinichiro Nakajima^{2,3}、Jianmeng Song^{1,2}、Yasaman Kambari^{1,2}、Aron Amaev^{1,2}、
Sofia Chavez²、Gary Remington^{1,2}、Philip Gerretsen^{1,2}、Ariel Graff-Guerrero^{1,2}
¹Centre for Addiction and Mental Health (CAMH), Toronto, Ontario、
²Institute of Medical Science, University of Toronto, Toronto, Ontario、
³Department of Neuropsychiatry, Keio University, School of Medicine, Tokyo, Japan

3-P23-4 Treatment Resistant Schizophrenia in an Immigrant Adolescent

○Rajesh K Mehta^{1,2}、Omaymah Al-Otoom^{1,2}
¹Case Western Reserve University、²Metrohealth Medical Center

3-P23-5 Escitalopram induced gynecomastia in an adolescent

○Rajesh K Mehta^{1,2}、Mitchell McDaniel³、Chandershekhar Aggarwal³
¹Case Western Reserve University、²Metrohealth Medical Center、
³University College of Medical Medical Sciences, Delhi University

3-P23-6 understand neurobiology of fatherhood, and ways to Strengthen father child engagement

○Rajesh K Mehta^{1,2}

¹Case Western Reserve Univeristy、²Metrohealth Medical Center

10:45～11:40 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）10
発達障害・気分障害・コンサルテーションリエゾン

司会：齋賀 孝久 成田赤十字病院精神神経科

3-KP10-1 発達障害における不安や抑うつに対してラモトリギンが奏功した2例

○中野 俊之^{1,2}、柳澤 潤吾¹、岡本 浩之²

¹特定医療法人群馬会群馬病院、²医療法人幸啓会北本心ノ診療所

3-KP10-2 成人精神科への移行が治療促進につながった気分変調症、神経性食思不振症の一例

○佐藤 瑞穂¹、佐藤 謙伍¹、倉田 和美²、柳橋 達彦²、須田 史朗¹

¹自治医科大学附属病院精神科、²自治医科大学附属病院子どもの心の診療科

3-KP10-3 妊娠を契機に発症し精神科入院加療を要した身体症状症の一例

○新川 甲太¹、萩原 康輔²、光井 瞳²、山科 貴裕²、松原 敏郎²、兼行 浩史¹、中川 伸²

¹山口県立こころの医療センター、²山口大学医学部附属病院

3-KP10-4 肥満症治療センターにおける精神科の役割と活動報告

○岡見 拓哉¹、久保田 陽介²、内田 恵²、奥山 徹³、投石 浩次²、明智 龍男²

¹医療法人生生会松蔭病院、²名古屋市立大学病院、³名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

3-KP10-5 肝機能異常を呈する精神科患者を肝臓専門医はどう診断したか？

－当院入院患者における肝疾患の割合と治療－

○下村 拓也、野村 憲一、高橋 有紀子、本村 啓介、村上 優、佐久間 寛之
さいがた医療センター

3-KP10-6 当院でのギャンブル障害の治療・取り組みとその転機

○下村 拓也、山下 健、本村 啓介、村上 優、佐久間 寛之

さいがた医療センター



10:45~11:40 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）11
リエゾンコンサルテーション等

司会：神出 誠一郎 東京大学医学部附属病院精神神経科

3-KP11-1 救命救急センター始動後の自殺企図患者に関する当院リエゾンチームの現状や課題について

○釜瀬 貴之¹、大西 尚哉^{1,2}、今津 伸一¹、岡山 達志¹、木下 真也¹、山川 一馬²、高須 朗²、金沢 徹文¹

¹大阪医科薬科大学病院神経精神医学教室、²大阪医科薬科大学病院救急医学教室

3-KP11-2 入院患者が担当医の診察に求める事項に関する調査

○八重 敬介、伊津野 拓司
神奈川県立精神医療センター

3-KP11-3 緩和ケアチームへ紹介された不眠患者に対する経口睡眠薬の選択

○竹林地 郁¹、木村 彩乃¹、皆尾 望¹、李 大賢¹、川下 芳雄¹、和田 健¹、岡部 智行²、山岡 賢治³、工藤 昇馬⁴

¹広島市立広島市民病院精神科、²広島市立広島市民病院緩和ケア科、³医療法人せのがわ瀬野川病院、⁴医療法人大慈会三原病院

3-KP11-4 ベンゾジアゼピン受容体作動薬をレンボレキサントへ置換することの可能性についての研究

○広田 進
広田クリニック

11:45~12:30 専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）12
高齢者・認知症等

司会：小松 英樹 亀田総合病院心療内科・精神科

3-KP12-1 電気けいれん療法が奏効したパーキンソン病に伴う精神病性うつ病の症例

○日根野 清、山崎 聖広、福本 俊太郎、上野 真梨子、奥村 力、橘 侑南、吉野 祐太、上野 修一

愛媛大学医学部附属病院精神科

3-KP12-2 アルツハイマー型認知症における不安症状に関連する臨床的因子の検討

○篠原 陸斗¹、豊島 邦義¹、尾崎 孝爾¹、松山 大輝¹、野原 万梨子¹、味藤 静¹、秋山 久¹、宇土 仁木²、橋本 直樹¹、久住 一郎¹

¹北海道大学病院精神科神経科、²国立病院機構北海道医療センター

3-KP12-3 右側頭葉優位型前頭側頭葉変性症と鑑別を要したアルツハイマー病の一例

○谷脇 真郷、三宅 健太郎、津田 敦、藤戸 良子、赤松 正則、數井 祐光
高知大学医学部附属病院

3-KP12-4 再栄養中に鉍質コルチコイド反応性低ナトリウム血症(MRHE)を呈した高齢の神経性やせ症患者の1例

○市原 早紀¹、樋口 文宏¹、武井 光²、中川 伸¹

¹山口大学医学部附属病院精神科、²福岡県立精神医療センター太宰府病院

3-KP12-5 禁煙による薬物代謝酵素誘導の解除により薬剤性QT延長を来した双極II型障害の症例

○河原 早苗、吉村 篤、尾関 祐二

滋賀医科大学医学部附属病院精神医学講座

11:45～12:30 **専攻医・初期研修医・学部学生演題（ポスター）13**
その他

司会：鎌田 雄 同和会千葉病院

3-KP13-1 精神科臨床におけるたとえ話の有用性

○藤本 健士郎、岡山 達志、金沢 徹文

大阪医科薬科大学病院神経精神医学教室

3-KP13-2 精神科病院におけるCOVID-19クラスターの封じ込めの1事例

○本郷 誠治、光野 真登、豊田 健裕、白木 亮祐、伊集院 将、天野 託、増井 晃

地方独立行政法人栃木県立岡本台病院精神科医局

3-KP13-3 ミオクローヌスのため抗てんかん薬併用下での修正型電気けいれん療法が奏功した治療抵抗性統合失調症の一例

○武田 眞一、藤本 美智子、大森 久樹、真殿 花梨、高橋 隼、畑 真弘、岩瀬 真生、池田 学

大阪大学精神科

3-KP13-4 うつ病の治療経過中にてんかんと診断された初老期の一例

○栗原 優、竹林 裕直、石原 紗也、洪 リビングストーン、山崎 広嗣、西原 明弘、猪狩 温

医療法人社団正慶会栗田病院

3-KP13-5 統合失調感情障害の加療中に非けいれん性てんかんによるカタトニアをみとめた一例

○宮川 泰介、佐藤 真耶、平木 文代、櫻井 斉司、大治 太郎

社会医療法人聖ルチア会聖ルチア病院精神科

3-KP13-6 健常者における脳機能的結合とWAIS-III所見の関連

○面 美来¹、川崎 康弘¹、川村 梨彩子¹、山口 詩織¹、小出 蓉子¹、大畑 郁乃¹、

妹尾 貴紀¹、中野 修¹、片岡 譲¹、嶋田 貴充^{1,2}、橋本 玲子¹、長澤 達也¹、上原 隆¹

¹金沢医科大学精神神経科学、²医療法人積仁会岡部病院



オンデマンド配信限定セッション

オンデマンド配信限定セッション1

患者にとっての医療の質の向上を目指したTMS療法リアルワールドリサーチ：TMSの適切な普及と拡大に向けて

司会：野田 賀大 慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室
大澤 亮太 元住吉こころみクリニック

OD1-1 「うつ」に対する自由診療でのrTMS療法 ～2年間の治療成績と普及への課題～

○大澤 亮太
元住吉こころみクリニック

OD1-2 本邦首都圏における強迫性障害患者に対する経頭蓋深部磁気刺激療法の症例のまとめ

○井川 春樹
武蔵小杉こころみクリニック心療内科

OD1-3 うつ病に対するTMS療法が睡眠に与える影響

○和田 真孝
慶應義塾大学病院

OD1-4 コロナ後遺症による精神神経症状に対する経頭蓋磁気刺激治療の開発に向けた取り組み

○野田 賀大
慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

〈メインコーディネーター〉 野田 賀大 慶應義塾大学医学部・精神・神経科学教室

オンデマンド配信限定セッション2

同席面接の勧め

司会：布施 泰子 茨城大学保健管理センター

OD2-1 同席面接の勧め: 紹介と少しのヒント

○布施 泰子
茨城大学保健管理センター

OD2-2 夫婦同席面接の勧め

○中村 伸一
中村心理療法研究室

OD2-3 同席面接のすすめ 児童・思春期精神科医の立場から

○森野 百合子
成増厚生病院精神科

OD2-4 患者の対象関係を理解する

○渡辺 俊之

渡辺医院／高崎西口精神療法研修室

〈メインコーディネーター〉 布施 泰子

茨城大学保健管理センター

〈サブコーディネーター〉 渡辺 俊之

渡辺医院／高崎西口精神療法研修室

オンデマンド配信限定セッション3

「医療保護入院」という体験のもつ意味、この制度の廃止・縮減がもたらすことの意味

司会：伊藤 順一郎 メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ
渡邊 真里子 ちはやACTクリニック

OD3-1 当事者のニーズ、自己決定を尊重したアウトリーチ活動より医療保護入院の意味、今後の展望について考える

○藤田 大輔

大和診療所ACT-Zero岡山

OD3-2 地域医療も視野に入れて急性期入院治療に取り組む精神科病院勤務医の立場から

○西尾 雅明^{1,2}

¹東北福祉大学総合福祉学部総合福祉学部、²東北福祉大学せんだんホスピタル

OD3-3 精神科病院への強制入院の廃止を目指して
～日弁連のロードマップを実現するためにすべきこと～

○山口 亮^{1,2}

¹つくし法律事務所、²日本弁護士連合会高齢者・障害者権利支援センター

OD3-4 精神医療のパラダイムの転換を求めたい

○赤池 千明

公益社団法人全国精神保健福祉会

〈メインコーディネーター〉 伊藤 順一郎 メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ

〈サブコーディネーター〉 渡邊 真里子 ちはやACTクリニック

オンデマンド配信限定セッション4

鍼灸師と精神科医の相互連携の意義

司会：中村 元昭 昭和大学発達障害医療研究所
砂川 正隆 昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門

OD4-1 鍼灸の機序について

○建部 陽嗣

量子医科学研究所脳機能イメージング研究部



OD4-2 鍼治療の抗不安・抗ストレス作用～基礎研究からの考察～

○砂川 正隆
昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門

OD4-3 鍼灸の精神科臨床応用(鍼灸師の立場から)

○松浦 悠人
東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科

OD4-4 鍼灸の精神科臨床応用(精神科医の立場から)

○中村 元昭¹、伊津野 拓司^{2,3}
¹昭和大学発達障害医療研究所、²神奈川県立精神医療センター、³昭和大学医学部生理学講座

〔指定発言〕

○岡田 紘未
ストレスケア東京上野駅前クリニック

〔指定発言〕

○山本 高穂
NHKメディア総局

〈メインコーディネーター〉 中村 元昭 昭和大学発達障害医療研究所
〈サブコーディネーター〉 松浦 悠人 東京有明医療大学保健医療学部鍼灸学科

オンデマンド配信限定セッション5

木村敏の精神病理学を未来の精神医学の診療にどう繋げるか

司会：和田 信 地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター
野間 俊一 のまこころクリニック

OD5-1 木村敏の精神病理学と治療的実践

○和田 信
地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪国際がんセンター

OD5-2 木村の時間論から精神疾患体系を見直す

○野間 俊一
のまこころクリニック

OD5-3 自然、自己、そして自由——木村敏の「おのずから」と「みずから」について

○清水 健信
京都大学医学部附属病院精神科神経科

OD5-4 木村敏の精神病理学を未来の精神医学の診療にどう繋げるか

○丹羽 和賀美
和みのクリニック

〔指定発言〕

○深尾 憲二郎
帝塚山学院大学

〈メインコーディネーター〉 丹羽 和賀美 和みのクリニック
〈サブコーディネーター〉 深尾 憲二郎 帝塚山学院大学

ワークショップのご案内

事前参加申込はございません。(ワークショップ6を除く)。席数に限りがありますので、ご参加の先生はお早めに会場にお越しください。参加者は原則として、最初から最後まで聴講できる方に限ります。途中の入退場はご遠慮ください。

| ワークショップ | | | | | |
|---------|--|-------------------------|----------|-------------|---------|
| | テーマ | コーディネーター | 月日 | 時間 | 会場 産/単位 |
| 1 | 精神科診療における男女差を深掘りしてみよう ～疾患における男女差と治療者の男女差について～ (男女共同参画委員会) | 榎戸 美佐子 安川 節子 | 6月22日(木) | 8:30～10:10 | L会場 |
| 2 | 児童精神科医療入門：新シリーズ(6)子どもの精神医学における治療論－技法・その2 (児童精神科医療委員会) | 岡田 俊 松本 英夫 | 6月22日(木) | 10:45～12:25 | L会場 |
| 3 | 性別不合/性別違和に対するガイドラインに準拠した診療 ～医療チームと身体的治療適応判定会議の構築～ (性別不合に関する委員会) | 織田 裕行 | 6月22日(木) | 13:15～14:55 | L会場 |
| 4 | 統合失調症とパーソナリティ障害との鑑別が難しい精神鑑定事例 (司法精神医学委員会) | 五十嵐 禎人 | 6月22日(木) | 15:30～17:10 | L会場 |
| 5 | リエゾン精神科医が直面する臨床倫理的課題－生命に関わる身体疾患への治療を拒否する患者へのアプローチ | 和田 健 西村 勝治 | 6月23日(金) | 8:30～10:10 | N会場 |
| 6 | 複雑事例を通して学ぶ 自殺予防のエッセンシャルズ (自殺予防に関する委員会) | 河西 千秋 立花 良之 | 6月23日(金) | 9:10～11:50 | L会場 |
| 7 | <脳波の基礎コース> 精神科医が脳波を学ぶために | 太田 克也 矢部 博興 山内 俊雄 | 6月23日(金) | 13:15～14:55 | L会場 |
| 8 | <脳波の応用コース> 精神科医が脳波を臨床に生かすために | 太田 克也 矢部 博興 山内 俊雄 | 6月23日(金) | 15:30～17:10 | L会場 |
| 9 | 精神神経学雑誌に掲載される論文の書き方 (研究計画と統計について) (精神神経学雑誌編集委員会) | 中尾 智博 細田 眞司 | 6月24日(土) | 8:30～10:10 | L会場 |
| 10 | 映像で学ぶ初診面接 －「死にたい」と訴える患者編－ (精神療法委員会) | 中村 伸一 田中 裕記 | 6月24日(土) | 10:45～12:25 | L会場 |



コース内容紹介

1 精神科診療における男女差を深掘りしてみよう ～疾患における男女差と治療者の男女差について～ (男女共同参画委員会)

6月22日(木) 8:30～10:10 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|--|------------------|
| 司 会 | (名古屋市精神保健福祉センター精神保健福祉施策推進参与) (住友病院メンタルヘルス科) | 平山 太日子 梅田 寿美代 |
| 講演者 | (名古屋市立大学病院) (医療法人社団和敬会谷野呉山病院医局) | 山田 敦朗 榎戸 芙佐子 |
| メインコーディネーター | (医療法人社団和敬会谷野呉山病院医局) | 榎戸 芙佐子 |
| サブコーディネーター | (熊本ファミリーメンタルクリニック) | 安川 節子 |

従来、精神医学の分野においては、妊娠・出産、月経に関連する女性特有の疾患や、摂食障害、うつ病、PTSDに多いとされる疾患がある。前者の女性特有の精神疾患については、これまでも当委員会が『周産期・妊娠・出産』をめぐる精神科医療の充実と知識を深めるシンポジウムを企画してきた。今回は、後者の疾患における有病率の男女差について、整理しておく必要があると考え、ワークショップを企画した。

精神科が他診療科と違うのは、生殖器構造・組織と内分泌作用といった生物学的差異だけに基づく医療を行うのではなく、ものの感じ方、考え方、反応性、認知、行動といった脳の働き・関与を考え扱うからに他ならない。当然そこに性差はあり、ゲノムの関与や性ホルモンの影響は免れないものの、そのどこまでが生物学的要因でどこまでが時代や文化・社会・教育的要因なのかを到達できる現時点において明らかにしておく必要があるだろう。また、これとは別の文脈で、患者さんが女性医師を希望する(あるいは忌避する)場合も多い。その理由についても、単なる好みの問題、あるいは偏狭な固定観念だと簡単に片づけずに、医師の役割・態度として大切なのは何かを真摯に捉え、参考にしなければならないだろう。

今回はワークショップ形式なので、代表的な疾患を2例あげ、夫々において、①女性に有病率が高い理由、もしくは症状に現れる性差を精神医学の観点から述べ、次いで、②治療経過において現れる女性患者と男性患者の違い、あるいは治療法の違いについて述べてもらい、さらに、③治療者が男性と女性では、治療経過や成績、予後で差異があるかどうかをメリット、デメリットとしてシミュレーションしてもらおう。ワークショップなので、登壇者間および会場から自由で開かれた意見交換と議論百出を期待し、そのこと自体が参加者にとって学びのよろこびとなり、新たな治療手段のヒントともマンネリからの打開策ともなることを願うものである。さすれば、性差を超えたところのより良い治療者となる糧となるのではないだろうか。時間が制限されているので、参加者をグループに分けて討論してもらおう形式や、ファシリテーターの指名なども考えられる。

なお、今回の症例は、A. 摂食障害、B. 身体化障害の2例である。症例は実臨床例を参考にした架空例をプロトコルとして提出してもらおう。

<摂食障害の治療は今や認知行動療法と身体管理が主流となり、そこに男女差は顧慮しなくてすんでいるかのようだが、患者は圧倒的に女性であり、しかも若年から高齢まで広範囲に発症している。身体化障害は発症の背景に虐待やハラスメントなどの存在が考えられるが、治療への気づきや工夫、注意することなどが多々ある。>

2

児童精神科医療入門：新シリーズ(6)子どもの精神医学における治療論
－技法・その2(児童精神科医療委員会)

6月22日(木) 10:45～12:25 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|---|-----------------------------------|
| 司 会 | (医療法人丹沢病院) (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部) | 松本 英夫 岡田 俊 |
| 講 演 者 | (聖マリアンナ医科大学神経精神科) (東京医科大学精神医学分野) (独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター児童精神科) (千葉大学医学部附属病院こどものこころ診療部) | 小野 和哉 榎屋 二郎 中土井 芳弘 佐々木 剛 |
| メインコーディネーター | (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部) | 岡田 俊 |
| サブコーディネーター | (医療法人丹沢病院) | 松本 英夫 |

児童精神科医療委員会は、専門医試験を受験することを目指している精神科医や、そのための研修を支え指導する指導医、さらには子どもの精神科医療に関心のある会員を対象として、子どもの精神科医療に関連する諸課題に関する均衡のとれた基本情報を提供することを目的に活動している。2018年の総会からは、子どもが示す症状の捉え方や病理の理解、治療技法を取り上げている。新シリーズの最終回となる第6回目は、子どもの発症以前の状態像や成育環境の中で起こる問題、子どもを治療する上で必要となる集団力動や地域の環境調整や支援のネットワーク作りについて検討する。

1 演題目は「精神疾患のアットリスク/発症以前の状態像への介入」と題して、小野和哉委員より、顕在発症する以前の精神症状の多様な状態像とその捉え方や治療的介入について、小野委員のかかわる追跡研究の結果も踏まえて講述する。

2 演題目は「トラウマや愛着の課題をかかえる子どもの治療」と題して、榎屋二郎委員より、子どもにおける多様なトラウマ(被災、被虐待、犯罪被害、いじめ被害など)とトラウマ反応、愛着への影響について講述した上で、その基本的対応(PFA、SPR)ならびにトラウマのある子どもたちへの専門的技法(SSET、CBITS、TF-CBTなど)の概略を紹介する。

3 演題目は「子どもの入院治療の役割—集団力動の治療への応用」と題して、中土井芳弘委員に、児童思春期精神科病棟での治療の実情を踏まえ、入院治療の役割や危機介入的な短期入院の位置づけ、入院環境で展開される治療者や子ども同士の力動を扱う治療的意義について講述する。

4 演題目は「子どもを支える学校や地域社会とのネットワークづくり」と題して、佐々木剛委員に千葉大学医学部附属病院精神神経科・こどものこころ診療部における医療・学校・福祉などとのネットワーク作りと移行期医療その治療的意義、移行期医療の実践について講述する。

ワークショップの後には、参加者との質疑応答を含めたディスカッションを予定している。会員諸氏の活発なご参加とご討議をお願いしたい。



3 性別不合/性別違和に対するガイドラインに準拠した診療 ～医療チームと身体的治療適応判定会議の構築～ (性別不合に関する委員会)

6月22日(木) 13:15～14:55 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|--|---------------------------------|
| 司 会 | (医療法人桐葉会きじまこころクリニック) (総合病院聖隷浜松病院) | 織田 裕行 今井 伸 |
| 講 演 者 | (医療法人桐葉会きじまこころクリニック) (あべクリニック) (総合病院聖隷浜松病院) (山梨大学医学部附属病院) | 織田 裕行 阿部 恵一郎 今井 伸 百澤 明 |
| メインコーディネーター | (医療法人桐葉会きじまこころクリニック) | 織田 裕行 |

「性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン¹⁾²⁾」において、医療チームを構築するうえで次のことが求められている。「十分な知識と経験を持った精神科医、形成外科医、泌尿器科医、産婦人科医などによって構成される」こと。そして、少なくともその中心メンバーは「日本精神神経学会の主催する(あるいは委託する)専門家研修会での研鑽を積んでいる」ことである。2016年3月に関連学会であるGID学会が認定を開始した「GID学会認定医」の精神科領域の医師が、この要件を満たす精神科医となっている。GID学会にはこの資格審査のみでなく、研修についても委託されている。

しかし、日本精神神経学会が研修会などの機会を積極的に提供し、専門的な治療に携わる医師や専門職の数と質を担保する必要性は依然として失われておらず、今後も研修の場を提供する体制を確立していく必要があると当委員会では考えている。本ワークショップは、この趣旨に沿って開催している。

今回のワークショップでは、精神科領域から2名、ホルモン療法、手術療法などの身体的治療領域から各1名が講師として登壇する。精神科領域は、性別不合/性別違和に関する歴史的経緯、ガイドラインに沿った診療手順について解説し、阿部恵一郎先生には地域におけるジェンダー医療の過去、現在、未来についてご講演頂く。さらに今井伸先生には泌尿器科医の立場からホルモン療法を、百澤明先生には形成外科医の立場から手術療法を中心にご解説頂く。

すでに多くの精神科医がこの領域の医療に何らかのかたちに関わっており、身体的治療へ移行するために「判定会議はどのように開催すれば良いのか」と尋ねられることがある。そのため、ガイドラインに記されている「医療チームの構築」と「身体的治療に対する適応判定会議の開催」について、各演者からこれまでに遭遇してきた困難と工夫を含めてご講演頂く予定である。

今回のワークショップを通して、より安心安全なチーム医療が適切な時期に提供される環境が構築され、そのように設計された構造が普及していくことを目的としている。

1) 第4版 精神誌, 114; 1250-1266, 2012

2) 第4版改 https://www.jspn.or.jp/uploads/uploads/files/activity/gid_guideline_no4_20180120.pdf

4

統合失調症とパーソナリティー障害との鑑別が難しい精神鑑定事例
(司法精神医学委員会)

6月22日(木) 15:30～17:10 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|---|-----------------------------------|
| 司 会 | (神奈川県立精神医療センター) (慶應義塾大学医学部精神神経科) | 田口 寿子 村松 太郎 |
| 講 演 者 | (千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門) (東京都立松沢病院) (愛知県精神医療センター) (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター) | 五十嵐 禎人 今井 淳司 吉岡 真吾 柏木 宏子 |
| メインコーディネーター | (千葉大学社会精神保健教育研究センター法システム研究部門) | 五十嵐 禎人 |

刑事責任能力の判断とは、「精神の障害」により、「理非善悪を判断する能力」(弁識能力)や「それに従って行動する能力」(制御能力)がどのような影響を受けていたのかに関する法的判断であり、最終的には司法による総合的な判断に委ねられるものである。精神鑑定は、司法がそうした判断を行うための参考資料を提供するために行われる。司法の判断に資するために行われる今日の精神鑑定は、可知論的なアプローチを基本としており、鑑定人は、被鑑定人について診断を確定する(生物学的要素)だけにとどまらず、被鑑定人の犯行当時やその前後の精神状態について、細かに聴取・分析したうえで、犯行当時に罹患していた精神障害のどのような症状が、どのような仕組みで、犯行時の被鑑定人の行動や判断に影響を及ぼしていたか(心理学的要素)を詳細に検討することが求められる。

また、重大な他害行為を行い、心神喪失等を理由に刑を免れた精神障害者を対象とする医療観察法でも精神鑑定(医療観察法鑑定)が実施される。医療観察法鑑定では、医療観察法による医療の必要性が中心となるが、責任能力についての意見を求められることもある。

これまでの学術総会で開催された当委員会企画の精神鑑定事例に関するワークショップは、多数の会員が参加するなど好評であった。今回は、統合失調症などの精神病性障害とパーソナリティー障害との鑑別診断が問題となった精神鑑定事例に関するワークショップを企画した。最初に精神鑑定における精神科診断の意義や医療観察法の手続きとそこでの鑑定についての解説を行なう。次いで、統合失調症などの精神病性障害とパーソナリティー障害との鑑別診断が難しかった医療観察法事例について詳細に提示したうえで、刑事精神鑑定や医療観察法による医療の経験が豊富な医師に提示事例に関するコメントを求める。さらに、それらをもとにフロアとも事例に関するディスカッションを深める予定である。こうした作業を通じて、刑事精神鑑定や医療観察法鑑定における精神科診断の意義と責任能力判定のポイントを明らかにすることとしたい。



5

リエゾン精神科医が直面する臨床倫理的課題
—生命に関わる身体疾患への治療を拒否する患者へのアプローチ—

6月23日(金) 8:30~10:10 N会場(パシフィコ横浜ノース 4F G412+G413)

| | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 司 会 | (広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科) (東京女子医科大学医学部精神医学講座) | 和田 健 西村 勝治 |
| 講 演 者 | (さいたま市立病院精神科) (浜松医科大学医学部附属病院精神神経科) (東京大学医学部附属病院) (東京アドヴォカシー法律事務所) | 根本 康 和久田 智靖 瀧本 禎之 池原 毅和 |
| メインコーディネーター | (広島市立病院機構広島市立広島市民病院精神科) | 和田 健 |
| サブコーディネーター | (東京女子医科大学医学部精神医学講座) | 西村 勝治 |

本ワークショップは、日本総合病院精神医学会専門医制度委員会による企画として毎年提案しているものである。これまでも大変好評であったコンサルテーション・リエゾン・サービスにおける意思決定支援と倫理的問題について、引き続き取り上げる。統合失調症や妄想性障害などの精神疾患患者が身体疾患に罹患した場合、病識の欠如や否認などによって本人の意思決定能力が損なわれ、医学的に必要な治療(例えばがんの根治的手術)を拒否することがある。このような場合、身体疾患に対する医療チームは時間的な猶予がない中で、患者や家族とコミュニケーションを取りながら、治療選択をどのように行うかを決定していかなければならず、患者家族の意向の尊重と医学的必要性、あるいは強制的な医療などとの間で倫理的葛藤が生じるケースも少なくない。リエゾン精神科医には医療チームから問題解決に向けた援助が要請され、その期待はリエゾン精神科医にも強い倫理的葛藤を生じさせる。このような状況でリエゾン精神科医が行うべきは、患者の精神症状の評価治療のみならず、直面している葛藤状況を医療チームと共有し、回避することなく患者家族と向き合うための援助である。リエゾン精神科医は、自分自身の逆転移にも目を向け、医療チームの力動にも配慮しながら話し合いを促進する中で、検討すべきポイントが見えてくる。さらに、医療チームが感じていた不安を明確化するプロセスを経て、最終的に医療チームが進むべき方向性が定まっていく場合が多い。もちろん、医療チームが行った臨床判断が必ずしも正解とは限らないし、唯一の正解も存在しないが、リエゾン精神科医の働きかけにより潜在的であった倫理的葛藤が浮き彫りになり、医療チームが納得感をもって臨臨床的決断を下すことが可能となる。コンサルテーション・リエゾン・サービスの極意の共有が本ワークショップの目的であり、特にこれからの精神医療の担い手である若手精神科医に、積極的に参加していただきたいと考えている。

6

複雑事例を通して学ぶ自殺予防のエッセンシャルズ
(自殺予防に関する委員会)

6月23日(金) 9:10～11:50 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|---|-----------------------------------|
| 司 会 | (札幌医科大学医学部神経精神医学講座) (国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科) | 河西 千秋 立花 良之 |
| 講 演 者 | (岩手医科大学神経精神科学講座) (六番町メンタルクリニック) (筑波大学医学医療系災害・地域精神医学) (札幌医科大学医学部神経精神医学講座) | 大塚 耕太郎 張 賢徳 太刀川 弘和 成田 賢治 |
| メインコーディネーター | (札幌医科大学医学部神経精神医学講座) | 河西 千秋 |
| サブコーディネーター | (国立成育医療研究センターこころの診療部乳幼児メンタルヘルス診療科) | 立花 良之 |

患者、あるいはメンタルヘルス不調者の自殺予防は、精神医療の中で最も重要であり最も難易度の高いものです。自殺と精神疾患の関連は密接であり、自殺予防対策に関する法規、大綱等においても、精神科医の自殺予防対策への関与が強く求められています。医学・保健・福祉教育において卒前・卒後のいずれにおいても系統的に自殺予防学を学ぶ機会はほとんどなく、精神科医を含む保健福祉専門職の多くが自殺関連行動への対応について知識・技量の不足を自覚し、困難感を感じていることが調査により明らかにされています。当該研修会では、自殺リスクを抱える複雑事例について、自殺予防対策の専門家によるレクチャーが行われ、その上で、所定の教育モジュールを用いた系統的な症例検討が行われます。ファシリテーターは、実際に自殺予防医療に従事する多職種が務めます。専門家によるファシリテーションと双方向性学習により、受講者は、自殺のリスク・アセスメントと問題解決アプローチの知識と技量を多様な観点から学び、習得することができます。なお、この研修プログラムは、全国の地域自殺対策で活用され、また、日本自殺予防学総会と日本うつ病学会総会で実施され、当学会では毎年恒例となっており、毎回満席で高い満足度を得ています。



7

<脳波の基礎コース>精神科医が脳波を学ぶために

6月23日(金) 13:15~14:55 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 司 会 | (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) (医療法人明柳会恩田第二病院院長) | 山内 俊雄 太田 克也 |
| 講 演 者 | (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) (原クリニック精神科) (東京医科歯科大学病院) | 矢部 博興 渡邊 さつき 原 恵子 高木 俊輔 |
| メインコーディネーター | (医療法人明柳会恩田第二病院院長) | 太田 克也 |
| サブコーディネーター | (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) | 矢部 博興 山内 俊雄 |

本企画の主旨は、精神科医の脳波判読に対する心理的抵抗を取り払い、脳波を学ぶ機会の無い精神科医が脳波判読を学ぶ場を提供する事である。かつて、てんかんは本邦においてはてんかん三大精神疾患の1つであり、多くの精神科医がてんかん診療に重要な検査である脳波の判読を日常診療において行ってきた。多くの医局において生理学・脳波を専門とする医師が在籍し、若い医師が研修の初期段階で脳波判読を学ぶ機会があった。しかし、近年の精神科の研修では、てんかんや脳波判読を専門とする精神科医が減少し、その指導を受ける場が著しく減少している。また、精神科医にとって脳波判読が「とっつきにくい」ものであり、研修を行う心理的ハードルが高いとの意見も聞かれる。判読できないと脳波検査を指示しない、したがってさらに判読できなくなるという悪循環を繰り返していることが懸念される。一方で脳波判読は、てんかん、非けいれん性てんかん重積のみならず、昏迷、解離性障害をはじめとする精神症状、軽度意識障害、認知症、せん妄等との鑑別においても重要な検査であり、現在においても脳波は精神科医に必須の知識・技能であることと認識されている。昨年までの本学会においても臨床脳波検査の基礎を学ぶワークショップを行い、多くの参加者があり、脳波検査の基礎を学ぶことに対する精神科医のニーズは高い。本セッションでは、脳波の学び方、基本的な考え方や、はじめに押さえておきたい脳波判読の基礎知識について概説する。各演者に精神科医が脳波を行う意義や利点を再認識し、脳波判読の研修方法、心理的ハードルを乗り越えるための脳波判読導入として、「脳波の基礎の基礎」といえる内容で構成する。

8 <脳波の応用コース>精神科医が脳波を臨床に生かすために

6月23日(金) 15:30～17:10 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|--|---|
| 司 会 | (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座) (原クリニック精神科) | 矢部 博興 原 恵子 |
| 講 演 者 | (医療法人明柳会恩田第二病院院長) (原クリニック精神科) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) (東京医科歯科大学病院) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) | 太田 克也 原 恵子 渡邊 さつき 高木 俊輔 山内 俊雄 |
| メインコーディネーター | (医療法人明柳会恩田第二病院院長) | 太田 克也 |
| サブコーディネーター | (福島県立医科大学医学部神経精神医学講座) (埼玉医科大学病院神経精神科・心療内科) | 矢部 博興 山内 俊雄 |

Hans Bergerによって1929年に人の脳波が報告されてから今年で90年を迎える。その間に臨床脳波は、アナログ脳波計からデジタル脳波計、ビデオ脳波同時記録といった機器の進歩や、解析対象とする周波数帯域はより広く(wideband EEG)といった解析方法の進歩などめざましい発展をとげた。加えて、てんかんのみならず多くの疾患を対象に、膨大な臨床の知見が蓄積されてきた。MRIなど画像診断が存在感を示す現在においても、脳波検査は、日常診療においてルーチンとして行われ、脳波検査が臨床の治療方針の決定に一定の役割を果たす場面も多い。しかし、脳波検査は患者・被験者により結果に個人差が大きく、臨床においてはその解釈に悩むことは多い。本セッションでは、脳波検査、非てんかん性の脳波異常所見の判読とその解釈、てんかん性の脳波異常、発作時ビデオ脳波検査、睡眠障害の生理学的検査について、いかに臨床に生かすのか、何を知り、何を学ぶことが出来るのか、議論する。本学会の脳波におけるセッションでは、今までほぼ脳波について学ぶ機会がなかった精神科医がいる一方で、一定の判読力を持ち、より高度な知識や議論の場を求めて参加する精神科医もいることから、基礎コースと応用コースを設け、それぞれのニーズに対応している。このセッションでは、応用コースとして、基本的な脳波に関する知識や経験を有する参加者を対象とする。



精神神経学雑誌に掲載される論文の書き方(研究計画と統計について)
(精神神経学雑誌編集委員会)

6月24日(土) 8:30~10:10 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|--|----------------------------------|
| 司 会 | (三重大学保健管理センター) (東北医科薬科大学病院精神科) | 谷井 久志 山田 和男 |
| 講 演 者 | (東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科) (一般社団法人臨床疫学研究推進機構) (東北医科薬科大学精神科学教室) (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター) | 忽滑谷 和孝 奥村 泰之 福地 成 樋口 早子 |
| メインコーディネーター | (九州大学大学院医学研究院精神病態医学) | 中尾 智博 |
| サブコーディネーター | (こころの診療所細田クリニック) | 細田 眞司 |

本ワークショップは、精神神経学雑誌(本誌)の編集委員会によって企画されたものであり、今後本誌に論文を投稿される若手や中堅の会員と、その指導医となる会員を聴衆に想定している。本誌に掲載されるためには何をどのように書けばよいのか、審査する立場からだけでなく投稿する立場からのご経験を語っていただく。

本誌は、我が国の精神医学関連雑誌の中で最も歴史を有する雑誌であり、国内最大発行部数の精神医学雑誌である。PubMedからアクセスできる世界最大の文献データベースMEDLINE(米国国立医学図書館)にも2017年刊行分まで収録されており、2019年以降についても一部の記事は刊行後直ちに、またほぼすべての記事が刊行1年後には会員外にもオープン化されている。新しい試みとして、機械翻訳(DeepL)による論文の英語版の作成・公開を進めており、本誌に掲載された論文が世界へと発信される機会が作られつつある。

投稿にあたって、投稿論文をそのまま受理するのは例外的であり、構成、記述、考察、倫理的配慮さらには誤字脱字などにいたるまで、いくつかの再考ないし改訂をお願いすることが多いのが現状である。今回のワークショップでは、本誌への掲載を目指す会員に向けて、論文が受理されるにはどのような点に気をつければよいのか、特に研究計画と統計解析的視点に重点を置いて4名の演者に登壇頂く。まず本委員会の忽滑谷和孝委員に、論文作成において気をつけるべき全般的な事項について解説して頂く。次に、本誌に投稿された論文について統計解析のチェックを行って頂いている奥村泰之先生に、論文作成において気をつけるべき統計解析のポイントについて専門家の立場からコメントして頂く。後半の2名は、2022年に本誌に掲載された論文の主著者に登壇頂く。福地成先生は「大災害後のコミュニティ支援に何が必要なのか〜みやぎ心のケアセンターの活動分析からみえること〜」(資料論文、124巻12号掲載予定)、樋口早子先生は「NDBオープンデータに基づくクロザピン使用実態—NDBオープンデータでみた日本のクロザピン処方—」(原著論文、124巻1号: 3-15)、それぞれの主著者であり、投稿から査読を受け論文の修正を行い受理されるまでのプロセスの紹介とともに論文の特徴や論文受理までに苦労された点などを語って頂く。

ワークショップを通して、精神神経学雑誌への関心と理解が高まり、会員および関係者からの投稿が増え、多くの優れた論文がこれまで以上に紙面を飾ることを編集委員一同願っている。

10

映像で学ぶ初診面接－「死にたい」と訴える患者編－
(精神療法委員会)

6月24日(土) 10:45～12:25 L会場(パシフィコ横浜ノース 4F G401)

| | | |
|-------------|--|---|
| 司 会 | (京都産業大学) (東京都立松沢病院) | 新宮 一成 水野 雅文 |
| 講 演 者 | (慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室) (東京都済生会中央病院健康デザインセンター) (渡辺医院／高崎西口精神療法研修室) (中村心理療法研究室クボタクリニック) (国立病院機構九州医療センター精神神経科) | 菊地 俊暁 白波瀬 丈一郎 渡辺 俊之 中村 伸一 田中 裕記 |
| メインコーディネーター | (中村心理療法研究室クボタクリニック) | 中村 伸一 |
| サブコーディネーター | (国立病院機構九州医療センター精神神経科) | 田中 裕記 |

精神療法は、精神科医という主体と患者という主体とが直接ぶつかり、混じり合う中で生じる空間や時間の中で行われており、その技法や手法は様々であることは言うまでもない。また、精神療法が精神科診療を構成する重要な要素であることは、精神科医や精神科医療に携わる者においては自明のことであろう。精神科医にとって、精神療法を学ぶ機会は多様であるが、やり取りの機微を直接体験することはそう多くない。

精神療法委員会では、「映像で学ぶ初診面接」と題して、それぞれ異なるオリエンテーションの精神科医が、同一の模擬患者に対して初診面接を実施する様子を映像で紹介し、それに対して解説・講義を行いながら紹介するワークショップを開催してきた。今回は精神分析的な背景を有する白波瀬、家族療法の視点をもつ渡辺、認知行動療法を背景にもつ菊地の3人が、「死にたい」と一般外来で訴える患者に対して、それぞれ面接とその解説を行う。

初回面接では関係性の構築と入院の要否判断を含むアセスメント、一連の治療計画の立案、具体的な介入といった、様々な事柄を限られた時間で実施しなければならない。精神科医の初診時の思考フローの優先順位上位に位置づくものとして、「希死念慮」「自殺念慮」があるだろう。しかし、これらの念慮の表現型である「死にたい」という訴えはその程度と緊急性については濃淡がある。また、その訴えが意味するものは多様であり、一律の対応は困難である。「死にたい」という訴えに直面した臨床家が何を考え、何を意図して、どのように面接を展開するのか。3名の演者による面接・解説を踏まえて、当日はフロア含めて議論を深めたい。



Leaders Round Table(国際委員会) 各国精神医学会の協力について

6月23日(金) 15:30~17:30 国際委員会会場(パシフィコ横浜ノース 3F G320)

| | |
|---|-----------------|
| Chairpersons (東京医科歯科大学病院) | 高橋 英彦 |
| (NTT東日本関東病院) | 秋山 剛 |
| Speakers (東京医科歯科大学病院) | 高橋 英彦 |
| (American Psychiatric Association) | Petros Levounis |
| (Royal Australian and New Zealand College of Psychiatrists) | Elizabeth Moore |
| (Taiwanese Society of Psychiatry) | Ming-Chyi Huang |
| Coordinator (NTT東日本関東病院) | 秋山 剛 |

今回の総会で、一部または全体の現地開催が可能であれば、日本精神神経学会、アメリカ精神医学会、オーストラリア・ニュージーランド精神医学会、英国精神医学会、台湾精神医学会のリーダーの間で、各国精神医学会の協力についての情報や意見を交換を行い、日本精神神経学会のリーダーが、他学会のリーダーと親しく議論が行える場とする。

日本精神神経学会学術総会 会長一覽

| 回数 | 開催年 | | 開催地 | 会長（または主催者）名（所属 職名） |
|-----|------|------|-----|-------------------------------------|
| | 西暦 | 和暦 | | |
| 第 1 | 1902 | 明 35 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 2 | 1903 | 明 36 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 3 | 1904 | 明 37 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 4 | 1905 | 明 38 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 5 | 1906 | 明 39 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） |
| 6 | 1907 | 明 40 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 7 | 1908 | 明 41 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 8 | 1909 | 明 42 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 9 | 1910 | 明 43 | 大阪 | 今村 新吉（大阪医科大学 教授） |
| 10 | 1911 | 明 44 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 11 | 1912 | 明 45 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 12 | 1913 | 大 2 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 13 | 1914 | 大 3 | 東京 | 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 14 | 1915 | 大 4 | 福岡 | 榊 保三郎（九州医科大学 教授） |
| 15 | 1916 | 大 5 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 16 | 1917 | 大 6 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） 三浦謹之助（東京医科大学 教授） |
| 17 | 1918 | 大 7 | 東京 | 呉 秀三（東京医科大学 教授） |
| 18 | 1919 | 大 8 | 東京 | 呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授） |
| 19 | 1920 | 大 9 | 東京 | 呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授） |
| 20 | 1921 | 大 10 | 東京 | 呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授） |
| 21 | 1922 | 大 11 | 京都 | 今村 新吉（京都帝国大学 教授） |
| 22 | 1923 | 大 12 | 東京 | 呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授） |
| 23 | 1924 | 大 13 | 東京 | 呉 秀三（東京帝国大学 教授） 三浦謹之助（東京帝国大学 教授） |
| 24 | 1925 | 大 14 | 福岡 | 榊 保三郎（九州帝国大学 教授） |



| 回数 | 開催年 | | 開催地 | 会長(または主催者)名(所属 職名) |
|----|------|------|-----|--|
| | 西暦 | 和暦 | | |
| 25 | 1926 | 大 15 | 東京 | 呉 秀三 (東京帝国大学 教授) |
| 26 | 1927 | 昭2 | 京都 | 今村 新吉 (京都帝国大学 教授) |
| 27 | 1928 | 昭3 | 東京 | 呉 秀三 (東京帝国大学 教授) 三浦謹之助 (東京帝国大学 教授) |
| 28 | 1929 | 昭4 | 仙台 | 丸井 清泰 (東北帝国大学 教授) |
| 29 | 1930 | 昭5 | 大阪 | 和田 豊種 (大阪医科大学 教授) |
| 30 | 1931 | 昭6 | 東京 | 呉 秀三・三浦謹之助・ 三宅 鑛一・島藺順次郎 (東京帝国大学 教授) |
| 31 | 1932 | 昭7 | 名古屋 | 北林 貞道 (名古屋医科大学 教授) |
| 32 | 1933 | 昭8 | 京都 | 今村 新吉 (京都帝国大学 教授) |
| 33 | 1934 | 昭9 | 東京 | 三宅 鑛一 (東京帝国大学 教授) |
| 34 | 1935 | 昭 10 | 新潟 | 中村 隆治 (新潟医科大学 教授) |
| 35 | 1936 | 昭 11 | 東京 | 三宅 鑛一 (東京帝国大学 教授) |
| 36 | 1937 | 昭 12 | 岡山 | 林 道倫 (岡山医科大学 教授) |
| 37 | 1938 | 昭 13 | 京都 | 久保昱二郎 (京都府立医科大学 教授) |
| 38 | 1939 | 昭 14 | 東京 | 植松七九郎 (慶應義塾大学 教授) |
| 39 | 1940 | 昭 15 | 大阪 | 和田 豊種 (大阪帝国大学 教授) |
| 40 | 1941 | 昭 16 | 熊本 | 黒沢 良臣 (熊本医科大学 教授) |
| 41 | 1942 | 昭 17 | 東京 | 内村 祐之 (東京帝国大学 教授) |
| 42 | 1943 | 昭 18 | 名古屋 | 杉田 直樹 (名古屋帝国大学 教授) |
| 43 | 1946 | 昭 21 | 東京 | 内村 祐之 (東京帝国大学 教授) |
| 44 | 1947 | 昭 22 | 大阪 | 堀見 太郎 (大阪帝国大学 教授) |
| 45 | 1948 | 昭 23 | 金沢 | 秋元波留夫 (金沢医科大学 教授) |
| 46 | 1949 | 昭 24 | 東京 | 植松七九郎 (慶應義塾大学 教授) |
| 47 | 1950 | 昭 25 | 京都 | 三浦 百重 (京都大学 教授) |
| 48 | 1951 | 昭 26 | 東京 | 高良 武久 (東京慈恵会医科大学 教授) |
| 49 | 1952 | 昭 27 | 福岡 | 中 脩三 (九州大学 教授) |
| 50 | 1953 | 昭 28 | 仙台 | 石橋 俊実 (東北大学 教授) |
| 51 | 1954 | 昭 29 | 名古屋 | 村松 常雄 (名古屋大学 教授) |
| 52 | 1955 | 昭 30 | 京都 | 三浦 百重 (京都大学 教授) |
| 53 | 1956 | 昭 31 | 新潟 | 上村 忠雄 (新潟大学 教授) |
| 54 | 1957 | 昭 32 | 札幌 | 諏訪 望 (北海道大学 教授) |
| 55 | 1958 | 昭 33 | 千葉 | 荒木 直躬 (千葉大学 教授) |
| 56 | 1959 | 昭 34 | 東京 | 三浦 岱栄 (慶應義塾大学 教授) |
| 57 | 1960 | 昭 35 | 久留米 | 王丸 勇 (久留米大学 教授) |
| 58 | 1961 | 昭 36 | 岡山 | 奥村 二吉 (岡山大学 教授) |
| 59 | 1962 | 昭 37 | 松本 | 西丸 四方 (信州大学 教授) |
| 60 | 1963 | 昭 38 | 大阪 | 金子 仁郎 (大阪大学 教授) |
| 61 | 1964 | 昭 39 | 盛岡 | 三浦 信之 (岩手医科大学 教授) |

| 回数 | 開催年 | | 開催地 | 会長（または主催者）名（所属 職名） |
|-----|------|------|-----|------------------------|
| | 西暦 | 和暦 | | |
| 62 | 1965 | 昭 40 | 広島 | 小沼十寸穂（広島大学 教授） |
| 63 | 1966 | 昭 41 | 東京 | 秋元波留夫（東京大学 教授） |
| 64 | 1967 | 昭 42 | 名古屋 | 堀 要（名古屋大学 教授） |
| 65 | 1968 | 昭 43 | 長崎 | 仁志川種雄（長崎大学 教授） |
| 66 | 1969 | 昭 44 | 金沢 | 島菌 安雄（東京医科歯科大学 教授） |
| 67 | 1970 | 昭 45 | 徳島 | 今泉恭二郎（徳島大学 教授） |
| 68 | 1971 | 昭 46 | 東京 | 加藤 正明（国立精神衛生研究所 所長） |
| 69 | 1972 | 昭 47 | 大阪 | 太田 幸雄（大阪赤十字病院精神神経科 科長） |
| 70 | 1973 | 昭 48 | 名古屋 | 井上 正吾（三重県立高茶屋病院 院長） |
| 71 | 1974 | 昭 49 | 東京 | 島菌 安雄（東京医科歯科大学 教授） |
| 72 | 1975 | 昭 50 | 東京 | 宮本 忠雄（自治医科大学 教授） |
| 73 | 1977 | 昭 52 | 東京 | 岡田 幸夫（近畿大学 教授） |
| 74 | 1978 | 昭 53 | 東京 | 長谷川和夫（聖マリアンナ医科大学 教授） |
| 75 | 1979 | 昭 54 | 広島 | 更井 啓介（広島大学 教授） |
| 76 | 1980 | 昭 55 | 浜松 | 大原健士郎（浜松医科大学 教授） |
| 77 | 1981 | 昭 56 | 名古屋 | 笠原 嘉（名古屋大学 教授） |
| 78 | 1982 | 昭 57 | 京都 | 加藤 伸勝（京都府立医科大学 教授） |
| 79 | 1983 | 昭 58 | 札幌 | 山下 格（北海道大学 教授） |
| 80 | 1984 | 昭 59 | 福岡 | 西園 昌久（福岡大学 教授） |
| 81 | 1985 | 昭 60 | 東京 | 野口 拓郎（埼玉医科大学 教授） |
| 82 | 1986 | 昭 61 | 盛岡 | 切替 辰哉（岩手医科大学 教授） |
| 83 | 1987 | 昭 62 | 東京 | 森 温理（東京慈恵会医科大学 教授） |
| 84 | 1988 | 昭 63 | 大阪 | 斎藤 正己（関西医科大学 教授） |
| 85 | 1989 | 平元 | 金沢 | 山口 成良（金沢大学 教授） |
| 86 | 1990 | 平2 | 鹿児島 | 松本 啓（鹿児島大学 教授） |
| 87 | 1991 | 平3 | 東京 | 風祭 元（帝京大学 教授） |
| 88 | 1992 | 平4 | 高槻 | 堺 俊明（大阪医科大学 教授） |
| 89 | 1993 | 平5 | 東京 | 宮坂 松衛（獨協医科大学 教授） |
| 90 | 1994 | 平6 | 松山 | 柿本 泰男（愛媛大学 教授） |
| 91 | 1995 | 平7 | 長崎 | 中根 允文（長崎大学 教授） |
| 92 | 1996 | 平8 | 札幌 | 高畑 直彦（札幌医科大学 教授） |
| 93 | 1997 | 平9 | 東京 | 融 道男（東京医科歯科大学 教授） |
| 94 | 1998 | 平 10 | 宜野湾 | 小椋 力（琉球大学 教授） |
| 95 | 1999 | 平 11 | 東京 | 鈴木 二郎（東邦大学 教授） |
| 96 | 2000 | 平 12 | 仙台 | 佐藤 光源（東北大学 教授） |
| 97 | 2001 | 平 13 | 大阪 | 武田 雅俊（大阪大学 教授） |
| 98 | 2002 | 平 14 | 横浜 | 山崎 晃資（東海大学 教授） |
| 99 | 2003 | 平 15 | 東京 | 牛島 定信（東京慈恵会医科大学 教授） |
| 100 | 2004 | 平 16 | 札幌 | 小山 司（北海道大学 教授） |



| 回数 | 開催年 | | 開催地 | 会長（または主催者）名（所属 職名） |
|-----|------|------|-----|---------------------|
| | 西暦 | 和暦 | | |
| 101 | 2005 | 平 17 | 埼玉 | 山内 俊雄（埼玉医科大学 学長） |
| 102 | 2006 | 平 18 | 福岡 | 前田 久雄（久留米大学 教授） |
| 103 | 2007 | 平 19 | 高知 | 井上 新平（高知大学 副学長） |
| 104 | 2008 | 平 20 | 東京 | 鹿島 晴雄（慶應義塾大学 教授） |
| 105 | 2009 | 平 21 | 神戸 | 前田 潔（神戸大学 教授） |
| 106 | 2010 | 平 22 | 広島 | 山脇 成人（広島大学 教授） |
| 107 | 2011 | 平 23 | 東京 | 三國 雅彦（群馬大学 教授） |
| 108 | 2012 | 平 24 | 札幌 | 齋藤 利和（札幌医科大学 教授） |
| 109 | 2013 | 平 25 | 福岡 | 神庭 重信（九州大学 教授） |
| 110 | 2014 | 平 26 | 横浜 | 宮岡 等（北里大学 教授） |
| 111 | 2015 | 平 27 | 大阪 | 岸本 年史（奈良県立医科大学 教授） |
| 112 | 2016 | 平 28 | 千葉 | 中山 和彦（東京慈恵会医科大学 教授） |
| 113 | 2017 | 平 29 | 名古屋 | 尾崎 紀夫（名古屋大学 教授） |
| 114 | 2018 | 平 30 | 神戸 | 米田 博（大阪医科大学 教授） |
| 115 | 2019 | 令元 | 新潟 | 染矢 俊幸（新潟大学 教授） |
| 116 | 2020 | 令2 | 福島 | 矢部 博興（福島医科大学 教授） |
| 117 | 2021 | 令3 | 大阪 | 木下 利彦（関西医科大学 教授） |
| 118 | 2022 | 令4 | 福岡 | 川寄 弘詔（福岡大学 教授） |
| 119 | 2023 | 令5 | 横浜 | 伊豫 雅臣（千葉大学 教授） |

広告掲載企業(五十音順)

株式会社医学書院
ヴァイアトリス製薬株式会社
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
有限会社科学評論社
株式会社三京房
住友ファーマ株式会社
ルンドベック・ジャパン株式会社

出展企業(五十音順)

株式会社明石書店
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
大井書店
大塚製薬株式会社
株式会社ガリバー
株式会社紀伊國屋書店
株式会社金剛出版
サンシステム株式会社
株式会社志学書店
株式会社S'UIMIN
住友ファーマ株式会社
株式会社星和書店
武田薬品工業株式会社
田辺三菱製薬株式会社
特定非営利活動法人地域精神保健福祉機構
帝人ファーマ株式会社
東和薬品株式会社
株式会社ボットロジー
Meiji Seika ファルマ株式会社
持田製薬株式会社
ルンドベック・ジャパン株式会社
株式会社レスメッド

2023年4月18日現在

※精神科専門医の方におかれましては、受講したセッションをマーカー等により本紙に印をつけ、ご自身で記録してください。専門医資格更新時に受講セッションについて問い合わせさせていただきます。可能性がございますので、次回更新時まで必ず保管してください。

2023年6月22日(日) 00時...日英字兼あり 01時...日本医師会認定産業医制度産産医学会研修対象セッション 02時...日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

Table with columns: 題名, A会場, B会場, C会場, D会場, E会場, F会場, G会場, H会場, I会場, J会場, K会場, L会場, M会場, N会場, O会場, P会場, Q会場, R会場, 会場, 開始時刻. Rows list various sessions from 8:30 to 20:00.

2023年6月22日(日)

00時...日英字兼あり

01時...日本医師会認定産業医制度産産医学会研修対象セッション

02時...日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

03時...日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

04時...日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

05時...日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

06時...日本精神神経学会倫理教育研修対象セッション

Table with columns: 題名, A会場, B会場, C会場, D会場, E会場, F会場, G会場, H会場, I会場, J会場, K会場, L会場, M会場, N会場, O会場, P会場, Q会場, R会場, 国際委員会, ポスター会場, 会場, 時間. Rows list various sessions and seminars with their respective topics and times.

18:30~20:00 懇親会 ヨコハマランドインダストリアルホテル 3Fインテック ※17:30から19:00までエレベーターを前導として開設しておりますので是非ご利用ください。

| 原題名 | A会場 | B会場 | C会場 | D会場 | E会場 | F会場 | G会場 | H会場 | I会場 | J会場 | K会場 | L会場 | M会場 | N会場 | O会場 | P会場 | Q会場 | 会場名 | 原題名 | | | |
|-----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|--|--|--|
| | 7:07 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1F | ポスター会場 | | | |
| | 8:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | G1~G4 | | | |
| | 8:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 10:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 11:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 12:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 13:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 14:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 15:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 16:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 16:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 17:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 18:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 19:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 19:30 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 20:00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

パシフィック横浜ノース

新しい診断と治療の秘訣を説く

月刊雑誌 精神科

2023年度年間購読募集中
冊子版 1冊3,500円+税 年間12冊40,800円+税
電子版もPDF版もあります。

<編集委員長>

昭和大学教授 岩波 明

<編集委員>

和歌山県立医科大学教授 紀本創兵

東京大学教授 佐々木 司

千葉大学教授 清水栄司

聖マリアンナ医科大学教授 中川敦夫

国立精神・神経医療研究センター理事長 中込和幸

杏林大学教授 渡邊衡一郎

- 第42巻第1号 (1月) I. 自殺を防ぐ
II. 難治療抵抗性(難治性)精神疾患の理解と治療戦略
- 第42巻第2号 (2月) I. 不安症再考
II. 災害・戦争と精神科
- 第42巻第3号 (3月) I. 器質性症候群へのいざない
II. バルベナジン(ジスバル®)の基礎と臨床
- 第42巻第4号 (4月) I. 精神栄養学：精神疾患を食事や栄養から考える
II. 臨床的に重要な症状を評価する一有用な評価尺度の紹介
- 第42巻第5号 (5月) I. 超少子化日本の家族形成とメンタルヘルス
II. 不妊治療とメンタルヘルス
III. サイコパスとは何か？
- 第42巻第6号 (6月) I. 精神疾患レジストリによって何がわかるか？
II. 発達障害の治療、療育、連携のマネジメント
- 第43巻第1号 (7月) I. 統合失調症薬物治療ガイドライン2022
II. 医療観察法データベースを用いた研究
III. 精神科における臨床検査の活かし方
- 第43巻第2号 (8月) I. さまざまな場面におけるトラウマ、その影響、そして対応
II. 治療同盟
- 第43巻第3号 (9月) I. 脳画像所見を日常臨床に活かすには
II. 発達障害と neurodiversity
- 第43巻第4号 (10月) I. 電気けいれん療法(ECT)と経頭蓋直流電気刺激(tDCS)の最先端
II. バイオフィードバック
- 第43巻第5号 (11月) I. 食からみた精神医学
II. 精神疾患における補完代替療法の効果
III. 動物モデルを用いた家族形成に関する研究
- 第43巻第6号 (12月) I. 認知症のリスク要因とその対応
II. 現代の社会問題と精神医学
- 第44巻第1号 (1月) I. パーソナリティ障害を巡る最新の話
II. 臨床で知っておくとよい検査値の見方
- 第44巻第2号 (2月) I. 精神科救急の最近の動向
II. 地域の精神保健に関する研究の最前線
- 第44巻第3号 (3月) I. コロナ感染後遺症
II. 精神科領域における新規治療法開発をめぐる
- 第44巻第4号 (4月) I. 精神病(症)、精神病(症)様症状体験の再考
II. 精神科医と優性保護法
- 第35巻 特別増刊号 **精神科診療マニュアル**(定価15,000円+税)

特集
(’23~’24)

良心出版

科学評論社

年間購読は直販センターか書店にお申し込み下さい。

☎101-8531 東京都千代田区神田司町2-10-15
WEBサイト直販センター <http://www.kahyo.com>

電話 03-3252-7741
FAX 03-3252-5952

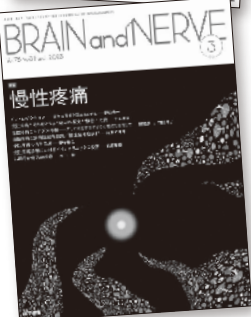
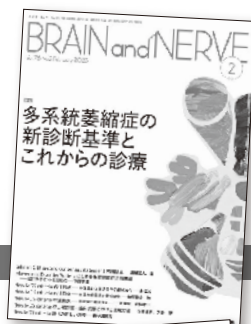
雑誌

BRAIN and NERVE

のご案内

- ◆ 脳・神経を基礎と臨床から追究する、MEDLINE 収載雑誌。
- ◆ 時宜をとらえたテーマを深く掘り下げる「特集」、新しい動向をキャッチアップする「総説」を中心に日々更新される神経学、神経科学の知見をわかりやすく紹介する。
- ◆ 投稿論文も英語、日本語の両方で募集中。掲載論文はPubMedで検索が可能。

- 月刊、増大号1冊を含む年12冊
- 通常号定価：2,970円
(本体2,700円+税10%)
- 増大号定価：6,380円
(本体5,800円+税10%)



2023年の特集予定

- 1月号 よく出会う不随意運動を知る (Web動画付き)
- 2月号 多系統萎縮症の新診断基準とこれからの診療
- 3月号 慢性疼痛
- 4月号 All About Epilepsy
- 5月増大号 神経・精神領域の薬剤ハンドブック
- 6月号 Antibody Update 2023 Part 1 中枢編
- 7月号 Antibody Update 2023 Part 2 末梢編

ICU脳波モニタリングのバイブル！



脳波で診る救命救急

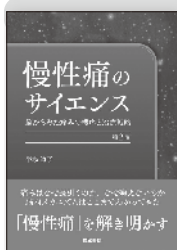
意識障害を読み解くための脳波ガイドブック

原著 Suzette M. LaRoche / Hiba Arif Haider 訳 吉野相英

● B5 2023年 頁456 定価：15,400円(本体14,000円+税10%) [ISBN978-4-260-05058-6]



慢性痛のメカニズムを解き明かす。国際的潮流を踏まえた最新版



慢性痛のサイエンス

第2版

脳からみた痛みの機序と治療戦略

半場道子

● A5 2023年 頁296 定価：3,960円(本体3,600円+税10%) [ISBN978-4-260-05076-0]



末梢神経障害の診断アプローチを双方向から徹底解説！



末梢神経障害

編集 神田 隆

解剖生理から診断，治療，リハビリテーションまで

● B5 2022年 頁520 定価：13,200円(本体12,000円+税10%) [ISBN978-4-260-04939-9]



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <http://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

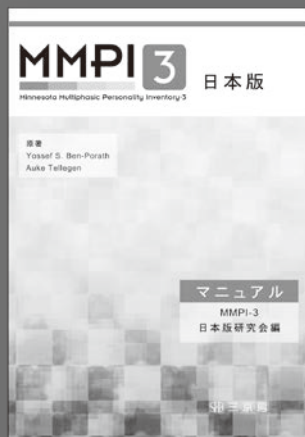
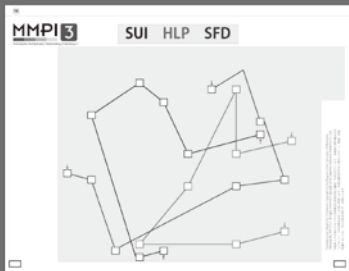
MMPI 3

Minnesota Multiphasic Personality Inventory-3

MMPI-3 日本版

原 著
日本版作成

Yossef S. Ben-Porath Auke Tellegen
MMPI-3 日本版研究会



精神医学に基づく多様な尺度を有する質問紙法人格検査

1. DSM-5 など最新の知見に基づく, MMPI の最新版
2. 335 の質問項目 (旧版から 40%減)
3. 性別不要の男女同一基準
4. 10 の妥当性尺度と 42 の具体的な臨床尺度
5. 尺度の階層構造と明確な解釈指針

SKB 三京房

TEL 075-561-0071 FAX 075-525-1244

問い合わせ・資料請求フォーム：<https://www.sankyobo.co.jp/form3.html>

株式会社三京房は MMPI-3, MMPI の日本公式ライセンスです。

個人と医療機関・製薬企業を
つなぎ続ける新しいePRO
SmartPRO

詳細は
こちらをチェック



QRコードの
読み取りで
簡単スタート

あなたと世界を変えていく。

d docomo
business

詳しい製品情報はこちら



抗精神病剤

薬価基準収載

ロナセンテープ[®] 20mg 30mg 40mg

Lonasen Tapes プロナンセリン経皮吸収型製剤

劇薬・処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

詳しい製品情報はこちら



抗精神病薬 / 双極性障害のうつ症状治療薬 薬価基準収載



ラツーダ錠[®] 20mg 60mg 40mg 80mg

Latuda tablets ルラシドン塩酸塩錠

劇薬・処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については電子化された添付文書をご参照ください。

製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先）

住友ファーマ株式会社

〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8

〈製品に関するお問い合わせ先〉

くすり情報センター

TEL 0120-034-389

受付時間 / 月～金 9:00～17:30（祝・祭日を除く）

<https://sumitomo-pharma.jp/>

2022.04

精神医学・神経医学界を支援するための
医学情報ウェブサイト

Progress in Mind Japan Resource Center

精神・神経疾患領域に特化したルンドベックが最新の医学情報を提供

Contents

最新学術情報

国内外の医学誌・医学会における研究発表や注目のトピックスを日本語で紹介
ジャーナルニュース／学会ハイライト／文献レビュー

エキスパートによるインサイト

第一線で活躍されているエキスパートのインタビューシリーズ「精神医学クローズアップ」/
オンデマンド動画／ウェビナー開催

ナレッジライブラリー

精神科領域の評価尺度一覧／脳のイメージ素材集「Image Bank」/
THINC-it®など

japan.progress.im

URLまたは2次元コードからご登録をお願いします



ルンドベック・ジャパン株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目1番17号 神谷町プライムプレイス

Luj-B5-2022-PIM